

特集：「難民」から人間の原点を学び、「遺跡」から民族の誇りを学ぶ
— アンコール・ワットに出かけて30年 —

アンコール遺跡 を科学する

第21回
アンコール遺跡国際調査団報告

INVESTIGATION OF THE ANGKOR MONUMENTS
FINDINGS CONCERNING THE STUDY OF THE ANGKOR MONUMENTS

ការស្រាវជ្រាវប្រាសាទអង្គរ៖ របកគំហើញទាក់ទងនឹងការសិក្សាស្រាវជ្រាវប្រាសាទអង្គរ



2020年3月

上智大学アジア人材養成研究センター

Sophia Asia Center for Research and Human Development

មជ្ឈមណ្ឌលអាស៊ីសិក្សាស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សនៃ សាកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ា

I. ニュース (活動報告 その1) 5

- 1 三輪悟研究員が上智大学特任助教 (教員) に就任
- 2 2017年度ラモン・マグサイサイ賞を受賞
- 3 石澤良昭教授がカンボジア伝統儀礼
「師に感謝と長寿祝福のお祝い」の儀式を受ける
- 4 カンボジア王国から上智大学教授3名に勲章を授与
- 5 『ミュゼ *Musée*』誌 Vol. 122 (2018年12月号) に掲載
- 6 上智精神をカンボジアで実践
本学大学院卒業生2名が日本国外務省から表彰を受ける

II. センター主催行事 (活動報告 その2) 13

国際シンポジウム

「よみがえれアンコール・ワット、修復はカンボジア人の手で」
(カンボジア語スピーチあり)

アンコール・ワット西参道修復工事 (第2期) 起工式
(カンボジア語スピーチあり)

アジア人材養成研究センター創立20周年記念国際シンポジウム
基調講演 (Keynote Speech) THE RESTORATION OF CANDI BOROBUDUR by Maulana Abdulrahim Ibrahim

上智大学国際公開講座

「カンボジア人熟練石工の伝統技法」の発表 ————— 三輪 悟

カンボジア王立芸術大学学生の遺跡現場における研修
————— 丸井雅子・三輪 悟

文化遺産教育プログラム

アンコール文化遺産教育と普及活動 ————— 丸井雅子・三輪 悟

日本国政府文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業

アセアン10カ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割
のための拠点交流事業 ————— Lao Kim Leang

上智大学公開講座

世界に問う、東南アジアの文化遺産

Ⅲ. 論文・調査報告（活動報告 その3）————— 85

The Rite of Passage: Pithi Chamroeun Ayu (Chan Sok Kiri Sot)
A Longevity Ceremony in the Khmer Tradition

————— NHIM Sotheavin

The Activities of the Sophia Mission in Cambodia since 1979

————— Satoru MIWA

日本国政府文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業

『東南アジア5ヵ国における文化遺産保存のための拠点交流事業』

成果報告書概要（平成26～28年度）————— 石澤良昭・吉田桃子

Ⅳ. アジア人材養成研究センター出版目録（1985年2月～2019年3月）————— 143

Ⅴ. カンボジアにおけるソフィア・ミッション（上智大学国際奉仕活動）————— 149

—保存官・研究者養成のためのアンコール遺跡現場研修プログラム—（1991～2018）
（日本語／英語／カンボジア語）

I . News (Activity Report 1)	5
1 Mr. Satoru Miwa became an assistant professor of the Sophia University	
2 Awarding of the Ramon Magsaysay Award in 2017	
3 Khmer traditional ceremony for Professor Yoshiaki Ishizawa “A longevity ceremony in the Khmer tradition”	
4 Three professors received the Royal Order from Kingdom of Cambodia	
5 <i>Musée</i> , Vol. 122, December 2018	
6 Two Graduated Cambodian Students of Sophia University received a public recognition from the Ministry of Foreign Affairs of Japan	
II . Organized events of the Sophia Asia Center (Activity Report 2)	13
International Symposium	
Reviving Angkor Wat: The 30 years of restoration by the Cambodians, for the Cambodia Concerning the ceremony associated with the restoration of the Angkor Wat Western Causeway	
International Symposium Commemorating the 20 th Anniversary of Sophia Asia Center for Research and Human Development	
Keynote Speech: The restoration of Candi Borobudur, by Maulana Abdulrahim Ibrahim	
Public presentation at Sophia University	
Traditional technique of Cambodia stonemason skill ————— Satoru Miwa	
Training program for the students of the Royal University of Fine Arts ————— Masako Marui & Satoru Miwa	
Cultural Heritage Education for Communities — Masako Marui & Satoru Miwa	
Activities for Exchange in International Cooperation for the Inheritance of the Cultural Properties and the New Role of Museums within ASEAN 10 countries — Lao Kim Leang	
Public lecture at Sophia University	
Competing the world: The cultural heritage of Southeast Asia	
III . Articles and Reports (Activity Report 3)	85
The Rite of Passage: Pithi Chamroeun Ayu (Chan Sok Kiri Sot) A Longevity Ceremony in the Khmer Tradition ————— NHIM Sotheavin	
The Activities of the Sophia Mission in Cambodia since 1979 — Satoru Miwa	
Report on the result of “Activities for Exchanges in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage within the Five Nations of Southeast Asia” (2014-2016) ————— Yoshiaki Ishizawa, Momoko Yoshida	
IV . Note on the Publications of Sophia Asia Center (1985.2~2019.3)	143
V . Sophia Mission in Cambodia	149
On-site training program for conservators and researchers (1991-2018) (Japanese, English, Khmer)	

I. ព័ត៌មាន (របាយការណ៍ទី១) _____ ៥

- ១. លោក ម៉ីវ៉ា សាតុរុ ទទួលបានជាគ្រូជំនួយពិសេសនៅសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គីយ៉ា
- ២. ទទួលបានរង្វាន់ Ramon Magsaysay នៅឆ្នាំ២០១៧
- ៣. ពិធីចម្រើនអាយុតាមទំនៀមខ្មែរសម្រាប់លោកសាស្ត្រាចារ្យ យ៉ូស៊ីអាគី អ៊ីស៊ីហ្សាវ៉ា
- ៤. សាស្ត្រាចារ្យនៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គីយ៉ាពន្យល់ពីការទទួលបានគ្រឿងឥស្សរិយយសពីកម្ពុជា
- ៥. “Musée” លេខ ១២២, ខែធ្នូ ឆ្នាំ២០១៨
- ៦. និស្សិតខ្មែរពីរនាក់ដែលបញ្ចប់ការសិក្សានៅសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គីយ៉ាទទួលបានរង្វាន់ពីក្រសួងការបរទេសជប៉ុន

II. កិច្ចការសំខាន់ៗរបស់មជ្ឈមណ្ឌល (របាយការណ៍ទី២) _____ ១៣

សន្និសីទអន្តរជាតិ “ការរស់ឡើងវិញនៃប្រាសាទអង្គរវត្ត ៖ ការជួសជុលប្រាសាទខ្មែរ ដោយដៃខ្មែរ ក្នុងរយៈពេល៣០ឆ្នាំ”

ពិធីបើកការដ្ឋានជួសជុលស្ពានហាលអង្គរវត្តនៅដំណាក់កាលទី២
សន្និសីទអន្តរជាតិនៃការរំលឹកខួបលើកទី២០របស់មជ្ឈមណ្ឌលអាស៊ីសិក្សាស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សនៃសាកលវិទ្យាសូហ្គីយ៉ា

សន្ទរកថាគន្លឹះ ៖ ការជួសជុលចេតិយប្តីប្តីខ្លួន ដោយ Maulana Abdulrahim Ibrahim

បទបង្ហាញ ៖ “បច្ចេកទេសបុរាណវិទ្យានៃអង្គរវត្តកាត់ថ្មខ្មែរ” ដោយ សាតុរុ ម៉ីវ៉ា
កម្មវិធីហ្វឹកហ្វឺននិស្សិតនៃសាកលវិទ្យាល័យកូម៉ូនីវិចិត្រសិល្បៈ ដោយ ម៉ាសាកុ ម៉ារុយ និងសាតុរុ ម៉ីវ៉ា
កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌សម្រាប់សហគមន៍ ដោយ ម៉ាសាកុ ម៉ារុយ និងសាតុរុ ម៉ីវ៉ា
សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិសម្រាប់ការផ្ទេរមរតកវប្បធម៌និងតួនាទីថ្មីរបស់សារមន្ទីរនៃប្រទេសទាំង១០នៅអាស៊ាន ដោយ ឡាវ គឹមលាង

III. អត្ថបទស្រាវជ្រាវ និងរបាយការណ៍ (របាយការណ៍ទី៣) _____ ៨៥

“ពិធីធ្វើ ៖ ពិធីចម្រើនអាយុ ចន្ទសុក្រគិរិសូត្រ” ដោយ ញឹម សុធាវិន្ទ
“សកម្មភាពរបស់បេសកកម្មសូហ្គីយ៉ានៅកម្ពុជាតាំងពីឆ្នាំ១៩៧៩” ដោយ សាតុរុ ម៉ីវ៉ា
របាយការណ៍អំពីលទ្ធផល ៖ “កិច្ចការផ្លាស់ប្តូរជាមូលដ្ឋានដើម្បីការថែរក្សាមរតកវប្បធម៌នៃប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” គម្រោងរបស់ភ្នាក់ងារវប្បធម៌ជប៉ុន (២០១៤-២០១៦) ដោយ យ៉ូស៊ីអាគី អ៊ីស៊ីហ្សាវ៉ា, ម៉ូម៉ូកុ យ៉ូស៊ី ជា

IV. កិច្ចការផ្សេងៗរបស់មជ្ឈមណ្ឌល (កុម្មុ៖ ១៩៨៥ ដល់ មិនា ២០១៩) _____ ១២៣

V. បេសកកម្មសូហ្គីយ៉ានៅកម្ពុជា ៖ “កម្មវិធីហ្វឹកហ្វឺននៅតំបន់អង្គរដើម្បីបណ្តុះបណ្តាលដល់អ្នកអភិរក្ស” (១៩៩១-២០១៨) _____ ១២៩

កាសាជប៉ុន អង់គ្លេស និងខ្មែរ

I. ニュース

(活動報告 その1)

三輪悟研究員が上智大学特任助教（教員）に就任

上智大学アジア人材養成研究センター研究員三輪悟氏が、2018年9月1日付で上智大学特任助教（教員 Assistant Professor）に採用されました。

三輪助教は、1999年4月よりカンボジア王国シェムリアップ州にある「上智大学アンコール研修所」（2002年改称：アジア人材養成研究センター）に国連ボランティア（UNV）として派遣されました。派遣期間終了後もそのまま遺跡の調査・研究を続けるため現地に残り、建築分野の研究者

として活動してこられました。主としてカンボジア人保存官候補の人材養成のため、アンコール遺跡の現場において、多年にわたり指導にあたってこられました。

三輪助教は上智大学が推し進める「ソフィア・ミッション（国際奉仕活動）」を遺跡現場で実践するとともに、上智大学の建学精神「他者のために、他者とともに生きる（Men and Women for Others, with Others）」に従って、内戦の後遺症が残るカンボジアにおいて、カンボジア人保存官とともに遺跡現場に張り付いて教育活動を担当してこられました。

加えて、三輪助教は現地センターに駐在し、以下の業務を担当しておられます。①人材養成・調査研究・文化遺産教育の諸活動、②センターの現場責任者として管理と運営、③アンコール・ワット西参道修復に伴う工事現場の責任者（第1期工事ではカンボジア人石工総勢60名をまとめ上げました。2期工事は現在進行中）、④同じく工事現場責任者として、カンボジアのアプサラ機構と協力しながら保存修復の活動に日々獅子奮迅の活躍、⑤R. マグサイサイ賞受賞の陰の実務者であります。

今後も、三輪助教には世界遺産アンコール・ワット修復第2期工事の大事業に遺憾なくその実力を発揮してもらい、ソフィア・ミッションのため、ご尽力いただくこととなります。

（文責 石澤良昭）



一時帰国した三輪悟氏を祝う、アンコール・ワット西参道技術交流委員会・募金委員会のメンバー

2017年度ラモン・マグサイサイ賞を受賞

石澤良昭教授（上智大学アンコール遺跡国際調査団団長）

石澤良昭教授（上智大学アンコール遺跡国際調査団団長）は、「アジアのノーベル賞」と呼ばれるラモン・マグサイサイ賞（2017年）を受賞し、2017年8月31日、フィリピン・マニラで行われた授賞式に出席した。同賞は、フィリピンのラモン・マグサイサイ大統領を記念して1958年に創設され、すでに59年目にあたる。



今回の受賞は、上智大学がカンボジアで推進してきたソフィア・ミッション（国際奉仕活動）への国際的評価である。上智大学は“Men and Women for Others, with Others”（他者のために、他者と共に生きる人）を教育の精神に掲げ、カンボジアにおいてこのソフィア・ミッションとして取り組んできた、1979年に難民救済活動「インドシナ難民に愛の手を」国内外で開始した。1980年代にカンボジア国内へ入り、1989年から人材養成をアンコール・ワット遺跡の現場で開始した。以来約30年にわたるこのアンコール遺跡の保存修復と人材養成活動は、1991年の和平回復後、遺跡現場ではカンボジア人同士の和解と文化復興につながり、そしてカンボジア人が民族の誇りを取り戻すきっかけとなった。この上智大学のソフィア・ミッションの長年にわたる活動と実績がアジア社会およびラモン・マグサイサイ賞財団から高く評価され、今回の受賞となった。

毎年アジア地域で社会貢献など傑出した功績をあげた個人や団体に対して、ラモン・マグサイサイ賞財団から贈呈されており、2017年は石澤教授ほか個人4人と1団体が受賞した。受賞の功績について、同財団は、以下の評価理由を挙げている。

①「アンコール・ワット遺跡保存修復は、カンボジア人の手でなされるべき（By the Cambodians, for the Cambodians）」との目的掲げ、同遺跡を守るカンボジア人専門家の人材養成に尽力したこと。②戦乱で意気消沈したカンボジアの人たちが自国の文化遺産に対する誇りを取り戻すきっかけとなったこと。③アンコール・ワット遺跡に代表される文化遺産を、国際社会が人類の至宝として保存していく重要性を広く世界に訴求してきたこと。

石澤良昭教授がカンボジア伝統儀礼 「師に感謝と長寿祝福のお祝い」の儀式を受ける

2018年3月31日と4月1日の両日にわたり、カンボジア・シェムリアップ市内上智大学アジア人材養成研究センターで、石澤良昭教授の「2017年R. マグサイサイ賞の受賞」をお祝いする「師に感謝と長寿祝福のお祝い」の儀式（健康長寿祝福儀式）が行われた。これはカンボジアの村々に伝わる仏教の伝統儀礼である。

儀式には、たくさんの知友と上智大学同窓生および受講生たち約60名が一堂に会し、カンボジア・アンコール地域（コーク・タノート村）に伝わる儀礼にのっとり、2日間にわたり執り行われた。

この長寿祝福の儀式は、カンボジアの伝統的な輪廻転生にもとづく生涯儀礼の神事であり、何か特別なお祝いの機会（受賞など）があると、多くの関係者が集まり祝う儀式でもある。

導師は僧侶と村のアッチャー（寺男）で、仏陀と土地の守護精霊を招来し、祝聖水を頭からかけるカンボジア村落の独特の祝祭で、近隣住民も参加した。外国人を対象とした祝福の儀式は過去に数例であり、大変名誉なことである。

式次第

◆ 1日目：3月31日（土）15：30～18：00

1. 沐浴儀式（Pithi Sraoch Teuk）師への祈り、師への過去の無礼を許していただく
2. 土地の神への儀式（Pithi Prong Peali）
3. 旗揚げ儀式（Pithi Leuk Torng）
4. 僧侶の読経（Pithi Sot Moan）恩師への感謝、師からのお礼
5. 参加者にご馳走を振る舞う

◆ 2日目：4月1日（日）7：30～11：00

1. おとき齋僧侶（5名）を式場にお迎えし、朝食を差し上げる
2. 健康長寿の最高位のお祝い（Pithi Chansokkirisot）
 - ・ 僧侶の読経
 - ・ 若返り・生まれ変わる儀式（Pithi Chhak Bak Sbek）
3. 僧侶による沐浴（Preah Sang Sraoch Teuk）
4. 托鉢、施し

※儀式詳細は本誌 87 ページ参照



カンボジア王国から上智大学教授 3 名に勲章を授与

2018 年 12 月 14 日、カンボジア王国シェムリアップ市にて開催された第 25 回 ICC（アンコール遺跡保存開発国際調整委員会）会議においてカンボジアのプーン・サコナ文化芸術大臣より、石澤良昭教授ら功勞のあった 3 名にカンボジア王国の勲章が授与された。



今回の勲章授与は、上智大学の長年にわたるアンコール・ワット西参道修復工事ならびにカンボジア人専門家の人材養成に対する貢献とその成果が高く評価されたことによるものである。

長年修復工事と人材養成の実施の責任者を務めてきた石澤良昭教授（アジア人材養成研究センター所長）、アンコール・ワット西参道修復工事を大学として推進することを全面的に支援してきた高祖敏明特任教授（前上智学院理事長）、修復工事の施工基本計画を取り纏めた平山善吉アジア人材養成研究センター客員教授の 3 名が受賞の対象となった。

受賞者と授賞した勲章は以下のとおり。

- | | |
|----------|--|
| 高祖敏明特任教授 | サハメトレイ勲章コマンドール章
(Commander of the Royal Order of Sahametrei) |
| 平山善吉客員教授 | サハメトレイ勲章大騎士章
(Knight of the Royal Order of Sahametrei) |
| 石澤良昭教授 | モニサラボン勲章大官位章
(Grand Officer of the Royal Order of Monisaraphon) |

『ミュゼ Musée』誌 Vol. 122 (2018年12月号) に掲載

アセアン10カ国の「文化財と博物館」の国際ワークショップを カンボジアで3年間にわたり開催

センターの活動が、ミュゼ Musée Vol. 122 (2018年12月号) に取り上げられました。以下、同誌より転載（一部改訂）。

『2018年11月2日から8日にかけて、カンボジアのプノンベン及びシェムリアップで昨年引き続き「アセアン2018文化財と博物館ワークショップ」が開催された。文化庁の文化遺産国際協力拠点交流事業の委託を受けて上智大学が開催したもので、日本を含む11カ国から35人が参加した。上智大学は、石澤良昭教授の主導で「カンボジア人による、カンボジアのための、アンコール遺跡保存修復」を掲げ、1996年にシェムリアップに「アジア人材養成研究センター」を開設し、20年以上にわたってアンコール遺跡の現場で人材育成を行っている。

11月3日には、プノンベン文化芸術省講堂で開会式が行われた。プラク・ソンナラ文化芸術省局長による基調講演があり、石澤教授による歓迎あいさつ、そしてブウン・サッコナー文化芸術大臣によるスピーチが行われ、参加者が自己紹介を行った。午後はプノンベン国立博物館を見学後、基調講演が行われた。翌日は陸路で大プリア・カン遺跡を見学してシェムリアップに移動し、5日目以降はアンコール遺跡のほか、上智大学が発掘したバンテアイ・クデイの石仏が展示されているプリア・ノロドム・シハヌーク・アンコール博物館、アンコール遺跡保存管理所などを見学した。最終日には、参加者全員がカントリー・レポートを発表し、意見交換を行った。』



Musée Vol. 122



プノンベンで行われた開会式後の記念撮影



遺跡を見学する参加者たち



石澤良昭上智大学教授

上智精神をカンボジアで実践 本学大学院卒業生 2 名が日本国外務省から表彰を受ける

—日本とカンボジアの友好親善に貢献—

日本国外務省は、2019 年 8 月に本学大学院出身のお 2 人のカンボジア人、オム・ラヴィ先生（王立プノンペン大学副学長・教授）、エク・ブント氏（文化芸術省無形文化財局副局長）の両氏が、日本とカンボジアの友好親善に貢献した事由で表彰すると公表しました。在カンボジア王国日本国大使館は、1993 年プノンペンに再開されたが、今回は日本とカンボジアの友好親善に多大の貢献を果たしたカンボジア人として、初めて表彰することになりました。2019 年 12 月 18 日プノンペンの日本国大使館で表彰の伝達式が行われました。

上智大学はその教育精神に“Men and Women for Others, with Others”（他者のために、他者とともに生きる）を掲げ、地球市民を育成してきましたが、このカンボジア人のお 2 人に心からエールを送りたい。

ブント氏は上智大学ソフィア会（同窓会）のカンボジア・ソフィア会会長を務めておられます。

Campus news

#01

Two Cambodian Alumni of Sophia Receive Foreign Minister's Commendations



Cambodian officials Ravy Oum (right) and Buntha Ek (left) with Professor Yoshiaki Ishizawa in Phnom Penh

Buntha Ek, Deputy Director-General in charge of Intangible Cultural Heritage, Ministry of Culture and Fine Arts for the Kingdom of Cambodia ('99 M.A. in Area Studies) and Ravy Oum, Vice Rector, Royal University of Phnom Penh ('02 PhD in Area Studies) have been awarded Japan's Foreign Minister's Commendations for FY2019.

Both Cambodian officials are former international students at the graduate school of Sophia University. Professor Yoshiaki Ishizawa, Director of the Sophia Asia Center for Research and Human Development and the recipient of the Ramon Magsaysay Award, for his work on restoring and preserving the ancient site of Angkor Wat, mentored their master's and doctoral theses before they

returned home to Cambodia. The honor bestowed upon Ek and Oum is the result of their years of work strengthening the links between Cambodia and Japan.

Reacting to their award, the two commented: "During the Pol Pot regime we lost our families, and we were so poor we did not always know where our next meal was coming from. Yet, we believed that if we just kept at our studies, a time would come when we would be able to give our best for our nation. The end result of our effort was gaining entry to graduate school in Japan as government-sponsored international students. So many Japanese people helped us during our stay in Japan. The acclaim for what we now are goes to the people of Japan; we are so grateful for their goodwill."

Ⅱ. センター主催行事

(活動報告 その2)

国際シンポジウム

「よみがえれアンコール・ワット、
修復はカンボジア人の手で」

— by the Cambodians, for the Cambodians 30年 —

International Symposium

Reviving Angkor Wat : The 30 years of Restoration by the Cambodians, for the Cambodians

សន្និសីទអន្តរជាតិ

ការរស់ឡើងវិញនៃប្រាសាទអង្គរវត្ត ៖

ការជួសជុលប្រាសាទខ្មែរ ដោយដៃខ្មែរ ក្នុងរយៈពេល៣០ឆ្នាំ

日本とカンボジアはこれまで65年にわたり友好親善の交流を積みあげてきた。

上智大学は1980年代から現地に入り、文化復興と平和構築を支援するため「アンコール・ワットはカンボジア人の手で保存修復」を提唱し、1991年には保存官の人材養成を開始した。1993年、カンボジア王国政府からアンコール・ワット西参道の修復要請を受け、以来遺跡の保存修復を行うカンボジア人保存官の養成を実施している。その間1996年には、現地に「上智大学アジア人材養成研究センター」を建設し、研究員の常駐により人材養成を継続してきた。

西参道の修復事業は、建築遺産を含めた文化財の修復および保存分野の国際協力事業に対する支援を目的とした国際交流基金の趣旨にも合うことから、上智大学は2015年から支援を受けてきた。

今回の国際シンポジウムは、上智大学と国際交流基金が主催し、上智大学がこれまで行ってきたアンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会（カンボジア委員と日本委員）を日本において実施するものである。

シンポジウムには、カンボジアから文化遺産保存・修復の最高責任者ブーン・サコナ閣下（文化芸術大臣）がカンボジア人技術交流委員会委員（保存官5名）を同道し来日、カンボジア人保存官からは活動報告がなされた。

○日 時： 2019年2月22日（金）13時～17時25分

○場 所： 上智大学国際会議場（2号館17階）

○共 催： 上智大学アジア人材養成研究センター

独立行政法人国際交流基金（アジアセンター）

○プログラム

開会挨拶 佐久間 勤（上智学院理事長／イエズス会高等教育担当理事）

櫻井友行（独立行政法人国際交流基金理事）

基調講演

「カンボジアの文化遺産を守る保存官たち」

プーン・サコナ閣下（カンボジア王国政府文化芸術大臣）

報 告

「アプサラ機構の役割とその活動」

ハン・ペウ閣下（アプサラ機構総裁）

「アンコール・ワット西参道の現場から～遺跡局長として～」

リー・ヴァンナ（アプサラ機構遺跡局長）

「技術アドバイザーの立場から」

平山善吉（アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会委員長）

「アンコール・ワットの保存官としての取り組み」

マオ・ソックニー（アプサラ機構保存官）

「1996年からのアンコール・ワット西参道修復工事」

三輪 悟（アジア人材養成研究センター特任助教）

パネルディスカッション

「西参道において検証された伝統技法」

リー・ヴァンナ（アプサラ機構遺跡局長）

アン・ソピアプ（アプサラ機構保存官）

平山善吉（アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会委員長）

三輪 悟（アジア人材養成研究センター特任助教）

司会：石澤良昭（アジア人材養成研究センター所長）

閉会挨拶

ウン・ラチャナ閣下（駐日カンボジア大使）

櫻井友行（独立行政法人国際交流基金理事）

カンボジア語通訳：ラオ・キム・リエン（アジア人材養成研究センター研究員）

ニム・ソテイーヴン（アジア人材養成研究センター研究員）



出席者：カンボジア・日本の技術交流委員、国際交流基金、上智大学

開会挨拶

上智学院理事長、イエズス会高等教育担当理事
佐久間 勤

国際交流基金アジアセンターと上智大学アジア人材養成研究センターが共催して、国際シンポジウム「よみがえれアンコール・ワット、修復はカンボジア人の手で」を開催するにあたり、上智大学を代表して心からの感謝を申し上げます。

カンボジア王国からご来学いただきました、カンボジア王国政府文化芸術大臣のプーン・サコナ閣下、国務長官・文化遺産総局長のブラック・ソン

ナラー閣下、世界遺産サンポー・プレイクック機構総裁のパン・ナディー閣下、アプサラ機構総裁のハン・ベウ閣下、在日カンボジア王国大使のウン・ラチャナ閣下、そしてアプサラ機構の遺跡保存官一行の皆さまには、厚く御礼を申し上げます。

上智大学は2013年に創立100周年を迎え、教育の精神として「他者のために、他者とともに生きる人 (Men and Women for Others, with Others)」の育成を掲げております。この精神をカンボジア王国で約25年にわたり実践し、活動してきた本学の海外拠点が、上智大学アジア人材養成研究センター（所長：石澤良昭教授）であります。

上智大学とカンボジアの具体的な関わりは、ヨゼフ・ピタウ元上智大学長が、1979年、「インドシナ難民に愛の手を」と、難民をたすけるため、新宿駅で大学教職員とともに募金活動を開始し、大学生らと難民キャンプを訪れ奉仕活動を行ったことからはじまりました。

他方、石澤良昭先生は、1960年に上智大学の学生研修でアンコール・ワット遺跡と初めて出会いました。以来、数多くのカンボジア人若手保存官と友好を深められたのですが、残念ながら内戦のため保存官たちが行方不明となりました。石澤先生は、カンボジア内戦中にフン・セン首相が発信した「S.O.S. アンコール・ワット」の呼び掛けに直ぐさま呼応し、1980年代、戦塵煙るカンボジア国内において保存活動を再開したのです。1991年からは日本人の先生方とともに、カンボジア人遺跡保存官と石材加工のできる石工の人材養成を開始しました。現地に寄り添い、修復工事と人材養成の拠点となる活動拠点が必要と考えた石澤先生は、東奔西走の募金活動を開始いたしました。その努力は1996年ついに現地シェムリアップ市内に現在の上智大学アジア人材養成研究センター設立として結実いたしました。同センターは、上智大学初の海外拠点であり、その大きな具体的成果の一つとして、2007年にはアンコール・ワット西参道修復工事第1工区100mをカンボジ



佐久間勤上智学院理事長による開会挨拶

ア王国政府と協力して完成させました。この工事を現場研修として手伝ったのがカンボジア人の保存官候補と石工たちでした。現在行われている西参道修復工事は、手付かずのままであった残りの100 m（第2、第3工区）であり、2020年に完成を目指しております。こうした約25年にわたるカンボジアの文化遺産の保存修復と人材養成が高く評価され、2017年8月には石澤教授の「ラモン・マグサイサイ賞」受賞として世界的に顕彰され、上智大学としても大変光栄でございました。

現在、この西参道修復工事は、この度のシンポジウムのため来日いただきました国立アプサラ機構の担当者5名の方々が現場を担当し、上智大学アンコール遺跡国際調査団の技術陣がアドバイスをいたしております。また、ユネスコの推薦する専門家（アドホック委員）からも助言を受けております。今回の国際シンポジウムでは、それらを踏まえた文化遺産の保存修復、人材養成、伝統技術と現代技術などさまざまな考察がなされると聞いております。活発な意見交換を通じて、日本とカンボジアの共同作業の成果がアジア諸国への文化貢献につながりますように期待いたします。

最後になりますが、本シンポジウムの開催にあたり格別のご支援を賜りました、国際交流基金安藤裕康理事長、同基金アジアセンターの皆さま、そしてご協賛いただきました、ANAグループ様、サタパナ銀行カンボジア様はじめ、産業界各社の皆さまのご理解とご支援に厚く御礼を申しあげます。

開会挨拶

独立行政法人国際交流基金理事
櫻井友行

国際シンポジウム「よみがえれアンコール・ワット、修復はカンボジア人の手で」が、日本国内のみならず海外からも参加を得て、盛大に開催されますことを大変うれしく思います。

カンボジア王国文化芸術大臣のプーン・サコナ閣下はじめカンボジアから来日された関係者の皆さまに対しまして心から歓迎の意を表したいと思います。また、上智大学はアンコール・ワット修復とその人材育成分野で長年渡り多大なご尽力、ご功績をあげられてきた大学であり、このシンポジウムを開催するのにまさにふさわしい場所といえるでしょう。

国際交流基金も、世界的に価値のある建築遺産を含めた文化財の修復および保存分野における国際協力事業に対し、積極的に支援を行って参りました。とくに、日本の経済力の高まりとともに、国際社会の中での日本への期待も大きくなり国際貢献が求められた1980年代後半からは継続的に協力実施してきております。カンボジアにおいても1980



国際交流基金 櫻井友行理事挨拶

年代末より、日本は和平、復興、内政安定、国造りに協力し、国際交流基金も事業を行って参りました。当時、文化の分野でも国際文化協力の重要性が高まり、同じ時期に日本はユネスコ文化遺産保存日本信託基金を創設し、アンコール遺跡の修復・保存事業を皮切りに、世界各国のさまざまな遺跡等の調査、修復、人材育成など文化協力への取り組みを本格化しました。

上智大学は、1990年代初頭にバンテアイ・クデイ遺跡の考古学発掘からアンコールでの実質的な事業を開始され、1993年よりアンコール・ワット西参道の修復事業を開始し、1996年には上智大学アジア人材養成研究センターを設立、その間にも多くのカンボジア人研究者や修復に従事する技術者の養成を継続的に実施されてきました。

一方、国際交流基金におきましても、専門家の派遣や各国の文化遺産関係者の招へいといった人物交流事業を行うようになり、1995年に設立された国際交流基金アジアセンターでは、アジア諸国における文化基盤整備への協力を活動の柱の一つと設定し、アンコール・ワット修復・保存事業につきましても、同センターを中心に支援を行いました。

その後2004年に、同アジアセンターは発展的に改組されましたが、2014年にアジア諸国との交流をさらに深めるために新たなアジアセンターが発足となり、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までの期限付きで、芸術・文化の双方向の交流と日本語学習支援といった事業を展開してきております。

文化遺産の保護と現代における活性化については、アジアにおける重要な課題と認識しております。有形の文化遺産のみならず、各国の伝統的な音楽、舞踊、演劇、工芸技術といった無形文化遺産は、各国、各民族のアイデンティティの拠り所として最重要視されるべきものであり、国際的な相互理解の促進に欠かせない要素であると考えます。アジアセンターは、文化遺産を守るためのオールジャパンの取り組みを推進する「文化遺産国際協力コンソーシアム」の一員として関係機関や専門家の方々と連携を深めながら事業を展開しているほか、人物交流事業や助成事業をとおして人材育成に取り組んでおります。

近年、宗教間、民族間の対立の深刻化や、自然災害などの原因により、貴重な有形、無形の文化遺産が消失の危機にさらされている例が少なくありません。他者の歴史や文化に対する理解と、寛容性を持ち、文化遺産を、人類共通の貴重な遺産として国際的に手を携えて次世代に伝えていくことが、安定した国際社会の基礎形成につながるものと、私たちは信じております。

本日のシンポジウムでは、アンコール修復事業のこれまでとこれからを考えるとともに、今後「アンコールモデル」として、他国の文化遺産の継承と活用、その人材育成への国際的取り組みはどうあるべきかを考えるためのヒントを得られると期待しております。

最後になりましたが、本シンポジウム開催にあたり、ご尽力されました石澤良昭教授をはじめとする皆さまに心から敬意を表します。

基調講演

「アンコール・ワットを守るカンボジア人保存官たち」

カンボジア王国政府文化芸術大臣

プーン・サコナ閣下



カンボジア王国政府文化芸術省 プーン・サコナ大臣閣下による基調講演

ご出席くださいました大使閣下、教授の皆さま、さらに本日ここにお集まりくださいましたすべての皆さま、ありがとうございます。私はカンボジア王国政府の文化芸術大臣で、プーン・サコナです。今回日本へご招待くださいました国際交流基金理事長の安藤裕康様、同じく上智大学の佐久間理事長様に心から御礼を申し上げます。

本日は、シンポジウムのテーマにありますように「よみがえれ、アンコール・ワット」のとおり、私たちカンボジア人の専門官と保

存官が自分たちの手で修復工事を行っておりますことを、日本の皆さまにご報告に参りました。

内戦の終結（1993年）から約25年、カンボジアの文化活動は復興いたしました。本日は私とともに2017年に新しい世界遺産に登録されましたサンボー・プレイ・クック遺跡機構の総裁、それにアンコール・ワット遺跡のアプサラ機構の総裁、さらにアンコール・ワット西参道の現場を担当しております保存官たち5名がそろって、このアンコール・ワット西参道の報告シンポジウムのために、上智大学へ参りました。

この国際シンポジウムでは、両国の専門家で構成する「アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会」が中心となって推進する西参道修復工事について、両国の現場責任者が世界に向けて修復工事の現状を発表いたします。

まずは開催にあたり、25年以上に渡りアンコール・ワット西参道修復とカンボジア人専門家の養成に尽力されてきた石澤良昭先生と上智大学アンコール遺跡国際調査団の皆さまに、感謝を申し上げます。またこの西参道修復をご推進くださいました元理事長の高祖敏明先生、修復技術のアドバイザー平山善吉先生に御礼を申し上げます。この3名の日本人専門家のみなさんは昨年12月に長年の文化貢献に対して、カンボジア王国政府はその業績をたたえ勲章を授与いたしました。

私事ではありますが、私の義父はもと文化情報大臣（1981-1990）で名前を、チェン・ボンといいます。チェン・ボンは、光栄にも1997年、福岡市において、「福岡アジア文化賞」を受賞いたしました。その受賞理由は「カンボジア王国の有形・無形文化財の保存を推進する王立芸術大学を

1989年に再開し、若い専門家の指導育成に大きく貢献したこと」でした。当時の王立芸術大学では専門の講義を担当するカンボジア人教授がほとんど行方不明になっていたのです。それで調査団の先生方にはプノンペンで途中下車して大学の専門分野の授業を約10年間にわたり担当いただきました。本日のシンポジウムで発表するリー・ヴァンナ博士（アプサラ機構遺跡局長）や通訳のニム・ソテーヴン博士（アジア人材養成研究センター研究員）は、それぞれ王立芸大での受講生の一人でした。そして受講生の中から上智大学大学院に留学し、7名が博士号取得、11名が修士号を取得しました。彼らは現在、遺跡保存・修復などで大活躍をしています。

さて、カンボジアと日本は昨年友好65周年を迎えました。私たちカンボジア文化芸術省は義父のチェン・ボン大臣以来、上智大学と30年あまりにわたり、アンコール・ワットの保存・修復・研究・人材養成の活動を通じて強固な信頼関係を結んできました。両者の基本的な立場は「アンコール・ワットの協力は人と人との協力」であり、文化遺産の保存と修復の活動は、肌の色、言葉の壁を突き破り、国境のない信頼関係に立脚しています。本日の国際シンポジウムが両国の新たな一歩の積み重ねとなりますよう、活発な議論を期待いたします。

そしてこの共同修復工事が、2020年に無事完成し、本日もお集まりの皆さまと再び喜びを分かちあえますよう希望いたします。皆さまには、西参道修復工事をお見守りいただくと同時に、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、カンボジアは文化遺産大国です。たくさんの大小の遺跡が国内にあり、例えば、プノンペンの近くには7世紀の「サンボー・プレイ・クック都城」があります。先ほど申し上げましたように、本日はその遺跡を管理、保存、修復する総裁が同席しております。とても素晴らしい遺跡です。今日の国際シンポジウム開催にあたり、ご協力くださったすべての講演者、ご参加くださいました皆さま、そして関係者の皆さまにもう一度深く感謝を申し上げます。日本の皆さまとともに、アンコール・ワットをはじめとする豊かな文化遺産を通じた両国の国際交流がより深化し、発展していくことを期待して、私の基調講演を終えます。ご清聴ありがとうございました。



サコナ大臣閣下から銀皿を拝受する石澤教授



サコナ大臣歓迎レセプション会場 (写真: アプサラ機構提供)

សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិ

អង្គររស់ឡើងវិញ ការងារជួសជុលគឺធ្វើដោយដៃខ្មែរ

- by the Cambodians, for the Cambodians, 30 years -

សុន្ទរកថាគន្លឹះ:

«អភិរក្សករណីទំនៀមទម្លាប់ដែលការពារសេចក្តីចម្រើនខ្មែរ»
លោកជំទាវ ភឿង សកុណារ រដ្ឋមន្ត្រីក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈ

សូមគោរព ឯកឧត្តមឯកអគ្គរាជទូតកម្ពុជាប្រចាំប្រទេសជប៉ុន សាស្ត្រាចារ្យ លោក លោកស្រី អ្នកនាងកញ្ញា ដែលចូលរួមសិក្ខាសាលាថ្ងៃនេះ ខ្ញុំសូមសម្តែងអំណរគុណដ៏ជ្រាលជ្រៅជាទីបំផុត ។

នាងខ្ញុំឈ្មោះ ភឿង សកុណារ រដ្ឋមន្ត្រីក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា ។ ជាបឋម នាងខ្ញុំសូមសម្តែងអំណរគុណដ៏ស្មោះអស់ពីដួងចិត្តចំពោះការអញ្ជើញរបស់លោក ហ៊ីរ៉ូយ៉ាស៊ី អេន់ដូ (Mr. Hiroyasu Ando) ប្រធានក្រុមប្រឹក្សាភិបាលមូលនិធិអាស៊ី រួមជាមួយលោកសាស្ត្រាចារ្យ ទ្រឹត្យុមី សាកុម៉ា (Prof. Tsutomu Sakuma) អធិការបតីនៃស្ថាប័នអប់រំសូហ្វីយ៉ា ។

ថ្ងៃនេះ ដូចប្រធានបទនៃសិក្ខាសាលា «អង្គររស់ឡើងវិញ ការងារជួសជុលគឺធ្វើដោយដៃខ្មែរ» ស្រាប់ នាងខ្ញុំមានកិត្តិយសសូមជម្រាបជូនលោកអ្នកទាំងអស់គ្នាដែលជាជនជាតិជប៉ុន អំពីការងារជួសជុលវិថីរក្សាមរតកវប្បធម៌ ដែលអ្នកជំនាញនិងអភិរក្សករខ្មែរកំពុងធ្វើ ។ បន្ទាប់ពីភ្លើងសង្គ្រាមបានរលត់(១៩៩៣)មក សកម្មភាពស្តារវប្បធម៌កម្ពុជាមានជីវិត២៥ឆ្នាំហើយ ។ ថ្ងៃនេះ រួមជាមួយនាងខ្ញុំ ឯកឧត្តម ឆាន់ ណារឌី អគ្គនាយកអាជ្ញាធរជាតិសំបូរព្រៃគុក ដែលប្រាសាទទាំងនោះត្រូវបានចុះបញ្ជីបេតិកភណ្ឌពិភពលោកនៅឆ្នាំ២០១៧, ឯកឧត្តម ហង់ ពៅ អគ្គនាយកអាជ្ញាធរអប្សរា ដែលគ្រប់គ្រងអង្គរ, ព្រមទាំងអភិរក្សករទទួលបន្ទុកជួសជុលស្ថានហាលប្រាសាទអង្គរវត្ត៥រូបទៀត បានធ្វើដំណើរមកសកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ា ដើម្បីចូលរួមសិក្ខាសាលា ជម្រាបជូនអំពីការងារនៅស្ថានហាលប្រាសាទអង្គរវត្ត ។

នៅក្នុងសិក្ខាសាលាអន្តរជាតិនេះ អ្នកជំនាញនៃប្រទេសទាំងពីរ ខ្មែរ-ជប៉ុន ជាសមាជិក «គណៈកម្មការសិក្សានិងប្តូរបច្ចេកទេសជួសជុលស្ថានហាលប្រាសាទអង្គរវត្ត» ដែលដើរតួជាស្នូលកណ្តាលជំរុញការងារជួសជុលនេះ នឹងឡើងធ្វើបទបង្ហាញជូន អំពីស្ថានភាពបច្ចុប្បន្ននៅការដ្ឋានស្ថានហាលប្រាសាទអង្គរវត្ត ។

ជាកិច្ចប្រកាសបើកសិក្ខាសាលានេះ ជាដំបូងខ្ញុំសូមសម្តែងអំណរគុណចំពោះលោកសាស្ត្រាចារ្យ យ៉ូស៊ីអាកិ ឌីស៊ីសាវ៉ា (Prof. Yoshiaki Ishizawa) និងគណៈប្រតិភូអន្តរជាតិសិក្សាស្រាវជ្រាវអង្គរនៃសកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ា ដែលបានខ្លះខ្លែងអស់ពីកម្លាំងកាយកម្លាំងចិត្ត ជួសជុលស្ថានហាល

ប្រាសាទអង្គរវត្ត និងបានបណ្តុះបណ្តាលអ្នកជំនាញខ្មែរ អស់រយៈពេល២៥ឆ្នាំមកហើយ ។ រួមជាមួយនេះ ខ្ញុំសូមសម្តែងអំណរគុណផងដែរ ចំពោះលោកសាស្ត្រាចារ្យ **តុស៊ិកេគី កូសូ** (Prof. Toshiaki Koso) អតីតអធិការបេតិកភ័ណ្ឌប័នអប់រំសូហ្វីយ៉ា និងលោកសាស្ត្រាចារ្យ **ហ៊ិរិយ៉ាម៉ា ហ៊ិរិយ៉ាម៉ា** (Prof. Zenkichi Hirayama) ទីប្រឹក្សាបច្ចេកទេសជួសជុលស្ថានហាល ។ នាងខ្ញុំសូមរំលឹកផងដែរថា ដើម្បីសម្តែងសេចក្តីដឹងគុណចំពោះអ្នកជំនាញជប៉ុនបីរូបខាងលើនេះ រាជរដ្ឋាភិបាលកម្ពុជាបានប្រគល់ជូនគ្រឿងតំស្សវិយយស នៅខែធ្នូឆ្នាំទៅមុំព្រះនេះ ។

ម្យ៉ាងវិញ នេះជារឿងផ្ទាល់ខ្លួនរបស់នាងខ្ញុំទេ នាងខ្ញុំសូមជម្រាបជូនថា បិតាក្មេករបស់នាងខ្ញុំក៏ជា រដ្ឋមន្ត្រីក្រសួងការបរទេសដែរ (១៩៨១-១៩៩០) ឈ្មោះ **នេង ផុន** ។ ជាកិត្តិយសដ៏ធំមួយសម្រាប់គាត់ នៅឆ្នាំ១៩៩៧ នៅទីក្រុងហ្វឹកុកា (Fukuoka) គាត់បានទទួល «រង្វាន់វប្បធម៌ហ្វឹកុកា» ។ មូលហេតុនៃការទទួលរង្វាន់នេះគឺការវាយតម្លៃថា «ដើម្បីជម្រុញការថែរក្សាសម្បត្តិវប្បធម៌ប៊ិចនិកអរូបីរបស់ខ្មែរឱ្យរស់រានវិញ ព្រឹទ្ធាចារ្យ **នេង ផុន** បានបើកសកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈឡើងវិញនៅឆ្នាំ១៩៨៩ រួមចំណែកយ៉ាងធំមួយក្នុងការបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្ស-អ្នកជំនាញស្រករក្រោយ..» ។ នាជំនាន់នោះ សាស្ត្រាចារ្យខ្មែរដែលទទួលនាទីបង្រៀនមុខវិជ្ជាជំនាញផ្សេងៗ បានត្រូវបាត់បង់ស្ទើរទាំងអស់ ។ ឃើញដូច្នោះ ក្នុងដំណើរទៅស្រាវជ្រាវនៅសៀមរាបរបស់ខ្លួន គណៈប្រតិភូសូហ្វីយ៉ាដែលមានអ្នកជំនាញវិស័យផ្សេងៗ បានចុះពាក់កណ្តាលផ្លូវនៅភ្នំពេញសិន ជួយបំប៉នចំណេះដឹងដល់យុវនិស្សិតខ្មែរទាំងនោះ អស់រយៈពេលប្រមាណ១០ឆ្នាំ ។ ថ្ងៃនេះ ឯកឧត្តម **ប្រាក់ សុឡាតារ៉ា** រដ្ឋលេខាធិការក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈ ដែលអមដំណើរនាងខ្ញុំ, បណ្ឌិត **លី វណ្ណា** ប្រធាននាយកដ្ឋាននៃអាជ្ញាធរអប្សរា ដែលនឹងឡើងធ្វើបទបង្ហាញ, បណ្ឌិត **ញឹម សុនាវិន** អ្នកស្រាវជ្រាវប្រចាំមជ្ឈមណ្ឌលអាស៊ី-សូហ្វីយ៉ា ដែលជាអ្នកបកប្រែ, សុទ្ធតែជាអតីតនិស្សិតសកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ ដែលធ្លាប់បានទទួលមេរៀននាកាលនោះ ។ រួចហើយ ក្នុងចំណោមនិស្សិតខ្មែរទាំងនោះ និស្សិតមួយចំនួនបានមកបំពេញវិជ្ជានៅសកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ាជាបន្តទៀត រហូតទទួលបានសញ្ញាបត្របណ្ឌិត៧នាក់ និងអនុបណ្ឌិត១១នាក់ ។ សព្វថ្ងៃ អ្នកទាំងនេះបម្រើគ្នាទីជាអភិរក្សករ ជាអ្នកជំនាញជួសជុលប្រាសាទ ។ល។ និង ។ល។

ឯកឧត្តម លោកជំទាវ លោក លោកស្រី

ចំណងមិត្តភាពកម្ពុជា-ជប៉ុនបានឈានចូលដល់ខួប៦៥ឆ្នាំហើយ កាលពីឆ្នាំទៅមុំព្រះ ។ យើងខ្ញុំក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈ គិតពីជំនាន់ព្រឹទ្ធាចារ្យ **នេង ផុន** បិតាក្មេកនាងខ្ញុំមក សហប្រតិបត្តិការជាមួយសកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ា មានរយៈពេល៣០ឆ្នាំហើយ ។ តាមរយៈសកម្មភាព ជួសជុល ថែរក្សាសិក្សាស្រាវជ្រាវ បណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្ស នៅតំបន់អង្គរ ទំនុកចិត្តដ៏រឹងមាំមួយបានកើតមានឡើងរវាងស្ថាប័នយើងទាំងពីរ ។ ជំហរជាគោលការណ៍នៃស្ថាប័នទាំងពីរគឺ «សហការនៅអង្គរ គឺជាសហការរវាងមនុស្សនិងមនុស្ស», សកម្មភាពជួសជុលថែរក្សាសម្បត្តិវប្បធម៌ គឺឈរនៅលើទំនុកចិត្តគ្នាទៅវិញទៅមក កើតឡើងដោយមិនប្រាកាន់ពណ៌សម្បុរ និងដោយទម្លុះដញ្ចាំងភាសាចេញ ។ នាងខ្ញុំជឿ

ជាក់ថាសិក្ខាសាលាអន្តរជាតិថ្ងៃនេះប្រាកដជាជំរុញបន្ថែមដំណើរការថ្មីមួយទៀតសម្រាប់ប្រទេសទាំងពីរ ហើយសង្ឃឹមថានឹងមានការពិភាក្សាប្តូរចំណេះដឹងគ្នាយ៉ាងសកម្មជាពុំខាន ។

នាងខ្ញុំបួងសួងសូមឱ្យការងារជួសជុលរួមនេះ បញ្ចប់ជាស្ថាពរដោយសុវត្ថិភាពនៅពេលខាងមុខនេះ ហើយសង្ឃឹមថានឹងបានវិលកក្កើតសោមនស្ស រីករាយ អបអរសាទរ ជាមួយលោកអ្នកជាថ្មីម្តងទៀត ។ នាងខ្ញុំ សំណូមពរសុំលោកអ្នក មេត្តាបន្តការជួយជ្រោមជ្រែងការងារជួសជុលស្ថានភាពប្រាសាទអង្គរ វត្តរហូតដល់ដំណាក់កាលចុងក្រោយ ។

ជាបន្ថែម នាងខ្ញុំសូមជម្រាបជូនថា កម្ពុជាជាមហាប្រទេសវិស័យសម្បត្តិវប្បធម៌ ។ សម្បត្តិវប្បធម៌ ដោយប្រាសាទតូចធំពាសពេញផ្ទៃប្រទេស ឧទាហរណ៍ដូចជា..ទីក្រុងបុរាណសំបូរព្រៃគុក» នាសតវត្សរ៍ ទី៧ ដែលស្ថិតនៅមិនឆ្ងាយពីសៀមរាបប៉ុន្មានឡើយ ។ ដូចបានជម្រាបកាលពីដំបូងទីរួចហើយថា ថ្ងៃ នេះ អគ្គនាយកអាជ្ញាធរជាតិសំបូរព្រៃគុក ដែលគ្រប់គ្រងក្រុមប្រាសាទទាំងនោះ បានចូលរួមនៅទីនេះ ដែរ ។ គឺជាក្រុមប្រាសាទដ៏ល្អវិសេសអស្ចារ្យមួយ ។

ជាបញ្ចប់ នាងខ្ញុំសូមសម្តែងអំណរគុណយ៉ាងជ្រាលជ្រៅជាទីបំផុត ចំពោះវាគ្មិនគ្រប់រូបដែលបាន ជួយជ្រោមជ្រែង ចំពោះអស់លោកអ្នកដែលបានចូលរួម និងចំពោះអ្នករៀបចំសិក្ខាសាលានេះដែលបាន ប្រឹងប្រែងគ្រប់បែបយ៉ាង ។ រួមចំណែកជាមួយលោកអ្នកជនជាតិជប៉ុនដែលមានវត្តមាននៅទីនេះ តាម រយៈការយល់តម្លៃសម្បត្តិវប្បធម៌ គួយដូចជាអង្គវេត្តជាដើម ខ្ញុំសង្ឃឹមថាចំណងមិត្តភាពរវាងប្រទេស ទាំងពីរនឹងរឹងរឹតតែមាំមួន និងរឹងរឹតតែមានដំណើរទៅមុខទ្វេឡើងជាពុំខាន ។

សូមអរគុណ



Angkor Wat



APRIL 2004



ICC, December 04 2019

1997年 GRASS 大賞受賞 / 受賞者紹介



1997年 (第9回) 大賞
チエン・ポン
CHHEN Pon
代表作・制作家「ユメ」五続時代文芸研究所所長
「カンボジア/文化復興、演劇」
1990年03月06日生 (67歳)
カンボジアを代表する劇作家、教授であり、アジアが誇る音楽家、文化人の一人。国際化推進した伝統文化の再生を通して人々にグローバルな視野を開き広げてきた。アジアの伝統文化保存の課題から実践的解決への追求、果敢は偉大な業績として高く評価されている。
大賞制作・演出・総務・監理担当として参加歴10年以上
3回受賞

<http://fukuoka-prize.org/laureate/prize/gra/cphon.php>



Cambodia, Japan Begin Restoring Angkor Wat Causeway

Cambodia and Japan begin a five-year project promising to restore the sacred eastern entrance to Angkor Wat temple.
Standing at the heart of the Angkor Wat restoration project...
Cambodia and Japan began a five-year project promising to restore the sacred eastern entrance to Angkor Wat temple. Standing at the heart of the Angkor Wat restoration project...
The United Economy of Angkor Wat temple, which will be restored by Cambodia and Japan in a four-year project, promising...
Cambodia will spend 300,000 for all materials, study and labor costs and other necessary expenses. Meanwhile, Japan will provide training and other specialized equipment amounting approximately 150,000 for all.

Cambodia Daily May 10, 2016



アンコールワット百多遺存整備工事に於ける第一工区的位置 (Through Earth 2018)

អង្គការភ្នំពេញ និង មជ្ឈមណ្ឌលវិទ្យាស្ថានជាប្រទេសជប៉ុន បានចាប់ផ្តើមការងារស្ថាបនា និង ជួសជុលវិស័យចូលប្រទេស នៃប្រាសាទអង្គរវត្ត
2018年 12月 3日付のアジア経済レビュー
アン・チヨウナ大会の出席によりシ・ヌック・イオン博物館の10周年と稱をに入れる式が行われおほした



アンコール・ワット西参道修復工事（第2期）起工式

Concerning the Ceremony Associated with the Restoration of the Angkor Wat Western Causeway

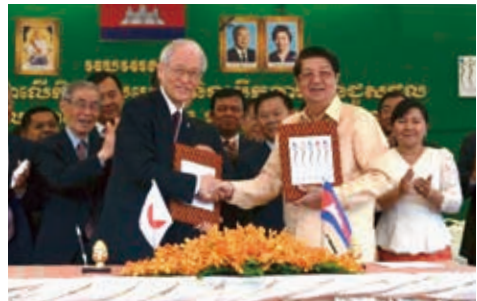
ពិធីបើកការដ្ឋានជួសជុលស្ពានហាលអង្គរវត្ត នៅដំណាក់កាលទី២

アンコール・ワット西参道第2期工事修復工事の起工式が下記により執り行われた。

第1期工事は1996年に開始し2007年に完成した。第2期工事は、日本の外務省のODA（一般文化無償協力）の採択により、日本からクレーンをはじめ多くの機材の提供を受けて行われる。実施体制は、上智大学（アジア人材養成研究センター）とカンボジア国立アプサラ機構との共同事業として行う。

式典にはカンボジア政府から第一副首相はじめ閣僚が、日本政府からは隈丸駐在大使ほか要人が出席、約1,000人の関係者の参加を得て盛大に行われた。

式次第は以下のとおり。



「上智大学とアプサラ機構の協定書」署名式が、Sok An カンボジア王国政府第一副首相および上智学院高祖理事長により行われた。

起工式式典（第2期）

○日 時： 2016年5月9日（月）

現地時間：午前7時30分～9時30分（日本時間：9日午前9時30分～11時30分）

○会 場： カンボジア王国シェムリアップ州シェムリアップ郡ノコール村アンコール・ワット西参道前の仮設式場

○主 催 者： 上智大学（アジア人材養成研究センター）

カンボジア王国政府アンコール地域遺跡整備機構（略称：アプサラ機構）

◇式次第（使用言語はカンボジア語と日本語）

仏教僧侶による読経

両国国旗掲揚および国歌斉唱

開会の辞 アプサラ機構総裁 Sum Map 閣下

◇式 辞

「アンコール・ワット西参道を修復する上智大学・アプサラ機構の共同工事について」

カンボジア王国政府第一副首相 Sok An 閣下

「カンボジアと日本の文化交流について」

日本国特命全権大使 隈丸優次閣下

「アンコール・ワットとソフィア・ミッション」

学校法人上智学院理事長 高祖敏明教授

「アンコール・ワット修復を通じてカンボジアと日本の技術交流」

アプサラ機構遺跡局長 Ly Vanna 博士

○祝 辞： シェムリアップ州知事閣下

○お祝い奉納古典舞踊： アプサラ・ダンス カンボジア宮廷舞踊団

◇主な出席者

〈カンボジア王国政府〉

カンボジア王国政府第一副首相 Sok An 閣下

カンボジア王国政府文化芸術省大臣閣下

カンボジア王国シェムリアップ州知事閣下

〈日本国側〉

日本国特命全権大使 隈丸優次閣下、元大使 篠原勝弘閣下、前大使 黒木雅文閣下

独立行政法人国際交流基金理事長 安藤裕康

学校法人上智学院理事長・上智大学教授 高祖敏明

上智大学アジア人材養成研究センター所長・教授 石澤良昭

上智大学アジア人材養成研究センター客員教授（日本大学名誉教授） 平山善吉

上智大学アジア人材養成研究センター研究員（アンコール建築史学） 三輪 悟

同

（アンコール遺跡環境学） ラオ・キム・リアン



起工式は Sok An 副首相のクレーン車のスイッチとともに開始された。



式典には村人および小・中・高校生約1,000人参加した。

資料

1. アンコール・ワット西参道

- (1) アンコール・ワットの入り口参道であり、陸橋200m、外から見えるラテライト（紅土）擁壁の内側は土砂版築層、その上に砂岩の敷石を乗せた参道歩道
- (2) 西参道の崩壊と修復事例
 - ①1952年大洪水で擁壁一部崩落と倒壊
 - ②1960年代フランス極東学院が参道幅12mの南側半分を修復
 - ③北側半分の工事は内戦のため中止
- (3) 西参道は
 - ①創建当時（12世紀前半）の王が馴象に乗り行幸するために敷設された道路であり、この参道は正式な入り口
 - ②参道入り口から本殿まで540mの距離
 - ③参道に塗り込められたヒンドゥー教の篤信装飾装置
 - A) 西参道は200mの環濠の上を左右に見ながら、天空を歩く如くの浮き橋建築様式となっている。
 - B) ナーガ蛇神（水神）の胴体が欄干を縁取り、天空の神の世界を歩くが如し。
 - C) 五基の大尖塔（須弥山を模した）を眺め、蛇神欄干に触りながら信仰心を高め、本殿に入っていく。
- (4) 参道入口の9頭のナーガ蛇神像彫刻は、評価の高い大傑作（現在は復元レプリカ）。邪な心を持った者を一喝する迫力にあふれ、圧巻のアンコール彫刻装飾である。
- (5) 上智大学は現地にアジア人材養成研究センターを建設（1996年）し、保存官等の養成およびカンボジアの歴史・文化・研究・調査し、日・カの学术交流研究拠点とした。
- (6) 1996年に着工された西参道（第1工区100m）の修復は、「カンボジア人の手によるアンコール・ワットの修復」を掲げ、カンボジア人保存官候補者に、土木・建築・考古の技能研修を実施しながら、石積みの建築技術を検証し、12年かかって完成。当時内戦後カンボジア人を元気づける文化復興のシンボルとなる。困難な社会情勢のさなかにあって、2007年に第1工区100mが完成した。

2. アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会の発足（2015年3月）

アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会合同委員会が2015年3月に発足し、これまでに両国の合同委員会が2015年3月・12月、2016年1月の3回にわたり日本とカンボジアにおいて開かれた。

技術交流研修：日本委員会委員

調査団長	石澤良昭（上智大学教授）（カンボジア碑刻文学・アンコール史学）
委員長	平山善吉（日本大学名誉教授）（建築構造力学）
委員	丸井雅子（上智大学教授）（アンコール考古学）
	竹田哲夫（リテック・エンジニアリング顧問）（橋梁工学）
	清水五郎（日本大学上席研究員）（建築材料学）
	腰塚達郎（元清水建設執行役員）（建築安全工学）
	柿崎正義（スマート建築研究所 代表取締役）（建築施工学）
	坪井善道（元日本大学教授）（建築工学）
	半貫敏夫（日本大学名誉教授）（建築構造力学）
	岸 明（岸エンジニアリング代表）（建築工学）
	小島陽子（日本大学助教）（アジア建築史学）
	三輪 悟（上智大学研究員）（アンコール建築修復学）
	ラオ・キム・リアン（上智大学研究員）（建築環境学）

技術交流研修：カンボジア委員会委員

H.E. Dr. Sum Map	アプサラ機構総裁（フランス・リヨン第2大学経済学博士）（経済協力論）
------------------	------------------------------------

H.E. Mr. Seung Kong	アプサラ機構副総裁（前カンボジア文化省局長）（教育学）
H.E. Ros Borath	アプサラ機構副総裁（フランス政府公認一級建築士）（建築学）
H.E. Dr. Tan Bounsuy	アプサラ機構副総裁（農学）
H.E. Mr. Sok Sangvar	アプサラ機構副総裁（オーストラリア・シドニー大学観光学修士）（観光学）
H.E. Dr. Hang Peou	アプサラ機構副総裁（水利学）
Dr. Ly Vanna	アプサラ機構 アンコール公園内遺跡局長 （上智大学大学院地域研究専攻学術博士）（考古学）
Dr. Chhean Ratha	アプサラ機構 アンコール公園外遺跡局長代理 （日本大学大学院理工学研究科建築学博士）（建築学）
Dr. Tin Tina	アプサラ機構国際調査研究資料局副所長 （上智大学大学院地域研究専攻学術博士）（文化財保存学）
Mr. Tann Sophal	アプサラ機構保存局副局長（王立芸術大学考古学部卒業）（考古学）
Mr. Mao Sokny	アプサラ機構保存局技官（王立芸術大学建築学部卒業）（建築学）
Mr. An Sopheap	アプサラ機構保存局技官（王立芸術大学考古学部卒業）（考古学）

（文責 石澤良昭）

式 辞

上智学院理事長
高祖敏明

上智学院理事長の高祖でございます。

本日、アンコール・ワット西参道の第2期修復工事の起工式にあたり、ここにご臨席くださいました皆さまに御礼のご挨拶を申しあげます。まず最初に、カンボジア王国政府副首相ソック・アン閣下におかれましては、これまで格別のご指導とご高配を賜って参りました。厚く御礼を申しあげます。

また国立アプサラ機構総裁スム・マップ閣下におかれましては、このたびの共同プロジェクトをお引き受けくださり、とてもうれしく思いますし、御礼を申しあげます。

続いて、日本側でございますが、日本国特命全権大使 隈丸優次閣下にこれまでのご指導とご支援に御礼申しあげます。また、いろいろな面でご支援いただいていた元大使の篠原勝弘閣下は、日本からご出席を賜り、厚く御礼を申しあげます。さらに本日は、国際交流基金プノンペン事務所長 濱田祐生様、三菱商事プノンペン事務所長 有井淳様にご出席くださいました。ありがとうございます。

私は昨日、日本からここシムリアップに参りました。3度目のカンボジア訪問です。1回目は、石澤先生が率いる考古学実習チームのカンボジア人研修生たちが、バンテアイ・クデイ寺院の境内で274体もの仏像を掘り出した直後で、国宝級の仏様の優雅なお顔に感動を覚えたものです。2回目は、10年前のアンコール・ワット西参道の第1期工事竣工式の折で、シハヌーク・イオン（Preah Norodom Sihanouk-Angkor）博物館開館式にも出席いたしました。3度目の今回は、第2期工事の

起工式に上智大学を代表して出席し、同時に、アプサラ機構との協定書に調印するために参りました。

世界の誰もが感嘆する大伽藍で、世界遺産のアンコール・ワット、その西参道の修復を共同工事としてお手伝いさせていただきますこと、私どもに取りましては大変光栄ですし、誇りとするところです。今回の共同プロジェクトには、日本国政府から ODA の修復機材を供与していただいております。日本国政府に改めて御礼を申し上げます。

隈丸大使閣下、ありがとうございました。

石澤先生から伺ったのですが、カンボジアの伝承によると、カンボジアで最も知恵があり、最大の物知りは田んぼの中にある田螺だそうで、田螺は世の中の出来事をいつもすべて見ている知恵の王様だということです。

私ども上智大学は、104 年前に創設されたカトリック大学で、英語では Sophia University といいます。このソフィアは、ギリシャ語で「叡智」「知恵」を意味しています。ですから、カンボジアの田螺も上智のソフィアも、どちらも知恵、叡智を意味しています。この二つが共同でプロジェクトを進めるわけですから、アプサラ機構と上智大学との間で橋を架けるのみではなく、カンボジアと日本の間に橋を架け、それも世界に向けて両方の知恵を生かした橋を架けるプロジェクトだということになります。

上智大学がアンコール・ワットを中心に展開している教育研究活動は「ソフィア・ミッション」と呼ばれていますが、その始まりは多くのカンボジア人が難民キャンプに避難した時代でした。いまから 37 年も前の 1979 年、当時のヨゼフ・ピタウ学長が先頭に立って「インドシナ難民に愛の手を」という募金活動を日本で行い、その浄財を難民キャンプに届けたのでした。しかし、ピタウ学長はすぐ気づきました。募金で集めたお金を届けるのも大事だが、もっと大事なのは、これからのカンボジアの発展を担う人を育てることだと。

私どものソフィア・ミッションの目標は、'Men and Women for Others' with Others' を育てることです。1980 年代から上智大学はカンボジアに関わり始め、とりわけ石澤先生のチームはカンボジアの文化復興を支援し始めました。そして、「アンコール・ワットはカンボジア人の手で修復する」ことを大きな目標に掲げ、近い将来の保存官候補者を育成する仕事のお手伝いを始めました。1996 年には、シエムリアップに「上智大学アジア人材養成研究センター」を開設し、アプサラ機構の力強いご協力を得て、人材養成に励んで参りました。

その大きな成果の一つが、アンコール・ワット西参道の第 1 期工事の完成でした。皆さまもご記憶のとおり、1996 年から 12 年の歳月をかけ、カンボジアの保存官候補者、作業員、石工約 85 名と協力して西参道 100m を修復し、2007 年 11 月にその竣工を祝いました。この工事完成は、カンボジアの人たちが自らの手で成し遂げた文化復興として高く評価され、全世界に向けてニュースが発信されました。日本では、NHK が「プロジェクト X」という番組で取り上げ、日本人がアンコール・ワットに強い関心を寄せ、大勢でやってくる契機となりました。

これからその第 2 期工事が始まります。第 2 期の強みは、第 1 期のとき学んだ経験が活かしていることと、カンボジアに人材が育っていることです。先ほど私どもがソフィア・ミッションとして、

1996年からシェムリアップのセンターで人材の育成を始めたと申しあげましたが、さまざまな研修を重ねてカンボジアの地で作業員や石工を育てるだけでなく、カンボジア人の保存官候補者をも育て、上智大学大学院へ留学生として招きました。今日まで、博士学位を7名、修士学位11名、合計18名が学位を取得してカンボジアへ戻り、第一線で活躍しています。今回の共同プロジェクト工事担当者およびアプサラ機構の局次長クラスの3名、Dr. Ly Vanna, Dr. Tin Tina, Dr. Chheam Rathaの3名が日本で学位取得した方々です。

私どもとアプサラ機構が目指すアンコール・ワット西参道の修復は、壊れかかった参道を修復すると同時に、学術調査を実施し、いわばカンボジアの田螺が知っている知恵を掘り起こそうとしています。参道がどんな建材や資材でできているか、版築技術の探求と検証、水中考古学による基礎土台の調査、そして、これらがいつの時代に構築されたか、などをも調査・研究し、カンボジアの歴史の解明にも挑戦しています。こうした学術調査によって解明されるカンボジアのいろいろな知恵は、カンボジアの人たちに還元され、民族的誇りを持つことにつながります。文化遺産の研究がカンボジアの新しいアイデンティティへと導くわけです。こうしてカンボジアの人たちは、人類全体の文化発展の中で、カンボジアの歴史と文化の独自性を再発見することになります。

アンコール・ワットの修復と保存の最終責任は、やがてカンボジア人の中の優秀な修復技術者・研究者・保存官・石工の皆さんが担うことになります。ソフィア・ミッションが目標とする‘Men and Women for Others’ with Others’は、相手が主人公になることを喜びます。この意味でソフィア・ミッションとは、人と人の協力による国際支援活動であり、国際的な人材育成と研究活動であり、それぞれが持つ知恵を探し出し、学びあうプロジェクトでもあります。私どもは、このミッションを「叡智が世界をつなぐ (Sophia Bringing the World Together)」と表現しています。このミッションをとおして、言葉や肌の色の違いや文化の違いを乗り越え、国境を越えて信頼関係を築くことを目指しているわけです。

今回のアンコール・ワット西参道の修復活動をとおして、日本とカンボジアの両国の友好と親善がさらに高く積み上げられ、互いの知恵をもって両国を結ぶ架け橋が、「叡智が世界をつなぐ (Sophia—Bringing the World Together)」のモデルとなりますことを念願して、御礼の挨拶とします。ご清聴くださり、ありがとうございました。

式 辞

カンボジア国王

国家宗教国王

閣僚評議会

アンコール・ワット西参道修復第2期起工式スピーチ

副首相兼閣僚評議会担当大臣

ソク・アン閣下

シエムリアップにて2016年5月9日

- 尊敬する僧侶様
- 隈丸優次在カンボジア日本国大使閣下
- 高祖敏明上智学院理事長閣下
- ご来賓の皆さま
- 親愛する国民と学生の皆さま

本日、ご参列の皆さまとアンコール・ワット西参道修復第2期起工式に参加できること、大変うれしく思います。この修復事業は、アプサラ機構と上智大学をとおして、日本政府とカンボジア政府の共同支援によるもので、上智大学アジア人材養成研究センターとアプサラ機構が実施することになります。ここで、カンボジア政府およびカンボジア国民を代表して、隈丸大使をとおして、カンボジアの開発の多くの分野において絶えず協力している日本国政府と日本国民に深く感謝の意を表します。石澤良昭教授が率いる上智大学アジア人材養成研究センターは、保存活動やカンボジアの人材育成、とくにアンコール・ワット西参道第1期修復を含む1989年からの遺跡保存修復に着手され、高く評価します。併せて、アプサラ機構のリーダーや職員各層は文化遺産を守るため、高い意識で日本の友人と協力し合い、多くの誇らしい成果を導き出したこと、高く評価します。

本日の集まりは間違いなく素晴らしい意味を持ちます。

第一に、西参道はアンコール・ワットへの出入り口としてとても大切な参道です。アンコール・ワットは国家のシンボルであり、クメール人祖先の偉大な建築と工学の結晶で、世界最大の宗教建築であり、環濠を堂々と横切った橋が造られ、クメール人にとって深い意味を持っています。アンコール・ワットはヒンドゥー教崇拜のために12世紀に建設され、その後は仏教デヴァダーに変更されました。なんといっても、私たちが現在通っている西参道は約1000年前にクメール国王であったスーリヤヴァルマン2世が宗教行事などを執り行うために通っていたと人々は信じています。宗教と信仰の観点から、この西参道は人間を神の世界に導くものです。長年にわたって、参道はひどく傷んだり、部分部分に修復されてきました。60年代にはフランス極東学院が南半分を修復しました。その後、カンボジアが内戦に入り、修復工事が中断となりました。1996年になって、上智大学の専門家グループがアプサラ機構専門家と共同で未修復の部分を着手し、12年間掛けて長さ90mの第1期修復を終了させました。そして残りの100mを第2期として本日の起工式をもちまして、引き続き修復を行うのです。

第二に、今日の出来事は人類の文化遺産保存修復協力を反映し、「皆のための遺産、遺産のための皆」のモットーに沿うもので、一旦世界遺産リストに登録されれば、所有する国民のみならず、世界人類がその遺産を守る義務があります。この国際協力・連帯の精神はアプサラ機構のパートナーである ICC「アンコール遺跡保存開発国際調整委員会」の強固な基礎であり、23 年間に及ぶ効率的な協力関係を築き上げました。このメカニズムが他の国のモデルとして評価されています。特記すべきことは、シハヌーク前国王がひどく荒れていたアンコール遺跡群の救済を国際社会に呼びかけてアンコールが 1992 年にユネスコ世界遺産リストに登録されたのを受けて、この国際調整委員会は 1993 年に日本国東京会議で設置が決定され、日本とフランスが共同議長を務めることとなります。現在では、ICC アンコールの枠組内で、23 カ国から 30 以上の国際専門家チームが遺跡の保存修復のためにアプサラ機構と協力し 70 余りのプロジェクトを実施しています。この国際協力と努力があって、2004 年に世界遺産委員会がアンコールを「危機遺産リスト」から外す決定を下したのです。日本は多くの国家の中で、重要な役割を担っており、多くの財源と技術をカンボジアに提供し、とくにアンコール地域の遺跡の保存修復に協力し、バイヨン遺跡とこの西参道の保存修復が代表的です。

親愛する皆さま、

カンボジア王国政府は、フン・セン首相の賢明な指導の下で、国の文化遺産の保存と開発が永続できるよう大きな関心を寄せています。「開発のための保存、そして保存のための開発」の視点に立って、開発と保存の調和を図り、国の発展に適切な利益を見出しながら、価値ある遺産を後世に継承するのです。

遺産分野に対する政府の重視は、今までの努力やさまざまな方針を打ち出したことにより証明され、多くの成果を得てきました。事実、プレア・ヴィヒア寺院が 2008 年に世界遺産リストに登録された後、私たちの努力で国際社会から賛同を受け、ICC アンコールをモデルに、ICC プレア・ヴィヒアを設置することに成功しました。ICC プレア・ヴィヒアの初回会議は成功裏に開催され歴史的な成功として記録され、軍事・政治の対立していたプレア・ヴィヒア地域を平和と協力の地域として変えたのです。現在、いくつかの遺跡の保存修復事業が実施されています。これは、ICC アンコール枠組内の成果に加えた新たな大成功です。

今まで遺跡保存修復を成し遂げた成果と同時に課題も残っています。なぜならば、文化遺産の保存修復と開発は広い範囲を有しており、知識と専門を持つ人材、そして妥当な財源を必要とし、終わりのない仕事です。それ以上に、これらの仕事は関係省庁や機関の継続的な努力に国内・国外パートナー、民間と全国民による積極的な参加が求められています。この意味で、カンボジア王国政府として、友好国、国内・国外パートナーに私たちの努力に対して技術・財政・人材を引き続き支持するよう、また関係省庁や機関そして全国民に自分の役割に応じて協力するようお願いいたします。人類の遺産を守るこの素晴らしいミッションは私たち一人ひとりのためです。

ここで、世界遺産であるアンコールの価値を永遠に守ってくださっている日本国をはじめ、他の友好国、国内・国外の専門家たち、各省庁・機関、国民の皆さんに改めて感謝します。

最後に、ご参列の皆さまのご健康とご活躍をお祈りします。

ここで本日、アンコール・ワット西参道修復工事の開始を宣言します。
ありがとうございました。



**ព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា
ជាតិ សាសនា ព្រះមហាក្សត្រ**

ទីស្តីការគណៈរដ្ឋមន្ត្រី

សុន្ទរកថា

**ឯកឧត្តមបណ្ឌិតសភាចារ្យ សុខ អេន
ឧបនាយករដ្ឋមន្ត្រី រដ្ឋមន្ត្រីទទួលបន្ទុកទីស្តីការគណៈរដ្ឋមន្ត្រី
ក្នុងពិធីបើកការដ្ឋានជួសជុលស្ពានហាល ប្រាសាទអង្គរវត្ត ជំហានទី២
សៀមរាប-អង្គរ ថ្ងៃទី៩ ខែឧសភា ឆ្នាំ២០១៦**

- សូមក្រាបថ្វាយបង្គំ ព្រះថេរានុញ្ញៈគ្រប់ព្រះអង្គជាទីសក្ការៈ
- ឯកឧត្តម ឌីឌី គីម៉ាម៉ារី ឯកអគ្គរាជទូតជប៉ុន ប្រចាំនៅព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា
- ឯកឧត្តម គុស៊ីរេតស៊ី គូសុ ប្រធានក្រុមប្រឹក្សាភិបាលនៃគ្រឹះស្ថានអប់រំសូហ្វ៊ីយ៉ា
- ឯកឧត្តម លោកជំទាវ លោក លោកស្រី ភ្ញៀវភិក្ខិយសជាតិ និងអន្តរជាតិទាំងអស់ ជាទីមេត្រី
- បងប្អូនប្រជាពលរដ្ឋ និងក្មួយៗសិស្សានុសិស្សទាំងអស់ជាទីស្រឡាញ់រាប់អាន

ថ្ងៃនេះ ខ្ញុំមានសេចក្តីសោមនស្សរីករាយ ចូលរួមជាមួយឯកឧត្តម លោកជំទាវ អស់លោក លោកស្រី ភ្ញៀវភិក្ខិយសជាតិនិងអន្តរជាតិ បងប្អូនប្រជាពលរដ្ឋ និងក្មួយៗ សិស្សានុសិស្សទាំងអស់ ក្នុងពិធី «បើកការដ្ឋានជួសជុលស្ពានហាលប្រាសាទអង្គរវត្ត ជំហានទី២» ដែលហិរញ្ញប្បទានអនុវត្តគម្រោងបានមកពីការរួមវិភាគទាន រវាងរដ្ឋាភិបាល ជប៉ុន រាជរដ្ឋាភិបាលកម្ពុជាតាមរយៈអាជ្ញាធរជាតិអប្សរា និងគ្រឹះស្ថានអប់រំសូហ្វ៊ីយ៉ានៃ ប្រទេសជប៉ុន ហើយនឹងត្រូវអនុវត្តរួមគ្នាដោយមជ្ឈមណ្ឌលអាស៊ីសូហ្វ៊ីយ៉ាដើម្បីការ សិក្សាស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្ស នៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្វ៊ីយ៉ា និងអាជ្ញាធរជាតិអប្សរា។ ឆ្លៀតក្នុងឱកាសនេះ ក្នុងនាមរាជរដ្ឋាភិបាល និងប្រជាជនកម្ពុជា ខ្ញុំសូមថ្លែងអំណរគុណយ៉ាងជ្រាលជ្រៅតាមរយៈឯកឧត្តមឯកអគ្គរាជទូត **គីម៉ាម៉ារី** ដល់ រដ្ឋាភិបាលនិងប្រជាជនជប៉ុន ដែលជានិច្ចកាលបានចូលរួមចំណែកក្នុងការអភិវឌ្ឍ ព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា នៅក្នុងវិស័យជាច្រើន។ ខ្ញុំសូមវាយតម្លៃខ្ពស់ចំពោះមជ្ឈមណ្ឌល

អាស៊ីសូហ្វីយ៉ាដើម្បីការសិក្សាស្រាវជ្រាវ និងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្ស នៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ា ក្រោមការដឹកនាំរបស់លោកសាស្ត្រាចារ្យ **យ៉ូស៊ីណេគី អ៊ីស៊ីហ្សូម៉ា** ដែលបានចូលរួមក្នុងការងារអភិរក្ស និងអភិវឌ្ឍធនធានមនុស្សនៅកម្ពុជា ជាពិសេសលើជំនាញជួសជុលនិងអភិរក្សប្រាសាទតាំងពីឆ្នាំ១៩៨៩មក ក្នុងនោះ រួមមានការជួសជុលស្ថានហាលនៃប្រាសាទអង្គរវត្តនេះ នៅដំណាក់កាលទី១។ ខ្ញុំក៏សូមសម្តែងនូវការកោតសរសើរ និងវាយតម្លៃខ្ពស់ផងដែរចំពោះថ្នាក់ដឹកនាំ និងមន្ត្រី បុគ្គលិកគ្រប់លំដាប់ថ្នាក់នៃរាជ្យាធរជាតិអប្សរា ដែលបានខិតខំប្រឹងប្រែងបំពេញភារកិច្ចរៀងៗខ្លួន ប្រកបដោយស្មារតីទទួលខុសត្រូវខ្ពស់ និងទទួលបានលទ្ធផលជាច្រើនគួរជាទីមោទនៈ ដើម្បីបុព្វហេតុបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ ជាពិសេសបានធ្វើការសម្របសម្រួល និងសហការយ៉ាងល្អជាមួយមិត្តជប៉ុន ធ្វើឱ្យព្រឹត្តិការណ៍នេះរាចប្រព្រឹត្តទៅប្រកបដោយភាពអធិកអធម។

ការជួបជុំគ្នាថ្ងៃនេះ ពិតជាមានអត្ថន័យដ៏វិសេសវិសាល។

ទី១.ស្ថានហាលនេះ គឺជាផ្លូវដ៏សំខាន់សម្រាប់ចេញ ចូលប្រាសាទអង្គរវត្ត ដែលជាប្រាសាទមួយប្រកបដោយអត្ថន័យយ៉ាងជ្រាលជ្រៅសម្រាប់ប្រជាជាតិខ្មែរ ព្រោះជានិមិត្តរូបជាតិ ជាស្នាដៃស្ថាបត្យកម្មនិងវិស្វកម្មដ៏កំពូលរបស់បុព្វបុរសខ្មែរនាសម័យនោះ ដែលបានកសាងស្ថាននេះលេចឡើងយ៉ាងត្រដែតលាតសន្ធឹងកាត់ផ្នែកសិណដ៏ធំ និងជាបូជនីយដ្ឋានសាសនាដែលធំជាងគេលើពិភពលោក។ ប្រាសាទអង្គរវត្តត្រូវបានកសាងឡើងដើម្បីឧទ្ទិសដល់ព្រហ្មញ្ញសាសនានៅសតវត្សទី១២ ហើយនៅសម័យក្រោយមក ត្រូវបានឧទ្ទិសដល់ព្រះពុទ្ធសាសនាថេរវាទវិញ។ ជាងនេះទៀត គេជឿថា ស្ថានដែលយើងឆ្លងកាត់សព្វថ្ងៃនេះ គឺជាស្ថានដែលអតីតព្រះមហាក្សត្រខ្មែរ ព្រះបាទសុរិយវរ្ម័នទី២ ធ្លាប់បានយាងចេញចូលប្រាសាទកាលពីប្រមាណ ១ពាន់ឆ្នាំមុន ដើម្បីបំពេញកិច្ចសាសនា និងពិធីផ្សេងៗ។ តាមអត្ថន័យខាងសាសនា និងជំនឿ ស្ថានហាលនេះ គឺជាស្ថានចម្លងមនុស្សលោកទៅកាន់ឋានទេព ពោលគឺ ភ្ជាប់ឋានមនុស្សទៅឋានរាទិទេព។ ដោយសាររាយការណ៍ដ៏ចំណាស់ ស្ថាននេះមានការខូចខាតជាច្រើន ហើយត្រូវបានធ្វើការជួសជុលដោយផ្នែក ជាបន្តបន្ទាប់។ ក្នុងទសវត្សរ៍១៩៦០ សាលាបារាំងចុងបូព៌ាបានជួសជុលពាក់កណ្តាលខាងត្បូងនៃស្ថានហាលនេះ។ ដោយសារកាលទេសកម្មជាមានសង្គ្រាម ការជួសជុលត្រូវបានរាក់ខាន រហូតមកដល់ឆ្នាំ១៩៩៦ ទើបក្រុមអ្នកជំនាញជប៉ុននៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្វីយ៉ា បានសហការជាមួយអ្នកជំនាញខ្មែរនៃរាជ្យាធរជាតិអប្សរា ចាប់ផ្តើមធ្វើការជួសជុលផ្នែកដែលនៅសល់ ដោយក្នុងដំណាក់កាលទី១ មានរយៈពេល១២ឆ្នាំ សម្រេចបាន

ប្រវែង៩០ម៉ែត្រ នៅសល់មួយកំណាត់ប្រវែងប្រមាណ១០០ម៉ែត្រទៀត មិនទាន់បានជួសជុលនៅឡើយ ហើយគម្រោងដំណាក់កាលទី២ ដែលយើងកំពុងធ្វើពិធីបើកការដ្ឋាននាពេលនេះ នឹងបន្តការងារជួសជុលនេះទៀត។

ទី២.ព្រឹត្តិការណ៍ថ្ងៃនេះ ក៏ជាសក្ខីភាពឆ្លុះបញ្ចាំងឱ្យឃើញនូវស្មារតីសហប្រតិបត្តិការ និងសាមគ្គីភាពជាអន្តរជាតិយ៉ាងរឹងមាំ ក្នុងបុព្វហេតុដើម្បីការពារ ថែរក្សា និងអភិរក្សបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌របស់មនុស្សជាតិ ស្របតាមទិសស្លោក **«បេតិកភណ្ឌដើម្បីទាំងអស់គ្នា ទាំងអស់គ្នាដើម្បីបេតិកភណ្ឌ»** ពោលគឺ កាលណាបេតិកភណ្ឌជាតិមួយត្រូវបានចុះក្នុងបញ្ជីបេតិកភណ្ឌពិភពលោក គឺមិនត្រឹមតែប្រជាជាតិដែលជាម្ចាស់សម្បត្តិបេតិកភណ្ឌនោះប៉ុណ្ណោះទេ ប៉ុន្តែថែមទាំងប្រជាជាតិទាំងអស់នៅលើសកលលោក មានកាតព្វកិច្ចការពារ ថែរក្សា និងអភិរក្សបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ឱ្យបានគង់វង្ស។ ស្មារតីសហប្រតិបត្តិការ និងសាមគ្គីភាពជាអន្តរជាតិនេះហើយ គឺជាមូលដ្ឋានគ្រឹះដ៏រឹងមាំរបស់ ICC-អង្គរ ដែលមានឈ្មោះពេញថា **«គណៈកម្មាធិការអន្តរជាតិសម្របសម្រួលកិច្ចគាំពារ និងអភិវឌ្ឍន៍រូបវន្តវប្បធម៌ប្រវត្តិសាស្ត្រអង្គរ»** ដែលជាដៃគូសហប្រតិបត្តិការយ៉ាងមានប្រសិទ្ធភាពរបស់រាជ្ជាធរជាតិអប្សរា រយៈពេលប្រមាណ ២៣ឆ្នាំមកនេះ ហើយយន្តការនេះ ត្រូវបានពិភពលោកចាត់ទុកជាគំរូ និងបានយកទៅអនុវត្តនៅបណ្តាប្រទេសមួយចំនួនថែមទៀតផង។ គួររំលឹកថា គណៈកម្មាធិការនេះ ត្រូវបានបង្កើតឡើងនៅឆ្នាំ១៩៩៣ នៅទីក្រុងតូក្យូ ប្រទេសជប៉ុន ដោយមានប្រទេសជប៉ុននិងបារាំងធ្វើជាសហប្រធាន គឺ ក្រោយពីសេចក្តីអំពាវនាវរបស់ព្រះមហាក្សត្រ ព្រះចៅជាតិខ្មែរ ព្រះបរមរតនកោដ្ឋ សម្តេចព្រះ **នរោត្តម សីហនុ** ដល់សហគមន៍អន្តរជាតិ ឱ្យជួយសង្គ្រោះប្រាសាទអង្គរដែលកំពុងទ្រុឌទ្រោមខ្លាំង និងបន្ទាប់ពីអង្គរត្រូវបានចុះក្នុងបញ្ជីបេតិកភណ្ឌពិភពលោករបស់អង្គការយូណេស្កូ នៅឆ្នាំ១៩៩២។ រហូតដល់បច្ចុប្បន្ន ក្នុងក្របខ័ណ្ឌICC-អង្គរ យើងបានកៀរគរការចូលរួមពីក្រុមអ្នកជំនាញការអន្តរជាតិជាង៣០ មកពីប្រទេសចំនួន២៣ ដែលបាននិងកំពុងធ្វើសហប្រតិបត្តិការជាមួយរាជ្ជាធរជាតិអប្សរា ក្នុងការអភិរក្ស និងជួសជុលប្រាសាទ សរុបមានចំនួនជាង៧០គម្រោង។ ដោយសារកិច្ចខិតខំប្រឹងប្រែងរួមគ្នាជាអន្តរជាតិនេះហើយ ទើបរូបវន្តវប្បធម៌អង្គរត្រូវបានជួយសង្គ្រោះឱ្យរួចផុតពីស្ថានភាពគ្រោះថ្នាក់ ហើយនៅឆ្នាំ២០០៤ គណៈកម្មាធិការបេតិកភណ្ឌពិភពលោក បានសម្រេចដករូបវន្តវប្បធម៌អង្គរចេញពី **«បញ្ជីបេតិកភណ្ឌប្រឈមនឹងគ្រោះថ្នាក់»**។ ជប៉ុនគឺជាប្រទេសមួយក្នុងចំណោមប្រទេសជាច្រើនទៀត ដែលបានដើរតួនាទីយ៉ាងសំខាន់នៅក្នុងដំណើរការនេះ ដោយបានផ្តល់ជំនួយហិរញ្ញវត្ថុ និងបច្ចេកទេសជាច្រើនដល់កម្ពុជា ជាពិសេសផ្នែកអភិរក្សនិងជួសជុល

ប្រាសាទនៅតំបន់អង្គរ ក្នុងនោះរួមមានការដ្ឋានអភិរក្សនិងជួសជុលប្រាសាទបាយ័ន និង ស្ថានហាលនេះ ជាដើម។

- ឯកឧត្តម លោកជំទាវ អស់លោក លោកស្រី
- បងប្អូនប្រជាពលរដ្ឋ និងក្មួយៗសិស្សានុសិស្សជាទីមេត្រី

រាជរដ្ឋាភិបាលកម្ពុជា ក្រោមការដឹកនាំប្រកបដោយឥតិបណ្ឌិតរបស់ **សម្តេចអគ្គមហាសេនាបតីតេជោ ហ៊ុន សែន** នាយករដ្ឋមន្ត្រីនៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា បាននិងកំពុងយកចិត្តទុកដាក់គិតគូរយ៉ាងច្បាស់លាស់និងដោយប្រយ័ត្នប្រយែង ក្នុងការថែរក្សាការពារ អភិរក្ស និងអភិវឌ្ឍបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ជាតិប្រកបដោយចីរភាព ធ្វើយ៉ាងណាក្សានូវតុល្យភាពរវាងការអភិវឌ្ឍនិងការអភិរក្ស ស្របតាមទស្សនាទាន «អភិរក្សដើម្បីអភិវឌ្ឍនិងអភិវឌ្ឍដើម្បីអភិរក្ស» សំដៅទាញយកប្រយោជន៍សមស្របសម្រាប់ការអភិវឌ្ឍប្រទេស និងផ្ទេរមរតកដ៏មានតម្លៃនេះទៅដល់ជំនាន់ក្រោយៗទៀត។

ការយកចិត្តទុកដាក់របស់រាជរដ្ឋាភិបាលនៅក្នុងវិស័យបេតិកភណ្ឌ បានស្តែងចេញតាមរយៈកិច្ចខិតខំប្រឹងប្រែងជាប់មិនដាច់ និងការដាក់ចេញនូវគោលនយោបាយផ្សេងៗ ដោយទទួលបានសមិទ្ធផលយ៉ាងច្រើនជាបន្តបន្ទាប់នាពេលកន្លងមក។ ជាក់ស្តែង បន្ទាប់ពីជោគជ័យដ៏ធំធេងក្នុងការចុះប្រាសាទព្រះវិហារជាទីសក្ការៈ ក្នុងបញ្ជីបេតិកភណ្ឌពិភពលោកកាលពីឆ្នាំ២០០៨រួចមក ថ្មីៗនេះ យើងបានខិតខំរៀបរយការគាំទ្រពីសហគមន៍អន្តរជាតិ សម្រាប់ការបង្កើតគណៈកម្មាធិការសម្របសម្រួលអន្តរជាតិមួយទៀតសម្រាប់រមណីយដ្ឋានប្រាសាទព្រះវិហារ (ICC-ព្រះវិហារ) ដោយជោគជ័យ ដោយយកតាមគំរូនៃ ICC-អង្គរ។ សម័យប្រជុំលើកដំបូងរបស់ ICC-ព្រះវិហារ ត្រូវបានចាត់ទុកថាជាជោគជ័យដ៏ធំធេងជាប្រវត្តិសាស្ត្រ ហើយតំបន់ប្រាសាទព្រះវិហារ ដែលពីមុនធ្លាប់ជាតំបន់ទំនាស់យោធា និងការទូត បច្ចុប្បន្នត្រូវបានប្រែក្លាយជាតំបន់មានសន្តិភាព និងសហប្រតិបត្តិការពេញលេញ។ បច្ចុប្បន្ន គម្រោងជួសជុលនិងអភិរក្សប្រាសាទមួយចំនួនកំពុងរៀបចំដំណើរការអនុវត្ត។ នេះគឺជាជោគជ័យដ៏ធំធេងថ្មីមួយទៀតសម្រាប់បេតិកភណ្ឌវប្បធម៌បន្ថែមលើសមិទ្ធផលជាច្រើននៅក្នុងក្របខ័ណ្ឌនៃ ICC-អង្គរ។

ទន្ទឹមនឹងសមិទ្ធផលជាច្រើននៅក្នុងការការពារ និងអភិរក្សបេតិកភណ្ឌ ដែលយើងខិតខំសម្រេចបាននាពេលកន្លងមក ក៏នៅមានបញ្ហាប្រឈមមួយចំនួនដែរ ដោយហេតុថាការថែរក្សាការពារ និងការអភិវឌ្ឍបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ គឺជាកិច្ចការគ្មានទីបញ្ចប់ ប្រកប

ដោយវិសាលភាពធំធេង ដែលត្រូវការនូវធនធានមនុស្សប្រកបដោយចំណេះដឹងនិង
ជំនាញពិតប្រាកដ និងថវិកាសមស្រប។ ជាងនេះទៅទៀត វាទាមទារនូវការខិតខំប្រឹង
ប្រែងជាប់ជាប្រចាំពីក្រសួង ស្ថាប័នពាក់ព័ន្ធ និងការចូលរួមយ៉ាងសកម្មពីសំណាក់ដៃគូ
អភិវឌ្ឍជាតិនិងអន្តរជាតិ វិស័យឯកជន និងប្រជាជនទាំងអស់។ ក្នុងន័យនេះ ក្នុងនាមរាជ
រដ្ឋាភិបាលកម្ពុជា ខ្ញុំសូមអំណរនាវដល់ប្រទេសជាមិត្ត ដៃគូអភិវឌ្ឍជាតិនិងអន្តរជាតិ សូម
បន្តជួយគាំទ្រដល់កិច្ចខិតខំប្រឹងប្រែងទាំងនេះ ទាំងបច្ចេកទេស ហិរញ្ញវត្ថុ និងធនធាន
មនុស្ស ហើយក្រសួង ស្ថាប័នពាក់ព័ន្ធ ព្រមទាំងប្រជាពលរដ្ឋទាំងអស់ ត្រូវចូលរួមសហការ
គ្នាឱ្យបានល្អ ទៅតាមភារកិច្ចរៀងៗខ្លួន ក្នុងរបេសកកម្មដ៏ឧត្តុង្គឧត្តមដើម្បីថែរក្សា ការពារ
និងអភិរក្សបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌របស់មនុស្សជាតិ ពោលគឺ ដើម្បីយើងទាំងអស់គ្នា។

មុននឹងបញ្ចប់ ខ្ញុំសូមយកឱកាសនេះដើម្បីសម្តែងនូវអំណរគុណជាថ្មីម្តងទៀតដល់
ប្រទេសជប៉ុន ព្រមទាំងបណ្តាប្រទេសជាមិត្ត អ្នកជំនាញជាតិនិងអន្តរជាតិ ក្រសួង ស្ថាប័ន
និងប្រជាពលរដ្ឋទាំងអស់ ដែលបានខិតខំរួមគ្នាដើម្បីរក្សាតម្លៃលេចធ្លោជាសាកលរបស់
មណ្ឌលវប្បធម៌អង្គរ ជាបេតិកភណ្ឌពិភពលោក ឱ្យបានស្ថិតស្ថេរគង់វង្ស។

ជាទីបញ្ចប់ ខ្ញុំសូមជូនពរឯកឧត្តម លោកជំទាវ អស់លោក លោកស្រី ភ្ញៀវភិក្ខិយស
ជាតិនិងអន្តរជាតិ បងប្អូនប្រជាពលរដ្ឋ និងក្មួយៗសិស្សានុសិស្សទាំងអស់ សូមមាន
សុខភាពល្អ ទទួលបានជោគជ័យលើគ្រប់ភារកិច្ច និងមានសុភមង្គលក្នុងគ្រួសារ។

ខ្ញុំសូមប្រកាសបើកការដ្ឋានជួសជុលស្ថានហាលនៃប្រាសាទអង្គរវត្ត ចាប់ពីពេល
នេះតទៅ។

សូមអរគុណ!

アジア人材養成研究センター創立20周年記念 国際シンポジウム

International Symposium Commemorating the 20th Anniversary of Sophia Asia Center
for Research and Human Development

**សន្និសីទអន្តរជាតិនៃការរំលឹកខួបលើកទី២០
របស់មជ្ឈមណ្ឌលនៃស៊ីស៊ីភ្នំស្រីសុវត្ថិ
និងមជ្ឈមណ្ឌលមនោរម្យស្រីសុវត្ថិសាកលវិទ្យាស្ថានស៊ីស៊ី**

上智大学アジア人材養成研究センター創立20周年記念 国際シンポジウム

「ボロブドゥールからアンコール・ワットへ —人材養成による文化復興—」

アジア人材養成研究センターが、カンボジア現地に開設されて20年になります。センターは、「カンボジア人によるアンコール・ワット修復」ができるよう現地において人材養成の手伝いを続けてきました。そして、カンボジア平和（1993年）が実現し、同年カンボジア王国政府から要請があり、本学とカンボジア王国政府アンコール地域遺跡整備機構（アプサラ機構）が共同でアンコール・ワット西参道修復工事（第1期）にとりかかりました。この修復工事はカンボジア王国の文化復興を先導する契機となり、それが平和構築につながる意義深い修復活動でした。

インドネシアのボロブドゥールは、1973年から10年間をかけて修復が完成しました。アジアで初めての石造伽藍の修復でした。ボロブドゥールではインドネシア人担当者が現場で研修を受けながら修復を行いました。

お国事情とはいいいながら、インドネシアの独立は1945年、カンボジアは政治的混乱と内戦が1993年まで続きました。遅れてアンコール・ワットの修復が始まりました。こうした遺跡の修復事業は学術を振興し、地域社会の発展や観光産業につながる波及効果もあります。

今回の国際シンポジウムは、ボロブドゥール遺跡の修復に参画されたマウラナ・イブラヒム先生をお招きし、修復後約35年を経た現在の遺跡保存とその維持活動についてご高見を伺うも



のです。三輪悟研究員からは、カンボジア王国アプサラ機構との共同工事の修復計画について発表いただきます。パネル・ディスカッションでは建築構造力学の平山善吉先生、アンコール・ワット西参道の考古学調査を実施してこられた丸井雅子先生、そして西参道修復工事の三輪悟研究員、また、かねてから西参道修復に参画してきたカンボジア人 Dr. ニム・ソテイーヴン研究員には、カンボジア人の立場から意見を伺います。

○日 時： 2016年10月22日（土）13時30分～16時30分

○会 場： 上智大学2号館4階 2-401室

○プログラム

13：30～13：35（5分）

挨拶

上智学院理事長、イエズス会高等教育担当理事、上智大学教授 高祖敏明

13：35～13：50（15分）

アジアの現場に出かけて20年—上智大学の国際協力—

上智大学アジア人材養成研究センター所長 石澤良昭

13：50～14：35（45分）

基調講演①

「ボロブドゥール修復はインドネシア人の手で（1975-1983）」

マウラナ・アブドゥラヒム・イブラヒム（Maulana Abdulrahim Ibrahim）氏

インドネシア教育文化省文化総局 元上級技官（ボロブドゥール保存官）

14：45～15：30（45分）

基調講演②

「アンコール・ワット西参道修復工事（第2期）の人材養成について」

上智大学アジア人材養成研究センター研究員 三輪 悟

15：30～16：30（60分）

パネル・ディスカッション

平山善吉（アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会委員長、

日本大学名誉教授／建築構造力学）

丸井雅子（上智大学総合グローバル学部教授／アジア考古学）

三輪 悟（上智大学アジア人材養成研究センター研究員／アンコール建築学）

ニム・ソテイーヴン（Nhim Sotheavin、上智大学アジア人材養成研究センター研究員／カンボジア中世史）

司会：石澤良昭

開会挨拶

上智学院理事長
高祖敏明

上智学院理事長の高祖敏明でございます。

本日は、上智大学アジア人材養成研究センターの創立 20 周年を記念した、国際シンポジウム「ポロブドゥールからアンコール・ワットへ—人材養成による文化復興」の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、アジア人材養成研究センターの創立 20 周年おめでとうございます。また、本日、ご来場の皆さまには、石澤良昭先生が推進するアジア人材養成研究センターの活動に対して、日頃よりご理解と暖かなご支援をお寄せくださっていることに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

そして、本日、シンポジウムのために昨日インドネシアから来日くださったマウラナ・アブドゥラヒム・イブラヒムさんには心から感謝申し上げます。後ほど、ポロブドゥール遺跡の専門家として基調講演をしていただきます。

Welcome to Sophia University, Mr. Maulana !

実は、去る 9 月 29 日、上智大学の構内に、ハラルフード専門の食堂「東京ハラルデリ&カフェ」がオープンしたところです。本学ではインドネシアからの留学生を中心に約 50 人のイスラム教徒の学生が学んでいます。イスラム教の戒律に沿って調理された料理を安心して、低価格で食べてもらいたいと開設しました。マウラナさんにも早速お試しいただいたと聞いています。どうぞ皆さんもお立ち寄りください。場所はこのキャンパス内でホフマン・ホールという建物の 4 階です。本日 6 時まで営業しています。

さて、本シンポジウムでは、日本大学名誉教授で、アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会委員長として格別のご尽力をいただいております、平山善吉先生にご出席いただいております。平山先生には大変お忙しいなか、ありがとうございます。

また、カンボジアのシェムリアップのアジア人材養成研究センター本部の研究員、三輪悟さん、上智大学総合グローバル学部教授の丸井雅子先生、そして、石澤先生のもとで博士号を取得した、新進気鋭のカンボジア人研究者、ニム・ソテーヴン先生にも参加いただきます。

こうした先生方にご出席いただき、創立 20 周年を祝い、そして 4 年～5 年をかけてのアンコール・ワット西参道修復工事の完成と創立 25 周年を目指して、この国際シンポジウムはまさに出発点となります。どうぞ、皆さまの温かいご支援とご鞭撻をいただきたく存じます。

Let us begin working together. Working hard is very important, but Working smart, more important.

以上、実り多いシンポジウムとなりますように祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

THE RESTORATION OF CANDI BOROBUDUR

(1973 – 1983)

Maulana Abdulrahim Ibrahim

I

Candi Borobudur is one of hundreds of monuments that mark the great traditional of building religions edifices in Indonesia. These splendid architectural achievements were erected at a variety of locations, not only in the open plains and valleys but also on the slopes and even at the Summits Mountains.

Candi Borobudur is constructed on a hill that rise some 15 meters from the surrounding plain. The top of the hill was leveled to form a plateau. The main part of this was designated as the site of monument.

The erection of a candi on top of a hill is common feature, but to build it around the top of hill. Using it as core of the structure and wrapping it totally in the construction is a technique thus far only found at Borobudur.

The builders of candi Borobudur apparently realized the need for a drainage system to cope with heavy rains. Spouts were provided at tiled corners of the mounting stages to drain off the rainwater from galleries, all the 100 spouts are beautifully carved in shape of makara or gargoyles.

We do not know exactly when candi Borobudur was built. There are not records to inform us which king had the monument built or which architect is was who created this wonder. Nor are there any documents to reveal what technique were applied to carry out such a grand design. Not the slight test idea can be gained as to how much time and how much labor were needed for the construction of this gigantic work.

Based on some bits of archaeological evidence with fragmentary historical data, it is generally assumed that construction can be dated to a round the year AD 800, at the time when Central Java was ruled by the kings of the Shailendra dynasty.

II

Comparison of the condition of the reliefs in stone and photographs taken about 1910 finally led to the conclusion that the greater part of the damage could not possibly be caused by vandalism. Neither could it be due to erosion by water, the growth of mosses or to vertical load pressure. The main cause proved to be the fact that the stone were being continuously subjected to rapid changes of temperature, the considerable heat during the day being immediately followed by cold during the night, with extreme heat during sunshine and considerable cold during rainy period.

In 1960 the first preparations were undertaken for programme to eliminate both the physico-chemical and the techno-architectural dangers that threatened candi Borobudur. The planners were mindful of the fact that van Erp's restoration – in spite of its technical merits and praiseworthy execution – was guaranteed to last only few decades. In fact, it was more or less a palliative, patchwork restoration that left the fundamental cause of deterioration only half settle by improving the water discharge system.

Such a total restoration would mean that the entire monument had to be altogether dismantled. The obvious consequence would be that candi Borobudur should be closed to visitors for considerable period, at least during the execution of the restoration. It was therefore of the greatest importance to find way to speed up the restoration work in order to save as much time as possible. The application of modern equipment such as electric cranes, and motorized means of transportation was taken into consideration.

III

Preparation before physical restoration, take about two and a half years of work (mid 1963 to the end of 1966) the essential measures for preparatory stage of the restoration programme were taken consisting of the following items.

- Measuring and drawing of galleries
- Measuring and drawing of the deviating part of structure
- Photographing of walls and their reliefs
- Investigation of foundation of the monument
- etc

The appeal to UNESCO was supported by the twenty-seventh international congress of Orientalists, which was held in United State in August 1967, and which inter alia adopted a resolution urging UNESCO to help save Borobudur. Until January 1973 that the contracting agreement between the Republic of Indonesia and UNESCO was signed, indicating the real beginning of the restoration of candi Borobudur with international aid.

A candi is usually constructed on a flat surface, and the foundations are also laid out flat. Even when the location is sloping, part of the site is dug out in order to obtain the required flat court yard.

In contrast to the normal pattern, candi Borobudur was built on and around the top of a hill. Moreover, it was not erected directly on the natural soil of the hill but on layers of earthen fill. This additional soil was apparently needed to enlarge the site, horizontally as well as vertically, to make it suitable for the monument that was designed to rise step – wise while diminishing in size with height.

When in 1968 UNESCO decide to take part activity in Borobudur Restoration project, the studies of the engineering designs were resumed in close cooperation with the experts of UNESCO missions. In meantime, the Netherlands government provided UNESCO with funds for the engineering consultants NEDECO (Netherland Engineering Consultant) to prepare an overall restoration plan, comprising an engineering design, a detailed work plan and financial analysis.

NEDECO plan, made slabs concrete under the four stages. The slabs to be constructed in such a way the outer end supported the balustrade and the inner end reached the surface of the hill inside the monument. The thickness of the first and second slabs (counting from the bottom upward) was 0.66 meters, and the third and fourth 0.44 meters.

The concrete slabs, to be laid in unbroken layer under the four gallery walls, we designed:

- to strengthen the foundation while distributing the load on the subsoil evenly
- to collect and disperse run off water on the floors of the upper structure and galleries
- to prevent the penetration of shallow percolation water
- to distribute lateral seismic forces uniformly throughout the structure.

IV

The restoration project was be divided into three major parts:

- The archaeological work was concerned with the handling of the temple stones, starting with the very first action of dismantling and ending with the return of the cleaned and chemically treated stones to their original places in the monuments.
- The civil engineering work entailed the installation of the reinforced concrete slabs under the gallery floors, including the establishment of the different kinds of filter and watertight layers
- The ancillary works had to provide the project with all means and facilities so that the gigantic under taking could be executed in the best way possible, e.q the preparation of the working areas, the construction of inner roads, the provision of equipment for transporting the stones and building material. Once these three kinds of activities had started, they proceeded simultaneously.

The dismantling work was to be carried out on two sides of the monument at the sometime, starting from the axes side way and from top downwards. The most crucial part, the northern side, would be dealt with first, followed a few weeks later by southern side. This work was scheduled to be completed within not more than three years, but the rebuilding would not that long.

The stone be detached were provided with identification marks and registered on cards. One by one they were hoisted manually, and collected in wooden pallets, which each had nine compartments. A single pallet could carry nine stones, and the tower crane would bring it down to the upper working area. The gantry crane then took over to transport the pallet down to lower working area, where a forklift truck was waiting to transport it to the buffer storage.

From the buffer storage the stones still had a long way to go. After manual cleaning, they passed to another department for chemical treatment. Broken or damaged stones were brought to special shed for repairing, before being treated chemically. The next step was the drying chamber, where the stones were dried artificially. Only then were the stones put in final storage waiting for moment when they could be returned to the monument. The first stone detached from the monument would be the last to reoccupy its original place, after three years.

Water the main source of destructive processes close observations and intensive studies made it clear that candi Borobudur was endangered by a twofold destructive process. Techno structural

deformations of the building components and the physicochemical deterioration building material.

The primary source of both kind of danger turned out to be water. It was water that had disturbed the bearing capacity of the subsoil and hence caused the subsidence and leaning of walls and tilting of the floors, it was water that made possible the growth of mosses, lichens, algae and other micro-organisms.

The deep procolation water saturated the subsoil, causing an inner case in its volume and a decrease in its bearing capacity. Simultaneously, fine particle, of soil were translocate. The particles, saturated with soil salt and minerals, seeped through the seams and pores of the stones and were finally deposited on the surface of carved outer stones when the carrying water evaporated.

A great number of borings into the core of candi Borobudur were carried out to provide the necessary information concerning the soil supports the monument. The samples were taken at different places and different depths, not only throughout the structure but also in the immediate surroundings of the monument.

Rain water affects the stones of the Borobudur monument in two ways. First, run off water causes erosion of stone surface. Trickling water increases the action of various organisms, and general leaches away the coating together with the detached fragments of rock. Second, the water easily penetrates the porous rock. Transforming the hill underneath into a kind of water reservoir.

The very porous and quite permeable stones of the monument can easily be penetrated by air and water. Moreover, the building's location on top of a hill enhances the downward seepage of water in to the pores of its material. The loose joints between the stone assist this moisture penetration to a considerable extent. The obvious assumption therefore, is that a capillarization process has been taking place continually and that this activity is to be blamed as the principal weathering process.

Another natural force, however, should not be overlooked, earthquakes. Though thus far no damage can be ascribed explicitly to this source. The danger is there and cannot possibly be neglected if the restoration is meant to last into the most remote future. The success of this gigantic under taking should be secured not only from the destructive effect of water but also

from possible deformations or even ruin by an earthquake, not only during the present restoration project but also for the perpetuation of the restored monument. Consequently seismic studies have been carried out to support the planned work.

The first step in dismantling was marking of stones. In principle no outer stone was to be removed before its pallet and area number had indicated on top surface. The exceptions to this rule were of cause stones whose top surface would be visible and so could not be marked; in these cases the only option was for the markings to be placed on the underside.

The outer stones were then carefully loosened from their position and placed in the pallet. Removable scaffolding was used to assist in the work and where the stone was too heavy for two men to lift, a scaffold crane was available at each work point.

The dismantling began from the middle on all galleries and the plateau at both the north and south sides.

The dismantling of the north and south side took approximately two years and was followed by work on the east and west side.

The dismantled stone were brought to the workshops for cleaning and further treatment, which depended on type of stone and its function on monument. Outer stones, inner stones and element stones were stored separately.

Each relief stone was thoroughly cleaned, manually or chemically, through dry or wet cleaning. The replacement of the stone required the most accurate calculations since they had to be put back in the right position, it should be understood that these were not the original places that they had occupied before dismantling.

The rebuilding process itself changed the condition, and the position of stones had to be adjusted to the new circumstances. The formerly leaning and sagging walls had been reconstructed in an upright position and lifted up, previously tilting gallery floors had been leveled.

The rebuilding activity consisted of:

- Laying out of the lead sheets on base of the wall

- Reassembling the outer stones
- Reassembling the second stones (immediately behind the outer stone)
- The reconstruction of layer B
- Strengthening the inner stones between layer A and B

The rebuilding at the north side started in February 1976 and was finish in November 1978. In total no less than 35.164 outer stones and 85.680 inner stones had been put back in the reconstructed monument. At the south side the rebuilding started in February 1976 and was completed in August 1978, replacing a total of 35.901 outer stones and 94.504 inner stones.

The rebuilding of the west side was started in February 1979 and was completed in March 1983, involving 51019 outer stones, and 111.130 inner stones. The rebuilding of the east side was begun in March 1979 and was terminated in March 1982, involving 49.442 outer stones and 114.772 inner stones.

February 23, 1983 all the restoration work was completed, by the President Republic of Indonesia declared.



Candi Borobudur restoration project

1973 – 1983

Invention of Candi Borobudur

By "Thomas S. Raffles" 1814



Candi Borobudur condition before 1907



Candi Borobudur condition after cleaning (1854)



stupa condition before restoration
Theodore Van Erp
1907-1911



Stupa condition after cleaning

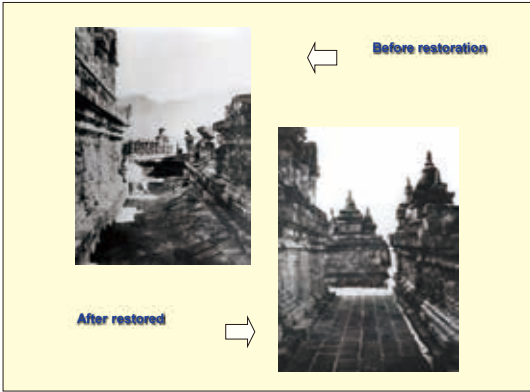
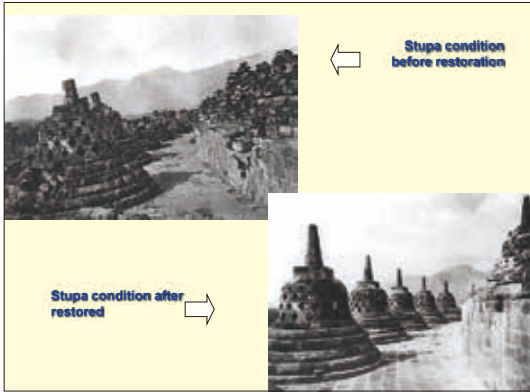
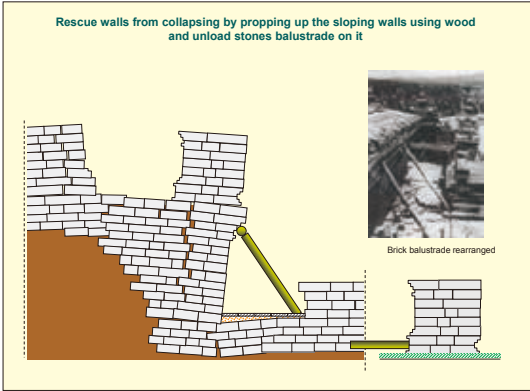
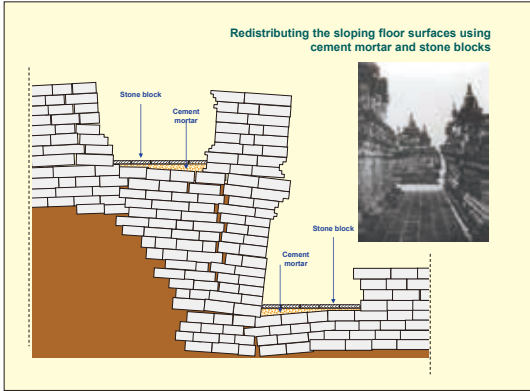
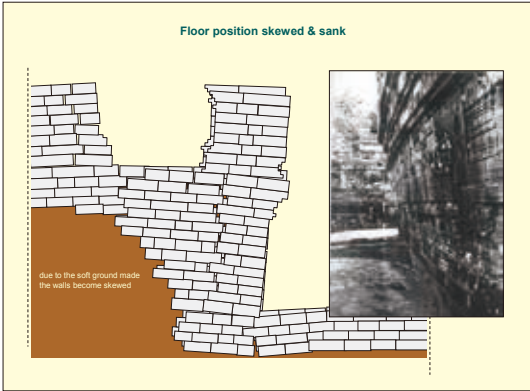
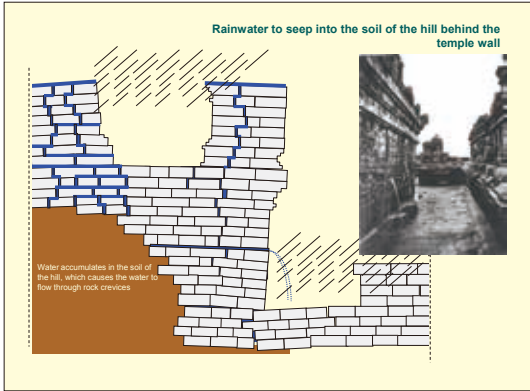
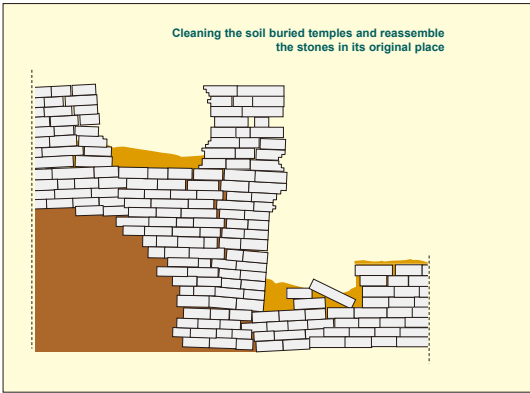


Stupa and terrace of Candi Borobudur before 1854

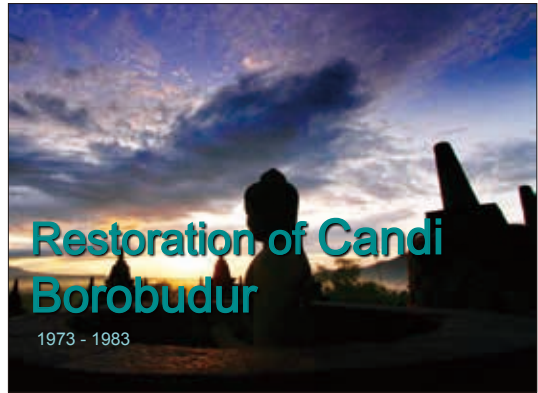


The origin of main center stupa (1854)

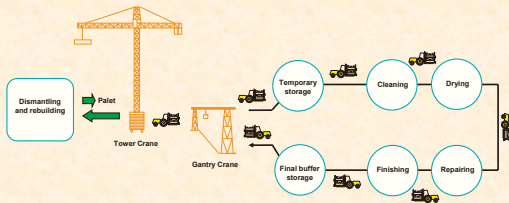




**Candi Borobudur
After restoration project
Theodore Van Erp tahun 1911**



Flow treatment of restoration and conservation stones



Flow treatment of restoration and conservation stones



Numbering and coding on stone block before dismantling



The code used in the numbering of stone

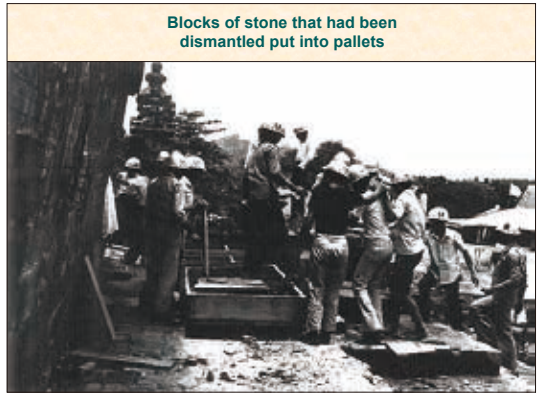
Number	:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
Symbol / Code	:		\	-	/	V	=	x	△	+	



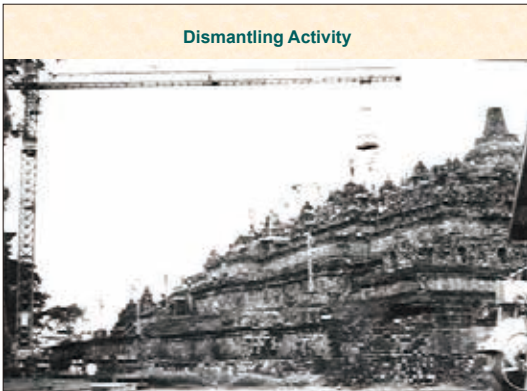
Dismantling of gallery floors are cemented with mortar



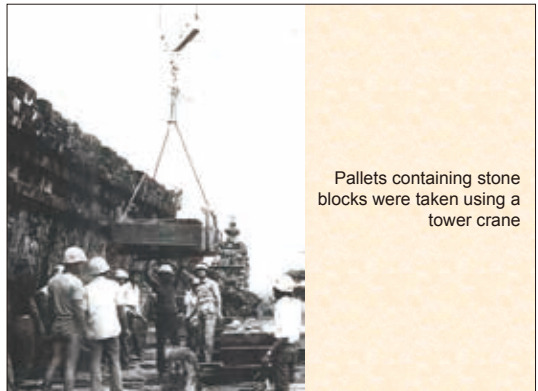
Dismantling of stone blocks



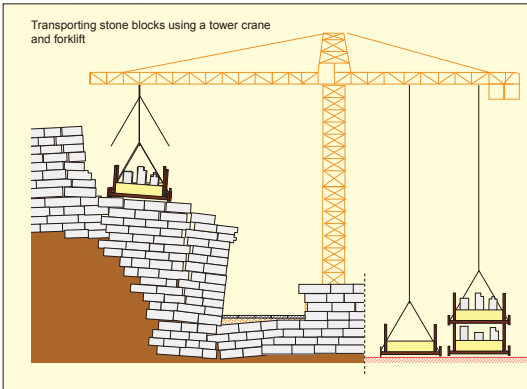
Blocks of stone that had been dismantled put into pallets



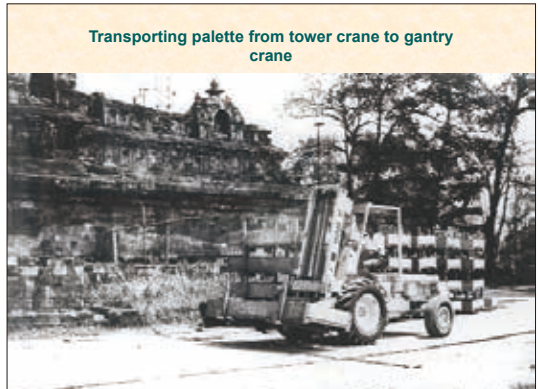
Dismantling Activity



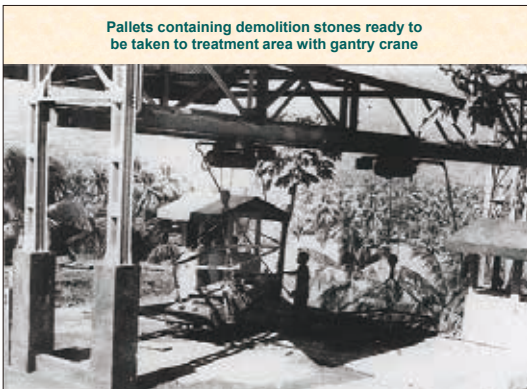
Pallets containing stone blocks were taken using a tower crane



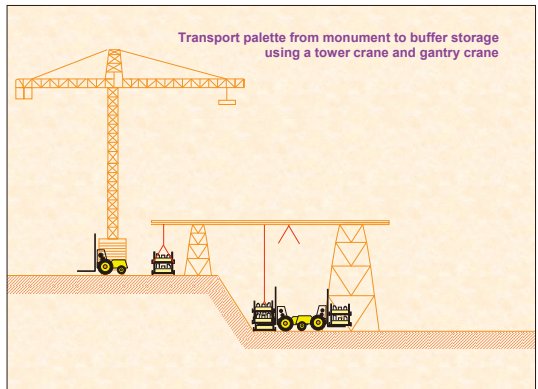
Transporting stone blocks using a tower crane and forklift



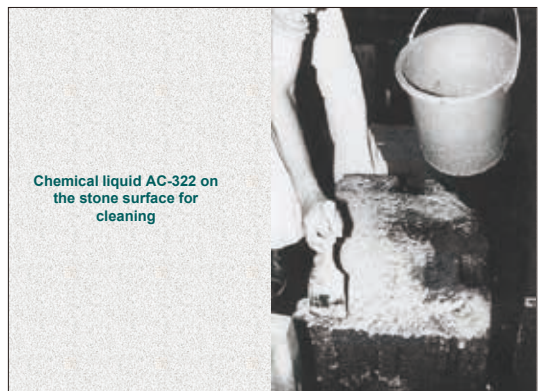
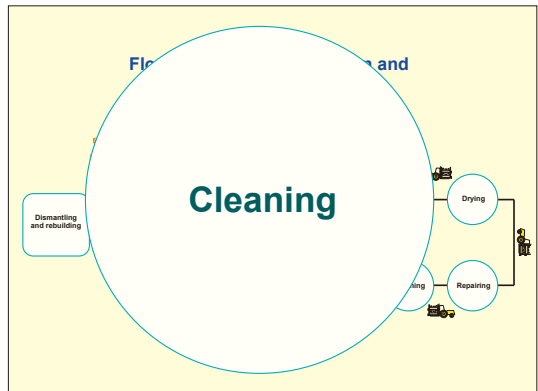
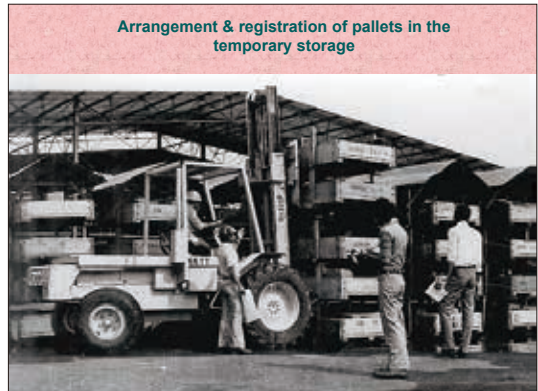
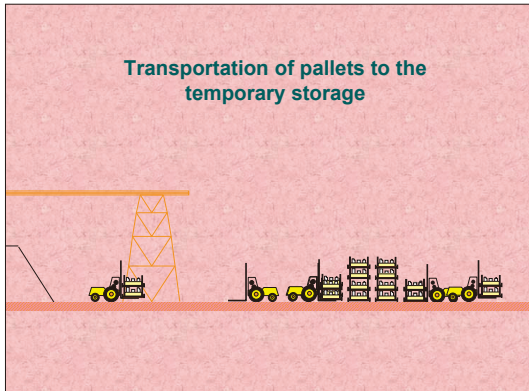
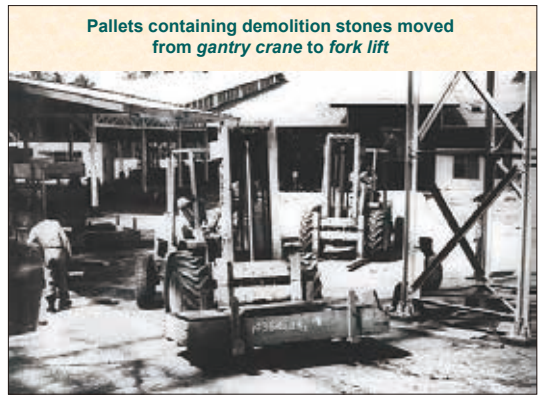
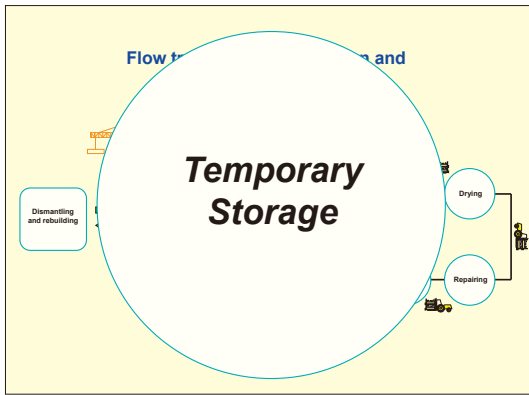
Transporting pallet from tower crane to gantry crane

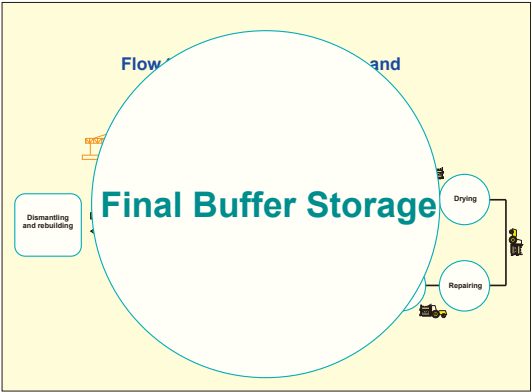
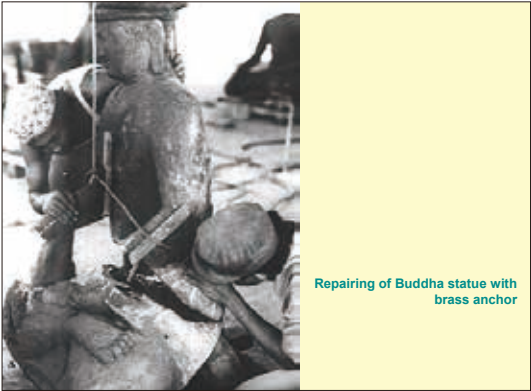
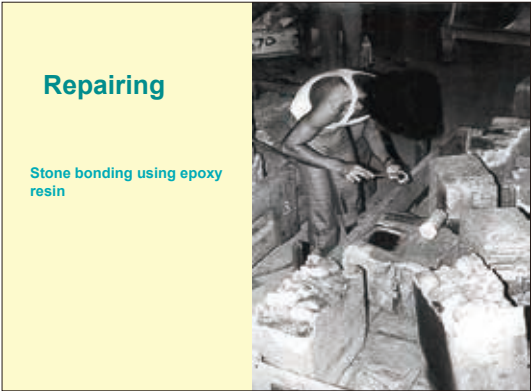
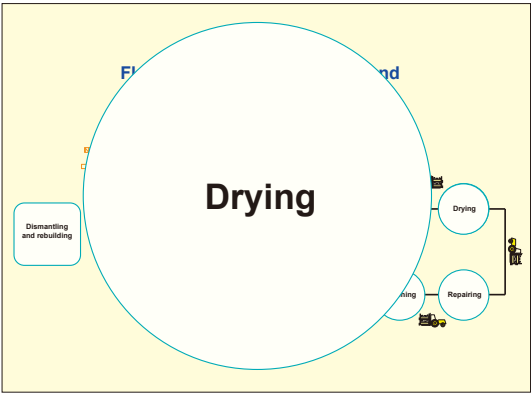
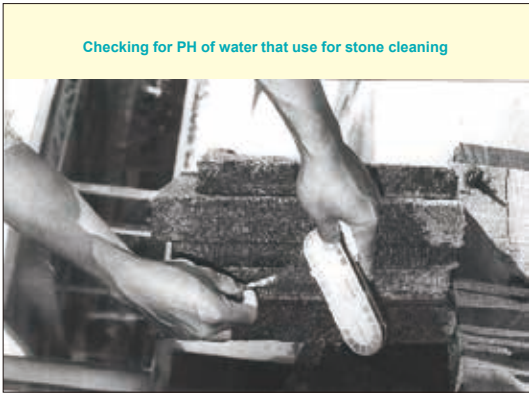


Pallets containing demolition stones ready to be taken to treatment area with gantry crane



Transport pallet from monument to buffer storage using a tower crane and gantry crane





Final Buffer Storage



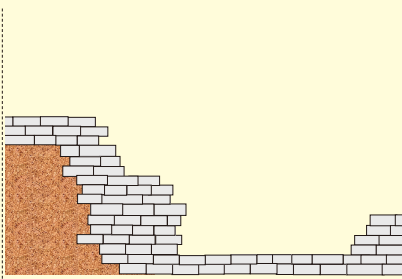
Dismantling and rebuilding

Dismantling and rebuilding

Drying

Repairing

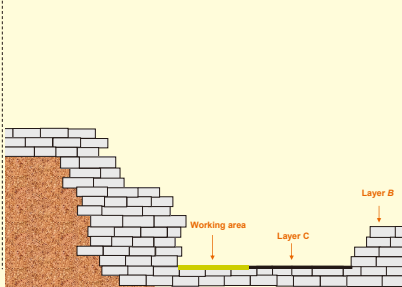
Example of stone were not dismantle



Preparation and setting up working area



Beginning of reconstruction



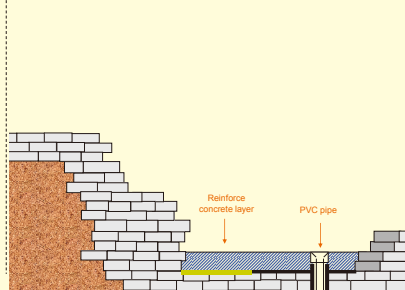
Reinforcement concrete foundation



Activity for reinforcement



Construction of concrete and drainage pipes



Waterproofing coating using araldite tar



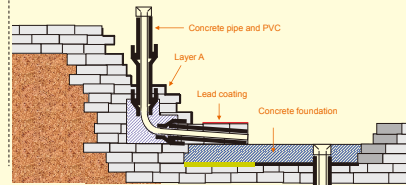
Concrete pipe construction



Construction lead coating



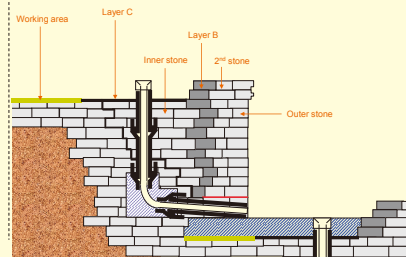
Construction of drainage system



Reassembling outer stone



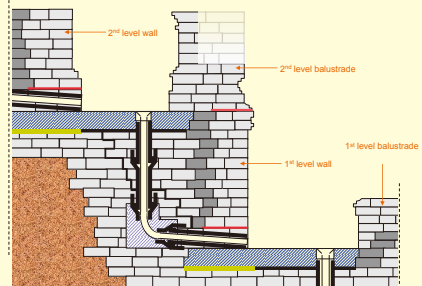
Reassembling inner stone, layer B, and outer stone



Basic conditions before being installed floor



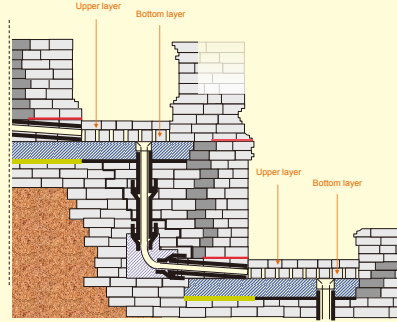
Reassembled wall stone and balustrade



floor construction which consists of two layers, the lower layer are spaced at intervals of 3-4 cm



Installation of new floor for gallery

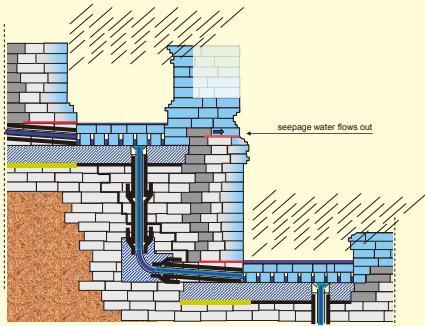


Gallery floor after repairing

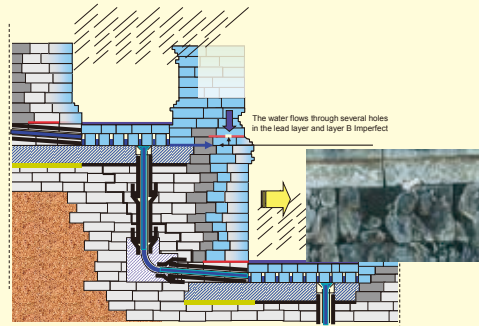
Monitoring After Restoration Candi BOROBUDUR



Drainage system with good condition



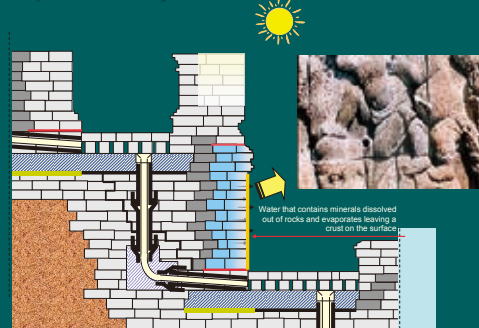
Drainage system function is not perfect



Repair by dismantling, water seepage balustrade on it and re-use superimposed Araldite tar



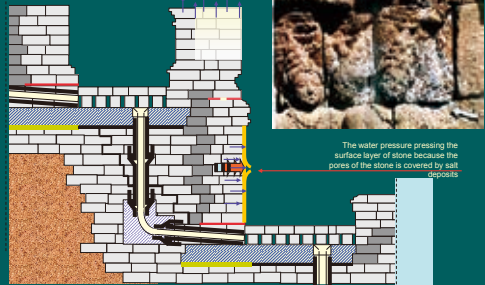
The process of salt deposits



Cleaning Salt Deposits



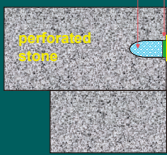
The process of peeling on the surface of the stone



The water pressure pressing the surface layer of stone because the pores of the stone is covered by salt deposits

The process of postules / alveole

The growth of microorganisms such as algae and Dust moss



Excretion of microorganisms that are liquid and gas causes the weathering of rock minerals

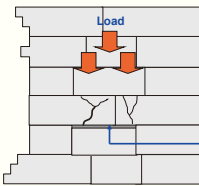


Patching Alveolar

The alveoli are directly cleaned using herbicides. Then alveole holes filled with mortar mix Epoxy Resin Euroland FK-20 + Sand



The process of cracks due to internal factors



Irregular stone structure surface



The process of cracks due to external factors



Development and shrinkage Mineral Stone



The Handling of Cracks
Epoxy Resin is injected directly into the cracks of stone

- Finished -



上智大学国際公開講座

「カンボジア人熟練石工の伝統技法」の発表

アンコール・ワット修復に取り組むカンボジア人石工が石積み技術を公開

Public Presentation at Sophia University:
Traditional Technique of Cambodian Stonemason Skill

បទបង្ហាញជំនាញសាស្ត្រសិល្បៈស្រាវជ្រាវវិទ្យាស្ថានសូហ្វីយ៉ា :
បច្ចេកទេសបុរាណវិទ្យាស្រាវជ្រាវស្រាវជ្រាវ

三輪 悟
上智大学アジア人材養成研究センター研究員

本学が「カンボジア人による、カンボジアのための、アンコール・ワット遺跡保存修復」の理念を掲げ、1996年にカンボジア王国・シェムリアップ市に上智大学アジア人材養成研究センターを開設して20年を迎えた。開設以来、遺跡修復分野での活躍を目指すカンボジア人留学生の受入れと本学での学位取得の支援や、現地での実技指導などを通じ、カンボジア人石工および遺跡保存官などの人材育成に取り組んできた。

また、現在はアンコール・ワット遺跡を管理するアプサラ機構と共同で西参道の修復工事を推進している。

本講座では、アンコール・ワットから本物の石材（計5個、合計で約2t）が日本に初めて持ち込まれ、現地で遺跡修復に従事するカンボジア人石工が、実際に現場で修復工事を実施している石材摺り合わせ技法、石削り技法、石材移動を披露した。

また、基調講演とパネルディスカッションでは、アンコール・ワット西参道をテーマに2020年の完成を目指し進行中の工事状況を日本とカンボジアの専門家が解説した。

○日 時： 2017年3月17日（金）13：30～16：30

○会 場： 上智大学四谷キャンパス6号館（ソフィアタワー）101室および隣接公開敷地

○プログラム

第1部 13：35～14：30

開会挨拶

基調講演

「アプサラ機構の活動と上智大学との協力関係」

カンボジア王国政府アンコール地域遺跡整備機構（アプサラ機構）総裁 スム・マップ

「アンコール・ワット西参道の修復史～900年前の建設後、修復を繰り返して護られてきた史実を解明する～」

上智大学アジア人材養成研究センター研究員 三輪 悟

第2部 14:40～15:40

パネルディスカッション

テーマ：「アンコール・ワットの工事現場から」

平山善吉氏（アンコール・ワット西参道修復技術交流研修委員会委員長、
日本大学名誉教授）

石井幸弘氏（全国優良石材店の会副会長）

ハウ・トイ氏（カンボジア・アプサラ機構石工棟梁・石材加工技能士）

司会：石澤良昭（上智大学アジア人材養成研究センター所長）

工事の安全を祈る奉納舞踊（カンボジア古典舞踊 アプサラダンス）

山中ひとみ、カンボジア舞踊グループ SAKARAK

第3部 15:50～16:30

石材加工技術の模範実演（カンボジア通訳および説明 三輪悟研究員）

カンボジア人石工3名および日本人石工指導者石井幸弘氏が、アンコール・ワット西参道修復現場で実際に行っている石加工技術を披露。



工事安全を祈る奉納舞踊とカンボジア人石工



採石場で石を切り出す作業の復元



下にコロを置き石を運搬する方法の復元



石同士を擦り合わせる作業の復元（バイヨンのレリーフにも見られる）

カンボジア王立芸術大学 学生の遺跡現場における研修

On-site Training Program for the Students of the Royal University of Fine Arts

កម្មវិធីហ្វឹកហ្វឺនលិស្សឹក នៃសាកលវិទ្យាល័យវិទ្យាស្ថានវិស្ស័យសិល្បៈ

丸井雅子

上智大学総合グローバル学部教授

三輪 悟

上智大学アジア人材養成研究センター特任助教

アンコール遺跡におけるカンボジア人学生の実習と専門講義

(2018年度夏季) カンボジア人材養成プログラム

上智大学アジア人材養成研究センターは、真如苑からの支援を受け、王立プノンペン芸術大学 (RUFA) の建築学部学生 6 名、考古学部の学生 4 名、合計 10 名の学生がアンコール遺跡に集まり、現場実習および専門分野講義を受け、将来アンコール遺跡を護る遺跡保存官として任官することを期待するものである。カンボジア王国政府アンコール地域遺跡整備機構 (APSARA Authority = アプサラ) と文化芸術省・王立芸術大学の協力を得て遺跡調査および保存修復の実地研修を実施した。

■ 研修拠点会場 (建築学系と考古学系ともに)

上智大学アジア人材養成研究センター (カンボジア王国シェムリアップ市内) (以下上智センター)

A. 専門講義

「アンコール・ワットからのメッセージ」 石澤良昭 教授

特別講義

「世界文化遺産アンコール・ワット—遺跡・美術・衣食住」 石澤良昭 教授

B. 建築学・保存科学・修復工事分野系の研修

調査・研修期間：2018 年 7 月 31 日～8 月 21 日 (22 日間)

調査研修場所：アンコール・ワット西参道およびアンコール遺跡群

(1) 現場研修の目的

アンコール・ワット西参道の破損・地盤沈下・石材の劣化の現状調査を実施した。2016年に起工式を行った西参道の第2工区と第3工区の修復を前提とする試験施工であった。西参道の修復を前提に敷石面のレベルの測定および擁壁の調査を定期的に行っている。本年は、今年新たに設定したベンチマークを利用して、光波測定器を用いて擁壁の挙動を調べるモニタリングを実施した。アンコール・トムの城壁修復の現場において、修復前後の遺跡の実測調査を行い、オートレベルの使用法や実測の基礎を学んだ。遺跡の保守管理の基本的技術を学び、若き遺跡保存官の養成を目的としている。

- ① CADによる保存修復施工計画図面作成のための訓練
- ② 石材劣化検分と伝統的修復方法論を踏襲するための現場実践研修と訓練
- ③ 修復施工現場の補助員としての実習およびデータベース化作業を通じ修復方法論の取りまとめに向けての実習

(2) 現場研修担当者および参加研修生名

日本側指導者および担当者

総括責任者	石澤良昭	上智大学教授、アジア人材養成研究センター所長
研修担当責任者	三輪 悟	上智大学アジア人材養成研究センター研究員、建築学、 シェムリアップ駐在建築学担当者、責任者
研修担当者	Lao Kim Leang 博士	上智大学アジア人材養成研究センター研究員、建築学、 シェムリアップ駐在建築学担当者

カンボジア側研修担当者および担当協力者

学生研修担当者	Kong Kosal	RUFA 建築学部長
学生研修担当者	Ros Borath 博士	アプサラ副総裁、建築学
学生研修担当者	Ly Vanna 博士	アプサラ機構 遺跡保存管理局局長
学生研修担当者	Mao Sokny	アプサラ機構 遺跡保存管理局建築学専門家
学生研修担当者	An Sopheap	アプサラ機構 遺跡保存管理局考古学専門家
学生研修担当者	Chhun Sambor	アプサラ機構 遺跡保存管理局考古学専門家
学生研修担当者	Ourn Sinang	アプサラ機構 遺跡保存管理局考古学専門家
学生研修担当者	Soy Channorith	アプサラ機構 遺跡保存管理局建築学専門家
学生研修担当者	Chhean Ratha 博士	アプサラ副局長、建築学
学生研修担当者	Sam Peou	歴史建築コンサルタント、建築学
学生研修担当者	Hau Tuy	アプサラ石材技能者、岩石学

カンボジア人 RUFA 建築学部研修生
〈建築学部〉

Mr. Yim Chankhamraudom	(L5)
Mr. Lun Nora	(L4)
Mr. Vuthy Reach	(L4)



上智大センター職員と研修生



建築学部長講義：上智大センター
1F（8月20日）



建築学生研修風景：上智大センタ
ー2F（8月1日）



「追出アーチ」と「真性アーチ」
構造模型



建築学研修生 6名
（7月31日～8月21日 22日間）

Ms. Suong Vanmonita	(L4)	
Mr. Phor Phann	(L3)	
Ms. Doy Pechtina	(L3)	合計 6名

C. 考古・発掘出土品考察分野系の研修

調査・研修研期間：2018年8月12日（日）～28日（火）（17日間）

調査場所：アンコール遺跡群（バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、西参道等）、
コー・ケー遺跡

研修会場：アジア人材養成研究センター

考古学の研修および現場実習の広義の目的は、石造寺院建築に伴う建物基壇・周辺地区の発掘調査、および考古資料の整理と研究にかかわる実践的かつ高度な専門知識を身につける若手研究者を育成することにある。本現場研修は学部高学年を対象とする。考古学調査および研究の応用を研修すると同時に、近年の技術開発が目覚ましい最新のデジタル器材と技術によるデータの記録や解析方法等の修得を目指す。

2018年度は、以下により実施した。

(1) 研修目的

- ①考古学調査と研究のための技術と方法論を学ぶ、とくになぜ調査するのか
- ②カンボジアにおける文化遺産保護活動の実践の現状と課題を学ぶ
- ③古学調査および関連諸分野の調査・研究の動向と成果を学ぶ
- ④文化遺産教育（普及活動）

(2) 到達目標

- ①今回は、考古学調査のなかでもとくに出土遺物整理作業の基本を学び、資料化と記録化の方法を研修生が修得・実践できるようになることを目標とする。研修生が遺物カードを完成させるため、遺物の実測、拓本、写真撮影、遺物所見執筆という一連の諸作業に取り組むことができるようになる。
- ②集中講義を聴講し、学界の動向を理解し、調査および研究の方法論を理解する。また、実際の事業現場を見学し、現場における実践の実情を理解できるようになる。
- ③大学での学びを社会へ還元することの意味を理解し、かつ実践することの意義を考えるようになる。

(3) 現場研修担当者および参加研修生名

日本側指導者および担当者

総括責任者	石澤良昭	上智大学教授・アジア人材養成研究センター所長
研修担当責任者	丸井雅子	上智大学教授
研修担当者	Lao Kim Leang 博士	上智大学アジア人材養成研究センター研究員
研修担当者	宮本康治	大阪市教育委員会事務局・主任学芸員
研修担当者	三輪 悟	上智大学アジア人材養成研究センター研究員



アンコール・ワット西参道修復現場見学
(8月13日)



集中講義：Mao Sokny 氏（8月14日）



Sovannara 氏指導による遺物実測研修
(8月16日)



考古学研修最終日、修了証授与後の記念
撮影（8月28日）

カンボジア側研修担当者および担当協力者

研修担当者	Kong Kosal	RUFA 建築学部長
研修担当者	Preap Chanmara	RUFA 考古学部副学部長
研修担当者	Ly Vanna 博士	アプサラ機構 遺跡保存管理局局長
研修担当者	An Sopheap	アプサラ機構 遺跡保存管理局考古学専門家
研修担当者	Chhun Sambor	アプサラ機構 遺跡保存管理局考古学専門家
研修担当者	Ourn Sinang	アプサラ機構 遺跡保存管理局考古学専門家
研修担当者	Soy Channorith	アプサラ機構 遺跡保存管理局建築学専門家
研修担当者	Mao Sokny	アプサラ機構 遺跡保存管理局建築学専門家
研修担当者	Chea Socheat	プノンペン国立博物館
研修担当者	Phin Phakdey	ブレア・ヴィヒア遺跡機構
研修担当者	Sok Keo Sovannara	奈良文化財研究所シエムレアプオフィス
研修担当者	Heng Than	サンポー・プレイ・クック機構
研修担当者	Choeun Vuthy	上智大学アジア人材養成研究センター研究員

カンボジア人研修生

Mr. Thach Phanith (2017年卒業生で、現在シエムリアップの遺跡現場にて EFEO 調査等の補助)
(考古学部)

Ms. Phuy Meychean	(3年)	
Mr. Neang Sovandara	(3年)	
Mr. Leak Siphanna	(3年)	合計4名

D. 研修および専門講義のカリキュラム (建築学系および考古学系)

1. 遺跡の保存論
2. データベースとインベントリー作成方法論
3. 考古・建築調査手法の事例研究 (計画立案)
4. 発掘技法研究と出土品の考察
5. 伝統的修復方法論研究・砂岩用材の可能性と限界性
6. 発掘実習と層位研究の実践野帖
7. 寺院立地論と勧進事業検証研究
8. 出土品の整理方法と用途論
9. コンピュータによる計測台帳作成
10. 出土品のインベントリー作成方法論の実践記録
11. 修復設計図作成の方法論
12. CAD による図面作成研究
13. 収蔵品の展示方法の研究とキャプション問題
14. 地元社会への還元研究 (Heritage Education)

15. 保存・修復施行計画立案と方法論
16. 考古発掘プロジェクト構築方法論
17. 文化遺産展示・公開方法マネジメント
18. 材料別文化財保護研究および文化財方法
19. 修復と機材保守管理研究およびメンテナンス方法論
20. 地域立脚博物館研究および地域貢献論
21. カンボジア文化財保護法研究
22. アンコール遺跡保護ゾーニング論
23. 歴史空間研究と寺院内空間構成研究
24. 観光問題と遺跡保存問題研究

以下は 2018 年夏季専門研究特別講義の担当者および専門講義名である。

集中講義が全部で 14 回。

* 8/14 午前（宮本、Vuthy）、8/16 午前・午後、8/23 は考古学生のみ。他は考古、建築合同。

8 月 13 日（月）（於上智センター）

- ① 「世界遺産サンボア・プレイ・クックの保護整備事業」

Heng Than (Sambor Prei Kuk Authority)

- ② 「クメール美術史」

Chea Socheat (Curator National Museum of Phnom Penh)

8 月 14 日（火）（③④於バンテアイ・クデイ、ロ・ハール村、⑤⑥於上智センター）

- ③ 「バンテアイ・クデイ前柱殿周辺の考古調査成果」

宮本康治（大阪市教育委員会事務局）

- ④ 「バンテアイ・クデイ調査史とロ・ハール村」

Chouen Vuthy（アジア人材養成研究センター）

- ⑤ 「アンコール遺跡の修復事業」

Mao Sokny (APSARA Authority)

- ⑥ 「アンコール史概説」

Ly Vanna (APSARA Authority)

8 月 15 日（水）

- ⑦ 「アンコール・ワット西参道の修復事業と考古学調査」

An Sopheap (APSARA Authority)

8 月 16 日（木）（於上智センター）

- ⑧ 「クメール陶器特講：概説と研究史」

Sok Keo Sovannara

- ⑨ 陶器実測実習指導

Sok Keo Sovannara

8 月 17 日（金）（於アンコール・トム）

- ⑩ 「アンコール・トム外周壁の修復」

Mao Sokny (APSARA Authority)

8 月 18 日（土）（於上智センター）

- ⑪ 「コー・ケー遺跡の考古学と保全事業」

Phin Phakdey (Preah Vihear Authority)

8 月 20 日（月）（於上智センター）

- ⑫ 「エンジニアリングと人：人が関係性を作る空間を考えるために」

Kong Kosal (芸大建築学部長)

- ⑬ 「現代カンボジアに生きる伝統美と造形」

Preap Chanmara (芸大考古学部副学部長)

8月23日(木)(於コー・ケー遺跡)

⑭「コー・ケー遺跡の保存活動」

Phin Phakdey (Preah Vihear Authority)

E. 研修の成果および評価について

今年度の建築学系実習は、アンコール・ワット寺院西参道においては光波測定器を用いて壁の挙動を調べるモニタリング、アンコール・トムにおいては城壁の実測調査を行った。考古学系実習は、主として遺物整理作業に必要とされる遺物実測、拓本、写真撮影等の技術を修得し、遺物カードを作成、最終報告書(レポート)としてまとめた。

1. 建築学系研修成果

①実測調査研修

文化財建造物の実測に際し、アンコール・トム城壁という具体的事例をとおして実測方法を学んだ。

②測量機器の使用方法研修

オートレベルや光波測定器の使用方法について学んだ。

③フランス極東学院の歴史資料の解析

写真や図面資料を解析して、当時の遺跡の状況を知る方法を学んだ。

④CAD図面の作成

実測調査後の図面のCAD化の手法を学んだ。

⑤レクチャー

各種レクチャーを受け、総合的に遺跡やその保存を学んだ。

⑥報告書の作成

現地研修での見聞を報告書の形にして残すことを学んだ。

⑦文化遺産教育

カンボジア人中学生を遺跡案内し、専門的見地より遺跡を見て文化遺産を学んだ。

⑧日本とカンボジアの異文化交流

日本の高校生や大学生と互いの文化を紹介し合い、異文化交流を推進した。

2. 考古学系研修成果

①出土遺物整理作業(応用)

遺物カード作成および基本情報に依拠した調査および研究課題の発見につながる研修を実施することができた。成果としてたんなる研修実施報告書ではなく、課題を自ら見つけそれに対して調査および考察する研究報告書を仕上げることもできた。

②文化遺産修復事業の経過と考古学調査(専門家による講義)

③文化遺産教育

以上

文化遺産教育プログラム

アンコール文化遺産教育と普及活動

Cultural Heritage Education for Communities

កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌
អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌សម្រាប់សហគមន៍

丸井雅子

上智大学総合グローバル学部教授

三輪 悟

上智大学アジア人材養成研究センター特任助教

1. 「文化遺産教育プログラム」実施の経緯

トンレ・サーブ（湖）西北岸に広がるシェムリアップ州の中でも、とくに北東部のプノム・クーレン（丘陵）一帯を水源としてこのトンレ・サーブへ流れ込む河川が形成した扇状地には、アンコール朝期の都城跡や寺院建築遺跡等が多く集中している。1992年にユネスコ世界文化遺産に登録されたアンコールは、その後1994年までに文化遺産保護のため全5ゾーンから成る保護区域が設定され、それぞれ保護基準の遵守が義務付けられた。よく知られるアンコール・ワットやアンコール・トム等は最も重要とされる保護地区である第1ゾーンに区分され、その周囲に緩衝地域として約400km²の第2ゾーンが広がる。その第1および第2ゾーン内には、91の遺跡と113の村があるⁱ。村には2012年時点で約13万人が生活しているⁱⁱ。以上が、現在のアンコール地域の様相だ。

上智大学アンコール遺跡国際調査団は1991年からカンボジアで人材養成プログラムを開始し、アンコール地域ではバンテアイ・クデイにおける考古学調査（1991年～）やアンコール・ワット西参道修復事業（1996年～）の実施に伴って若手専門家の育成に取り組んできた。この中で考古学調査の一つである発掘調査は、調査を開始した1990年代においては「宝探し」、「盗掘」と第三者から誤解されることもあり、調査の手続きや地元への情報公開等には慎重を要した。そうした経験の積み重ねを経て、遺跡および文化遺産についての普及教育活動として企画されたのが「発掘現場の現地説明会」で、第1回は1999年1月末にバンテアイ・クデイで実施した。調査団による人材養成事業の経緯や普及教育活動についてはすでに別稿で論じているので（丸井2000等）ⁱⁱⁱ、詳細は省略するが、1999年1月末時点での状況は、専門家ではない地域住民を対象とした発掘現場の現地説明会は皆無であった。調査団が現地説明会を企画した意図として、バンテアイ・クデイ発掘

調査の目的や判明したことを地域の人へ正確に伝える、という目的があった。またバンテアイ・クデイの考古学調査成果の情報伝達を通じて、地域の人に遺跡の歴史や現代における文化遺産保護についても知ってもらいたいという意図もあった。

バンテアイ・クデイではその後2000年から2001年にかけての発掘調査で、274点にのぼる石製仏像が出土し、内外で大きな話題となった。この仏像を収蔵、展示するための博物館がイオン(株)からの全面的な寄付を得て建設されたのが2007年11月のことであった。博物館開館後の2008年、遺跡の発掘現場に加えて出土資料が展示されている博物館も一緒に見学するプログラムが発足した。これまでの現地説明会から文化遺産を包括的に楽しむ会に発展し、より拡大した「文化遺産教育プログラム」の実施が押し進められた。

2. 「文化遺産教育プログラム」の原則

文化遺産普及教育活動の基本的な方針は、以下のとおりである（原則）。

- 1) 考古発掘を実際に見学しながらその歴史を学習する。
- 2) 考古・建築学専攻のカンボジア人学生が地域住民や小学生・中学校の生徒を引率し、遺跡の現場においてその歴史をカンボジア語で説明する。
- 3) 小学生・中学生だけでなく付き添いの学校教員にも遺跡現場への引率やアンコール王朝の歴史の説明の仕方を学んでもらう。
- 4) 文化遺産教育をカンボジア版校外学習としてカンボジアの教育カリキュラムへ根付かせることを目的としている。

3. アンコール文化遺産教育センター

日本国外務省「草の根文化無償」により2011年12月にバンテアイ・クデイ内に「文化遺産教育センター」が供与された。

ここバンテアイ・クデイにおいても、雨季あるいは乾季問わず、普及教育活動が実施できるようになった。

教材としてのパネルはカンボジア語、英語、日本語で掲示されている。このセンターでは、プログラムを運営する王立芸術大学大学生たちが村人や小・中学生へ紙芝居を通じて文化遺産保護の意味を説明したりする一方で、村人と大学生との対話の時間を設けて遺跡とともに生きてきた長老たちの体験や知恵を学んでいる。

ここ数年は、アプサラ機構も同機構が企画している文化遺産教育関連プログラムでこのセンターを活用しており、本来の草の根文化無償の目的に則って広く利用されていることは評価できるであろう。

以下、2018年度および2019年5月までに実施した文化遺産教育プログラムの概要をまとめる。



4. 2018年度 文化遺産教育実施カリキュラム

第1回 8月17日(金) 15時～16時半

対象：ワット・チョー中学校生徒 140名

場所：ワット・チョー中学校 (シェムリアップ)

概要：スバエク・トム (大型影絵芝居) ワークショップの開催

これは、上智大学外国語学部英語学科有志による Summer Teaching Program, Cambodia STPC が課外活動として企画し、上智大学アジア人材養成研究センターが運営協力したものである。スバエク・トムはユネスコ無形文化遺産に登録されている伝統芸能で、シェムリアップで最初に立ちあげられたといわれているティーチエン一座にワークショップを依頼した。有形文化遺産である遺跡への見学だけではなく、こうしたカンボジアに残る無形文化遺産の普及教育活動も、現在のカンボジアには確実に必要であるという認識のもと、このスバエク・トムワークショップを実施した。



スバエク・トム：カンボジアの大型影絵芝居をワット・チョー中学校で実施

第2回 8月20日(月) 8時～10時半

対象：ブレイク・アンドン中学校 (シェムリアップ)

生徒：8年生、9年生 (中学2年生、3年生)

計100名/引率教員2名

場所：バンテアイ・クデイ遺跡

概要：8時に4台のバスに分乗した中学生たち一

行は中学校を出発し、8時20分頃バンテ

アイ・クデイ到着。王立芸術大学考古学部

および建築学部 (計10名) の研修生が各

グループの案内役として生徒を引率。東門、文化遺産教育センター、仏像発掘現場、東楼

門と前柱殿などを回ってバンテアイ・クデイの歴史、ジャヤヴァルマン7世について、発

掘調査から明らかになったこと、などを説明した。視察中の王立芸術大学考古学部ブリア

プ・チャンマラ教員が考古学を学ぶことの意義や現地を見ることの意味について、中学生

へ説明された。10時終了、バンテアイ・クデイを出発して10時半に中学校へ帰着。



なお実施に先立って引率する学生たちは遺跡を周って予行演習を行った。さらにその問題点などを話し合い、シェムリアップの上智大学アジア人材養成研究センターと東京のニム・ソテイーヴン氏との間でインターネット回線によるミーティングを行い、本番に備えた。

第3回 8月27日(月)

対象：上智大学主催カンボジアサービスラーニング

学生：上智大学学生8名／引率教員3名

場所：アンコール・ワット、上智大学アジア人材養成研究センター

概要：午前は王立芸術大学学生が上智大学学生へ、英語でアンコール・ワットを案内した。芸術大学学生2名と上智大学学生4名ずつのグループ、計2グループに分かれ、中央祠堂、十字型回廊、第一回廊を時間をかけて見学した。その後、全体で現在修復事業が進行中の西参道現場に向かい、三輪悟から説明を受けた。最後に、石材ストックヤードにて石工ハウトイ氏による石加工実演の見学と、体験を行った。午後は上智大学アジア人材養成研究センターへ移動し、上智大学学生がホストとなって芸術大学学生を迎えた。日本文化や芸能の紹介に続いて、ソーラン節を演舞し途中から芸術大学学生も加わった。その他、習字や浴衣などが準備され、上智大学学生と芸術大学学生たちの文化交流が行われた。



(以上文責 丸井雅子)

5. 日本人学生研修のお手伝い

現地のカンボジア人学生や日本からの研修学生に対して、センター（カンボジア本部）ではさまざまな形でお手伝いをしている。

近年日本の高等学校等では、途上国でNGOが活動する現場の視察により国際協力のあり方を学んだり、現地の人々との交流により体験学習や相互理解を目的としたスタディツアーが盛んである。カンボジア、シェムリアップにある現地センターは、現在アンコール・ワット西参道の修復をカンボジア人とともに実施しており、旅して学べる諸要件を備えていることから、座学や遺跡現場での研修要望が多い。訪問者数は年度により異なるが、多い年は500人を超える。センターでは、現地駐在の三輪はじめスタッフが対応している。

とくに、世界遺産アンコール・ワットを中心とした「カンボジア社会とアンコール遺跡」の講義

では、歴史的背景とともにカンボジア人のルーツを学べるよう、また、アンコール・ワット西参道修復工事現場での講義は、「なぜ日本のバックアップのもとにカンボジア人と協働しながら工事が進められているのか」など、日本の文化貢献を肌で感じてもらい、次世代を担う若者たちに国際協力への理解が深まることを願いながら対応している。

1. 研修訪問者（2018年2月～2019年5月）への教育対応活動

		来訪者・団体	人数	目的
2018年				
1	2.14	ANAのCSRツアー	17	ANAグループ社員によるアンコール・ボランテニアツアー（西参道修復現場・ボランテニア清掃活動他）
2	3.21	大妻嵐山高等学校	17	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場・クデイ他）
3	3.27	NPO ふるさと南信州緑の基金（高校生）	25	スタディツアー（センター講義）
4	5.25	イオン労働連合会	27	組合メンバー研修（センター活動の講義）
5	5.29	プノンペン日本人学校（小・中学生）	10	修学旅行（センター講義・西参道修復現場・ワット・村他）
6	7.24	聖心女子学院高等部	30	スタディツアー（センター講義）
7	8.02	地球の歩き方ツアー（高校生）	10	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場・クデイ他）
8	8.03	仙台二華高校	8	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場他）
9	8.07	取手第一高校ツアー	9	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場他）
10	8.10	上智大学英語学科サークル STP	24	上智大学学生サークル活動（センター講義他）
11	8.14	関西学院高校高等部	21	スタディツアー（センター講義）
12	8.17	YSP - Japan	30	スタディツアー（センター講義）
13	8.17	上智大学学生サークル・シーク	22	スタディツアー（西参道修復現場他）
14	8.17～20	新潟清心女子中学・高等学校	9	〈緑陰講座〉（センター・西参道修復現場・クデイ・博物館他）
15	8.18	取手松陽高校	11	スタディツアー（センター講義）
16	8.20	文化遺産教育（現地中学校生徒）	100	文化遺産教育（クデイ他）
17	8.22	上智大学英語学科サークル STP	23	上智大学学生サークル活動（西参道修復現場他）
18	8.26	アンコール補習授業校の遺跡見学会	16	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場他）
19	8.27	上智大学サービスマーケティング	10	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場他）
20	9.06	新潟大学スタディツアー	8	教養科目の授業一環（宮田春夫先生）（センター講義他）
21	12.17	カンボジア現地小学校生徒	121	環境教育（トラベアン・スヴァイ小学校）
22	12.18	仙台二華高校	6	スタディツアー（センター講義）
2019年				
23	3.01	ANAのCSRツアー	24	ANAグループ社員によるアンコール・ボランテニアツアー（西参道修復現場・ボランテニア清掃活動他）
24	3.02	上智大学メコン経済回廊ツアー	22	学生ツアー（センター講義・西参道修復現場他）
25	3.02	イオン労働連合会	22	組合メンバー研修（センター活動の講義）
26	3.04	国際青少年研修協会	40	アンコール・ワット修復事業に関する視察（青少年の育成を目的とし海外で活動する日本の団体）
27	3.06	日本大学：建築学生ツアー	6	（伊豆原月絵先生）（西参道修復現場他）
28	3.08	日本工業大学研修ツアー	10	（尾方僚先生）（センター講義他）
29	3.20	大妻嵐山中学校・高等学校	15	教養科目の授業（センター講義・西参道修復現場他）
30	3.25	NPO ふるさと南信州緑の基金（高・大学生）	28	スタディツアー（センター講義・西参道修復現場他）
31	3.26	立命館宇治中学校・高等学校	73	スタディツアー（西参道修復現場・石工デモ他）
32	5.23	プノンペン日本人学校（小・中学生）	16	修学旅行（センター講義・西参道修復現場・ワット・村他）



地球の歩き方 西参道（8月2日）



仙台二華高校 センターで発表（8月3日）



YSP-Japan センター講義（8月17日）



上智大学学生サークル・シーク 西参道（8月17日）



新潟清心女子高等学校 西参道（8月18日）



茨城県取手松陽高校 センター講義（8月18日）



上智大学 STP 西参道（8月22日）



上智大学サービ斯拉ーニング 西参道（8月27日）

6. 村へ出かけて文化遺産教育（カンボジア在住の日本人小学生へのお手伝い）

プノンペンでは、2015年4月に日本人学校が正規に開設された。初代校長は三浦信宏氏である。2015年の初回の卒業旅行時に、シェムリアップでの遺跡見学についての相談を受け、以来、上智大学の活動する西参道を含め、バンテアイ・クデイ寺院遺跡、シハヌーク・イオン博物館を案内している。

プノンペンの生徒らは多くが日系企業の駐在員の子息であり、2～3年で親の転勤に伴い各国を渡り歩く事例が多い。カンボジアのアンコールでの思い出は世界中で語られることが予想され、学びは大きい。

シェムリアップにおいても、日本人子息を持つ有志が集いアンコール補習授業校を運営している。子どもたちがシェムリアップに暮らしながらアンコール遺跡に行く機会が少ないという現状から、現地センター駐在の三輪悟が2018年より「事前学習」と「現地見学」の機会を設け、出張講義をしている。事前学習は補習授業校の校舎で行い、現地見学は、上智センター、西参道、バンテアイ・クデイ、シハヌーク・イオン博物館を訪問、説明している。

見学後には、現地日本人会主催の盆踊り大会があり、訪問の成果を発表するなど、学びに積極的に取り組む姿勢に指導の喜びがある。

また、プノンペン日本人学校から社会科副読本の掲載のためアンコール・ワットがカンボジアの象徴である理由や歴史について解説の要望があり、お手伝いをしている。



(以上文責 三輪 悟)

注

- i) 第1ゾーンを含む第2ゾーン約400km²範囲内の登録遺跡数(91)、および集落数(113)は、いずれもアプサラ機構考古学専門職Ly Vanna氏からのご教示による(Ly Vanna 2017 An Archaeology-based World Heritage Site of Angkor, p.8: 東南アジア考古学会2017年度大会講演発表資料)
- ii) アプサラ機構考古学専門職Tin Tina氏からのご教示による。
- iii) 丸井雅子2000「考古班人材養成プロジェクトのあゆみ」『アンコール遺跡の考古学』アンコール・ワットの解明1、連合出版。—2010「地域と共に生きる文化遺産—バンテアイ・クデイ現地説明会の10年—」『グローバル／ローカル 文化遺産』上智大学出版会。

アセアン10カ国における文化遺産の継承と 博物館の新しい役割のための拠点交流事業

Activities for Exchanges in International Cooperation for the Inheritance of
Cultural Properties and the New Role of Museums within ASEAN 10 Countries

សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ
សម្រាប់ការរៀបចំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ និងតួនាទីថ្មីរបស់
សារមន្តីរ៍នៃប្រទេសទាំង១០នៃអាស៊ាន

Lao Kim Leang

上智大学アジア人材養成研究センター

文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業の委託を受けて上智大学がカンボジア現地で開催する当事業は、本年で5年目である。平成26～28（2014～2016）年度は「東南アジア5カ国における文化遺産保護のための拠点交流事業」をテーマに、また平成29年度（2017）からは「アセアン10カ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割のための拠点交流事業」として実施している。

第2回となる本年度アセアン博物館国際ワークショップは、昨年度に引き続きカンボジア王国プノンペンおよびシェムリアップ市内にて、東南アジア地域10カ国の博物館関係者を招き、開催された。

本年度開催の主たる目的は、近年開発が進むに従い、東南アジア地域において多く出土されている遺物の保存・管理といった開発遺物をめぐる諸問題や地方博物館が現在抱えている諸問題について互いに議論し、文化財の保存・展示に関する知見や経験を交換し合うことにある。また、いっそうのアセアン諸国の博物館関係者の将来にわたる協力的なネットワークを構築することにある。

○実施日： 2018年11月2日（金）～8日（木）

○参加人数： 10カ国参加者、主催国大臣および上智大学の出席者等を含め延べ35名

参加者名簿

	Country	Name		Position	Organization
1	SPAFA	Dr. U Nyunt Han	M	Archaeological Consultant	Ministry of Religious Affairs and Culture, Nay Pyi Taw
2	Myanmar	Ms. Thi Thi Thaug	F	Staff Officer	National Museum (Yangon), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Religious Affairs and Culture
3	Myanmar	Ms. Thu Zar Zan	F	Assistant Curator	Sittwe Culture Museum, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Religious Affairs and Culture
4	Thailand	Ms. Darika Thanasaksiri	F	Dierector	Fine Arts Department, Ramkhamhaeng National Museum
5	Thailand	Ms. Phimnara Kitchotprasert	F	Head of	Fine Arts Department,Phanom Rung Historical Park
6	Laos	Ms. Keobounma Phetmalayvanh	F	Director	Heritage Department, Lao National Museum
7	Laos	Mr. Temsombath Santi	M	General Officer	Conservation and Restoration Division, Lao National Museum
8	Vietnam	Ms. Pham Thi Mai Thuy	F	Deputy Head	Department of Education and Public Relation, Vietnam National Museum of History
9	Vietnam	Ms. Nguyen Thi Thu Hoan	F	Head of Dept	Department of Education and Public Relation, Vietnam National Museum of History
10	Indonesia	Ms. Sulistiyani Dyah	F	Head of Promotion Section	Department of Partnership and Promotion, National Museum of Indonesia
11	Indonesia	Ms. Dewi Maulidha Sinta	F	Educator	Department of Partnership and Promotion, National Museum of Indonesia
12	Philippines	Ms. Bolunia Mary Jane Louise Alto	F	Senior Museum Researcher	Archaeology Devision, National Museum, Philippines
13	Philippines	Ms. Lacsina Ligaya San Pedro	F	Museum Curator	Maritime and Underwater Cultural Heritage Division, National Museum, Philippines
14	Singapore	Ms. Szan Tan	F	Senior Curator	National Museum of Singapore
15	Brunei	Ms. Pengiran Haji Muhammad/ Pengiran Norazah	F	Ethnology Officer	Museums Department, Royal Regalia Museum
16	Brunei	Ms. Ismail Nur Kamilah	F	Archaeology Officer	Archaeology and Monument Section, Brunei Museums Department
17	Malaysia	Mr. Degor Anak Johia	M	Curator	Division of Research and Documentation, Department of Museums Malaysia
18	Malaysia	Mr. Peterson Augustine Anak Augustine Jadan	M	Head of Lukut Museum	Lulut Museum, Department of Museums Malaysia
19	Cambodia	H.E. Phoeurng Sackona	F	Minister	Ministry of Culture and Fine Arts
20	Cambodia	H.E. Prak Sonnara	M	Director General	Department of Heritage, Ministry of Culture and Fine Arts
21	Cambodia	Dr. Ang Choulean	M	Professor	Royal University of Fine Arts, APSARA Authority
22	Cambodia	Dr. Ly Vanna	M	Director	Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority
23	Cambodia	Mr. Kong Vireak	M	Director	Phnom Penn National Museum, Department of Museum, Ministry of Culture and Fine Arts
24	Cambodia	Mr. Kim Sothin	M	Director	Angkor Conservation Office, Ministry of Culture and Fine Arts
25	Cambodia	Mr. Pen Chamrong	M	Director	Preah Norodom- Sihanouk -Angkor Museum
26	Cambodia	Mr. Vary Mang	M	Curator	Kompong Thom Provincial Museum
27	Japan	Dr. Nhim Sotheavin	M	Researcher	Sophia University
28	Japan	Prof. Ishizawa Yoshiaki	M	Professor	Sophia University
29	Japan	Mr. Yuji Kurihara	M	Deputy Director	Kyoto National Museum
30	Japan	Mr. Satoru Miwa	M	Researcher	Sophia University
31	Japan	Dr. Lao Kim Leang	M	Researcher	Sophia University
32	Japan	Ms. Keiko Sato	F	Researcher	Sophia University



**Inheritance of Cultural Properties and
New Role of Museums within ASEAN Nations**

Organizers
This workshop is jointly organized by the *Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia* and *Sophia Asia Center for Research and Human Development (Sophia University, Japan)*, sponsored by the *Agency for Cultural Affairs (Bunkacho)*, Government of Japan.

Background
In Southeast Asia region there are diverse categories of cultural properties, which when viewed from a global perspective, are found to possess great value. Furthermore, these properties provide us with vital tips regarding the cultural identities of the people concerned. In order to secure such cherished properties for future generations, it is essential on our part to empower the role of the museums within each ASEAN nation, for the proper exhibition and conservation of these properties.

The Ministry of Culture and Fine Arts of the Kingdom of Cambodia and the Sophia Asia Center have organized this international workshop on critical and relevant topics, with a view to constructing cooperative networks and fostering trustful relationships among professional persons, who have been in charge of collecting and conserving the cultural properties discovered in Southeast Asia.

This workshop aims at providing participants with opportunities to develop ideas related to the conservation and exhibition of cultural properties. We expect discussing the issue as to how in the near future one might create a unique 'Identity' comprising the 10 ASEAN nations, and we propose also that participants consider the possibility of creating a new '**museum regional cooperation model**' of the ASEAN style.

Objectives of the Workshop

1. As a follow-on of our activities of earlier years, we intend organizing an international workshop on the topic of "Scientific Research and Publication of Artifacts Discovered at Monument and Development Sites."
This year we attempt the creation of an inventory list of artifacts and discussing possibilities of releasing those artifacts to the public.
2. Presenting detailed country reports on artifacts that have been discovered until 2018 and initiate discussing among participants. Some proposals will be submitted as an annual report, and a report of 2018 on artifacts discovered, presented by representatives of the 10 ASEAN nations, will be published.

Objectives of the Workshop (continue)

3. Conducting an on-site investigation and exploration of the artifacts and remains. A case in point is the visiting and investigating of the temple of Bakan (**Great Preah Khan** of Kampong Svay) which still remains as it was when discovered.
This experience will prove to convince our participants of the significance of our workshop, and urge them to present proposals for the solution of these issues.
4. Apart from inspecting ruins and visiting museums located in their vicinity, we intend studying unpublished artifacts and issues of publication, and considering the role those museums play with reference to the local inhabitants.

Objectives of the Workshop (continue)

5. Creating a report on "Field Studies of Unpublished Artifacts within the 10 ASEAN Nations" in English and Japanese, and this will subsequently be submitted at the symposium of ICOM (International Council of Museums) to be held in Kyoto in 2019.
This report will serve as an appeal on behalf of our participants from the 10 ASEAN nations, in favor of the critical issue of these unpublished artifacts. The report will also be conveyed to the Division of Memorial Cultural Properties, at the UNESCO in Paris.

**ASEAN 2018
Cultural Properties and Museums
International Workshop**
(2nd-8th November 2018)

Venues: ♦ Ministry of Culture and Fine Arts, Phnom Penh
♦ Sophia University Asia Center for Research and Human Development, Siem Reap

Coordinators: Prof. **Yoshiaki Ishizawa**, Sophia University
Prof. **Ang Choulean**, RUF/A/APSARA Authority
Dr. **U Nyunt Han**, Ministry of Religious Affairs and Culture, Myanmar

Conveners: Dr. **Lao Kim Leang** and Dr. **Nhim Sotheavin**

Secretariat: Ms. **Momoko Yoshida** and Dr. **Keiko Sato**

Saturday 3rd November (Day 2)

09:00-11:00 **Opening Ceremony** (at the Ministry of Culture and Fine Arts)

- ♦ **Keynote Speech**
H.E. **Prak Sonnara**, Director General, Ministry of Culture and Fine Arts
- ♦ **Welcome Speech**
Prof. **Yoshiaki Ishizawa**, Director, Sophia Asia Center
- ♦ **Remarks Speech**
H.E. **Phoeurng Sackona**, Minister, Ministry of Culture and Fine Arts
- ♦ **Introduction and short speech by Workshop's Participants**
from Myanmar, Thailand, Laos, Vietnam, Malaysia, Singapore, Brunei, Philippines, Indonesia, Cambodia and Japan
- ♦ **Closing Remarks**
Dr. **U Nyunt Han**, Archaeological Consultant, Ministry of Religious Affairs and Culture, Myanmar

Saturday 3rd November (Day 2) - continue -

11:30-13:00 **Welcome Luncheon** (at Khéma La Poste)
Address by Prof. **Yoshiaki Ishizawa**, Director, Sophia Asia Center
Prof. **Ang Choulean**, RUF/A/APSARA Authority

Site Studies (1)
13:30-15:00 Visiting **National Museum**, Phnom Penh,
guided by Mr. **Kong Vireak**, Director

Coffee Break

15:30-17:00 **Keynote Speeches**

- ♦ Mr. **Mang Valy**, Curator, Kompong Thom Provincial Museum
- ♦ Mr. **Yuji Kurihara**, Vice-Executive Director, Kyoto National Museum

Comments and Discussions

Sunday 4th November (Day 3)

07:00 Departure from Hotel to Great Preah Khan
at Kompong Svay District

Site Studies (2)
12:00-15:00 Inspection of **Bakan Temple, Great Preah Khan**
(mid-11th century), guided by Mr. **Kim Sothin**, Director,
Ministry of Culture and Fine Arts
(Lunch boxes are prepared for participants)

15:00 Departure to Siem Reap City
(will be arrived at Hotel around 19:00)

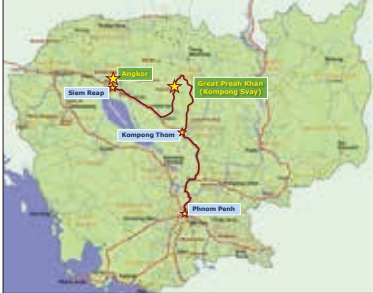
Monday 5th November (Day 4)
 08:30 Departure from Hotel to APSARA Authority Office
 09:00-11:00 Courtesy visit to H.E. Dr. **Sum Map**, Director General
 10:30-11:30 Visiting Sophia Asia Center
 ♦ Presentation by Mr. **Satoru Miwa**, Field Director
 ♦ Lecture by Dr. **Ly Vanna**, Director, APSARA Authority
 12:00-13:00 Lunch
Site Studies (3)
 13:30-15:00 Visiting **Angkor Conservation Office**, guided by Mr. **Kim Sothin**, Director
Site Studies (4)
 15:30-17:00 Visiting **Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum**, guided by Mr. **Pen Chamrong**, Director

Tuesday 6th November (Day 5)
 07:30 Departure from Hotel to Sophia Asia Center
 08:00-08:45 **Special Lecture**
 ♦ Dr. **U Nyunt Han**, Senior Researcher, Archaeologist
Country Report Part I (5 countries)
 08:45-09:45 **(1) Myanmar**
(2) Thailand
 Coffee Break
 10:00-11:30 **(3) Laos**
(4) Vietnam
(5) Cambodia
 11:30-11:45 Comments and Discussions
 12:00-13:00 Lunch

Tuesday 6th November (Day 5) - continue -
Site Studies (5)
 13:30-15:30 ♦ Inspection of **Angkor Wat Western Causeway**, restoration site, explained by Mr. **Satoru Miwa**, Field Director, Sophia Asia Center
 ♦ Visiting **Angkor Wat Temple** (earlier 12th century), guided by Dr. **Nhim Sotheavin**, Sophia Asia Center
Site Studies (6)
 16:00-17:00 Inspection of **Banteay Kdei Temple** (late 12th century), place of 274 Buddhist Statues discovered, explained by Dr. **Nhim Sotheavin**, Sophia Asia Center

Wednesday 7th November (Day 6)
 07:30 Departure from Hotel to Sophia Asia Center
Country Report Part II (5 countries)
 08:00-09:30 **(6) Malaysia**
(7) Singapore
(8) Brunei
 Coffee Break
 09:45-10:45 **(9) Philippines**
(10) Indonesia
 10:45-11:45 Comments and Discussions (overall)
 12:00-13:00 Lunch

Wednesday 7th November (Day 6) - continue -
Site Studies (7)
 13:30-16:00 Visiting **Angkor Thom Complex**, short guided by Dr. **Nhim Sotheavin**
Special Lecture
 16:30-17:15 Prof. **Ang Choulean**, Royal University of Fine Arts/APSARA Authority
 17:15-17:30 **Closing Ceremony**
 Address by Mr. **Satoru Miwa**, Field Director, Sophia Asia Center
 17:45-19:15 **Farewell Party** (at L'Oasi Italiana)
Thursday 8th November (Day 7)
 Returning back to home country → (from Siem Reap International Airport)



Places/Sites to visit:

- Phnom Penh**
 - ♦ Ministry of Culture and Fine Arts
 - ♦ National Museum
- Kompong Svay**
 - ♦ Great Preah Khan of Kompong Svay
- Siem Reap**
 - ♦ APSARA Authority
 - ♦ Sophia Asia Center
 - ♦ Angkor Conservation Office
 - ♦ Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum
 - ♦ Angkor Wat Temple
 - ♦ Banteay Kdei Temple
 - ♦ Angkor Thom Complex



世界に問う、東南アジアの文化遺産

上智大学は社会人を対象に公開講座を春期と秋期の年2回開いているが、アジア人材養成研究センターは、芸術・文化・歴史部門において、カンボジアのアンコール遺跡をはじめインド遺跡との比較など、文化遺産について最新の修復技術問題を含めてアジアの現場から、文化遺産の保存・修復問題について発信し続けている。

講座の詳細は以下のとおり。

〈2018年春期〉

講座名【世界遺産アンコール・ワットを掘る】

世界的に貴重な建造物であるアンコール・ワット、その西参道の修復作業と歴史的価値について、修復作業現場の専門家から詳しく解説します。約800年前の工事現場の様子がよくわかります。

開講スケジュール（各日とも18：45～20：15）

	日程	演題	氏名	所属・肩書
第1回	4/24	世界史から見たアンコール・ワットとは	石澤良昭	上智大学教授
第2回	5/8	西参道修復の概要	竹田哲夫	元鹿島建設・リテックエンジニアリング技術本部顧問
第3回	5/15	修復の歴史から見た西参道	三輪 悟	上智大学研究員
第4回	5/22	構造力学（工学）から見た西参道の修復	半貫敏夫	元日本大学教授
第5回	5/29	材料力学（工学）から見た西参道の修復	清水五郎	元日本大学教授
第6回	6/5	施工学から見た西参道の修復	柿崎正義	元鹿島建設・株式会社スマート建築研究所代表取締役

講座名【東南アジアお国自慢の文化遺産】

アジア地域には、貴重な文化遺産が数多く存在します。その保護活動は国家的であり、またその国の責任者が後世に残すためにさまざまな活動をしています。本講座には、アジア各国の活動について専門家を招き、解説をします。

開講スケジュール（各日とも18：45～20：15）

	日程	演題	氏名	所属・肩書
第1回	6/12	アジアの文化遺産の保存と公開は何を意味するか	石澤良昭	上智大学教授
第2回	6/19	フィリピンの文化遺産—1730年の Jesuit House	ヒメネス・ホアン・ラモン	滋賀県立大学准教授
第3回	6/26	ミャンマーの民族文化と文化遺産	田村克己	総合研究大学院大学教授
第4回	7/3	タイの民族文化と文化遺産	村嶋英治	早稲田大学教授

第5回	7/10	ベトナム・ホイアン旧市街と国際協力	友田博通	昭和女子大学教授
第6回	7/17	カンボジアの民族文化と文化遺産	丸井雅子	上智大学教授

〈2018年秋期〉

講座名【アンコール遺跡の現場から—考古学調査・経典調査・歴史調査・碑刻調査の報告—】

アンコール遺跡の現場の最も新しい研究成果をご報告し、とくに、アンコール・ワット西参道の考古学、カーランダヴェーハ経典は存在したか、ポスト・アンコールはどんな時代だったか、なぜ碑文を作成し、奉納したかなど、新しい研究成果を報告します。

開講スケジュール（各日とも18：45～20：15）

	日程	演題	氏名	所属・肩書
第1回	10/2	考古学調査—王立芸術大学学生と築き上げた調査と普及活動—	丸井雅子	上智大学教授
第2回	10/9	クメール美術にみる観音と極楽	宮崎晶子	茨城キリスト教大学准教授
第3回	10/16	東南アジアの古代文字 —クメール碑文を中心として—	佐藤恵子	上智大学研究員
第4回	10/23	ポスト・アンコールは衰退期か —日本史料より—	北川香子	法政大学准教授

講座名【カンボジア・インド遺跡比較文化論】

インド人がアンコール遺跡群を訪れると、開口一番「ここにはインド文化が生きている」という感想をもらします。やはり、「Greater India（偉大なインド文化）」がアンコール遺跡のあらゆるところで浸透、カンボジア化し、壁面浮彫りの中に垣間見ることができます。そこでは、インド的雰囲気醸し出されています。これを専門用語では「インド化された国々（地域）」といいます。

インド文化がカンボジア化する現場を学術的に捉え、さらにその様式が変化し、深化し、そして新様式創出となるのですが、いろいろ点検していきます。この講座では、どこまでインド文化の要素がアンコール遺跡に塗布されているか、カンボジア的文化・思想の改変と創意工夫が遺跡のどこに見られるのか、インド芸術と決別したカンボジアの7世紀の彫像を現場検証します。

開講スケジュール（各日とも18：45～20：15）

	日程	演題	氏名（敬称略）	所属・肩書
第1回	11/27	インド化された国々のインド的文化 —アンコール遺跡の事例から—	石澤良昭	上智大学教授
第2回	12/4	インド文化の影響下のアンコール遺跡 —インド文化からの視座—	シシル・ ヴェリヤト	上智大学名誉教授
第3回	12/11	カンボジア人が意識するインド的文化の雰囲気	ニム・ ソテイーヴン	上智大学研究員
第4回	12/18	インドとカンボジアの建築文化比較研究	三輪 悟	上智大学特任助教
第5回	1/8	アンコール遺跡ブリヤ・カーン寺院に見られる インド的図像とその検証	久保真紀子	日本学術振興会特別研究員 PD

Ⅲ. 論文・調査報告

(活動報告 その3)

The Rite of Passage: Pithi Chamroeun Ayu (Chan Sok Kiri Sot) A Longevity Ceremony in the Khmer Tradition

ពិធីប្រឡងវ័យ ៖
ពិធីប្រឡងវ័យ ចង្កូស្យាត្រីស្យាត

—人生儀礼長寿祝福の儀式（ピティ・チョムラン・アユ）—

NHIM Sotheavin
Sophia Asia Center, Sophia University, Tokyo

In Khmer society, one comes across a ritual linked to the life of an individual, which is referred to as “Chlang Vei” or in English “Rite of Passage.” In “Chlang Vei,” the word Chlang signifies ‘passage’ and the word Vei signifies ‘age,’ and it consists of a ceremony symbolizing the evolution or change in the age or status of a person in society, or simply the process of that person entering into a specific age group, and this is represented in a fixed ritual.

In Japanese society too, one come across similar rituals, such as the “Jinsei Girei (人生儀礼),” or Life Cycle Rites (or Rite of Passage), where Jinsei means ‘life’ and Girei means ‘rite.’ There are ten rituals in Japanese society related to the rite of passage, and the initiation rites are conducted when the child has been 5 months in the womb of its mother. This is done for its safe delivery and healthy growth, until the death of the individual. In the case of Cambodia, however, the rite of passage has been categorized into seven ritual processes [See, Ang Choulean, Preap Chamara, and Sun Chandoep, Damnoer Chivit Manus Khmer (or Journey of life of the Khmer people), Yosothor, 2014]. Those processes are: (1) A rite related to the baby that was just born (3 days after its birth). (2) A rite related to the boy or girl just before reaching adulthood, (between the ages of 11 and 13). (3) A rite related to the fact of the person having reached adulthood. (4) The rite of Marriage. (5) A rite related to the fact of a person having become a mother. (6) A longevity ceremony (Chamroeun Ayu). (7) The funeral ceremony.

This brief paper introduces the rite of passage referred to as “Chamroeun Ayu,” which means “a longevity ceremony,” which was specially conducted for Prof. Yoshiaki Ishizawa by his Cambodian students, as an expression of gratitude for his guidance and supervision over the past many years (Ph. 1). The ceremony was conducted on March 31th and April 1st 2018 at the Sophia Asia Center, in



Ph. 1 Students and Friends of Professor Yoshiaki Ishizawa

the city of Siem Reap in Cambodia.

On behalf of all his Cambodian students, I wish to take this opportunity to express my sincere thankfulness to all who were involved in this ceremony, and in a special way I wish to thank Dr. Lao Kim Leang, Mr. Lim Srou, and H. E. Seung Kong, for their assistance in enabling this ceremony to be realized. I would also like to thank Professor Ang Choulean and Mr. Lim Srou, for having kindly shared with us their extensive knowledge regarding the conducting of the rite.

1. The Meaning of the Expression “Pithi Chamroeun Ayu”

The ceremony is generally referred to as “Pithi Chamroeun Ayu, ” which translates as the ‘Longevity Ceremony.’ The ceremony generally is of three different types, or is conducted at three different levels. A simple or small ceremony that is usually conducted by people living in the city of Phnom Penh and certain other areas is referred to as “Bon Pachai Buon.” This is associated with the four requisites of a Buddhist monk, namely Ben Bat (provisions), Chivor (clothing), Sena Sanak (shelter), and Kilean Phesacheak (medicine). These four requisites are provided to monks in order that they may accumulate merit by good deeds.

A higher-level or advanced ceremony that people living in the Angkor-Siem Reap area traditionally conduct, is known as the “Chan Sok Kiri Sot, ” and in cases where the carrying out of the ceremony is even longer, it is entitled “Chhak Maha Bangskol.” However, regardless of whether the ceremonial process is short or long, all rites are conducted under the signification of the Chamroeun Ayu, or Longevity Ceremony, which symbolically designates the death and rebirth of an individual. Rebirth or transmigration signifies the fact that a person can begin life as a baby one

more, for the cycle of life involves the fact of a person being reborn, after he or she has once died.

The ceremony is generally performed by children for their parents, who are advancing in years. The object of the ceremony is not merely to commemorate the long life of their parents on earth, but is also a sign of gratitude to them, offered by their children, for the happiness they have so far received from them. As a recompense for their efforts, the children, students, or others who carry out the ceremony, will also accumulate merit for the good deed they have performed. The ceremony is also held for elderly people who are deemed worthy of respect, as also for Kru (masters, or teachers). In Khmer society, from ancient times, Kru were looked upon as equivalent to parents, and this was indeed the case with regard to the ceremony conducted for Prof. Yoshiaki Ishizawa.

2. The Process of the Ritual

The ritual was carried out over two days. Some of the objects used in the ritual, and the Randap (which refers to provisions or objects specially prepared for use in a ritual or ceremony, or gifts for monks who have conducted the ceremony), as well as the orchestration of the ritual, were as follows. The preparation began two days prior to the start of the ceremony. There were 15 villagers including the Achar (a layman having knowledge of Buddhism, who conducts the ceremony in a Buddhist manner in the village), from Kok Thnot village, which is located to the north of Baray Toek Thla (Western Baray). He had prepared all the essentials that were related to the ritual.

2.1. Objects and Randap Used in the Ritual

Banana (that is, a banana tree trunk and leaves) is very useful to decorate objects prepared for rituals. One of these banana-decorated objects is called “Chak Chek”. Chak Chek is a banana tree trunk decoration, created by using a small sharp iron to carve the banana sheath into various patterns (Ph. 2-3). The banana sheath patterns are used with reference to various objects in the ritual, such as for Yama’s altar, for decorating the Sampov (or junk), the coffin, etc. (To be introduced, with the photographs shown below). Elderly villagers carve the patterns by relying on their memories of the past, and without any prepared sketch or plan. This custom has so far remained only in the countryside, but according to those elderly villagers, there is a danger of its disappearing in the near future, since members of the younger generation have no interest in this work anymore.



Ph. 2-3 Achar carved patterns on banana sheath

- **Bay Srei** (or Bay Sei as it is called in some areas, especially in the southern part) is normally made of a banana tree trunk with some decorations, to be used in certain rituals or ceremonies. It is usually designed with legs to which 3, 5, 7, or 9 layers of banana leaves, rolled up into finger shapes, have been attached (Ph. 4-5). Each layer represents a part of the human body, as for example the ears, eyes, hands, legs, etc. Bay Srei is meant to be an object used as a substitute for the person concerned (*op. cit.*, Ang Choulean 2014: 13).



- **Bay Srei Paccham** is used for Chom. Bay Srei Paccham is made of a Banana tree trunk, at the top of which are rolled up banana leaves, and it is decorated with flowers and incense (Ph. 6-8).



Ph. 4-5
Banana trunks were prepared for making 5 layers of Bay Srei



Ph. 6-7 An old lady made Bay Srei Paccham



Ph. 8 Villagers from Kok Thnot village prepared the Bay Srei and Bay Srei Paccham

- **Chom** is an offering consisting of a section of a banana tree trunk, tapered at the top, and decorated with rolled up betel leaves (Ph. 9-10). Chom is offered to a certain person such as the Achar, or to Phleng Khmer group (Khmer traditional musician).



Ph. 9 Chom



Ph. 10 Khmer traditional music group and Chom

- **Chunhching** is a scale used to measure the weight of the person concerned, and also the weight of rice (Ph. 11-12). When the Achar measures the weight, even though the balance may not be the same, he assigns the same weight. The rice will be used for Angkar Snang (see below).



Ph. 11 Achar used bamboo and a piece of wooden for a scale



Ph. 12 Achar weighed the weight of Prof. Ishizawa and rice

- **Kre Snaeng** is a bed meant to convey the person concerned, by proceeding via a three-turn circumambulation in a clockwise direction (called in Sanskrit *pradakṣīna*), around the place of the ceremony. The bed is carried by children, students, or people who desire to show their respect for their parents, teachers, or some other such individual. In the case of Prof. Ishizawa, since the place was narrow, we used a chair instead of a bed. However, the chair was meant to represent a bed (Ph. 13-14).



Ph. 13 Kre Snaeng



Ph. 14 Prof. Ishizawa was carried by students

- **Mochous** is a coffin. The coffin is made of a banana sheath, in order to put a Rup Snang, a substitute person concerned, within (Ph. 15-16). The coffin is placed on the Pé (Ph. 17-18), which is an offering to spirits (often made with a banana leaf plate). The Pé will be thrown away after the rite (please see below). At the end of the rite the coffin will be burned, since it is viewed as the cremating of a body during a funeral ceremony. The person concerned is considered dead, and he will be born again (rebirth) as mentioned above.



Ph. 15 Coffin made by the banana sheath



Ph. 16 Rup Snang



Ph. 17-18 Pé with a coffin on the banana leaf plate

- **Angkar Snang** is the substitute person concerned (in this case it is Prof. Ishizawa) (Ph. 19). Angkar Snang is made from rice, which was already weighed in order to have a correct balance with the weight of the concerned individual (Ph. 11-12). It is packed with a piece of white cloth, and some other elements such as half a coconut shell and pieces of sugarcane and banana that represent a human being, with head, bones, backbone, legs, hands, and ribs.



Ph. 19

- **Sampov**, the direct meaning of Sampov is “large sailing junk.” Sampov represents a journey of life, both according to the beliefs of Buddhism and Hinduism. It simply means to dispatch a person on a journey of life to a peaceful and calm place (that is, to bring about an end to life). According to the Achar, Sampov is not always used for the rite, but exceptions are made in the case of great or well-known persons. The Sampov is made of banana tree trunks, with various decorated patterns (Ph. 20-21).



Ph. 20-21 Sampov with banana trunks decorated patterns

2.2. The Process of the Rites

2.2.1. The First Day

The process started in the afternoon at 3: 30 PM.

- **Romloek Kun Kru, or Repaying a Favor to the Professor**

First, a representative from among the students made a few brief remarks expressing gratitude to Prof. Ishizawa for his guidance and supervision over the years, and for his respect shown and assistance offered to Khmer culture and heritage (Ph. 22-23). In keeping with our custom, we (the Khmer students) gave him certain requisites as a thanksgiving. As for the requisites, Prof. Ishizawa was free to use them or offer them to pagodas or monks, in order to accumulate merit. In return, Prof. Ishizawa also delivered a short speech, thanking the students for their kind preparation of the ceremony, and blessed them with holy water (Ph. 24-25).



Ph. 22



Ph. 23



Ph. 24



Ph. 25

- Srauch Toek, or Ablution

There were two processes involved: one was to invite Prof. Ishizawa to sit on the Kre Snaeng (Ph. 13-14) and bring him in, proceeding according to a three-turn circumambulation in a clockwise direction, around the abluion stage (Ph. 26-27). This process symbolizes a spiritual transition from ordinary life to spiritual perfection, in the journey of life. Another process was to take him to the abluion stage, and students sprinkled water on him (Ph. 28-29). The purpose behind this Srauch Toek or abluion was simply for cooling, since the weather in Cambodia could be rather hot (this information was communicated to me by Prof. Ang Choulean). Also, we (students) washed the body of Prof. Ishizawa to get rid of impurities, cleanse ourselves of guilt (for the wrong we might have unintentionally done to him while we were under his supervision), and to repay the favors received from him.

- Pithi Prong Poli

Pithi Prong Poli is a very important process, since it is done first and ahead of all other processes, and it is always conducted in all great ritual ceremonies in Khmer belief and tradition (Ph. 30). “Prong” means “preparation or conduct” and “Poli” means “sacrifice.” The rite itself is related to “Human Sacrifice,” which simply means to give up one thing in order to obtain something new.

In point of fact, this rite is conducted at dusk. However, since it is sometimes difficult to perform



Ph. 26 Circumambulation



Ph. 27 Ablution stage



Ph. 28-29 Sprinkling water on Prof. Ishizawa

it in darkness, the people living in Angkor conduct it in the late afternoon around 4: 00 PM. This rite cannot be conducted in the morning, and the reason why it has to be done at dusk is because this rite symbolizes a “Human Sacrifice.” Here they symbolically sacrifice a woman, since they believe that women possess some miraculous potential or power within them. By doing so they create a substitute person called “Neang Konghing” (Ph. 31). The Neang Konghing is a symbol of the soil, and it was made of flour. The Neang Konghing is placed in the Pé along with other offerings, and buried in a small hole (Ph. 32-33). So far, the Prong Poli has been a rite to represent the “Dead.”

There is another rite, which possesses an



Ph. 30 Pithi Prong Poli



Ph. 31
Neang Konghing
(Lim Srou)



Ph. 32-33 Achar conducted Pithi Prong Poli



Ph. 34-35 Loek Tung



Ph. 36-37 Phiti Sot Moan

interrelationship to the Pithi Prong Poli, called “Loek Tung” (Ph. 34-35). Loek Tung literally means “to lift the flag, ” and it is to form a connection with the sky. It is a symbol of “Living.” So, the two rites are linked to each other, since they symbolize the links between the “Dead” and the “Living.” Normally, the flag is installed at the North-East direction, which in Khmer belief is the direction of rebirth or reincarnation. While lifting up the flag they raise their voices loudly, or sometimes even use fireworks.

- **Phiti Sot Moan** is normally performed in every ceremony. It is conducted by the monks to bless the concerned person and family, so that they may grow prosperous and rid themselves of

anything bad (Ph. 36-37).

2.2.2. Second Day

The activities of the second day of the ritual started in the morning, at 7: 30 AM, and there were five rites to be performed on the second day.

- **Praken Yeakou** consists in offering requisites to the monks. This offering of requisites is done to accumulate merit through good deeds.

- **Chan Sok Kiri Sot** refers to the name of a Sastra (or manuscript), which the monks use for reciting, during the process of the rite. In the course of this rite, we often see the Achar erecting Phnom Khsach (or sand mounts) on several tiers of banana tree trunks. They divide the sand mount into four parts, and each part consists 25 small sand mounts, while the middle consists of the biggest sand mount (Ph. 38-39). If we count all sand mounts within the four parts, it works out to a total of 100. The Khmer people often consider the number 100 as a wish, and it is indicated by the words, “I wish you live to become a hundred years old.” And if we were to include in the count the biggest sand mount in the middle, the number works out to 101, which indicates another expression, namely, “may you live a long life of over a hundred years.”

This process took over two hours, and the person concerned (Prof. Ishizawa) had to sit or bend



Ph. 38-39 Phnom Khsach or Sand Mount



Ph. 40-41 Process of Chan Sok Kiri Sot



Ph. 42-43 Coffin is put nearby the person concerned or Sampov



Ph. 44-45 Rite of Bak Sbaek

over the Angkar Snang (see, Ph. 19) during the Sampov (Ph. 40-41). Monks and Achars sat around the Sampov and performed the rite, and the monks in particular recited a Dharma contained in a manuscript of the Chan Sok Kiri Sot. Since the person concerned is given the role of death, the Achar places a coffin made of banana sheath (see, Ph. 15) near the Sampov (Ph. 42-43). Also, another process of the rite was conducted, called the “Bak Sbeak,” which literally means “take off

the skin.” The person concerned was covered with a white sheet, and a monk then recites a Dharma and slowly takes off the white sheet, which is meant resemble a baby being taken out of its mother’s placenta, and also to express the fact that the person concerned has just been born again (Ph. 44-45).



Ph. 46 Pé is put behind the Sampov

Behind the person concerned or the Sampov, the Achar places the Pé Romdoh Kroh (Ph. 46), which is an offering made to spirits (to get rid of misfortune). The Pé is thrown away after the rite in a suitable direction, according to the Achar’s suggestion, and coffin also is burned. This rite represents the death of the person concerned, and also his

rebirth.

- Srauch Toek, or Ablution

Here, the monks sprinkled water on Prof. Ishizawa (Ph. 47). The meaning here is not too different from that mentioned above, which was simply for cooling, since the weather in Cambodia could be hot. However, it was also done to get rid of impurities.



Ph. 47 Ablution

- Rap Bat, or putting rice into the bowls of the monks, which are arranged in a row. This

is usually done in every Buddhist ceremony. It is simply meant to offer food to the monks, and the persons who provide the food would accumulate merit (Ph. 48).

- Offering the requisites to the monks

Here the meaning is as same as providing food to the monks, which again meant that the providers would accumulate merit (Ph. 49).

- At the end of the ceremony, Prof. Ishizawa offered some gifts to the Achars and old villagers who had prepared and helped during the ceremony, as a sign of gratitude to all of them (Ph. 50).



Ph. 48 Rap Bat



Ph. 49 Offering the requisites



Ph. 50 Offering gifts to Achars and villagers

List of Khmer Words

Transcription	Khmer Character
Achar	អាចារ្យ
Angkar Snang	អង្ករស្នង
Bak Sbeak	បកស្បែក
Bay Sei	បាយសី
Bay Srei	បាយស្រី
Bay Srei Paccham	បាយស្រីបច្ចាម
Baray Toek Thla	បារាយទឹកថ្លា (បារាយណ៍ទឹកថ្លា)
Ben Bat	បិណ្ឌបាត
Bon Pachai Buon	បុណ្យបច្ច័យបួន
Chak Chek	ចាក់ចេក
Chhak Maha Bangskol	ឆាកមហាបង្សកូល
Chamroeun Ayu	ចម្រើនអាយុ
Chan Sok Kiri Sot	ចន្ទសុក្រឹតិសុត្រ
Chivor	ចិវ
Chlang Vei	ឆ្លងវ័យ
Chom	ជម
Chunhching	ជញ្ជីង
Kilean Phesacheak	គីលានភេសជ្ជៈ
Kok Thnot	គោកត្នោត
Kre Snaeng	គ្រែស្នង
Kru	គ្រូ
Loek Tung	លើកទង់
Mochous	មឈូស
Neang Konghing	នាងគង្គីង
Pé	ពៃ
Pé Romdoh Kroh	ពៃរំដោះគ្រោះ
Pithi	ពិធី
Pithi Prong Poli	ពិធីប្រុងពលី
Phiti Sot Moan	ពិធីសូត្រមន្ត
Phleng Khmer	ភ្លេងខ្មែរ
Phnom Khsach	ភ្នំខ្សាច់
Pradakśina	ប្រទក្សិណ
Praken Yeakou	ប្រគេនយាគូរ
Randap	រណ្តាប់
Rap Bat	រាប់បាត
Romloek Kun Kru	រំលឹកគុណគ្រូ
Rup Snang	រូបស្នង
Sampov	សំពៅ
Sastra	សាស្ត្រា
Sena Sanak	សេនាសនៈ
Snang	ស្នង
Srauch Toek	ស្រោចទឹក

The Activities of the Sophia Mission in Cambodia since 1979

— Conservation and Restoration of the Western Causeway of Angkor Wat
and Development of Human Resources —

Satoru MIWA
Assistant Professor, Sophia Asia Center Sophia University

The 3rd SEAMEO SPAFA International Conference on South East Archaeology
10:30-11:00 on 17th June 2019 (Bangkok), Opening Ceremony, Keynote-Lecture-2

1. The Founding Spirit and Educational Ideals of Sophia University

Sophia University was founded in 1913 in the city of Tokyo in Japan, as a fruit of the desire of the Jesuit missionary Francis Xavier, who arrived in Japan in 1549 in order to propagate Christianity. The University was founded based on the tradition of the Jesuit educational ideal, namely “Men and Women for Others, with Others.” What this means is, we need to “utilize our talents not just for ourselves, but for the benefit of others as well,” and to aim at “self-realization through the service of others.”

Education at Sophia University is set up on the ideals of neighbourliness and internationalism, based on Christian humanism. Students ponder over human dignity, and deepen their grasp of it. At the same time they seek human security and world peace, through the study of international relations, environmental issues, human rights, and other related topics.

2. Roots of the Sophia Mission

The roots of the Sophia Mission date to 1961. Three Jesuits of that period, namely Professor P. Riestch of Japan and two others, formed a student exchange program known as AUVIT. The first batch of students belonging to this body appeared in 1961, from Sophia University. On that occasion, while addressing students who were about to graduate, Professor P. Riestch declared that as he was scheduled to conduct an intensive course of lectures at a university in Vietnam, those interested were welcome to join him. Those who joined him included a student named Mr. Yoshiaki Ishizawa.

Accordingly, seven students including Mr. Yoshiaki Ishizawa responded to his invitation, and set out on their respective journeys. Professor P. Riestch frequently admonished them with the words,

“We will hereafter enter the age of Asia, and so be sure take a good look at the Asian reality around you.” However, four years later in 1965 the Vietnam War began. It continued until 1975, but the resulting confusion and fighting in Cambodia stretched on from 1970 to 1993.

From 1961 onwards Mr. Yoshiaki Ishizawa remained at the site in Cambodia, and began his study of the history of the Angkor dynasty. He later became a professor at Sophia University, and served as the university’s President from 2005 to 2011.

3. The Practices of the Sophia Model

Our Sophia Asia Center for Research and Human Development adopted the name ‘Sophia Mission,’ and carried out a variety of activities in Cambodia over a period of 20 years. I now wish to look back on the background surrounding the commencement of the ‘Sophia Mission.’

Cambodia was embroiled in a civil war that lasted 24 years, until 1993. In 1979, Fr. Giuseppe Pittau S.J. who at the time was president of Sophia University, carried out fund raising activities for Cambodian refugees. He stood in front of Shinjuku station in Tokyo, and solicited alms on their behalf. In 1980, Professor Yoshiaki Ishizawa re-entered Cambodia to conduct research on Angkor Wat and to search for Cambodian friends whose whereabouts were unknown, and he noticed that people were indeed drained owing to the horrors of the war.

Angkor Wat is a symbol of unity for the people of Cambodia, and besides, it appears on the national flag. It is Angkor Wat alone that can provide the Cambodians with the courage and hope they require. We of the Sophia Mission have faith in the ability of the Cambodian people to carry out the work of conservation on their own, and we have accordingly been actively engaged in the development of Cambodian human resources.

When the Royal University of Fine Arts in Phnom Penh (hereafter RUFA) re-opened in 1989, both the department of Archaeology and Architecture were suffering from a serious lack of teachers. In response to this situation, we of the Sophia Mission started intensive lectures for the students at RUFA, from 1991.

4. Projects in Angkor

a) Intensive lectures at RUFA (1991-)

Intensive lectures for RUFA students of the departments of Archaeology and Architecture have been conducted since 1991, and training has also continued until now.

b) Research and training at Banteay Kdei (1989-)

Sophia University started archeological research at Banteay Kdei in 1989, and since 1991 we have been conducting the training of RUFA students. In 2015, we constructed the Sophia Angkor Center for Cultural Heritage Education, in the temple.

c) On-site training of students of RUFA (1991-)

Along with the intensive lectures conducted in Phnom Penh, we have carried out training at the site in Siem Reap, since 1991. The training sites are Banteay Kdei and the Western Causeway of Angkor Wat. In addition to learning the theory, the expertise we offer the students is characterized by practical training and experience at the sites, such as excavation and restoration work.

d) Sophia Asia Center Headquarters (1996-)

The headquarters building was erected in Siem Reap in 1996. It is used as a front base for all the projects.

e) Conservation of the Western Causeway of Angkor Wat (1996-)

In 1993, Professor Yoshiaki Ishizawa received a request from the Royal Government of Cambodia, regarding the restoration of the northern half of the Western Causeway of Angkor Wat. Sophia University began the Conservation and Restoration Project in 1996, in collaboration with the APSARA Authority that was created in 1995. The first phase was completed in 2007, and the second phase has been going on since 2016.

f) ISO 14001 (2003-)

In 2006, the APSARA Authority acquired the ISO 14001 certification, from the International Organization for Standardization (ISO). This was done with the support of certain institutions, including Sophia University from 2003.

g) Construction of the Museum (2006)

The Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum was constructed between the years 2005 and 2007 by Sophia University, with the financial support of the AEON 1% club. The 274 Buddhist statues excavated at the Banteay Kdei site in 2001, are displayed there.

h) International Workshop (2014-)

For three years from 2014, Sophia University held workshop with experts on archaeological preservation from five countries of South East Asia. The five countries are Thailand, Vietnam, Myanmar, Laos and Cambodia.

Since 2017, we have held workshop with museum experts from 10 ASEAN countries. We aim to further develop the network construction and relationship strengthening among the stakeholders in the future.

5. Conservation Project of the Western Causeway of Angkor Wat

a) Introduction

In 1993, Professor Ishizawa received a request from the Cambodian government asking him to restore the northern part of the Western Causeway, and accordingly the project was begun. In the same year, Sophia University started the architectural survey, and in the following year the training of masons was begun. At that time, there were few architectural engineers and skilled masons, and it was impossible to start the project at once, due to a lack of Cambodian human resources. That the project began with problems regarding all aspects, namely people, goods, and funds, is undeniable. We of Sophia University have held high the ideal that “Angkor Monuments in Cambodia should be restored by Cambodians, for Cambodians.”

b) Restoration work of the past

On the Western Causeway, there are traces of restoration that appear to have been done prior to the French colonial period (1863-1953). However, the exact restoration date is unclear, due to a lack of supporting documents. It has been pointed out that restoration works may have been done when Angkor Wat was restored in the 16th century.

On the other hand, many French-led maintenance and restoration traces from 1908 to the 1960's are visible, and many text and photo records by EFEO (Ecole française d'Extrême-Orient) remain. They constitute a valuable discovery.

According to records, two major restoration works were conducted. Due to heavy rains in 1952, the northern part of the Western Causeway collapsed over 50 meters. The first major restoration work was conducted between 1953 and 1954, and the second was conducted between 1960 and 1966. French conservators had achieved a lot of work, despite the tropical rain and difficult environs within the dense forests of Angkor.

c) Restoration work supported by Sophia University

1st Phase (1996-2007)

In August 1996, Sophia University and the APSARA Authority held a ground-breaking ceremony for the Restoration of the Western Causeway. The target area for the restoration was 100 meters from the terrace to the end, on the northern half of the Western Causeway. The retaining wall was completely dismantled and rebuilt, because damage at the bottom of the retaining wall was severe. We carried out the restoration work using the traditional construction method, and carried out structural reinforcement with traditional materials, inside the retaining wall. We completed the first phase in November 2007. By means of this project we trained architectural engineers and masons, and at the same time continued training the students. Experts and masons with experience at the Western Causeway, are now active in various restoration sites in the Angkor area.

2nd Phase (2016-present)

Following the ICC recommendation in December 2012, the APSARA Authority applied to the Japanese government for ODA equipment. Cranes and other equipment for restoring the Western Causeway were provided to Cambodia in late 2015. On the other hand, Sophia University has since 2013 set up the “Committee on technical exchange and training for the Western Causeway Restoration,” to prepare for restoration work on the causeway. The target area of the second phase of the restoration is 100 meters from the entrance to the terrace on the northern half of the causeway. In May 2016, the APSARA Authority held a ground-breaking ceremony, for the second phase restoration of the causeway. In response to the rise in the number of tourists, a temporary floating bridge 200 meters long on the moat, was set on the south side of the causeway by the APSARA Authority. The main operator of the second phase is the APSARA Authority, and the role of Sophia University is to provide technical assistance to them. Sophia University will continue to support the Apsara Authority, while also continuing discussions with UNESCO experts at the ICC.

上智大学 SOPHIA UNIVERSITY
新教が世界をつなぐ

Keynote Lecture 2

The Activities of the Sophia Mission in Cambodia since 1979

- Conservation and Restoration of the Western Causeway of Angkor Wat and Development of Human Resources -

Satoru Miwa
Assistant Professor
Sophia Asia Center for Research and Human Development
Sophia University, Tokyo
17 June 2019

Slide-01



Satoru Miwa
Assistant Professor
Sophia Asia Center for and Human Development
Sophia University, Tokyo

1997-1999
1999-present

Research at Angkor monuments
Working in Siem Reap, Cambodia
In charge of most projects by Sophia University. In particular, conservation of the Western Causeway of Angkor Wat and human resource development in the field of architecture.

Slide-02



Yoshiaki Ishizawa
Director of the Sophia Center for Research and Human Development, Sophia University



1960's Visit to Angkor
1980 Re-visit to Angkor
1991- Human Resource Development Project
2005-2011 President of Sophia University
2017 Ramon Magsaysay Award

Slide-03



Slide-04

Contents

1. The founding Spirit and Educational Ideals of Sophia University
2. Roots of the Sophia Mission
3. The practices of the Sophia Model
4. Projects in Angkor
5. Conservation Project of the Western Causeway of Angkor Wat

Slide-05

1. The founding Spirit and Educational Ideals of Sophia University

Slide-06

The founding Spirit of Sophia University

The University was founded based on the tradition of the Jesuit educational ideal, namely **"Men and Women for Others, with Others."** What this means is, we need to "utilize our talents not just for ourselves, but for the benefit of others as well," and to aim at "self-realization through the service of others."

Slide-07

2. Roots of the Sophia Mission

Slide-08

Roots of the Sophia Mission

In 1961, Prof. P. Riestch declared that as he was scheduled to conduct an intensive course of lectures in Vietnam, those interested were welcome to join him. Those who joined him **included a student named Mr. Yoshiaki Ishizawa.**

Slide-09

Roots of the Sophia Mission

Prof. P. Riestch :
"We will hereafter enter the age of Asia, and so be sure take a good look at the Asian reality around you."

Slide-10

Roots of the Sophia Mission

From 1961 onwards Mr. Yoshiaki Ishizawa remained at the site in Cambodia, and began his study of the history of the Angkor dynasty.



He later became a professor at Sophia University, and served as the university's President from 2005 to 2011.



Slide-11

Roots of the Sophia Mission



Professor Yoshiaki Ishizawa received a Ramon Magsaysay Award (31 August 2017)

Slide-12

Roots of the Sophia Mission



Prof. Ishizawa at the ICC Meeting, Technical Session, Siem Reap, Cambodia (11 June 2019)

Slide-13

3. The practices of the Sophia Model

The practices of the Sophia Model



Fr. Joseph Pittau, who at the time was president of Sophia University, carried out **fund raising activities for Indochina-refugees** in front of Shinjuku station, Tokyo (1979)

(Photo: Sophia univ.)

Slide-15

The practices of the Sophia Model



Angkor Wat and National Flag of Cambodia (present)

Intensive Lectures by Prof. Ishizawa (1991-)

Slide-16

4. Projects in Angkor

Slide-17

a) Intensive Lectures at FUFA(1991-)

1991-1997 Lectures at FUFA, Phnom Penh
1991-present On site training, Siem Reap



Intensive Lectures by Prof.Ishizawa (1991-)

Slide-18

b) Research and Training at Banteay Kdei (1989-)

1989-present Archaeological Research at BK



Excavation Training (1990's)

Excavation Training (1990's)

Slide-19

"Cultural Heritage Education"



Elementary school students (1999, B.Kdei)

Junior high school students (2014, A.Wat)



Local resident (2014, B.Kdei)



Junior high school students (2018, B.Kdei)

Slide-20

Sophia Angkor Center for Cultural Heritage Education (2014, Banteay Kdei)



Slide-21

c) On site training of students of RUFA (1991-)

1991-1997 Lectures at FUFA, Phnom Penh
1991-present On site training, Siem Reap



Banteay Kdei (1990's)

Western Causeway (2015)

Slide-22



Slide-23

d) Sophia Asia Center Headquarters (1996-)



Erected in 1996 (Siem Reap)

Slide-24

e) Conservation of the Western Causeway of Angkor Wat (1996-)



Ground Breaking Ceremony for Phase 1 (August 1996)



Completion Ceremony for Phase 1 (November 2007)

Slide-25

f) ISO 14001 (2003-2006)
EMS : Environmental Management System)



Display of ISO 14001 on the admission ticket to Angkor

Slide-26

g) Construction of the Museum (2006-)

2000-2001 274 Buddhist statues were excavated at BK. 2007 Inauguration of the Museum



Erected in 2007 (Siem Reap)



Excavation in 2001 (Photo: Tsugusato Omura)

Slide-27

h) International Workshop (2014-)
2014- Mekong Cultural Heritage workshop
2017- ASEAN Museum workshop



Dr M.R. Rujaya Abhakorn, Centre Director of SEAMEO-SPAFA (Sophia Asia Center, Cambodia)

Slide-28



Mekong workshop (Aug 2015, Sophia Center)



Museum workshop (Nov 2017, Sophia Center)

Slide-29



Museum workshop (Nov 2018, Sophia Asia Center in Cambodia)

Slide-30

5. Conservation Project of the Western Causeway of Angkor Wat

Slide-31

Angkor Wat (2015)



Slide-32



Slide-33



Slide-34

a) Introduction of the project

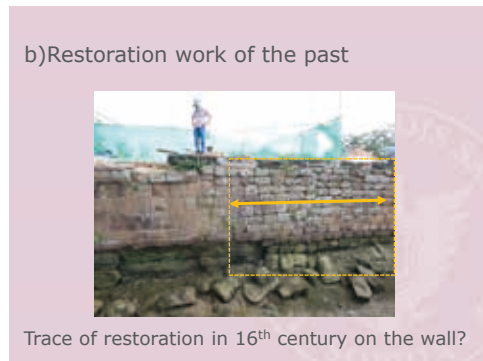
1993 Received a request from Cambodia
Started Architectural Survey

1994 Started training of mason

1996 Ground Breaking ceremony for phase 1

Sophia University have held high Ideal that
"Angkor Monuments in Cambodia should be restored by Cambodians, for Cambodians"

Slide-35



Slide-36



Slide-37



Slide-38



Slide-39

c) Restoration work supported by Sophia University

Phase 1 (1996-2007)

1993 Received a request from Cambodia
Started Architectural Survey

1994 Training of mason

1996 Ground Breaking for phase 1

2007 Completion of Phase 1

Slide-40



Slide-41



Slide-42



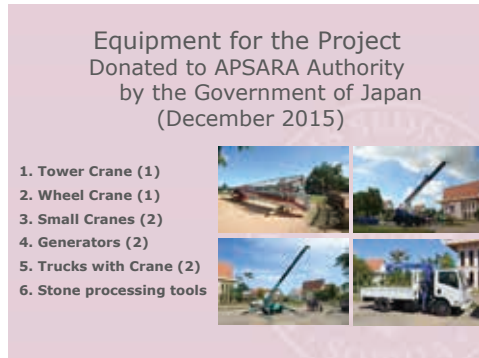
Slide-43



Slide-44



Slide-45



Slide-46



Slide-47



Slide-48

APSARA Authority closed the Western Causeway for the restoration work and opened the floating bridge for the visitor to Angkor Wat.
(From 25 May 2017)



Slide-49

Angkor Wat Western Causeway Phase-2



Slide-50



Director General of UNESCO
Visited the causeway site
(December 4, 2018)

Slide-51

The founding Spirit of Sophia University
"Men and Women for Others, with Others."

Philosophy of Sophia Mission
"Angkor Monuments in Cambodia should be restored by Cambodians for Cambodians."

Slide-52



Angkor Wat is a symbol of Cambodian culture, development and peace.

Slide-53

Conclusion

We think that **basic education** including cultural heritage education is the most important for the protection of the cultural heritage with a long-term view.

In other words, **what is important is human resources.**

Slide-54

Conclusion

Sophia University will continue its activities

in the field of human resource development

for the cultural heritage in Asia, regardless of the nationalities or borders.

Slide-55



Slide-56

日本国政府文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業

『東南アジア 5 カ国における
文化遺産保存のための拠点交流事業』

成果報告書概要（平成26～28年度）

General Information on Reports of “Activities for Exchanges in International Cooperation
for the Conservation of Cultural Heritage within Five nations of Southeast Asia” (2014～2016)

石澤良昭

上智大学アジア人材養成研究センター所長

吉田桃子

上智大学アジア人材養成研究センター研究員

第1章 拠点交流事業の報告（レジュメ）

1 交流事業の目的

上智大学は海外校舎として1996年にカンボジアのアンコール・ワット近くに上智大学アジア人材養成研究センター（以下「アジア人材センター」）を建設した。カンボジアでは24年間（1970～1993年）にわたり内戦が続き、とくにポル・ポト政権（1975～1979年）下で知識人の大虐殺があり、フランス語が話せるカンボジア人保存官（Conservator）30数名が行方不明となった。アジア人材センターはこうしたカンボジアの文化遺産保護の窮状を支援するため開設され、「カンボジア人による、カンボジアのための、カンボジアの遺跡保存修復」を国際協力の哲学に掲げ、今日まで20数年にわたり人材養成を継続している。

〈本プロジェクトの目的〉

東南アジア5カ国（カンボジア、タイ、ミャンマー、ラオス、ベトナム、2016年からインドネシアが参加）、6遺跡（アンコール、スコータイ、アユタヤ、ワット・プー、バガン、チャンパー）を対象に、①保存・修復分野における最近の修復の事例報告（カントリー・レポート）。②遺跡現場に共通するレンガ、雨水、植物、カビ等の損壊要因の検討。③ローカルでかつて使用の伝統的技法の再開発。④「発掘」および「保存修復」に関する5カ国の修復技術の研修とIC機器情報の共有。⑤5カ国の現場の事例報告の共通課題（人材・資金・技法・政策的位置づけ・啓蒙教育等）を討議。⑥参加することで得られる専門分野の知見、技術の情報、理論武装などの成果。⑦東南アジア版南南協力を日本が先導。⑧修復現場の人的情報ネット・ワーク構築。

2 なぜ東南アジア5カ国（カンボジア・タイ・ミャンマー・ラオス・ベトナムの6遺跡）の文化遺産を対象とするのか

①東南アジア5カ国はこれまで、かつての旧宗主国の保存修復技術と方法論を踏襲してきた（カンボジア・ラオス・ベトナムはフランス式、ミャンマーはイギリス式、タイは英仏混合式）。②これら植民地時代における保存修復手法は、旧宗主国主導のもとに西洋的観点やその技術手法に基づき行われてきた。③タイを除き4カ国では植民地時代のため人材養成教育の欠如。現地の伝統的技法を軽視、また住民に対する文化遺産教育などはなかった。④このような歴史的経緯を踏まえ、本拠点交流事業は、5カ国の若い現場保存官たちが、保存修復中のアンコール遺跡の現場を査察し、質疑応答、⑤こうした現場査察から東南アジア的感性を実感し、互いに共鳴し、技術情報を共有できる機会となった。⑥東南アジア5カ国の現地保存官のワークショップは、これまでの東南アジアにおいては実施されてこなかった文化遺産修復プロジェクトであり、⑦大きな特色は日本が南南協力を先導する実践的文化遺産の提案者であった。

3 文化遺産保存修復研修における多大な学術・技術面の成果

(1) 日本が支援する東南アジア版文化遺産国際協力モデル構築に向けて：

本プロジェクトは、5カ国の若い現場の保存官たちが、保存修復の作業事例を発表し、意見の交換を行い、これをまとめることで、東南アジア版文化遺産国際協力モデル事業であった。具体的には、①東南アジア特有の湿潤な熱帯気候に適した石材・レンガの保存修復技術とその方法論と技術の共有、②土着の伝統的な石材加工技法、石張り技術、施工技法の復元研究、③5カ国の共通課題である雨水・カビ・植物、レンガ、石材劣化などを意識した調査・研究・修復の方法論と技術の構築、④遺跡遺物およびホテル等の建設による開発遺物等の展示公開とサイト・ミュージアムの検討、⑤こうした諸問題を日本支援により5カ国専門家が共同で討議し、東南アジア版文化遺産国際協力モデルを構築に向けて第一歩となった。

(2) 東南アジア文化遺産を通じて各国の民族アイデンティティへの構築に向けて：

B. アンダーソン（『想像の共同体』）が言うように、アイデンティティを持つためには、その国内の多くの地域を巡り歩き、文化遺産を踏査するような「巡礼」が効果的である。具体的には、文化遺産現場での研修やカントリー・レポートの発表を通じて、①東南アジアに共通する各遺跡の空間構成と土着的宗教観の検討、②建材と石材（ラテライト、煉瓦、砂岩など）、石積み技法論の検証、③建物身舎の浮彫に記された造営時の石材加工情報のメッセージとそのパネル解説、④宗教宇宙観を模した各宗教都城の比較検討、⑤功德に基づく労働奉仕をする村落の研究、⑥雨季と乾季を踏まえた環濠と水処理の問題を議論した。こうした諸課題の検討により、参加者は東南アジア文化共同体意識の醸成に努め、アセアンの文化的民族的骨組と東南アジア文化アイデンティティの構築を進めていくプロジェクトであった。

(3) 東南アジア版の保存・修復マスタープラン構築：

①5カ国の専門家たちによる東南アジア版文化遺産修復研究：

5カ国6カ所の文化遺産（バガン、スコータイ、アユタヤ、ワット・プー、チャンパー、アンコー

ル)の共通課題(雨水、カビ、植物、石材劣化、高い熱と強い太陽など)について特別講義の中でとり上げ、現場担当者の経験に立脚した保存・修復・研究について討論を行った。

②東南アジア5ヵ国風マスタープランに向けて：

遺跡現場は主な文化遺産をハード(遺構建築等)、テクニク(保存科学術等)とソフト(建材劣化・地衣類研究等)とアカデミック(熱帯アジア版調査研究方法論)のための資料・図面・地図等を5ヵ国に共通資料とする地道な共同作業を続けるため、情報ネット・ワークを構築する件の賛成を得ることができた。

③東南アジア基層文化に立脚した文化遺産形成の学術的解明：

6遺跡の保存修復問題から派生する東南アジア的基層文化を具体化した遺跡内出土品等を解明する作業は、その地域の古代・中世の村の生活を復元することにつながる。有史以来近隣のインド文化等の受け入れ、触発された土着的諸儀礼が独自の国風文化遺産の基盤をつくり出したと考えられる。そうした基層文化の結晶として民族の国風「文化遺産」(寺院等)が建立された。「東南アジア文化アイデンティティ」の結晶が文化遺産であり、この拠点交流事業は、この民族のレゾン・デトルを裏付けるための地道な地域啓発プロジェクトであった。

(4) 日本人の新しいアジア観構築に向けて：

これら東南アジア5ヵ国の文化遺産関係者との交流・協力を通じて、これまでの日本人の「脱亜入欧観」を改める形で、東南アジア諸国への理解と関心とが深まり、新しいアジア観の構築につながった。

4 交流事業の実施体制

日本の提唱による東南アジア5ヵ国の6遺跡(2016年からボロブドール遺跡を加えた)に関する保存修復担当の諸機関との連携を通じて、5ヵ国の若い現場の保存官たちがアンコール遺跡においてカンボジア人の保存修復の作業を査察、質疑応答(水、植物、石材劣化、その技法等)を行い、参加者は東南アジア的感性の共感と共鳴が実感できたプログラムであった。

・拠点交流事業・実施場所：

上智大学アジア人材養成研究センター(上智大学海外校舎、カンボジア王国シェムリアップ市)。建物は2階建て280平方メートル、敷地4800平方メートル、考古研修室、建築研修室有

・研修遺跡：

アンコール・ワット(建築学系)およびバンテアイ・クデイ寺院(考古学系)。講義・特別講演、カントリー・レポートの発表・ディスカッション等はアジア人材センターの大ホール

・拠点交流事業の期間：

平成26・27・28年度8月(雨季)の8日間、平成26・27・28年度2月(乾季)の7日間(合計15日間)の年2回にわたり実施した。

雨季実施期間		乾季実施期間	
平成26(2014)年度	8月13日~20日	平成26(2014)年度	2月8日~14日
平成27(2015)年度	8月13日~20日	平成27(2015)年度	2月8日~14日
平成28(2016)年度	8月11日~18日	平成28(2016)年度	2月8日~14日

・検討課題：

平成 26 年度：水問題と遺跡

平成 27 年度：植物と遺跡

平成 28 年度：レンガの劣化

・教授陣と研修担当者：

東南アジア文化遺産学：石澤良昭（上智大学教授）、考古学：丸井雅子（上智大学教授）、建築学：三輪悟（上智大学研究員）、ラオ・キム・リアン（上智大学研究員）、美術史学：久保真紀子（日本学術振興会研究員）、ミャンマー考古学：ウ・ニユン・ハン（SEAMEO-SPAFA、ミャンマー考古局元局長）、カンボジア民族学：アン・チュリアン（カンボジア王立芸術大学教授）、東南アジア文化論：ルジャヤ・アブラカーン（SEAMEO-SPAFA 局長）、カンボジア考古学：リ・ヴァンナ（APSARA 機構局長）、ボロブドール修復論：イブラヒム・ムラナー（インドネシア教育文化省局長）、他現地在住カンボジア人専門家による特別講演。

・参加者：

5 カ国の文化省・大学・機関等が推薦する若手担当者・研究者各国 2 名、合計 10 名。実務歴 3 年以上を想定した保存官が推薦され、26 年 20 名、27 年 21 名、28 年 20 名（以上、のべ総数）が集まり、実践面における有益なカンントリー・レポートが報告され、多大の学益と新基軸が共有できたプロジェクトであった。

・使用言語：

主として英語、補助言語としてカンボジア語・日本語。

第 2 章 参加者によるカンントリー・レポートの概要

1. 平成26年度（テーマ：「水問題と遺跡」）

（1）第 1 回：平成 26 年度 8 月（雨季）13 日～20 日（計 8 日間）実施

（ア）各参加者のカンントリー・レポート概要

〈1〉 **“Cultural Heritage in Myanmar”**: Mr. Tin Htut Aung, Tutor, Department of Archaeology, University of Yangon

ミャンマーが抱える問題点、すなわち、①現場の監視員から専門家に至るまであらゆる層にわたる人材不足が提起された、②資金不足、③中・長期的な人材養成プログラムの欠如、④住民への周知や近隣住民の不参加等といった点を指摘したほか、一般的に（政府の指針として）、修復・保全活動よりも、調査・発掘活動に重点が置かれ、1998 年に「文化遺産地区の保護・保全に関する法律」が制定されたにもかかわらず、その実効性が乏しく遺跡から発掘された出土遺品が考古闇市場で流通しているといった現状の問題点などを指摘した。

〈2〉 **“Cultural Heritage Management in Myanmar”**: Dr. Than Htike, Deputy Director, Department of Archaeology and National Museum

ミャンマーにおける考古学の発展の経緯と歴史について、①ミャンマーの考古学は、まず、コンバウン朝時代のボードーパヤー王（1782 年～1819 年）が歳入調査のため、各地方

から石碑を収集したのが始まりとし、②その後、1902年に英人インド総督カーゾン卿（Lord Curzon）によってビルマの考古学調査が組織化され、ビルマの行政機構がインドへ編入された期間（1919年～1937年）におけるC. Duroiselleによる考古学調査において全盛期を迎えたことなどを紹介した。

〈3〉 **“Actual Situation of Cultural Heritage Conservation/Management in Thailand”**: Vasu Poshyananda, ph.D office of Architecture, Fine Arts Department

タイでは、約100年前に、“Act on Monuments, Ancient Objects, Art Objects and National Museums”という名の文化遺産保護に関する法律が制定された。当時王立博物館の責任者であったDamrongrajnubhap王子（ダムロン親王）によって“Monuments”の定義づけがなされた（ここでは、歴史的・考古学的・芸術的価値ある、あらゆる不動の財産を意味する）が、タイの一般人の認識（古代の遺跡や遺物に限定される）に齟齬が生じたため、保存・修復の方針をめくりさまざまな問題（①“Monuments”に該当するとされると、国の管理下のもと、厳しい規制がかかるため、保存と開発をめくり所有者との対立が生じたこと、②国の文化遺産として登録されていない建物やそれほど古くない建物が（芸術的価値が認められるにもかかわらず）取り壊しの危険にさらされていることなど）が生じていることなどを紹介した。

〈4〉 **“Conservation and Restoration Issue In OC EO BAT HE and GO THAP Archaeological Complex (Vietnam)”**: Mr. Nguyen Hoang Bach Linh, Mr. Nguyen Nhut Phuong, Researcher, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies

ベトナム南部の2大遺跡（オケオ・バテ遺跡とゴサップ遺跡）を紹介したうえで、保存・修復に際し、現在抱えている諸問題（調査・発掘活動が定期的になされていない、技術不足といった研究に関する現状の課題、地域の自治体が遺跡の保護・修復についての十分な理解・関心が欠如しているといった管理に関する問題、遺跡周辺の住民による身勝手な土地開発や遺物の闇取引への関与といった人的要因、洪水、湿気、植物の繁茂といった環境的要因）について報告があった。

〈5〉 **“The Actual Conservation of the National archaeological sites in Long An Province, Viet Nam”**: Ms. Nguyen Phuong Thao, Long An Museum

ベトナムが主要な遺跡において現在抱えている保存・修復上の最も重要な問題は、資金不足、すなわち、多くの遺跡が所在する土地は国ではなく私人の所有地であり、遺跡の保存・修復活動を行う際には、その前にその土地の所有者に対して多くの補償金を支払わなければならない、といった現状の問題点を報告した。

〈6〉 **“Cultural Heritage in Laos”**: Mr. Sybounheuang Phimmasenh, Department of Heritage, Management Office of Vat Phu Champasak

ラオスが抱えている遺跡修復上の諸問題、すなわち①植物（カビ、コケ等）の繁茂、②火車やごみ対策といった遺跡管理上の問題、③新建築物（ホテル・個人の家屋など）の出現、道路・灌漑施設の建設、観光客の増加等によるラオスの伝統的な生活スタイルや遺跡の景観

が損なわれる恐れがあることなどが報告された。

(イ) 参加者の感想および評価概要

第1回では、アンコール遺跡の保存修復現場・博物館・保存修復を担当するアプサラ機構等を視察し、遺跡の修復現場を査察し、保存技術や問題点について活発なディスカッション等意見交換を行った。参加者たちは自国の文化遺産の保存の現状報告と同時に現在困却している問題点をあげて討議した。加えてカントリー・レポートからは、各国の現場が直面している課題が報告され、文化遺産分野の情報ネット・ワーク構築に向けて多大の成果をあげた。

具体的には、①遺跡の修復・保全分野における人材不足、②財源不足、③海外の研究機関との連携といった人材養成開発プログラムの欠如、④文化遺産保護に関する有効な法的整備の欠如、⑤国内における保存科学といった科学的研究機関の不足、等東南アジア各国に共通する諸問題を探り出し、議論した。他にも、例えばラオス参加者（Mr. Phimmasenh Sybounheuang）からは、開発経済政策に伴う圧力、すなわち、道路建設・ダム建設・都市開発に伴う新建築物の出現、さらに好ましからざる旅行ツアー客の登場等に伴い、遺跡への損傷が危惧されるといった緊急報告もされた。これら専門分野の諸問題は、東南アジア各国の遺跡の修復現場の専門家皆が抱えている共通課題でもある。こうした問題について互いに認識し意見を交わすことで、自国へ帰った際にも、ここで提起された重要課題は今後の情報ネット・ワーク化によって事例が報告された。今後相互に解決策を求め、情報交換のネット・ワークを構築していく機会を得られた意義深いワークショップであった。

(2) 第2回：平成26年度2月（乾季）8日～14日（計7日間）実施（テーマ：「水問題と遺跡」）

(ア) 各参加者のカントリー・レポート概要

① **“Conservation issues at Halin Pyu Ancient City (World Cultural Heritage Site) in Myanmar”**: Dr. Than Htike, Deputy Director, Site Manager of Halin Pyu Ancient City

ハリンの位置、歴史、考古学遺物、遺跡の損傷原因等を説明したほか、ミャンマーにおける考古学部門における修復のミャンマー式の手法を説明した。

② **“Man and Water: How Ancient Myanmar Societies Managed the Hydraulic Works for their Prosperity”**: Mr. Tin Htut Aung, Tutor, Department of Archaeology, University of Yangon

先史時代から銅・鉄器時代、ピュー時代、バガン時代に至るまでの当時のミャンマー社会の繁栄を支えた排水システムの構築作業について解説し、現状を報告した。かねてからの水利システムが機能し、ミャンマー社会の食糧問題についての貴重な報告であった。

③ **“Flood: Crisis and Opportunity in the Presentation of the Values of Ayutthaya”**: Dr. Vasu Poshyanadana, Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department

アユタヤ時代の水経路システムや洪水の原因について説明した。また、洪水の水はあらゆる方向から侵入するため、ある特定の遺跡現場における洪水の防御壁を設けることは必ずしも効果的でないことなどを指摘した。

〈4〉 **“Cat Tien Archaeological Complex Site The Risks and Solutions for Preservation”**: Mr. Nguyen Khanh Trung Kien, Mr. Nguyen Hoang Bach Linh, Center for Archaeological Studies Southern Institute of Social Sciences, Vietnam

ベトナムのカ・ティン遺跡の地理、そこで発見された建築物跡や遺物などを紹介した。加えて、洪水の危険性やドン・ナイ川上流に建設された水力発電ダムについて言及し、それが一時的に遺跡への水の侵入を防ぐ機能を果たしているものの、なお、そこから溢れ出る洪水の危険にさらされているとの現状を指摘した。

〈5〉 **“Effects of Rainwater and Collecting Experiences of the Consolident Products for the Stone and Brick Built Materials of Cultural Heritage”**: Ms. Nguyen Phuong Thao, Long An Museum, Vietnam

雨水のもたらす遺跡建築物への影響について、すなわち石を接合している有機物やレンガへの構造的影響や化学的影響について説明した。水の侵入や損害を防ぐためには、化学物質の散布など化学的手法を用いるべきだと提案した。

〈6〉 **“Water Management at Vat Phou World Heritage Site”**: Mr. Khamseng Vongsy, Ms. Orlany Phanthavong, Department of Heritage, Ministry of Information Culture and Tourism, Lao PDR

遺跡の地理、自然、地形について言及しながら、ワット・プーにおける雨水の問題、現在どのようなになっているか、とくに排水システムなどについて説明した。

(イ) 参加者の感想および評価概要

第2回では、遺跡修復保存に関する事項の中でも、水（雨水、洪水、自然湧出等）が遺跡に与える問題について、よりテーマを水問題に具体化してワークショップを開催した。

参加者全員で踏査した遺跡現場のうち、ロリュオス遺跡群においては、雨水を原因とする寺院の劣化が著しい状況にあるため、リ・ヴァンナ博士は現在アプサラ機構による修復中である旨解説した。参加者によるカントリー・レポートの報告場面では、例えば、タイの参加者（Dr. Poshyananda Vash）による発表において、近年の洪水の影響やアユタヤ地方における古代の排水システムの崩壊などが報告された。また、同氏は遺跡修復調査において、建立当時のレンガの方が、現代において修復により新たに設置されたレンガより耐久性に優れていることが判明した旨の調査報告がなされた。他方、ベトナムの参加者（Ms. Nguyen Phuong Thao）からは、雨水など水漏れ等による遺跡の劣化に対しては、化学的手法を適用すべきでないか、例えば撥水剤の塗布はどうかという意見も呈示された。さらに、Mr. Nguyen Khanh Trung Kien ならびに Mr. Nguyen Hoang Bach Linh との共同発表の場では、近年の経済開発の進行などが原因で雨季における洪水発生の危険がさらに高まっており、これら水害の危険に遺跡がさらされているといった問題提起の現状報告もされた。

以上のように、2月のワークショップにおいては、水問題に関して、①古代の伝統的な修復技法（例えばレンガ石積みの構造や材質、排水システム等）についてより調査を進めることで劣化防止に有効な対策が発見しうること、②近年東南アジア各地において進行している

開発等を原因とする人為的な水害に対しても何らかの対策を講じていく必要があることの共通の理解と認識を得ることができた。母国に帰ったあとも、互いに解決策を求めることができる出会いの機会が得られた、意義深いワークショップであった。

2. 平成27年度（テーマ：「植物と遺跡」）

(1) 第3回：平成27年度8月（雨季）13日～20日（計8日間）実施

(ア) 各参加者のカントリー・レポート概要

(1) **“Hydrology of the Pyu Ancient Cities with a Special Focus on Halin”**: Mr. Arkar Aye, Junior Staff Officer, Division of World Heritage Sites (Halin), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture, Myanmar

古代都市ピュー時代の遺跡のハリン地域における水源問題と排水システムの調査ならびに貯水池として使用された古代の池水と堤防の構築方法などを報告した。地元に住み込み、多年にわたる地道な調査報告であった。

(2) **“Cultural Heritage Management in the World Heritage Pyu Ancient City Beikthano”**: Mr. Yan Aung, Junior Staff Officer, Department of Archaeology and National Museum, Myanmar

ピュー王朝時代の古代都市群の1つであるベイツタノー遺跡に焦点を当てて、ミャンマーの文化遺産管理について報告した。これまで軍事政権のため出入口が制限され、地元のミャンマー人専門家が保護活動を遂行してきた報告であった。

(3) **“The Restoration of the Original meaning of the Historic Site”**: Mr. Pongthorn Hiengkaew, Fine Arts Department, Ministry of Culture, Thailand

遺跡を建造当時の本来の歴史的建造物の意味において修復することの重要性を提起し、タイ国内の各修復の事例を引用しつつ、詳解し、保存の意味を問う貴重な報告であった。

(4) **“Conservation Work on the Historical City of Ayutthaya”**: Mr. Surayoot Wiriadamrong, Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture, Thailand

近年頻発している洪水による遺跡の被害を事例として、ドイツ国際チームの支援を受けて進行しているアユタヤ古代都市の修復活動について報告した。人類の文化遺産という視座から国際共同事業としての意義が強調された。

(5) **“Champa Architectural Vestiges (Central Vietnam) Conservation and Promotion of Vestige Value”**: Mr. Nguyen Hoang Bach Linh, Researcher, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies, Vietnam

チャンパー王国時代の遺跡修復活動の現状を述べたうえ、①地元の住民をはじめ、一般の人々に文化遺産の役割と価値をより明確に認識させていくこと、②中央から地方にいたるまで専門家スタッフの専門能力を改善させていくこと、③国際チームとの連携を強化し、最新情報を入手し、それに基づき科学的手法を確立し、それに裏付けられた研究を進めていくこと、④ベニス憲章に基づいた修復計画を適宜導入し、実現していくこと、⑤経済開発との調

和を図ることの必要性といった今後の課題を報告した。

- 〈6〉 **“Salvage Excavation on the Souvannakhomkham Ancient City in Lao PDR Mekong Cultural Heritage International Workshop in Southeast Asia 2015”**: Ms. Manila Khamphoumy, Staff officer, Archaeological Division, Ministry of Information, Culture and Truism, Laos

ラオス人民共和国の成立（1975年）以降の修復活動について、短く報告したのち、現在の南ラオス・チャンパサックのワット・プー遺跡の近くのSouvannakhomkham古代都市の発掘を報告した。具体的には、第1回の調査（1993年実施）では、約7メートルの高さがある巨大な仏陀を発見し、ユネスコ支援のもと、第2回調査では、GPSを用いてより詳細な調査を実施したこと、その後の調査においてもさまざまな仏教関連の遺物が発見されていること等を報告した。しかしながら、未だなぜこの古代都市が衰退・消滅したのかその理由は明らかになっていない。調査資金の不足といった課題があるものの、調査を続けていく必要があると結論づけた。

- 〈7〉 **“Conservation and Management for Plain of Jars Archaeological Landscape in Xieng Khouang Province, Laos”**: Mr. Khamleun Aphayavong

ジャール平原（“Plain of Jars”）の最近の調査結果を報告し、将来にわたる遺跡の修復計画について、①遺跡の重要性を認識すること、②遺跡周辺の景観や人々の生活・文化を保護していくこと、③適切な管理と観光に従事する人への教育・訓練を実施すること、④観光に訪れる人のための適切な施設を建設することなどを発表した。

- 〈8〉 **“Conservation Activities of Department of Conservation of Monuments Outside Angkor Park”**: Dr. Chhean Ratha, Acting Director of the Department, APSARA National Authority, Cambodia

アンコール遺跡公園外の遺跡における修復・保全活動について、建築学の見地からのアプローチ（リスク・マップに基づき、危険度の高いものから順に支柱作業を進めること）や考古学の見地からのアプローチ（ゾーニング（保存区）の設置）を紹介した。また、近年の問題として、遺跡周辺の森林の違法な伐採やごみの不法投棄問題、遺跡周辺から発見された新しい遺物の破壊行為などが報告され、その対策として、①植林といった森林の保護活動、②地域コミュニティに対して遺跡教育啓蒙活動の必要性、③盗掘対策などの法整備、④司法の関与といった解決策を呈示した。

- 〈9〉 **“Angkor International Center of Research and Documentation”**: Dr. Tin Tina, Deputy Director, Angkor International Center of Research and Documentation, APSARA National Authority, Cambodia

アプサラ機構成立の簡単な経緯とその内部機構の概略、同氏が現在所属しているアンコール国際センター（Angkor International Center of Research and Documentation）における活動内容について報告があった。

- 〈10〉 **“Conservation Works on Heritage in Cambodia Stone Conservation of the Wall of the**

Angkor Thom Temple”: Mr. Mao Sokny, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA National Authority, Cambodia

アンコール・トムにおける保存・修復活動の事例をもとに、遺跡の保存・修復においては、伝統的な材料を用いた修復の必要性ならびに地域住民への遺跡の重要性とその理解を促進させるための啓蒙活動・協力が不可欠であることを発表した。

(イ) 参加者の感想および評価概要

8日間のプログラムでは、保存・修復という「モノ」に関わる側面と、技能者の研修という「ヒト」に関する側面の課題が、同時に並行して報告され、現場において討論が行われた。アンコール遺跡7カ所の保存修復現場・博物館・関係機関等を視察し、カンボジア側の現場担当者から直接報告を受け、それに対して参加者側から保存技術や問題点について活発なディスカッションが行われた。

参加者たちは自国の文化遺産の保存の現状報告（カントリー・レポート）と同時に、現在困難に直面している問題事例を発表・討議し、さらに担当する遺跡について「なぜ修復するのか」という理論武装と技術問題の課題、さらに国の文化政策との位置づけなど現場担当者の立場から私見を交えて現場の担当者であると同時に責任者であり、住民や関係者への説明者であった。それ故に、各国がどのように対応しているかについて関心があり、専門家同士の議論の中身が注目された。を発表した。何よりも現在の東南アジアの遺跡に共通する石材の劣化、レンガの強度問題、諸課題、さらに、例えば雨水問題、植物・カビ、観光客の増加とそのマナーなどの問題について議論を行い、解決方法または他国の事例に助言を求めたワークショップでもあった。

さらに、今回の特別講演において保存修復の際には、文化遺産としての「オーセンティシティー（真正性）」や「インテグリティ（完全性）」を維持することの重要性について議論が行われた。参加者は本ワークショップにおいて、文化遺産の保存においては、その文化遺産としての「価値」を失わないため、これら2点が重要であるといった知識を確実に身につけたと言える意義深いワークショップであった。

(2) 第4回：平成27年度2月（乾季）8日～14日（計7日間）実施（テーマ：「植物と遺跡」）

(ア) 各参加者のカントリー・レポート概要

〈1〉 **“Risk Mapping for Monuments in World Heritage Site Sri Ksetra”**: Mr. Kyaw Myo Win, Deputy Director, World Heritage Division, SRIKSETRA Ancient Pyu city, Myanmar

2015年に世界遺産に登録されたシュリ・ケトラのリスク・マップの発表、ピュー古代都市として存在した主たる遺跡（ハリン、ヴェイッタノー、シュリ・ケトラ）を併せて紹介するとともに、これら都市遺跡に影響を及ぼすさまざまなリスク要因について詳細な発表であった。

〈2〉 **“Some Issues at Halin Related to Plants and Trees”**: Mr. Arkar Aye, Junior Staff Officer, Department of Archaeology and Natinal Museum, Ministry of Culture, Myanmar

ハリン遺跡地区にあるタウヤグ僧院 (Tawyagu Monastery) やパンベワミン仏塔群 (Panbewunmin Stupa Complex) はそこに自生する植物により損傷を受けていた。それらは、例えば、バニアン (Banyan tree)、マンゴー (Mango)、カッチ (Cutch)、アカシア (Acacia)、カボック (Silk Cotton Tree) 等といった樹木による損傷を受けていることを報告した。現在、週1回の除去作業と月1回のモニタリング活動を行っているが、未だ対策としては不十分であり、長期的な除去作業の戦略を練る必要がある。巨木などを伐採した際に、遺跡にどのような影響を及ぼすかなど検討する必要がある、各国の事例を求める質問であった。やはり、熱帯の植物の問題は大きな課題である。

〈3〉 **“Plants and Monument; Plants in Buddist’s Temple (Bangkok City)”**: Mr. Surayoot Wiriadamrong, the Fine Arts Department, Ministry of Culture, Thailand

「植物と遺跡：バンコクにある仏教寺院における植物」と題して、バンコク市内に自生するゴータマ・ブッダの大きな菩提樹 (Bodhi Trees) について紹介し、仏教と菩提樹の組み合わせは近隣の仏教徒には評判が良いとの報告であった。

〈4〉 **“Issues of Leaving Plant Growth on Ruins Fabric and its Impact”**: Ms. Manatchaya Wajvisoot, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture, Bangkok, Thailand

「遺跡に自生する植物の成長とそれが遺跡に及ぼす影響」と題してスコタイ歴史公園ワット・スリ・チャムにあるアカーナ仏像に自生したコケ等の植物除去作業の経緯を報告し、実践的な作業として注目された。

〈5〉 **“The Cultural Protection in Lao PDR; Case of Renovation works of Hor Prakeo Mueums”**: Ms. Soukphachanh Khamphasouk, Ms. Bounyord Boundylat, Department of Heritage Ministry of Information, Culture and Tourism, Lao PDR

ラオスの首都ヴィエンチャンの中心地にあるホー・プラケオ寺院の歴史の概略を説明したのち、2015年に始まった修復活動 (屋根・壁・床の修復と新しい電力システムの導入) について報告し、今後植物問題をどうするかを議論していくこととなった。

(イ) 参加者の感想および評価概要

第4回は、「植物と遺跡」についてよりテーマを特化し、文化遺産に対して植物がどのように影響を与えているか、また、植物による脅威から文化遺産をどのように守るべきかを議論した。巨木により損傷を被っている寺院の現状を視察 (タ・プロム寺院など) し、リ・ヴァンナ博士よりその詳細な保存・修復作業が報告されるなどした。カントリー・レポートの場面では、各参加者より、遺跡とその周辺に自生する植物の成長ならびにそれらが遺跡に及ぼす影響などの事例の報告がなされた。この根本問題に関連して、遺跡に自生する巨木等の伐採に関する各機関の指針、樹木に宿る地元住民の精霊信仰 (ナッ)、樹木の伐採ならびに樹木による被害を受けた仏教寺院の保存に関する法律などについて議論が交わされた。

東南アジア特有の湿潤な亜熱帯気候のもとで植物の繁茂 (成長) は著しく、とりわけ現場視察においては、ガジュマルの1種であるスアポンなどによる遺跡への浸食の被害が

多くみられた。これら植物による遺跡の損傷を食い止めるための対策を早急にとられなければならないことが5カ国の専門家間の共通認識となった。しかし、タイの参加者（Ms. Manatchaya Wajvisoot）からは、他方でこれら植物の繁茂も含めた寺院・遺跡の景観（例えば、前述のタ・プローム遺跡やタイのワット・マハタートなど）は一種独特の情緒的な宗教の雰囲気を選び、自然が生み出す芸術と称されていることも事実であり、このため、国内においては、これら植物を除去することについて、一般の愛好家、ないしこれを観光資源と考える人からの反対意見も根強く存在するという意見が発表された。これら植物の影響から遺跡をどう保護していくか、また、植物と遺跡の景観との調和をどのように図っていくか、といった東南アジア特有の気候風土や人々の考え方に基づいた保存修復がまさに必要であることを認識できた意義深いワークショップであった。

3. 平成28年度（テーマ：「レンガの劣化」）

（1）第5回：平成28年度8月（雨季）11日～18日（計8日間）実施

（ア）各参加者のカントリー・レポート概要

〈1〉 **“Country Report on the Cultural Heritage Excavation and Conservation Site at Winka Ancient City, in the Mon State of Myanmar”**: Mr. Zaw Min Aung, Department of

Archaeology and National Museum, Ministry of Religious Affairs and Culture, Tutor, Myanmar

ウインカ（Winka）村における調査発掘成果を紹介し、将来計画として、①文化遺産の文化的役割を学び、②文化遺産の保存方法に係る国際的知見や経験を各地の遺跡事例から学び、それを同僚・後輩に伝えて行きたい。さらに、③地方在住の人は、文化遺産保存・管理に関する知識に乏しい。自分が地方に行って、文化遺産保存教育を通じて地方の文化遺産に係る啓蒙と意識向上に貢献したい旨の発表であった。

〈2〉 **“The Role of Significance of Mural Paintings and Stucco Conservation Bagan Cultural Heritage Region”**: Mr. Aung Zaw Min, Department of Archaeology and National Museum,

Ministry of Religious Affairs and Culture, Myanmar

バガンにおける壁画の修復活動の重要性を説明し、将来における課題として、現地の人ならびに国際社会からの①資金援助の必要性、②修復に必要な機材と設備等の必要性を呼びかけた。

〈3〉 **“Report Relating to the Applicant’s Achievements in Archaeological Heritage Conservation”**: Ms. Manatchaya Wajvisoot, Conservation Architect, Office of Architecture, **Fine Arts Department, Thailand**

「タイにおけるレンガ遺跡の修復」と題して、主に2009年、プラ・ラング寺院（Prang Luang Temple）の遺跡内に自身が新しい寺院（シェルターの役割を果たす新しい建造物としての寺院）を設計したこと、ならびにその成果点として、①遺跡の価値や重要性を次世代に可能な限りそのままの状態で伝えることができること、②神聖な仏陀像を盗難や開発による破壊の脅威から守ることができること、③建物外部の損壊を軽減できること、④昔と現代

の建築様式と明確に区分できるが、なお（外観の）調和を保っていることを報告した。

- 〈4〉 **“Sima: Buddhist Monastery Boundary Stone in the Region of King Monkut (King Rama IV)”**: Mr. Surayoot Wiriadamrong Architect, Office of Architecture, the Fine Arts Department, Thailand

「ラーマ4世時代のセーマ（結界）：仏教僧院の石の結界」と題して、ラーマ4世が当時、タイの人達のために多くの寺院を建立し、その寺院そのものが公立の学校や地域のコミュニティーの場として機能していたことを紹介するとともに、セーマの建築様式・形式やその意味を調査したことを報告した。

- 〈5〉 **“The Prehistory of Southeastern Vietnam and the Link with the Mekong Region”**: Mr. Dang Ngoc Kinh, Mr. Nguyen Ngoc Hong, Center for Archaeological Studies, Southern Institute of Social Sciences, Vietnam

先史時代の南ベトナムの歴史をメコン地域との関わりを絡めて紹介したうえで、今後の課題として、①より緻密な調査と比較研究の促進、②文化人類学・動物考古学・古植物学・文化遺産保存学といった総合科学的分野を融合したうえでの研究促進、③GIS（地理情報システム）を用いたデータ蓄積とその活用を促進することといった今後の課題を報告した。

- 〈6〉 **“World Heritage Site Protection-Vat Phou Champasak and the Excavation Site-”**: Mr. Chanphenh Phommavandy, World Heritage Office of Vat Phou, Champasak, Laos

近年（2015年～2016年）の自身の活動として、ノン・ディン・シー（Nong Din Shi/MALONG Mountain）におけるフランス極東学院（EFEO）との共同での調査活動結果について、①7世紀頃、ヒンドゥー教を信仰するクメール人によって栄えた地域で、建築様式はサンボール・プレイ・クック様式と同様のものであること、②チャンパ（現在の南ベトナム地域）とドヴァーラヴァティー王国（現在のタイ北東地方）の影響を強く受けていることなどを報告した。

- 〈7〉 **“Applications of 3D Laser Scanning Technology for Recording Data and Reserves Documenting Culture Heritage in Indonesia”**: Mr. Brahmantara, Ministry of Education and Culture Directorate General of Culture Borobudur Conservation Center, Indonesia

文化遺産の記録・データ収集方法について、いくつか紹介したうえで、現在急速に普及しつつある3Dレーザースキャニングによる方法が①文化遺産の記録・データ収集方法としてとても効果的であること、②遺跡の傾きや崩壊の程度を調べて遺跡の構造の安定性を監視するのにとても効果的であること、③被写体に触れることなくダメージを与えない、すなわち崩壊し危険な状況にある建物の状況を調べるのにとても効果的であることなどを報告した。

- 〈8〉 **“Bakong, Brick Tower 8 Under Intervention”**: Mr. Tann Sophal, Department of the Conservation of the Monuments inside the Angkor Park and Archaeology Preventive (DCMA) APSARA National Authority, Cambodia

カンボジア国内における遺跡修復の歴史とそれに関係する国・国際機関についての概要を述べたうえで、現在進行しているバコンの修復工事の過程について詳細に報告した。

〈9〉 **“Conservation and Restoration Works on the Cultural Heritage in ANGKOR”: Mr. Mao Sockny, Technical Staff, APSARA Authority, Cambodia**

ラージェンドラヴァルマン2世によって建立された東メボンの歴史を紹介したうえで、植民地時代におけるフランス極東学院（EFEO）による修復の歴史と近年 APSARA 機構独自に修復作業が進められているクメール伝統工法を用いた北側・西側基壇の修復過程について報告した。

(イ) 参加者の感想および評価概要

本年度のテーマである「レンガの劣化」問題に関連して、たんに文献上の知識を得るだけではなく、より実践的にレンガの修復作業の現場を視察した。具体的には、西参道修復現場での石材の加工作業ならびにクメール伝統方式による地面の版築作業、プラサット・バコン寺院での伝統的なモルタルの精製方法の実見やモルタルを用いたレンガの積み上げ作業などを体験した。これにより、伝統的工法に基づく修復作業の事実を確認・実見することができ、出席者全員とても貴重な経験を享受できたといえる。

カントリー・レポートの発表では、ミャンマーの出席者（Mr. Zaw Min Aung）が報告の最後で、ミャンマーは未だ発展途上国であり、天然資源や人的資源の利用方法については、国際社会の専門家との意見交換や海外への人材派遣を通じて模索中であること、これら文化遺産が現在でもミャンマーに存在しているのは、国際社会の支援・協力にはかならない旨心から謝意を表していたことはとても印象深いものであった。

出席者はこのワークショップで得た講義や専門分野の現場踏査の報告から、自国に帰ったときに今後の現場で活用できるノウハウを取得できたと確信する。まさに、東南アジアの「南南協力」の文化遺産版成果であった。

(2) 第6回：平成28年度2月（乾季）8日～14日（計7日間）実施（テーマ：「レンガの劣化」）

(ア) 各参加者のカントリー・レポート概要

〈1〉 **“Deterioration of the Brick Structures in Sri Ksetra”: Mr. Zaw Min Aung, Field School of Archaeology (Pyay), Department of Archaeology and National Museum, Myanmar**

ピイのスリ・クシェトラ遺跡におけるレンガの劣化について、①生物（コケ・カビ・菌類）を原因とする劣化の繁殖や遺跡内部の穴などに生息する昆虫類、鳥、コウモリといった生物による被害、②開発（例えば、地元の農家が主食とする米栽培より商品価値のある農作物の耕作への移行により、地中深くまで耕作を行い、地中に埋まっている遺物や遺跡周辺の伝統的な風景が破壊されている）を原因とする劣化などを報告した。

〈2〉 **“Conservation and Restoration of the brick Monuments in Bagan”: Mr. Aung Zaw Min, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Religious Affairs and Culture, Myanmar**

バガンにおける2種類の寺院（先端に装飾が施されたベル（円錐）型寺院、ならびに大きな空間が内部に設けられた主に仏陀を安置するための寺院）を紹介したうえで、①バガン王

朝時代に始まった修復、②バガン王朝以降の各王朝における修復、③イギリス植民地時代における修復、④独立後から現代に至るまでの修復の歴史⑤1975年大地震以降の修復作業とその現状（ドリルを用いて穴をあけ、鉄棒を挿入のうえで、モルタルを流し込んで補強する手法、建物の外部から鉄を巻いて補強する手法）などを報告した。

〈3〉 **“Effects of Environment Change in Bangkok on Brick Masonry Historic Monuments”**:

Mr. Pongthorn Hiengkaew, Office of Architecture, Fine Arts Department, Thailand

1957年以降、寺院周辺にコンクリート製の建物が増え、地盤も舗装されたことから、雨季における水の吸収が損なわれてしまったこと、舗装により寺院周辺の海拔が上がり、寺院が相対的に低い土地に位置することとなったため、洪水による寺院への被害が拡大したことなどを報告した。この対策として、①寺院周辺の土地の海拔を下げ、土地の舗装を水を吸収しやすい素材に代えること、②排水効率をより向上すべく寺院の排水システムを新たに構築することなどを報告した。

〈4〉 **“Types of Bonds in Brick Masonry Construction of Stupa in Ayutthaya, Thailand (14th-18th century)”**: Mr. Luedthai Panuwat, Office of Architecture, Fine Arts Department, Thailand

14世紀～18世紀にかえてアユタヤ地方に建築された仏舎利塔（ストゥーパ）におけるレンガ接合に用いられた素材（石灰、粘土）、レンガの形状、積み上げの様式などについて報告した。

〈5〉 **“Religious Architecture in Oc Eo Culture in Mekong Delta: Values and Conservation”**:

Dr. Nguyen Quoc Manh, Center for Archaeological Study, Southern Institute of Social Sciences, Vietnam

5世紀から10世紀頃に栄えたオケオ文化と宗教の変遷（ヴィシュヌ信仰からシヴァ、仏教へ）、遺跡崩壊の原因（盗掘、地下水の増加、湿気、政府と学術機関との連携不足）、今後の課題（利害関係機関の協力強化、化学的・物理的構造の調査研究推進、環境調査等）について報告した。

〈6〉 **“Excavation Survey Brick of Nongdinchea Archaeological Site of Malong Mountain at Champasak Province”**: Ms. Soukphachanh Khamphasouk, Ministry of Information, Cultural and Tourism Department of Heritage

カンパサック州におけるマロン山ノングディンチャ考古遺跡発掘現場において調査・発見されたレンガについて、報告した。

〈7〉 **“Ancient City of Shestrapura and Brick Monuments”**: Mr. Chanphenh Phommavandy, World Heritage Office of Vat Phou, Champasak, Laos

「古代都市シストラピュラとレンガの遺跡」と題して、その地理・歴史、新たに調査された遺跡の構造、遺物の状況について報告した。

〈8〉 **“BAT CHUM Temple Presentation of the studies and works carried out Projections of the works in the future”**: Mr. An Soheap, Department of Conservation of Monuments inside Angkor Park and Archaeology Preventive

バッチェン寺院の修復作業を事例に、修復のための準備段階として、文献調査・構造調査・応急処置の作業について紹介するとともに、第2の修復作業段階としてさらなる詳細な構造調査を行うことなどを紹介した。

⑨) **“Brick Temples of Koh Ker Site”**: Mr. Phin Phakdey, Department of Monument and Archaeology, National Authority for Preah Vihear, Cambodia

10世紀初めにアンコール王朝の首都であったコー・ケーに点在するレンガ造りの寺院を複数紹介するとともに、現在の修復・保全作業について報告した。

(イ) 参加者の感想および評価概要

参加者は今年度のテーマである「レンガの劣化」に関する問題を第5回ワークショップ後に本国へ持ち帰って再調査した。各国のデータを持ち寄り、カントリー・レポートとして発表し、討論を行った。8月の乾季調査と同様の出席者同士が再会する機会でもあった。前回以上に出席者同士の親睦が深まると同時に、各国に存在する遺跡修復に関して現在直面しているレンガの劣化といった課題についての共通の理解をさらに深めることができた。また、近年多発している地球規模の問題（温暖化による雨季における洪水の多発、地震災害等）について、各国がどのように対処すべきかなども併せて議論し、東南アジア地域が抱えている共通の問題（資金不足、技術者不足、理念の欠如、政府の方針不明など）について各国事情を知ると同時にそうした負の職場状況の認識を共有することができた。何よりも参加者同士が、何かあればお互いに相談できる（情報交換など）という人的信頼のネット・ワークが構築できた。さらに一歩進めて、修復技術の東南アジア版情報ネット・ワークが構築できたとても意義深いワークショップであった。

第3章 出席者（氏名・国名）およびコーディネーター、特別専門分野講演テーマと報告者リスト （集合写真）

(1) 平成26年度8月実施

① コーディネーター

石澤良昭教授（上智大学）, Mr. Nyunt Han (SPAFA),
Mr. Ang Choulean (APSARA Authority/Royal University of Fine Arts)

② キーノート・スピーチ

H.E. Mr. Bun Narith, Director General, APSARA Authority

③ 出席者（氏名・国名）

Mr. Tin Htut Aung, Mr. Than Htike（ミャンマー2名）

Mr. Poshyanandana Vasu（タイ1名）

Mr. Nguyen Hoang Bach Linh, Mr. Nguyen Nhut Phuong, Ms. Nguyen Phuong Thao（ベトナム3名）

Mr. Phimmaseh Sybounheuang, Ms. Phanthavong Orlany（ラオス2名）

Dr. Ly Vanna, Dr. Chhean Ratha, Mr. Mao Sokny（カンボジア3名）

④ APSARA 表敬訪問時総裁

H.E. Mr. Bun Narith

(2) 平成 26 年度 2 月実施

① コーディネーター

石澤良昭教授 (上智大学), Mr. Nyunt Han (SPAFA), Mr. Ang Choulean (APSARA Authority/
Royal University of Fine Arts)

② 出席者 (氏名・国名)

Mr. Than Htike, Mr. Tin Htut Aung (ミャンマー
2 名)

Dr. Poshyanandana Vasu (タイ 1 名)

Mr. Nguyen Hoang Bach Linh, Mr. Nguyen Khanh Trung Kien, Ms. Nguyen Phuong Thao (ベ
トナム 3 名)

Mr. Khamseng Vongsy, Ms. Phanthavong Orlany (ラオス 2 名)

Dr. Ly Vanna, Dr. Chhean Ratha (カンボジア 2 名)



(3) 平成 27 年度 8 月実施

① コーディネーター

石澤良昭教授 (上智大学), Mr. Nyunt Han (SPAFA), Mr. Ang Choulean (APSARA Authority/
Royal University of Fine Arts)

② キーノート・スピーチ

Dr. M. R. Rujaya Abhakorn (Center Director, SEAMEO-SPAFA)

H.E. Mr. PRAK SONNARA (Director General of Heritage, Ministry of Culture and Fine Arts,
Cambodia)

③ 出席者 (氏名・国名)

Mr. Arkar Aye, Mr. Yan Aung (ミャンマー 2 名)



Mr. Hiengkaew Pongthorn, Mr. Surayoot Wiriyadamrong (タイ 2名)

Mr. Nguyen Hoang Bach Linh (ベトナム 1名)

Mr. Khamphoumy Manila, Mr. Phouthong Phongxayphonh, Mr. Khamleuan Aphaiyavong, Mr. Siliphoum Sommuek (ラオス 4名)

Dr. Chhean Ratha, Dr. Tin Tina, Mr. Mao Sokny (カンボジア 3名)

④ APSARA 表敬訪問時総裁

H.E. Mr. Bun Narith

(4) 平成 27 年度 2 月実施

① コーディネーター

石澤良昭教授 (上智大学), Mr. Nyunt Han (SPAFA),

Mr. Ang Choulean (APSARA Authority/Royal University of Fine Arts)

② 出席者 (氏名・国名)

H.E. Mr. Kyaw Oo Lwin, Mr. Kyaw Myo Win, Mr. Arkar Aye (ミャンマー 3名)

Mr. Surayoot Wiriyadamrong, Ms. Manatchaya Wajvistoot (タイ 2名)

Ms. Soukohachanh Khamphasouk, Ms. Bounyord Boundylath (ラオス 2名)

Mr. Tann Sophal, Mr. Mao Socny (カンボジア 2名)

③ APSARA 表敬訪問時副総裁

H.E. Mr. Sok Sangvar



(5) 平成 28 年度 8 月実施

① コーディネーター

石澤良昭教授 (上智大学), Mr. Nyunt Han (SPAFA), Mr. Ang Choulean (APSARA Authority/Royal University of Fine Arts)

② キーノート・スピーチ

H.E. Prak Sonnara (Director General, Ministry of Culture and Fine Arts),

H.E. Kim Sedara (President, National Authority for Preah Vihear),



H.E. Ros Borath (Deputy Director General, APSARA Authority)

③出席者（氏名・国名）

Mr. Aung Zaw Min, Mr. Zaw Min Aung（ミャンマー 2名）

Ms. Manatchaya Wajvisoot, Mr. Surayoot Wiriyadamrong（タイ 2名）

Mr. Dang Ngoc Kinh, Mr. Nguyen Ngoc Hong（ベトナム 2名）

Ms. Soukphachanh Khamphasouk, Mr. Phommavandy Chanphenh（ラオス 2名）

Dr. Maulana Abdurahim Ibrahim, Mr. Brahmantara（インドネシア 2名）

Mr. Tann Sophal, Mr. Mao Sokny（カンボジア 2名）

④ APSARA 表敬訪問時副総裁

H.E. Mr. Sum Map

（6）平成 28 年度 2 月実施

①コーディネーター

石澤良昭教授（上智大学），Mr. Nyunt Han (SPAFA), Mr. Ang Choulean (APSARA Authority/
Royal University of Fine Arts)

②出席者

Mr. Aung Zaw Min, Mr. Zaw Min Aung（ミャンマー 2名）

Mr. Hiengkaew Pongthorn, Mr. Luedthai Panuwat（タイ 2名）



Ms. Soukphachanh Khamphasouk, Mr. Phommavandy Chanphenh (ラオス 2名)

Dr. Nguyen Quoc Manh (ベトナム 1名)

Mr. An Sopheap, Mr. Phin Phakdey (カンボジア 2名)

③ APSARA 表敬訪問時副総裁

H.E. Mr. Mr. Sum Map

講演・特別講演・写真

(1) 平成 26 年度 8 月講演者・特別講演者

- 〈1〉 “National Symbol of Angkor Wat and Cambodian Culture” by Dr. Ang Choulean
- 〈2〉 “Angkor Tourism Management Plan” by Mr. Sok Sangvar, APSARA Authority
- 〈3〉 “Angkor Enviromental Management System, ISO14001” by Dr. Lao Kim Leang
- 〈4〉 “Cultural Heritage and Tourism: Some issue from Myanmar” by Prof. Nyunt Han, SEAMEO-SPAFA

(2) 平成 26 年度 2 月講演・特別講演

- 〈1〉 “Protection of Stone –Heritages in Southeast Asia” by Dr. Kunikazu Ueno, Nara Woman’s University
- 〈2〉 “Rehabilitation of Ancient Hydraulic System for better Water Management in Angkor World Heritage Site and Siem Reap City” by H.E. Mr. Hang Peou Deputy Director General, APSARA National Authority
- 〈3〉 “Heritage Monuments vs Rain Water-Case study from Myanmar ancient cities” by Prof. Nyunt Han



(3) 平成 27 年度 8 月講演・特別講演

- 〈1〉 “The Multifaceted Link Between Tangible and Intangible Heritage” by Dr. Ang Choulean
- 〈2〉 “Conservation of Cultural Heritage at Archaeological Sites (Some examples from Myanmar World Heritage Pyu Ancient Cities)” by Prof. Nyunt Han



- 〈3〉 “Understanding Authenticity and Values in Angkor” by Dr. Ly Vanna
- 〈4〉 “Conservation and Restoration Project of the Western Causeway of Angkor Wat Phase II” by Mr. Satoru Miwa
- 〈5〉 “Sophia’s Projects at Banteay Kdei” by Prof. Masako Marui
- 〈6〉 “On the Conservation of the Stone Heritage of South-East Asia” by Prof. Kunikazu Ueno, Nara Women’s University

(4) 平成 27 年度 2 月 講演・特別講演

- 〈1〉 “Angkor Tourism Management Plan (TMP)” by H.E. Sok Sangver, APSARA Authority
- 〈2〉 “Preservation and Conservation of Stone Monuments at Mrauk-U, Rakhine State” by H.E. Mr. Kyaw Oo Lwin, Director General, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture, Myanmar
- 〈3〉 “Two regions Two types of abstract divinities” by Dr. Ang Choulean
- 〈4〉 “Mekong Cultural Heritage International Workshop” by Dr. Tin Tina, APSARA National Authority, Cambodia
- 〈5〉 “The Development Process of the Structural Technique in Khmer Brick Architecture: A Focus on the Remains of the Religious Brick Towers from the Pre-Angkor to the Beginning of the Angkor Period” by Dr. Chhean Ratha, Acting Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA National Authority, Cambodia



- 〈6〉 “Report on the Activities of Preservation and Conservation of Monuments in Cambodia”, by Mr. Kim Sothin, Director, Department for the Safeguarding and Preservation of Monuments, Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia
- 〈7〉 “Preparedness for Mitigation of damages and deterioration of ancient monuments by plants and trees” by Prof. Nyunt Han, SEAMEO-SPAFA
- 〈8〉 “Syncretic Layout of Sacred Images in Preah Khan, Angkor: Focusing on the Bas-reliefs around the Doorways”, by Dr. Makiko Kubo, Researcher, Sophia University

(5) 平成28年度8月講演・特別講演

- 〈1〉 “Archaeology Education: Integrating Archaeologist and Community” by Prof. Masako Marui, Sophia University
- 〈2〉 “The issue of Disaster Preparedness for Cultural Heritage Monuments and Sites in Myanmar” by Prof. Nyunt Han, Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
- 〈3〉 “History of Pre-Angkorian Architecture” by Dr. Ly Vanna, Department of Conservation of the Monuments in Angkor and Preventive Archaeology, APSARA Authority
- 〈4〉 “Religious Syncretism and Kingship of Jayaavrman VII: an Analisis of the Decorative Bas-Reliefs around the Doorways of Preah Khan, Angkor” by Dr. Makiko Kubo, Research Fellow, Japan Society for the Promotion of Science
- 〈5〉 “Conservation and Restoration Project of the Western Causeway of Angkor Wat Phase II ” by



Mr. Satoru Miwa, Field Director, Sophia Asia Center

〈6〉 “Restoration of Borobudur” by Prof. Maulana Abdurahim Ibrahim

〈7〉 “Rural food in Angkor Area- A Rapid Glance from Ancient Cambodia to Today” by Dr. Ang Choulean

(6) 平成28年度2月講演・特別講演

〈1〉 “Earthquakes of Bagan and Emergency Response Works for the Preservation of Bagan Brick Monuments” by Prof. Nyunt Han, SEAMEO-SPAFA

〈2〉 “Candi Borobudur Restoration Project” by Prof. Maulana Abdurahim Ibrahim

〈3〉 “Use of Traditional Materials and Techniques in the Conservation of Brick Monuments in Angkor” Dr. Ly Vannna, Department of Conservation of the Monuments in Angkor Park and



Preventive Archaeology, APSARA Authority

- 〈4〉 “Srei Santhor: Geopolitical Center to the East of Mekong in the 15th -17th Century Cambodia” by Dr. Nhim Sotheavin, Sophia University
- 〈5〉 “Causes of Damages and Some Issues on Conservation of Brick Monuments in Pyu Ancient Cities” by Prof. Nyunt Han, SEAMEO-SPAFA
- 〈6〉 “Yama in Present-Day Cambodia” by Prof. Ang Choulean, APSARA-RUFA

第4章 年度別テーマ・調査遺跡・遠隔地遺跡の調査

	日時	場所	テーマ	現地踏査および現場質疑応答	遠隔地調査
平成26年度	8月13日～20日（雨季） 2月8日～14日（乾季）	上智大学アジア 人材養成研究センター （シエムリアップ市内）	水問題と 遺跡	①タ・プローム寺院、バンテアイ・クデイ遺跡、アンコール・トム、コー・ケー遺跡、ベン・メリア遺跡、タ・ケオ寺院、タ・ネイ寺院 ②ロリュオス遺跡群、プレア・コー遺跡、西バライ、チャウ・スレイ・ヴィヴォル遺跡、クーレン山	①サンポール・ブレイ・クック ②バンテアイ・チュマール
平成27年度	8月13日～20日（雨季） 2月8日～14日（乾季）	上智大学アジア 人材養成研究センター（シエムリアップ市内）	植物と 遺跡	①タ・ケオ寺院、バンテアイ・クデイ遺跡、コー・ケー遺跡、アンコール・ワット西参道 ②タ・プローム遺跡、アンコール・ワット西参道、アンコール・トム城壁、プレア・カン	①バンテアイ・チュマール ②コンボン・スヴァーイー・プレア・カン
平成28年度	8月11日～18日（雨季） 2月8日～14日（乾季）	上智大学アジア 人材養成研究センター（シエムリアップ市内）	レンガの 劣化	①アンコール・ワット西参道、プラサット・パコン寺院、プノン・クーレン遺跡群、ベン・メリア遺跡、バンテアイ・クデイ遺跡 ②アンコール・ワット西参道、アンコール・トム、プラサット・バッチェン、バンテアイ・クデイ遺跡	①サンポール・ブレイ・クック ②プレア・ヴィヘア

第5章 国別参加者リスト

1. ミャンマー

	氏名	役職
平成26年度 8月 第1回	Prof. Nyunt Han	Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Tin Htut Aung	Tutor, Department of Archaeology, University of Yangon
	Dr. Than Htike	Deputy Director, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
平成26年度 2月 第2回	Prof. Nyunt Han	Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Tin Htut Aung	Tutor, Department of Archaeology, University of Yangon
	Dr. Than Htike	Deputy Director, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
平成27年度 8月 第3回	Prof. Nyunt Han	Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Arkar Aye	Junior Staff Officer, Division of World Heritage Sites (Halin), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
	Mr. Yan Aung	Junior Staff Officer, Department of Archaeology and National Museum
平成27年度 2月 第4回	Prof. Nyunt Han	Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Arkar Aye	Junior Staff Officer, Division of World Heritage Sites (Halin), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
	H.E. Mr. Kyaw Oo Lwin	Director General, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
	Mr. Kyaw Myo Win	Director (Site Manager), Division of World Heritage Sites (Sri Ksetra), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture

平成28年度 8月 第5回	Prof. Nyunt Han	Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Zaw Min Aung	Tutor, Field School of Archaeology, Pyay, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
	Mr. Aung Zaw Min	Junior Staff Officer, Department of Archaeology and National Museum (Bagan Branch), Ministry of Culture
平成28年度 2月 第6回	Prof. Nyunt Han	Senior Researcher, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Zaw Min Aung	Tutor, Field School of Archaeology, Pyay, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture
	Mr. Aung Zaw Min	Junior Staff Officer, Department of Archaeology and National Museum (Bagan Branch), Ministry of Culture

(合計19名 (延べ人数))

2. タイ

	氏名 (国名)	役職
第1回	Dr. M.R.Rujaya Abhakorn	Center Director, SEAMEO-SPAFA
	Dr. Poshyanandana Vasu	Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
第2回	Dr. Vasu Poshyananda	Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
第3回	Dr. M.R.Rujaya Abhakorn	Center Director, SEAMEO-SPAFA
	Mr. Pongthorn Hiengkaew	Fine Arts Department, Ministry of Culture
	Mr. Surayoot Wiriyadamrong	Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
第4回	Ms. Manatchaya Wajvisoot	Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
	Mr. Surayoot Wiriyadamrong	Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
第5回	Ms. Manatchaya Wajvisoot	Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
	Mr. Surayoot Wiriyadamrong	Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Ministry of Culture
第6回	Mr. Hiengkaew Pongthorn	Professional Level Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Historic Monuments Conservation Group, Ministry of Culture
	Mr. Luedthai Panuwat	Professional Level Architect, Office of Architecture, Fine Arts Department, Historic Monuments Conservation Group, Ministry of Culture

(合計12名 (延べ人数))

3. ベトナム

	氏名	役職
第1回	Mr. Nguyen Hoang Bach Linh	Researcher, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies
	Mr. Nguyen Nhut Phuong	Researcher, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies
	Ms. Nguyen Pouong Thao	Staff, Long An Museum
第2回	Mr. Nguyen Khanh Trung Kien	Director, Center for Archaeological Studies, Southern Institute of Social Sciences
	Mr. Nguyen Hoang Bach Linh	Researcher, Center for Archaeological Studies, Southern Institute of Social Sciences
	Ms. Nguyen Phuong Thao	Long An Museum
第3回	Mr. Nguyen Hoang Bach Linh	Researcher, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies

第5回	Mr. Dang Ngoc Kinh	Archaeologist, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies
	Mr. Nguyen Ngoc Hong	Researcher, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies
第6回	Dr. Nguyen Quoc Manh	Vice Director, Southern Institute of Social Sciences, Center for Archaeological Studies

(合計10名 (延べ人数))

4. ラオス

	氏名	役職
第1回	Mr. Sybounheuang Phimmassenh	Department of Heritage, Management Office of Vat Phu Champasak
	Ms. Phanthavong Orlany	Department of Heritage, Ministry of Information Culture and Tourism
第2回	Mr. Khamheng Vongsy	Technical Staff, Department of Heritage, Ministry of Information Culture and Tourism
	Ms. Orlany Phanthavong	Technical Staff, Department of Heritage, Ministry of Information Culture and Tourism
第3回	Ms. Manila Khamphoumy	Staff Officer, Archaeology Division, Ministry of Information, Culture and Tourism
	Mr. Khamleun Aphayavong	Deputy of Cultural Section, Department of Information, Culture and Tourism
	Mr. Phouthong Phongxayphonh	Deputy of Cultural Section, Department of Information and Culture
	Mr. Siliphoum Somnuek	Technical Staff (Architect), Department of Heritage, Ministry of Information, Culture and Tourism
第4回	Ms. Soukphachanh Khamphasouk	Technical Staff, Department of Heritage, Ministry of Information, Culture and Tourism
	Ms. Bounyord Boundylath	Technical Staff, Archaeological Division, Ministry of Information, Culture and Tourism
第5回	Ms. Soukphachanh Khamphasouk	Technical Staff, Department of Heritage, Ministry of Information, Culture and Tourism
	Mr. Phommavandy Chanphenh	Staff, Vat Phou Champasak World Heritage Site Office
第6回	Ms. Soukphachanh Khamphasouk	Technical Staff, Department of Heritage, Ministry of Information, Culture and Tourism
	Mr. Phommavandy Chanphenh	Staff, Vat Phou Champasak World Heritage Site Office

(合計14名 (延べ人数))

5. カンボジア

	氏名	役職
第1回	H.E. Mr. Bun Narith	Director General, APSARA Authority
	Dr. Ang Choulean	Professor, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Ly Vanna	Director, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Chhean Ratha	Acting Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA Authority
第2回	Dr. Ang Choulean	Professor, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Ly Vanna	Director, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia

第 2 回	Dr. Chhean Ratha	Acting Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA Authority
第 3 回	H.E. Mr. Prak Sonnara	Director General, Ministry of Culture and Fine Arts
	H.E. Mr. Bun Narith	Director General, APSARA Authority
	Dr. Ang Choulean	Professor, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Chhean Ratha	Acting Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA Authority
	Dr. Tann Sophal	Deputy Director, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority
	Dr. Som Visoth	ACU
	Dr. Tin Tina	Deputy Director, Angkor International Center of Research and Documentation, APSARA Authority
	Mr. Mao Sokny	Staff, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority
	Mr. Kim Sothin	Director, Angkor Conservation Office, Ministry of Culture and Fine Arts
	Ms. Chhom Kunethea	Director, Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum
第 4 回	H.E. Mr. Sok Sangvar	Deputy Director General, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Ang Choulean	Professor, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Ly Vanna	Director, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Chhean Ratha	Acting Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA Authority
	Dr. Tin Tina	Deputy Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Mr. Kim Sothin	Director, Department for Safeguarding and Preservation of Monuments, Ministry of Culture and Fine Arts, Siem Reap, Cambodia
	Mr. Tann Sophal	Deputy Director, Department of Conservation of Monuments inside Angkor Park and Preventive, Archaeology, APSARA Authority
	Mr. Mao Sokny	Staff, Department of Conservation of Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority
第 5 回	H.E. Mr. Prak Sonnara	Director General, Ministry of Culture and Fine Arts, APSARA Authority
	H.E. Mr. Ros Borath	Deputy Director General, Representative of Director General, APSARA Authority
	H.E. Mr. Kim Sedara	President, National Authority for Preah Vihear
	Dr. Ang Choulean	Professor, Royal University of Fine Arts, APSARA Authority
	Dr. Ly Vanna	Director, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Dr. Chhean Ratha	Deputy Director, Department of Conservation of the Monuments outside Angkor Park, APSARA Authority
	Mr. Tann Sophal	Deputy Director, Department of the Conservation of the Monuments inside the Angkor Park and Archaeology Preventive (DCMA), APSARA Authority
	Mr. Kim Sothin	Director, Angkor Conservation Office, Ministry of Culture and Fine Arts
	Mr. Mao Sokny	Staff, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority
第 6 回	Dr. Ang Choulean	Professor, Royal University of Fine Arts, APSARA Authority
	Dr. Ly Vanna	Director, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia
	Mr. Mao Sokny	Staff, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority

第 6 回	Mr. An Sopheap	Staff, Department of Conservation of the Monuments inside Angkor Park and Preventive Archaeology, APSARA Authority
	Mr. Phin Phakdey	Staff, Preah Vihear National Authority

(合計39名 (延べ数))

6. 日本

	氏名 (国名)	役職
第 1 回	Prof. Yoshiaki Ishizawa	Professor, Sophia University
	Dr. Lao Kim Leang	Researcher, Sophia University
	Mr. Satoru Miwa	Researcher, Sophia University
	Mis. Chie Abe	Researcher, Sophia University
第 2 回	Prof. Yoshiaki Ishizawa	Professor, Sophia University
	Prof. Kunikazu Ueno	Nara Woman's University
	Dr. Lao Kim Leang	Researcher, Sophia University
	Mr. Satoru Miwa	Researcher, Sophia University
第 3 回	Ms. Chie Abe	Researcher, Sophia University
	Prof. Yoshiaki Ishizawa	Professor, Sophia University
	Prof. Kunikazu Ueno	Professor, Nara Woman's University
	Prof. Masako Marui	Professor, Sophia University
第 4 回	Dr. Makiko Kubo	Researcher, Sophia University
	Mr. Satoru Miwa	Researcher, Sophia University
	Prof. Yoshiaki Ishizawa	Professor, Sophia University
	Dr. Lao Kim Leang	Researcher, Sophia University
第 5 回	Dr. Nhim Sotheavin	Researcher, Sophia University
	Dr. Makiko Kubo	Researcher, Sophia University
	Mr. Satoru Miwa	Researcher, Sophia University
	Ms. Momoko Yoshida	Researcher, Sophia University
第 6 回	Prof. Yoshiaki Ishizawa	Professor, Sophia University
	Dr. Lao Kim Leang	Researcher, Sophia University
	Dr. Nhim Sotheavin	Researcher, Sophia University
	Mr. Satoru Miwa	Researcher, Sophia University
	Ms. Momoko Yoshida	Researcher, Sophia University

(合計31名 (延べ人数))

IV. アジア人材養成研究センター 出版目録

(1985年2月～2019年3月)

アジア人材養成研究センター出版目録

(1) 研究紀要 (1989.3~2018.10)

書名	発行年月	発行	版	頁
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 1 (カンボジアの文化復興 1)	1989年 3 月	アジア文化研究所 (所長 石澤良昭)	B5	189
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 2 (カンボジアの文化復興 2)	1990年 1 月			252
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 3 (カンボジアの文化復興 3)	1990年10月			335
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 4 (カンボジアの文化復興 4)	1991年 7 月			393
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 5 (カンボジアの文化復興 5)	1991年10月			633
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 6 (カンボジアの文化復興 6)	1992年 3 月			439
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 7 (カンボジアの文化復興 7)	1992年 8 月			317
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 8 (カンボジアの文化復興 8)	1993年 3 月			441
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 9 (カンボジアの文化復興 9)	1994年 2 月			232
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 10 (カンボジアの文化復興 10)	1994年11月			221
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 11 (カンボジアの文化復興 11)	1995年 5 月			アジア文化研究所 (教授 石澤良昭)
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 12 (カンボジアの文化復興 12)	1996年 1 月	286		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 13 (カンボジアの文化復興 13)	1996年 7 月	331		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 14 (カンボジアの文化復興 14)	1997年	377		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 15 (カンボジアの文化復興 15)	1998年	319		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 16 (カンボジアの文化復興 16)	1999年12月	319		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 17 (カンボジアの文化復興 17)	2000年12月	291		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 18 (カンボジアの文化復興 18)	2001年12月	315		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 19 (カンボジアの文化復興 19)	2002年12月	226		
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 20 (カンボジアの文化復興 20)	2003年12月	アジア人材養成研究 センター (所長 石澤良昭)	A4	
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 21 (カンボジアの文化復興 21)	2004年			229
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 22 (カンボジアの文化復興 22)	2006年12月			272
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 23 (カンボジアの文化復興 23)	2008年 3 月			227
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 24 (カンボジアの文化復興 24)	2009年 3 月			274

RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 25 (カンボジアの文化復興 25)	2010年 3月	アジア人材養成研究 センター (所長 石澤良昭)	A4	151
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 26 (カンボジアの文化復興 26)	2011年 3月			111
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 27 (カンボジアの文化復興 27)	2013年 3月			181
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 28 (カンボジアの文化復興 28)	2014年 3月			193
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 29 (カンボジアの文化復興 29)	2016年11月			210
RENAISSANCE CULTURELLE DU CAMBODGE 30 (カンボジアの文化復興 30)	2018年10月			200

(2) 研究報告 (1993.6~2018.3)

書名	発行年月	発行	版	頁
アンコール遺跡を科学する 第1回	1993年 6月	アジア文化研究所 (所長 石澤良昭)	B5	20
アンコール遺跡を科学する 第2回	1993年11月			20
アンコール遺跡を科学する 第3回	1994年 6月			24
アンコール遺跡を科学する 第4回	1995年 1月			32
アンコール遺跡を科学する 第5回	1997年 5月			35
アンコール遺跡を科学する 第6回	1998年 1月			88
アンコール遺跡を科学する 第7回	2000年 2月	アジア文化研究所 アンコール調査室 (所長 石澤良昭)	B5	52
アンコール遺跡を科学する 第8回	2001年 5月			136
アンコール遺跡を科学する 第9回	2002年 7月	アジア人材養成研究セ ンター (所長 石澤良昭)	B5	48
アンコール遺跡を科学する 第10回	2003年12月			88
アンコール遺跡を科学する 第11回	2005年11月			65
アンコール遺跡を科学する 第12回	2007年 1月			63
アンコール遺跡を科学する 第13回	2008年 3月			95
アンコール遺跡を科学する 第14回	2009年 3月			86
アンコール遺跡を科学する 第15回	2010年 3月			71
アンコール遺跡を科学する 第16回	2010年11月			87
アンコール遺跡を科学する 第17回	2012年 3月			63
アンコール遺跡を科学する 第18回	2013年12月			94
アンコール遺跡を科学する 第19回	2014年11月	76		
アンコール遺跡を科学する 第20回	2016年 3月	111		

(3) 英文紀要書 (1986~1992)

書名	発行年月	発行	版	頁
<i>Cultural Heritage in Asia (1)</i>	1986	The Japan Times 刊 ¥1,800	B5	168
<i>Cultural Heritage in Asia (2)</i>	1987	Institute of Asian Cultures		140
<i>Cultural Heritage in Asia (3)</i>	1988			176
<i>Cultural Heritage in Asia (4)</i>	1989			239
<i>Cultural Heritage in Asia (5)</i>	1990			190
<i>Cultural Heritage in Asia (6)</i>	1992			111
<i>Cultural Heritage in Asia (7)</i>	1992			303

(4) 英文紀要 (単著)

書名	発行年月	発行	版	頁
<i>Challenging the Mystery of the Angkor Empire</i>	2012年 8月	石澤良昭 著 シリル・ヴェリヤト訳 上智大学出版	A5	140

(5) 研究・調査紀要 (2007.3~2004.3)

書名	発行年月	発行	版	頁
環境と開発に関するアジア地域比較研究 —IT化とグローバル化の進展の中で—	2004年3月	アジア文化研究所	B5	207
タニ窯跡の研究 —カンボジアにおける古窯の調査—	2007年9月	石澤良昭 監修	B5	218
カンボジア建築の研究 —アンコール・ワット西参道と伝統木造民家—	2018年5月	三輪 悟	B5	93

(6) アンコール・ワット西参道修復施工技術マニュアル (2011.3~2018.1)

書名	発行年月	発行	版	頁
アンコール・ワット西参道修復工事 第1フェーズ(箱入り)	2011年3月	アジア人材養成研究センター	A4	477
アンコール・ワット西参道第2工区・第3工区 修復工事 設計・施工計画	2017年6月		A4	430
アンコール・ワット西参道第2工区・第3工区 修復工事 設計・施工基本計画	2018年1月		A4	268

(7) 文化遺産保存・修復マニュアル (1985.2~1970.3)

書名	発行年月	発行	版	頁
アジアの文化遺産 —東南アジア遺跡の保存・修復・研究— マニュアル 第1号 <i>Cultural Heritage in Asia Study and Preservation of Historic Cities of Southeast Asia Mnuual No.1</i>	1985年2月	アジア文化研究所 (石澤良昭)	B5	68
アジアの文化遺産 —東南アジア遺跡の保存・修復・研究— マニュアル 第2号 <i>Cultural Heritage in Asia Study and Preservation of Historic Cities of Southeast Asia Mnuual No.2</i>	1987年10月			108
アジアの文化遺産 —東南アジア遺跡の保存・修復・研究— マニュアル 第3号 <i>Cultural Heritage in Asia Study and Preservation of Historic Cities of Southeast Asia Mnuual No.3</i>	1989年3月			91
アジアの文化遺産 —東南アジア遺跡の保存・修復・研究— マニュアル 第4号 <i>Cultural Heritage in Asia Study and Preservation of Historic Cities of Southeast Asia Mnuual No.4</i>	1990年3月			198

(8) 文化庁拠点交流事業による研究報告書（英文）

〈1〉カンボジアにおける文化遺産保存のための拠点交流事業

Report on "Activities for Exchanges in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage in Cambodia"

	書名	発行年月	発行	版	頁
英文成果報告書	文化庁委託平成22年～25年度 文化遺産国際協力拠点交流事業	2014年3月	アジア人材養成研究 センター	A4	163

〈2〉東南アジア5カ国における文化遺産保存のための拠点交流事業

Report on "Activities for Exchanges in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage within Five nations of Southeast Asia"

	書名	発行年月	発行	版	頁
英文成果報告書	文化庁委託平成26年度 文化遺産国際協力拠点交流事業	2015年3月	アジア人材養成研究 センター	A4	174
英文成果報告書	文化庁委託平成27年度 文化遺産国際協力拠点交流事業	2016年3月			261
英文成果報告書	文化庁委託平成28年度 文化遺産国際協力拠点交流事業	2017年3月			315

〈3〉アセアン10カ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割のための拠点交流事業

Activities for Exchanges in International Cooperation for the Inheritance of Cultural Properties and the New Role of Museums within ASEAN 10 Countries

	書名	発行年月	発行	版	頁
英文成果報告書	文化庁委託平成29年度 文化遺産国際協力拠点交流事業	2018年3月	アジア人材養成研究 センター	A4	248
英文成果報告書	文化庁委託平成30年度 文化遺産国際協力拠点交流事業	2019年3月			234

(9) 文化遺産教育プロジェクト：カンボジア語教材・パンフレット

	書名	発行年月	発行	版	頁
教材	パンフレット អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌៖ មគ្គុទេសក៍កំរុងសម្រាប់កុមារ (カンボジア語)	2010年8月	アジア人材養成研究 センター	A4	18
	ジュニアガイド 「見て学ぼうアンコールワットの歴史」(日本語) Lets Study and Explore Cultural Heritage (英語) នាំគ្នាស្វែងយល់អំពីអង្គរវត្ត (カンボジア語)				
	「仏像が語るアンコール王朝の歴史」(日本語) ព្រះពុទ្ធបដិមាបង្ហាញប្រាប់យើងអំពីភាពរីកចម្រើននៅសម័យអង្គរ (カンボジア語)				

V. カンボジアにおけるソフィア・ミッション

(上智大学国際奉仕活動)

—保存官・研究者養成のためのアンコール遺跡現場研修プログラム—
(1991～2018)

(日本語／英語／カンボジア語)

カンボジアにおけるソフィア・ミッション (上智大学国際奉仕活動)

—保存官・研究者養成のためのアンコール遺跡現場研修プログラム—
(1991～2018)

第1回	学生25名	集中講義：3月12日～3月17日（シムリアップ、バンテアイ・クデイ）
1991年3月12日 ～3月25日	建築学部 15 考古学部 10	科目：〔歴史学〕—アンコールの歴史 石澤良昭 〔文化財保存科学〕—保存科学入門および保存科学 ジョン・サンダー（W.M.F.） 調査およびインベントリー概論 河野 靖 〔建築学〕—遺跡の測量 藤木良明 〔考古学〕—遺跡の考古学的発掘 上野邦一 〔地質学〕—遺跡の地質学的調査 盛合禱夫
	学生30名	現場実習：3月18日～3月25日（シムリアップ、バンテアイ・クデイ）
	A班 8 B班 9 C班 7 D班 6	科目：〔建築学〕—A. 建築構造班（アンコール・ワットなど） ジョン・サンダー B. 建築総合班（バンテアイ・クデイ） 藤木良明 〔考古学〕—C. 考古班（バンテアイ・クデイ） 上野邦一 R. エンゲルハルト（UNESCO） 〔地質学〕—D. 地質班（バイヨン、プリヤカーン） 盛合禱夫
第2回	学生160名	集中講義：8月13日～8月14日、8月28日（プノンベン王立芸術大学）
1991年8月13日 ～8月28日	建築学部 60 絵画学部 50 考古学部 50	科目：〔歴史学〕—アンコールの歴史 石澤良昭 〔建築学〕—文化財保存の理念と実務 遺跡保存学— 伊藤延男 クメール帝国近隣の建築文化とチャンパ王国の建築 重枝 豊 〔考古学〕—考古学調査の基礎 中尾芳治 〔環境工学〕—アンコール地域の社会文化発展と環境保全 ラオ・キム・リアン 〔土木工学〕—史跡公園としてのアンコール遺跡群・構造力学序論 馬場俊介 〔水利水文学〕—開発途上国の環境問題と開発プロジェクトのあり方 宮川朝一 〔遺跡エンジニアリング〕—遺跡エンジニアリングの概念と方法について 遠藤宣雄 〔文化史学〕—文化関係論 坪井善明 〔植物学〕—植物分類学とアンコールの森林 長谷部光泰
	学生10名	現場実習：8月19日～8月26日（シムリアップ、バンテアイ・クデイ）
	建築学部 5 考古学部 5 他2名自主参加	科目：〔建築〕 石澤良昭、馬場俊介、中尾芳治、重枝 豊、遠藤宣雄、 〔考古〕 ラオ・キム・リアン、長谷部光泰、谷本ボラ、松井生子
第3回	学生332名	集中講義：3月10日～3月14日（プノンベン王立芸術大学）
1992年3月10日 ～3月21日	建築学部 （2年生）108 考古学部 （2年生）38 考古・建築学部 （1年生）186	科目：〔歴史学〕—カンボジア古代史 石澤良昭 カンボジア前近代史 アラン・フォレスト（EPHE） カンボジア碑文学 クロード・ジャック（EPHE） カンボジア碑文学概論 クロード・ジャック 〔建築学〕—保存修復学 重枝 豊 建築学基礎 重枝 豊 〔考古学〕—博物館学 中尾芳治 博物館学概論 中尾芳治 考古学 上野邦一 考古学（専門） 上野邦一 〔地質学〕—地質学 盛合禱夫 地質学特講 盛合禱夫 〔環境工学〕—環境工学 ラオ・キム・リアン

1992年3月10日 ～3月21日		〔遺跡エンジニアリング〕—遺跡エンジニアリング 〔社会文化学〕—文化環境論 文化財保護法 文化政策概論 〔植物学〕—植物学	遠藤宣雄 坪井善明 酒井 幸 R. エンゲルハルト 横山 潤
	学生20名	現場実習：3月16日～3月21日（シェムリアップ、バンテアイ・クダイ）	
	建築学部 10 考古学部 10	科目：〔建築〕重枝 豊 〔考古〕中尾芳治、上野邦一 〔地質〕盛合禱夫	
第4回	学生332名	集中講義：8月10日～8月14日（プノンベン王立芸術大学）	
1992年8月10日 ～8月26日	建築学部 181 考古学部 151	科目：〔歴史学〕—カンボジア史 I アンコール碑刻文学 〔文化財保存科学〕—文化財保存の理論と実践 文化財保存学 I 文化財と技術 I、II ユネスコの勧告 〔建築学〕—建築学 製図学入門 製図実習 〔考古学〕—考古学 I、II 〔地質学〕—地質学 I、II 〔文化史学〕—インドシナ文化論 I、II 〔遺跡エンジニアリング〕—遺跡エンジニアリング I、II 〔環境学〕—カンボジアの自然と環境 開発と環境アセスメント	石澤良昭 石澤良昭 伊藤延男 伊藤延男 木村 勉 R. エンゲルハルト 重枝 豊 成田 剛 重枝 豊、成田 剛 杉山 洋 塚脇真二 坪井善明 遠藤宣雄 ラオ・キム・リアン ラオ・キム・リアン
	学生20名	現場実習：8月15日～8月26日（シェムリアップ、バンテアイ・クダイ）	
	建築学部 10 考古学部 10	科目：〔建築〕重枝 豊 〔考古〕杉山 洋	
	第5回	学生150名	集中講義：3月1日～3月5日（プノンベン王立芸術大学）
1993年3月1日 ～3月5日	建築学部 80 考古学部 70	科目：〔歴史学〕石澤良昭 〔考古学〕中尾芳治、杉山 洋 〔建築学〕重枝 豊	
第6回	学生20名	第1回ワーク・ショップ（プノンベン王立芸術大学）	
1993年10月18日 ～10月28日	考古学部 20	〔遺跡エンジニアリングにもとづくアンコール地域の社会文化発展に関する計画づくり〕 ・特別講義および指導 遠藤宣雄	
第7回	学生20名	第2回ワーク・ショップ（プノンベン王立芸術大学）	
1994年2月14日 ～2月18日	考古学部 20	〔遺跡エンジニアリングにもとづくアンコール地域の社会文化発展に関する計画づくり〕 ・特別講義および指導 遠藤宣雄	
第8回	学生76名	集中講義：3月7日～3月12日（プノンベン王立芸術大学）	
1994年3月7日 ～3月22日	考古学部 76	科目：〔歴史学〕—歴史学特講 アンコール史 〔考古学〕—考古学概論 博物館学特講 考古学特講 考古学実習（講義） 〔地質学〕—一般地質学 〔文化史学〕—インドシナ文化論	石澤良昭 石澤良昭 中尾芳治 中尾芳治 上野邦一 上野邦一 塚脇真二 坪井善明
	学生10名	現場実習：3月13日～3月22日（シェムリアップ、バンテアイ・クダイ）	
	考古学部 10	科目：〔考古〕上野邦一、杉山 洋、中尾芳治、藤田幸夫	

第9回	学生7名	現場実習：7月31日～8月22日（シムリアップ、バンテアイ・クデイ）
1994年7月31日 ～8月22日	考古学部 7	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔考古〕藤田幸夫、丸井雅子、杉山 洋
第10回	学生12名	現場実習：12月19日～12月29日（シムリアップ、バンテアイ・クデイ）
1994年12月19日 ～12月29日	考古学部 6 建築学部 6	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、古山康行 〔考古〕上野邦一、丸井雅子
第11回	学生190名	集中講義：2月10日～3月9日（プノンペン王立芸術大学）
1995年2月10日 ～3月31日	考古学部 70 建築学部 120	科目：〔建築〕重枝 豊 〔建築概括〕重枝 豊
	学生22名	現場実習：3月10日～3月31日（シムリアップ、バンテアイ・クデイ）
	考古学部 10 建築学部 12	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、重枝 豊、古山康行 〔考古〕中尾芳治、松尾信裕、丸井雅子
第12回	学生10名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1995年8月1日 ～8月17日	建築学部 5 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、重枝 豊、古山康行、神宮 太 〔考古〕上野邦一、松尾信裕、丸井雅子、花谷 浩
第13回	学生10名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1996年3月20日 ～3月23日	建築学部 5 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、重枝 豊、古山康行、崔 炳夏 〔考古〕中尾芳治、宮本康治、丸井雅子、花谷 浩
第14回	学生62名	集中講義（プノンペン王立芸術大学）
1996年3月2日 ～5月23日	考古学部 L1 36 L4 26	科目：〔遺跡エンジニアリング〕遠藤宣雄、丸井雅子
第15回	学生10名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1996年7月15日 ～8月31日	建築学部 5 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、重枝 豊、古山康行、崔 炳夏 〔考古〕上野邦一、宮本康治、古屋谷知浩、隅田登紀子
第16回	学生10名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1996年11月17日 ～12月29日	建築学部 5 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、重枝 豊、古山康行、崔 炳夏 〔考古〕上野邦一、丸井雅子
第17回	学生11名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1997年2月28日 ～3月30日	建築学部 5 考古学部 6	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、重枝 豊、崔 炳夏 〔考古〕中尾芳治、宮本康治、花谷 浩
第18回	学生133名	集中講義・テスト（プノンペン王立芸術大学）
1997年2月25日 ～5月23日	建築学部 97 考古学部 36	科目：〔文化遺構管理〕遠藤宣雄、丸井雅子
第19回	学生9名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1997年11月15日 ～12月30日	建築学部 5 考古学部 4	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、崔 炳夏 〔インベントリー〕上野邦一、丸井雅子
第20回	学生9名	現場実習（シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
1998年2月20日 ～4月10日	建築学部 5 考古学部 4	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、崔 炳夏 〔考古〕中尾芳治、菱田哲郎、宮本康治

第21回	研修生 9 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
1998年 8 月20日 ～ 9 月16日	建築学部 5 考古学部 4	科目：〔建築〕片桐正夫、崔 炳夏 〔考古〕上野邦一、丸井雅子 〔窯跡調査〕青柳洋治、佐々木達夫、野上建紀、田中和彦、丸井雅子、 隅田登紀子
第22回	研修生 7 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
1998年10月20日 ～12月30日	建築学部 3 考古学部 4	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、崔 炳夏、三輪 悟 〔考古〕上野邦一、丸井雅子、荒樋久雄
第23回	研修生 7 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
1999年 1 月10日 ～ 3 月31日	建築学部 3 考古学部 4	科目：〔建築〕片桐正夫、崔 炳夏、三輪 悟 〔考古〕中尾芳治、丸井雅子、荒樋久雄、宮本康治 〔窯跡調査〕青柳洋治、佐々木達夫、野上建紀、田中和彦、隅田登紀子 文化遺産教育分野：丸井雅子、荒樋久雄、ニム・ソテイーヴン、ケオ・キナル、 ソム・ヴィソット 発掘現場説明会 (ロハール村住民122名参加。バンテアイ・クデイ遺跡)
第24回	研修生 6 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
1999年 6 月20日 ～ 9 月10日	建築学部 3 考古学部 3	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、崔 炳夏、三輪 悟 〔考古〕上野邦一、丸井雅子、荒樋久雄 〔窯跡調査〕青柳洋治、佐々木達夫、野上建紀、田中和彦、丸井雅子、 隅田登紀子
第25回	研修生 9 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
1999年12月15日 ～12月31日	建築学部 4 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、三輪 悟 〔考古〕宮本康治、菱田哲郎、丸井雅子、荒樋久雄
第26回	研修生 8 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2000年 3 月10日 ～ 3 月25日	建築学部 4 考古学部 4	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、三輪 悟 〔考古〕上野邦一、宮本康治、丸井雅子、荒樋久雄
第27回	研修生 9 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
2000年 8 月10日 ～ 8 月25日	建築学部 4 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、三輪 悟 〔窯跡調査〕青柳洋治、佐々木達夫、野上建紀、田中和彦、丸井雅子、 田畑幸嗣 〔考古〕宮本康治、菱田哲郎、丸井雅子、荒樋久雄 (廃仏1体の発掘)
第28回	研修生 9 名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2000年12月10日 ～12月25日	建築学部 4 考古学部 5	科目：〔歴史〕石澤良昭 〔建築〕片桐正夫、三輪 悟、高橋正時 〔考古〕上野邦一、宮本康治、丸井雅子、荒樋久雄
第29回	研修生15名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2001年 3 月 5 日 ～ 3 月25日	建築学部 10 考古学部 5	科目：〔建築〕片桐正夫、三輪 悟、高橋正時 〔考古〕上野邦一、宮本康治、丸井雅子、荒樋久雄 (廃仏106体の発掘)
第30回	研修生12名	現場実習 (シムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
2001年 8 月 1 日 ～ 9 月 7 日	建築学部 5 考古学部 7	科目：〔建築〕片桐正夫、三輪 悟、小島陽子 〔窯跡調査〕青柳洋治、佐々木達夫、野上建紀、田中和彦、丸井雅子、 田畑幸嗣 〔考古〕上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、荒樋久雄 (廃仏167体 の発掘)


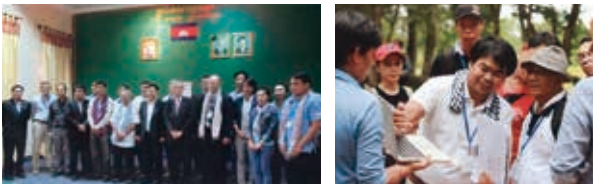
第31回	研修生 7名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ)
2001年12月1日 ～12月15日	考古学部 7	科目:[考古] 菱田哲郎、丸井雅子 (廃仏周辺補充調査(1))
第32回	研修生13名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、タニ)
2002年 8月1日 ～9月7日	建築学部 6 考古学部 7	科目:[建築] 片桐正夫、三輪 悟、小島陽子 〔窯跡調査〕 青柳洋治、佐々木達夫、野上建紀、田中和彦、丸井雅子、 田畑幸嗣、隅田登紀子 〔考古〕 上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、荒樋久雄 (廃仏周辺補 充調査(2))
第33回	研修生 3名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2002年11月10日 ～2003年1月10日	考古学部 3	科目:[建築] 片桐正夫、三輪 悟、小島陽子 〔考古〕 菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、田畑幸嗣 (廃仏周辺補充調査(3))
第34回	研修生14名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2003年 8月10日 ～8月30日	建築学部 6 考古学部 8	科目:[建築] 片桐正夫、三輪 悟 〔考古〕 上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、田畑幸嗣、荒樋久雄 (廃仏周辺補充調査(4))
第35回	研修生 3名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2003年12月18日 ～12月29日	考古学部 3	科目:[考古] 上野邦一、丸井雅子 (考古学生2名、スタッフ1名)
第36回	研修生 9名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2004年 8月16日 ～8月31日	建築学部 5 考古学部 4	科目:[建築] 片桐正夫、三輪 悟 〔考古〕 上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、田畑幸嗣、丸井雅子 (考古学生3 名、スタッフ1名) 特別講義: How to consider the lost buildings from archaeological evidences (上野 邦一、8月28日、於プノンペン王立芸術大学)
第37回	研修生15名	現場実習 (シェムリアップ、バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2005年 8月13日 ～9月13日	建築学部 5 考古学部 10	科目:[建築] 片桐正夫、三輪 悟 〔考古〕 上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、田畑幸嗣、丸井雅子 (考古学生3 名、スタッフ1名)
第38回	研修生15名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2006年 8月16日 ～9月4日	建築学部 5 考古学部 10	科目:[カンボジア研究] 石澤良昭、リー・ヴァンナ、ケオ・キナル 〔文化遺産研究〕 石澤良昭、丸井雅子、エク・プンタ 〔建築学〕 三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕 上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、田畑幸嗣、チュエン・ プティー 〔植物学〕 横山 潤
第39回	研修生15名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2007年 2月21日 ～3月7日	建築学部 5 考古学部 10	科目:[文化遺産研究] 石澤良昭、青木繁夫、田代亜紀子、塚脇真二 〔建築学〕 三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕 丸井雅子、田畑幸嗣、チュエン・プティー 〔植物学〕 横山 潤
第40回	研修生21名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2007年 8月13日 ～9月9日	建築学部 5 考古学部 10 上智大学大学院 6	科目:[カンボジア研究] 石澤良昭、ティン・ティナ、ケオ・キナル 〔文化遺産研究〕 石澤良昭、青木繁夫、田代亜紀子、ティン・ティナ、タラ ン・サクーン、後藤 昇 〔建築学〕 三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕 上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、田畑幸嗣、ティン・ ティナ、チュエン・プティー 〔植物学〕 横山 潤

第41回	研修生15名	現場実習（バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
2008年8月10日 ～9月15日	建築学部 5 考古学部 10 上智大学大学院5	科目：〔カンボジア研究〕石澤良昭、丸井雅子、後藤 昇 〔文化遺産研究〕丸井雅子、遠藤宣雄、清水真一、田代亜紀子 〔建築学〕三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、田畑幸嗣、ティン・ティナ、チュエン・ブティエー、ピン・パクダイ 〔植物学〕横山 潤 文化遺産教育分野：丸井雅子、久保真紀子 第1回「アンコール地域住民の文化遺産教育」 （ロハール村住民140名参加。バンテアイ・クデイ遺跡、アンコール・ワット西参道、シハヌーク・イオン博物館を見学、2月26日）。 第2回「アンコール地域住民の文化遺産教育」 （チリウ村住民60名参加。バンテアイ・クデイ遺跡、アンコール・ワット西参道、シハヌーク・イオン博物館を見学、8月30日）
第42回	研修生8名	博物館実習（シハヌーク・イオン博物館）
2009年3月14日 ～3月24日	シハヌーク・イオン博物館 考古学芸員8	科目：〔拓本実習〕中尾芳治
第43回	研修生23名	現場実習（バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
2009年8月9日 ～9月5日	建築学部 5 考古学部 15 上智大学大学院3	科目：〔カンボジア研究〕石澤良昭、丸井雅子、後藤 昇、ケオ・キナル 〔文化遺産研究〕丸井雅子、青木繁夫、田代亜紀子 〔建築学〕三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕上野邦一、菱田哲郎、宮本康治、丸井雅子、田畑幸嗣、ティン・ティナ、ソム・ヴィソット、チュエン・ブティエー 〔植物学〕横山 潤 文化遺産教育分野： 第3回「アンコール地域住民の文化遺産教育」 （サマキ・サハコム小学校、生徒100名参加、バンテアイ・クデイ遺跡とシハヌーク・イオン博物館見学、8月29日に実施）
第44回	研修生6名	現場実習（バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
2010年8月12日 ～9月11日	建築学部 2 考古学部 4	科目：〔建築学〕三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕田畑幸嗣、エク・ブンタ、セン・チャンタ、ソム・ヴィソット、チュエン・ブティエー 〔文化遺産教育〕阿部千依 文化遺産教育分野：阿部千依 「アジア文化遺産啓蒙教育プログラム」（初年度） （クラバン小学校、生徒412名参加、教員34名参加、バンテアイ・クデイ遺跡とシハヌーク・イオン博物館見学、8月14日、21日、28日、9月4日に実施） （国内） 第1回「積み木でつくるアンコール・ワット」3万個のエコ積み木でアンコール・ワットを作り、文化遺産について学ぶ国際文化理解の出張講座（福岡県上智福岡中学高等学校・文化祭にて9月12日に実施）
第45回	研修生6名	現場実習（バンテアイ・クデイ）
2010年12月22日 ～12月31日	建築学部 2 考古学部 4	科目：〔建築学〕三輪 悟、マオ・ソックニー、チン・チョン・モニー 〔考古学〕田畑幸嗣、エク・ブンタ、ベン・シタ、セン・チャンタ、ソム・ヴィソット、チュエン・ブティエー
第46回	研修生11名	現場実習（バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット）
2011年8月8日 ～9月10日	建築学部 5 考古学部 6	科目：〔建築学〕三輪 悟、マオ・ソックニー、サン・ペウ、チン・チョン・モニー



2011年8月8日 ～9月10日		<p>〔考古学〕 田畑幸嗣、エク・ブンタ、リー・ヴァンナ、ベン・シタ、チュエン・ブティエ</p> <p>〔文化遺産教育〕 阿部千依</p> <p>〔リモート・センシング〕 亀井宏行</p> <p>文化遺産教育分野：阿部千依</p> <p>「アジア文化遺産啓蒙教育プログラム」(第2年度)</p> <p>(バンテアイ・スレイ郡、ワット・ルン地区の小学校11校、生徒596名、教員31名、日本人学生・教職員50名参加、バンテアイ・クデイ遺跡とシハヌーク・イオン博物館見学、8月13日、20日、27日、9月3日、10日に実施)</p> <p>「アンコール地域の小学生に対する環境教育出張授業」</p> <p>(9月13日に実施、JQAとの共催)</p> <p>(国内)</p> <p>第2回「積み木でつくるアンコール・ワット」ワークショップ</p> <p>(神奈川県逗子市沼間中学校「地域講師を招いての地域ふれあいデー」にて6月25日に実施)</p> <p>第3回「積み木でつくるアンコール・ワット」ワークショップ</p> <p>(東京都杉並区高井戸中学校文化祭にて10月29日に実施)</p>
第47回	研修生11名	現場実習 (バンテアイ・クデイ)
2011年12月24日 ～12月30日	建築学部 5 考古学部 6	<p>科目：〔建築学〕 三輪 悟、マオ・ソックニー、サン・ペウ</p> <p>〔考古学〕 田畑幸嗣、エク・ブンタ、リー・ヴァンナ、チュエン・ブティエ</p>
第48回	研修生19名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2012年8月3日 ～9月8日	建築学部 6 考古学部 13	<p>科目：〔建築学〕 三輪 悟、チン・チョン・モニー、マオ・ソックニー、サン・ペウ、チェン・ラター</p> <p>〔考古学〕 田畑幸嗣、ベン・シタ、エク・ブンタ、リー・ヴァンナ、ニム・ソテイーヴン、チュエン・ブティエ</p> <p>〔文化遺産教育〕 阿部千依</p> <p>文化遺産教育分野：阿部千依</p> <p>「アジア文化遺産啓蒙教育プログラム」(第3年度)</p> <p>(バンテアイ・スレイ郡、バンテアイ・スレイ地区およびプラダック地区の小学校5校、生徒383名、引率教諭36名、日本人学生・教員71名参加、バンテアイ・クデイ遺跡とシハヌーク・イオン博物館見学、アンコール・ワット遺跡見学)</p> <p>(国内)</p> <p>第4回「三万個の積み木で1923年の上智大学を再現しよう」</p> <p>(オールソフィアンズフェスティバルにて5月27日に実施)</p> <p>第5回「積み木でつくるアンコール・ワット」</p> <p>(新潟清心女子中学高等学校にて10月12日に実施)</p> <p>第6回「積み木でつくりようアンコール・ワット in 東北—上智大学の国際教育を被災地の子供たちへ」上智大学創立100周年プレ企画 (学生センター)</p> <p>(岩手県陸前高田市下矢作コミュニティーセンターにて11月18日に実施)</p>
第49回	研修生23名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2013年8月3日 ～9月15日	建築学部 9 考古学部 14	<p>科目：〔建築学〕 三輪 悟、チン・チョン・モニー、マオ・ソックニー、サン・ペウ、チェン・ラター</p> <p>〔考古学〕 田畑幸嗣、丸井雅子、ベン・シタ、エク・ブンタ、リー・ヴァンナ、ニム・ソテイーヴン、チュエン・ブティエ</p> <p>〔文化遺産教育〕 阿部千依</p> <p>文化遺産教育分野：</p> <p>(カンボジア) 三輪 悟、田中沙織</p> <p>「文化遺産教育プログラム」</p> <p>(プレア・エンコセイ小学校、スラ・スラン小学校、生徒372名、引率教諭15名、4月22日、27日、5月2日、4日、9日、11日に実施)</p>





2013年8月3日 ～9月15日		(国内) 阿部千依 環境・文化遺産教育ワークショップ「カンボジアの文化遺産を積み木でつ くろう」 (国連大学GEOC地球環境パートナーシッププラザにて8月13日～24日に実施)
2014年3月28日、 5月29日、 10月25日	集中講義 (クメール美術 史概論)	プノンペン王立芸術大学 担当者 久保真紀子
第50回	学生16名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2014年8月9日 ～9月10日	建築学部 8 考古学部 8	科目：〔建築学〕 三輪 悟、小島陽子、コン・コーサル、マオ・ソックニー 〈合同講義〉 チェン・ラター 〔考古学〕 丸井雅子、ニム・ソテイーヴン、ピン・バクダイ、チュエン・ブ ティー、ボン・ソヴァット、ムウン・ソピアブ、チャイ・ラチャ ナ、ヘン・タン、ティン・ティナ、キム・サムナン、松浦史明、 久保真紀子、佐藤恵子 文化遺産教育分野： 「文化遺産教育プログラム」 (ワット・チュー中学校、110名、8月4日にアンコール・ワットにて実 施、上智大学 STPC と共催) (ロハール村住民、90名、8月29日にバンテアイ・クデイにおいて実施)
平成26年度 (2014年) 文化庁拠点交流 事業 2014年8月13日 ～20日(8日間) 会場：アジア人 材センター (カンボジア、 シエムリアップ)	各国遺跡現場 担当官 10名	「東南アジア五ヵ国における文化遺産保存のための拠点交流事業」 国際ワークショップ(第1回)：英語名称 Mekong Cultural Heritage Workshop 協力機関：SPAFA(東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業)、カンボジア文化芸 術省、アプサラ機構 事 務 局：石澤良昭、阿部千依 コーディネーター：ウー・ニユン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭 出 席 者：〔カンボジア〕 チェン・ラター、リー・ヴァンナ 〔ラオス〕 パンタヴォン・オーラニ、ピマセン・シボウンヘン 〔ミャンマー〕 タン・ハティク、ティン・フット・アン 〔タイ〕 ポシヤナンダナ・ヴァス 〔ベトナム〕 グエン・ホアンバイ・リン、グエン・ニュット・ブオン、 グエン・ブオン・タオ
平成26年度 (2014年) 文化庁拠点交流 事業 2015年2月8日 ～14日(7日間) 会場：アジア人 材センター (カンボジア、 シエムリアップ)	各国遺跡現場 担当官 10名	「東南アジア五ヵ国における文化遺産保存のための拠点交流事業」 国際ワークショップ(第2回)：英語名称 Mekong Cultural Heritage International Workshop 協力機関：SPAFA(東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業)、カンボジア文化芸 術省、アプサラ機構 事 務 局：石澤良昭、阿部千依、ラオ・キム・リアン(現地調整) コーディネーター：ウー・ニユン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭 出 席 者：〔カンボジア〕 チェン・ラター、リー・ヴァンナ 〔ラオス〕 パンタヴォン・オーラニ、カムセン・ヴォンシー 〔ミャンマー〕 タン・ハティク、ティン・フット・アウン 〔タイ〕 ポシヤナンダナ・ヴァス 〔ベトナム〕 グエン・ホアンバイ・リン、グエン・カン・トラン・ キエン、グエン・ブオン・タオ
2015年2月25日	講義：文化遺産 保存保存論 建築学部 20	プノンペン王立芸術大学建築学部 担当者 三輪 悟
第51回	学生14名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)

<p>2015年7月30日 ～9月13日</p> <p>建築学部 7 考古学部 7</p>		<p>科目：〔建築学〕 三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕 丸井雅子、ニム・ソテーヴン、ピン・パクダイ、チュエン・ブ ティエ 〔RUFU〕 ボン・ソヴァット（学長）、コン・コーサル（建築学部長）、ムウ ン・ソビアップ（考古学部長） 〈合同講義〉 上野邦一、ティン・ティナ、チャイ・ラチャナ、チェン・ラタ ー、ハウ・トイほか</p> <p>文化遺産教育分野： 「文化遺産教育プログラム」 丸井雅子、三輪 悟、ラオ・キム・リアン、チュエン・ブティエ、ニム・ ソテーヴン、ピン・パクダイ （ワット・チョー中学校、130名、8月4日にバイヨンにて実施、上智大学 STPC と共催） （エンコセイ小学校、60名、8月27日にワット・ブリア・エンコセイ、バン テアイ・クデイ、シハヌーク・イオン博物館にて実施）</p>
<p>平成27年度 （2015年） 文化庁拠点交流 事業</p> <p>2015年8月14日 ～20日（8日間）</p> <p>会場：アジア人 材センター （カンボジア、 シェムリアップ）</p>	<p>各国遺跡現場 担当官 12名</p>	<p>「東南アジア五カ国における文化遺産保存のための拠点交流事業」 国際ワークショップ（第3回）：英語名称 Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>協力機関：SPAFA（東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業）、カンボジア文化芸 術省、アプサラ機構 事 務 局：石澤良昭、久保真紀子、ラオ・キム・リアン（現地調整） コーディネーター：ウー・ニュン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭 出 席 者：〔カンボジア〕 チェン・ラター、ティン・ティナ、マオ・ソックニー 〔ラオス〕 カンポーミー・マニラ、プートン・ボンシャイボン、 シリボーム・ソムヌーク、カムルアン・アバイヤヴォン 〔ミャンマー〕 アーカー・エー、ヤン・アウン 〔タイ〕 スラユット・ウィリヤダムロン、ヒエンカエウ・ポン トーン 〔ベトナム〕 グエン・ホアンバイ・リン</p>
<p>平成27年度 （2015年） 文化庁拠点交流 事業</p> <p>2016年2月8日 ～14日（7日間）</p> <p>会場：アジア人 材センター （カンボジア、 シェムリアップ）</p>	<p>各国遺跡現場 担当官 9名</p>	<p>「東南アジア五カ国における文化遺産保存のための拠点交流事業」 国際ワークショップ（第4回）：英語名称 Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>協力機関：SPAFA（東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業）、カンボジア文化芸 術省、アプサラ機構 事 務 局：石澤良昭、久保真紀子、ラオ・キム・リアン（現地調整）、ニム・ソテ イーヴン コーディネーター：ウー・ニュン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭 出 席 者：〔カンボジア〕 タン・ソパル、マオ・ソックニー 〔ラオス〕 スークパッチャン・カンパスーク、ブンヨード・ブー ン・ディラット 〔ミャンマー〕 チョー・ウー・ルイン、チョー・ミョー・ウィン、 アーカー・エー 〔タイ〕 スラユット・ウィリヤダムロン、マナッチャヤ・ワヴ イスト</p> <div data-bbox="692 1555 1015 1738" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1035 1555 1186 1738" data-label="Image"> </div>

第52回	学生 8 名	現場実習 (バンテアイ・クデイ、アンコール・ワット)
2016年 8 月 1 日 ～ 9 月 7 日	建築学部 4 考古学部 4	<p>科目：〔建築学〕 三輪 悟、マオ・ソックニー 〔考古学〕 丸井雅子、ニム・ソテイーヴン、宮本康治、チュエン・ブティー 〔RUF A〕 ボン・ソヴァット (学長)、コン・コーサル (建築学部長)、ムウン・ソピアップ (考古学部長)</p> <p>〈合同講義〉 トー・トン (アプサラ機構) 「発掘調査と出土資料の分類・記録技法」、ピン・パクダイ (プレア・ヴィヒア機構) 「コー・ケー遺跡の考古学調査」、ピン・サムナン (アプサラ機構) 「測量調査の技法とデータ処理」、ベン・サムウン (プレア・ヴィヒア機構) 「世界遺産プレア・ヴィヒアの保護整備活動」、ニム・ソテイーヴン (上智大学) 「歴史学概論」、「カンボジア中世史」</p>  <p>文化遺産教育分野： 「文化遺産教育プログラム」 丸井雅子、三輪 悟、ラオ・キム・リアン、チュエン・ブティー、ニム・ソテイーヴン、ピン・パクダイ (ワット・エンコサ中学校、60名、8月19日にバンテアイ・クデイ遺跡にて実施) (ワット・チョー中学校、80名、8月24日にシハヌーク・イオン博物館にて実施、上智大学 STPC と共催)</p>
平成28年度 (2016年) 文化庁拠点交流 事業 2016年 8 月 11 日 ～ 18 日 (8 日間) 会場：アジア人 材センター (カンボジア、 シェムリアップ)	各国遺跡現場 担当官 12名	<p>「東南アジア五ヵ国における文化遺産保存のための拠点交流事業」 国際ワークショップ (第 5 回) : 英語名称 Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>協力機関：SPAFA (東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業)、カンボジア文化芸術省、プレア・ヴィヒア機構、アプサラ機構 事務局：石澤良昭、ラオ・キム・リアン、吉田桃子、三輪 悟、ニム・ソテイーヴン コーディネーター：ウー・ニユン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭 出席者：〔カンボジア〕 タン・ソバル、マオ・ソックニー 〔ラオス〕 カムパソック・スックパッチャン、フォマヴァンダイ・シャンベン 〔ミャンマー〕 ゴウ・ミン・オン、オウ・ゾウ・ミン 〔タイ〕 マナッチャヤ・ワヴィスイット、スラユット・ウィリアダムロング 〔ベトナム〕 ダン・ノック・キン、グエン・ノック・ホン 〔インドネシア〕 ブラハマンタラ、マウラナ・アブドゥラヒム・イブラヒム</p> 

<p>平成28年度 (2016年) 文化庁拠点交流 事業</p> <p>2017年2月8日 ～14日(8日間)</p> <p>会場：アジア人 材センター (カンボジア、 シェムリアップ</p>	<p>各国遺跡現場 担当官 15名</p>	<p>「東南アジア五カ国における文化遺産保存のための拠点交流事業」 国際ワークショップ(第6回)：英語名称 Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>協力機関：SPAFA(東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業)、カンボジア文化芸術省、アプサラ機構</p> <p>事務局：石澤良昭、ラオ・キム・リアン、吉田桃子、三輪 悟、ニム・ソテイーヴン</p> <p>コーディネーター：ウー・ニユン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭</p> <p>出席者：[カンボジア] アン・ソピアブ、マオ・ソックニー、オウン・シナン グ、チュム・サンボア、ソイ・チャンノリ、ピン・パク ダイ、オル・サン・アン</p> <p>[ラオス] カムバソック・スックパッチャン、フォマヴァンダイ・ シャンベン</p> <p>[ミャンマー] ゾウ・ミン・オン、オウ・ゾウ・ミン</p> <p>[タイ] ヴェンケオ・ポントン、ルトタイ・パスワット</p> <p>[ベトナム] グエン・ゴック・マン</p> <p>[インドネシア] マウラナ・アブドゥラヒム・イブラヒム</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第53回</p>	<p>学生10名</p>	<p>現場実習(パンテアイ・クデイ、アンコール・ワット、コー・ケー)</p>
<p>2017年7月31日 ～8月26日</p>	<p>建築学部 6 考古学部 4</p>	<p>科目：[建築学] 三輪 悟、マオ・ソックニー [考古学] 丸井雅子、ニム・ソテイーヴン、宮本康治、チュエン・ブティ ー [RUFA] コン・コーサル(建築学部長)、ムウン・ソピアップ(考古学部長) <合同講義> チア・ソチアット(プノンペン国立博物館)「クメール寺院にお ける開口部装飾バラストーに関する美術史的研究」、ニム・ソテ イーヴン(上智大学)「歴史学概論」、マオ・ソックニー(アプサ ラ機構)「アンコール地域における文化遺産保存」、アン・ソピア ップ(アプサラ機構)「アンコール・ワット西参道修復事業と考 古学調査」、ピン・パクダイ(プレア・ヴィヒア機構)「コー・ケ ー遺跡の保存活動と考古学調査」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>文化遺産教育分野： 「文化遺産教育プログラム」 丸井雅子、三輪 悟、ラオ・キム・リアン、チュエン・ブティ ー、ニム・ ソテイーヴン、ピン・パクダイ (ワット・チャー中学校、149名、8月20日にアンコール・ワット西参道、 タブロム遺跡にて実施、上智大学 STPC と共催)</p>

<p>平成29年度 (2017年) 文化庁拠点交流 事業</p> <p>2017年11月13日 ～19日(7日間)</p> <p>会場：①カンボ ジア文化芸術省 (プノンベン) ②アジア人材セ ンター (シェムリアッ プ)</p>	<p>各国博物館 担当官 19名</p>	<p>「アセアン10ヵ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割のための拠点交流事業」</p> <p>国際ワークショップ(第1回)：英語名称 ASEAN Cultural Properties and Museum International Workshop</p> <p>協力機関：カンボジア文化芸術省、アプサラ機構、SPAFA(東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業)</p> <p>事務局：石澤良昭、吉田桃子、ラオ・キム・リアン(現地調整)、三輪 悟、ニム・ソテーヴン</p> <p>コーディネーター：ウー・ニュン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭</p> <p>出席者：〔カンボジア〕コン・ヴィレック、キム・ソティン、チョム・クンティア</p> <p>〔ラオス〕 ボヘアング・ボウアシスバセウス、シッタホン・カモングフォン</p> <p>〔ミャンマー〕 アイ・アイ・ティン、ニー・ムーン</p> <p>〔タイ〕 トサポーン・スリサマーン、ダン・カモン・カマラノン、シティチャイ・ポドウィー</p> <p>〔ベトナム〕 グエン・ヴァン・ハ、ダン・テイ・ヒェン</p> <p>〔マレーシア〕 ミティ・ファティマ・シェズエラ、モハメド・ナスラミザム・モハド</p> <p>〔ブルネイ〕 ハジ・モハメド・ジェフリ・ビン・ハジ、ハジ・マリン・ビン・ハジ・アバス</p> <p>〔フィリピン〕 アナ・マリア・テレサ・ラブラドール</p> <p>〔インドネシア〕 ヌシ・リザヴェラ・エストゥディアンティン</p> <p>〔日本〕 栗原祐司、米岡亜依子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第54回</p>	<p>学生10名</p>	<p>現場実習(バンテアイ・クデイ、コー・ケー、アンコール・ワット)</p>
<p>2018年7月31日 ～8月21日</p>	<p>建築学部 6 考古学部 4</p>	<p>科目：〔建築学〕 三輪 悟、コン・コサル、マオ・ソックニー</p> <p>〔考古学〕 丸井雅子、宮本康治、チュエン・プティー</p> <p>〔RUF A〕 コン・コーサル(建築学部長)、プレアブ・チャンマラ(考古学部副学部長)</p> <p>〈合同講義〉</p> <p>ヘン・タン(サンポール・プレイ・クック機構)「世界遺産サンポール・プレイ・クックの保全活動」、チア・ソチアット(プノンベン国立博物館)「クメール美術の展開とヒンドゥーの神像」、宮本康治(大阪市教育委員会)「バンテアイ・クデイの考古学調査成果」、リー・ヴァンナ(アプサラ機構)「考古学研究とアンコール地域」、アン・ソピアップ(アプサラ機構)「アンコール・ワット西参道の修復事業」、ソック・ケオ・ソヴァンナラ(奈良文化財研究所)「クメール陶器概論と調査記録技法」、マオ・ソックニー(アプサラ機構)「アンコール地域の文化遺産修復保存事業」、ピン・パクダイ(プレア・ヴィヒア機構)「コー・ケー遺跡の保全活動」、ティン・ティナ(アプサラ機構)「アプサラ機構論」、チャイ・ラチャナ(アプサラ機構)「クメール陶器と窯跡調査」、チェン・ラター(アプサラ機構)「ベン・メリア遺跡の保全活動」、ハウ・トイほか</p>

<p>2018年7月31日 ～8月21日</p>		<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>文化遺産教育分野： 「文化遺産教育プログラム」 丸井雅子、三輪 悟、ラオ・キム・リアン、チュエン・ブティエ、ニム・ソテイーヴン、ピン・パクダイ (ワット・チョー中学校、170名、8月17日にスバエクトム(影絵)をワット・チョー中学校で実施、上智大学 STPC と共催) (ブレイク・アンドン中学校、100名、8月20日にバンテアイ・クダイ遺跡にて実施)</p>
<p>平成30年度 (2018年) 文化庁拠点交流 事業</p> <p>2018年11月2日 ～8日(7日間)</p> <p>会場：①カンボ ジア文化芸術省 (プノンペン) ②アジア人材セ ンター (シェムリアッ プ)</p>	<p>各国博物館 担当官 22名</p>	<p>「アセアン10カ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割のための拠点交流事業」</p> <p>国際ワークショップ(第2回)：英語名称 ASEAN Cultural Properties and Museum International Workshop</p> <p>協力機関：カンボジア文化芸術省、アプサラ機構、SPAFA(東南アジア文部大臣機構・芸術文化事業)</p> <p>事務局：石澤良昭、ラオ・キム・リアン、吉田桃子、三輪 悟、ニム・ソテイーヴン</p> <p>コーディネーター：ウー・ニユン・ハン、アン・チュリアン、石澤良昭</p> <p>出席者：〔カンボジア〕コン・ヴィレック、キム・ソティン、ベン・チャムロン、マン・ヴァリイ</p> <p>〔ラオス〕 ペットマレーヴアン・ケオープンマ、テムソムバット・サンティ</p> <p>〔ミャンマー〕 ティ・ティ・タン、ツ・ザ・ザン</p> <p>〔タイ〕 ダリカ・タナサクシリ、ピムラナ・キチョットプラセート</p> <p>〔ベトナム〕 ニユエン・ティ・ツ・ホアン、パム・ティ・マイ・トゥイ</p> <p>〔マレーシア〕 デコール・アナク・ジョヒア、ピーターソン・オーガスチン・アナク・オーガスチン・ジャダン</p> <p>〔ブルネイ〕 ピ・ノラザ・ビンティ・ピ・ヒ・ムハンマド、ヌル・カミラ・イスマイル</p> <p>〔フィリピン〕 メアリー・ジェーン・ルイス・アルト・ボルニア、リガヤ・サン・ベドロ・ラクシナ</p> <p>〔インドネシア〕 ディア・スリスティヤニ、マウリダ・シンタ・デヴィ</p> <p>〔シンガポール〕 タン・ザン</p> <p>〔日本〕 栗原祐司</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>

- 注1：1996年より講義・出土品整理作業・水洗いは上智大学アジア人材養成研究センター（2002年10月上智大学アンコール研修所を改名）で実施。
- 注2：ブノンペン王立芸術大学における集中講義：1991年3月から1997年5月まで7年間に16科目につき延べ11回実施。動員講師延べ59名、受講生延べ1,500名。2014年3月から2015年1月まで、1科目、全4回実施。受講生延べ136名。
- 注3：遺跡現場における実習：1991年3月から2018年8月まで27年間に54回実施。動員講師延べ392名、受講生延べ567名。

Sophia Mission

Human Development Project in Cambodia

(1991~2018)

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
1 st Mission	25 students	Intensive Course: March 12 – March 17 (Siem Reap, Banteay Kdei)
March 12 – March 25, 1991	Faculty of Architecture 15 Faculty of Archaeology 10	Subject: [History] -History of Angkor [Conservation Science for Cultural Properties] -Introduction to Conservation Science -Surveys and Overview on Inventory [Architecture] - Historical Site Survey [Archaeology] -Archaeological Excavation of Historical Sites [Geology] -Geological Survey of Historical Sites
	Students: 30 Team A 8 Team B 9 Team C 7 Team D 6	Yoshiaki Ishizawa John Sanday (W.M.F) Yasushi Kono Yoshiaki Fujiki Kunikazu Ueno Tomio Moriai March 18 –March 25 (Siem Reap, Banteay Kdei) Subject: [Architecture] -A. Architecture and Structure Team (Angkor Wat) B. General Architecture Team (Banteay Kdei) [Archaeology]-C. Archaeology Team (Banteay Kdei) John Sanday Yoshiaki Fujiki Kunikazu Ueno Richard Engelhardt (UNESCO) Tomio Moriai [Geology] -D. Geology Team (Bayon, Preah Khan)
2 nd Mission	Students: 160	Intensive Course August 13- 14, (Royal University of Fine Arts)
August 13 – August 28, 1991	Faculty of Architecture 60 Faculty of Art Plastic 50 Faculty of Archaeology 50	Subject: [History] –History of Angkor [Architecture] – Principles and Practices on Conservation Science for Cultural Properties Architectural Culture of Neighboring Khmer Empire and Architecture of Champa Kingdom [Archaeology] -Archaeological Survey Basics [Environmental Engineering] - Socio-Anthropological Development and Environmental Preservation of Angkor Region [Civil Engineering] -Angkor Historical Sites as a Historic Spot and Park / Introduction to Structural Mechanics [Irrigation and Hydrology] -Environmental Problems in Developing Countries and the State of Development Projects [Historical Site Engineering] - Historical Site Engineering Concepts and Methods
	Students: 10 Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 5 Plus two other voluntary participants	Yoshiaki Ishizawa Nobuo Ito Yutaka Shigeeda Yoshiharu Nakao Lao Kim Leang Shunsuke Baba Asaichi Miyakawa Nobuo Endo Yoshiharu Tsuboi Mitsuyasu Hasebe August 19 - August 26 (Siem Reap, Banteay Kdei) Subject: [Architecture] Yoshiaki Ishizawa, Shunsuke Baba, Yoshiharu Nakao, Yutaka Shigeeda, Nobuo Endo [Archaeology] Lao Kim Leang, Mitsuyasu Hasebe, Bora Tanimoto, Naruko Matsui
3 rd Mission	Students: 332	Intensive Course: March 10 – March 14 (Royal University of Fine Arts)
March 10 – March 21, 1992	Faculty of Architecture (2 nd years students) 108 Faculty of Archaeology (2 nd year students) 38 Faculty of Architecture and Archaeology (1 st year students) 186	Subject: [History] -Ancient History of Cambodia -Pre-modern History of Cambodia -Cambodian Epigraphy -Introduction to Epigraphy of Cambodia [Architecture] -Conservation Science Architecture Basics [Archaeology] - Museology - Introduction to Museology -Archaeology Archaeology (major) [Geology] -Geology
		Yoshiaki Ishizawa Alain Forest (EPHE) Claude Jacques (EPHE) Claude Jacques Yutaka Shigeeda Yutaka Shigeeda Yoshiharu Nakao Yoshiharu Nakao Kunikazu Ueno Kunikazu Ueno Tomio Moriai

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
		Special Lecture on Geology [Environmental Engineering]- Environmental Engineering Tomio Moriai Lao Kim Leang
March 10 – March 21, 1992		[Historical Site Engineering] -Historical Site Engineering [Socio-anthropology] –Culture and Environment Theory Law for the Protection of Cultural Properties Introduction to Cultural Policy Nobuo Endo Yoshiharu Tsuboi Miyuki Sakai Richard Engelhardt Jun Yokoyama
	Students: 20	Field Training: March 16 – March 21 (Siem Reap, Banteay Kdei)
	Faculty of Architecture 10	Subject: [Architecture] Yutaka Shigeeda
	Faculty of Archaeology 10	[Archaeology] Yoshiharu Nakao, Kunikazu Ueno [Geology] Tomio Moriai
4 th Mission	Students: 332	Intensive Course: August 10 – August 14 (Royal University of Fine Arts)
August 10 – August 26, 1992	Faculty of Architecture 181	Subject: [History] -History of Cambodia I -Angkor Epigraphy Yoshiaki Ishizawa Yoshiaki Ishizawa
	Faculty of Archaeology 151	[Conservation Science for Cultural Properties] - Conservation Science for Cultural Properties Theory and Practice Nobuo Ito Conservation Science for Cultural Properties I Conservation Science for Cultural Properties I, II UNESCO recommendations Richard Engelhardt Yutaka Shigeeda [Architecture] - Architecture Introduction to Drafting Tsuyoshi Narita Drafting Practice Yutaka Shigeeda, Tsuyoshi Narita
		[Archaeology] - Archaeology I, II Hiroshi Sugiyama [Geology] -Geology I, II Shinji Tukawaki [Cultural History] -Culture of Indo-china I, II Yoshiharu Tsuboi [Historical Site Engineering] –Historical Site Engineering I,II Nobuo Endo [Environmental Science] -Nature and Environment of Cambodia Lao Kim Leang Development and Environmental Assessments Lao Kim Leang
	Students: 20	Field Training: August 15 – August 26 (Siem Reap, Banteay Kdei)
	Faculty of Architecture 10	Subject: [Architecture] Yutaka Shigeeda
	Faculty of Archaeology 10	[Archaeology] Hiroshi Sugiyama
5 th Mission	Students: 150	Intensive Course: March 1 – March 5 (Royal University of Fine Arts)
March 1 – March 5, 1993	Faculty of Architecture 80	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa
	Faculty of Archaeology 70	[Archaeology] Yoshiharu Nakao, Hiroshi Sugiyama [Architecture] Yutaka Shigeeda
6 th Mission	Students: 20	1 st Workshop (Royal University of Fine Arts)
October 18 – October 28, 1993	Faculty of Archaeology 20	[Creating Socio-Anthropological Development Plans for the Angkor Region Based on Historical Site Engineering] -Special Lecture and Instruction Nobuo Endo
7 th Mission	Students: 20	2nd Workshop (Royal University of Fine Arts)
February 14 –February 18, 1994		[Creating Socio-Anthropological Development Plans for the Angkor Region Based on Historical Site Engineering] -Special Lecture and Instruction Nobuo Endo
8 th Mission	Students: 76	Intensive Course: March 7 – March 12 (Royal University of Fine Arts)
March 7 – March 22, 1994	Faculty of Archaeology 76	Subject: [History] -Special Lecture on History History of Angkor Yoshiaki Ishizawa Yoshiaki Ishizawa [Archaeology] -Introduction to Archaeology Special Lecture on Museology Yoshiharu Nakao Special Lecture on Archaeology Yoshiharu Nakao Training Course on Archeology Kunikazu Ueno Kunikazu Ueno [Geology] -General Geology Tsukawaki Shinji [Cultural History] -Culture of Indochina Yoshiharu Tsuboi
	Students: 10	Field Training: March 13 – March 22 (Siem Reap, Banteay Kdei)
	Faculty of Archaeology 10	Subject: [Archaeology] Kunikazu Ueno, Hiroshi Sugiyama, Yoshiharu Nakao, Yukio Fujita

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
July 31 – August 22, 1994	Faculty of Archaeology 7	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Archaeology] Yukio Fujita, Masako Marui
10 th Mission	Students: 12	Field Training December 19 – December 29 (Siem Reap, Banteay Kdei)
December 19 – December 29, 1994	Faculty of Archaeology 6 Faculty of Architecture 6	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yasuyuki Furuyama [Archaeology] Kunikazu Ueno, Masako Marui
11 th Mission	Students: 190	Intensive Courses February 10 – March 9 (Royal University of Fine Arts)
February 10 – March 31, 1995	Faculty of Archaeology 70 Faculty of Architecture 120	Subject: [Architecture] Yutaka Shigeeda [Summary of Architecture] Yutaka Shigeeda
	Students: 22	Field Training March 10 – March 31 (Siem Reap, Banteay Kdei)
	Faculty of Archaeology 10 Faculty of Architecture 12	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama [Archaeology] Yoshiharu Nakao, Nobuhiro Matsuo, Masako Marui
12 th Mission	Students: 10	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 1 – August 17, 1995	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Futoshi Jingu [Archaeology] Kunikazu Ueno, Nobuhiro Matsuo, Masako Marui, Hiroshi Hanatani
13 th Mission	Students: 10	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
March 20 – March 23, 1996	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Byungha Choi [Archaeology] Yoshiharu Nakao, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hiroshi Hanatani
14 th Mission	Students: 62	Intensive Courses (Royal University of Fine Arts)
March 2 – May 23, 1996	Faculty of Archaeology L1 36 L4 26	Subject: [Historical Site Engineering] Nobuo Endo, Masako Marui
15 th Mission	Students: 10	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
July 15 – August 31, 1996	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Byungha Choi [Archaeology] Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Tomohiro Furuoya, Tokiko Sumida
16 th Mission	Students: 10	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
November 17 – December 29, 1996	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Byungha Choi [Archaeology] Kunikazu Ueno, Masako Marui
17 th Mission	Students: 11	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
February 28 – March 30, 1997	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 6	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Byungha Choi [Archaeology] Yoshiharu Nakao, Yasuharu Miyamoto, Hiroshi Hanatani
18 th Mission	Students: 133	Intensive Courses / Tests (Royal University of Fine Arts)
February 25 – May 23, 1997	Faculty of Architecture 97 Faculty of Archaeology 36	Subject: [Cultural Site Management] Nobuo Endo, Masako Marui
19 th Mission	Students: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
November 15 – December 30, 1997	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 4	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Byungha Choi [Inventory] Kunikazu Ueno, Masako Marui
20 th Mission	Students: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
February 20 – April 10, 1998	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 4	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Byungha Choi [Archaeology] Yoshiharu Nakao, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
21 st Mission	Trainees: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat, Tani Kiln Site)
August 20 – September 16, 1998	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 4	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Byungha Choi [Archaeology] Kunikazu Ueno, Masako Marui [Kiln Site Survey] Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida
22 nd Mission	Trainees: 7	Field Survey (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
October 20 – December 30, 1998	Faculty of Architecture 3 Faculty of Archaeology 4	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Byungha Choi, Satoru Miwa [Archaeology] Kunikazu Ueno, Masako Marui, Hisao Arah
23 rd Mission	Trainees: 7	Field Survey (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat, Tani Kiln Site)
January 10 – March 31, 1999	Faculty of Architecture 3 Faculty of Archaeology 4	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Byungha Choi, Satoru Miwa [Archaeology] Yoshiharu Nakao, Masako Marui, Hisao Arah, Yasuharu Miyamoto [Kiln Site Survey] Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Tokiko Sumida
24 th Mission	Trainees: 6	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat, Tani Kiln Site)
June 20 – September 10, 1999	Faculty of Architecture 3 Faculty of Archaeology 3	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Byungha Choi, Satoru Miwa [Archaeology] Kunikazu Ueno, Masako Marui, Hisao Arah [Kiln site survey] Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida
25 th Mission	Trainees: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
December 15 – December 31, 1999	Faculty of Architecture 4 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa [Archaeology] Yasuharu Miyamoto, Tetsuo Hishida, Masako Marui, Hisao Arah
26 th Mission	Trainees: 8	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
March 10 – March 25, 2000	Faculty of Architecture 4 Faculty of Archaeology 4	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa [Archaeology] Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arah
27 th Mission	Trainees: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat, Tani Kiln Site)
August 10 – August 25, 2000	Faculty of Architecture 4 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa [Kiln site survey] Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Yukitsugu Tabata [Archaeology] Yasuharu Miyamoto, Tetsuo Hishida, Masako Marui, Hisao Arah (Excavation of a discarded Buddhist statue)
28 th Mission	Trainees: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
December 10 – December 25, 2000	Faculty of Architecture 4 Faculty of Archaeology 5	Subject: [History] Yoshiaki Ishizawa [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa, Masatoki Takahashi [Archaeology] Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arah
29 th Mission	Trainees: 15	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
March 5 – March 25, 2001	Faculty of Architecture 10 Faculty of Archaeology 5	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa, Masatoki Takahashi [Archaeology] Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arah (Excavation of 106 discarded Buddhist statues)
30 th Mission	Trainees: 12	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat, Tani Kiln Site)
August 1 – September 7, 2001	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 7	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa, Yoko Kojima [Kiln Site Survey] Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Yukitsugu Tabata [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arah (Excavation of 167 discarded Buddhist statues)

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
31 st Mission	Trainees: 7	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei)
December 1 – December 15, 2001	Faculty of Archaeology 7	Subject: [Archaeology] Tetsuo Hishida, Masako Marui (Additional survey around discarded Buddhist statues (1))
32 nd Mission	Trainees: 13	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat, Tani Kiln Site)
August 1 – September 7, 2002	Faculty of Architecture 6 Faculty of Archaeology 7	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa, Yoko Kojima [Kiln Site Survey] Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Tokiko Sumida [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arahii (Additional survey around discarded Buddhist statues (2))
33 rd Mission	Trainees: 3	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
November 10, 2002 – January 10, 2003	Faculty of Archaeology 3	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa, Yoko Kojima [Archaeology] Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata Additional survey around discarded Buddhist statues (3)
34 th Mission	Trainees: 14	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 10 – August 30, 2003	Faculty of Architecture 6 Faculty of Archaeology 8	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Hisao Arahii (Supplemental survey around ancient Buddhist statues (4))
35 th Mission	Trainees: 3	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
December 18 – December 29, 2003	Faculty of Archaeology 3	Subject: [Archaeology] Kunikazu Ueno, Masako Marui (two archaeology students, one staff member)
36 th Mission	Trainees: 9	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 16 – August 31, 2004	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 4	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Yukitsugu Tabata, Masako Marui (Three archaeology students and a member of staffs) Special Lecture: How to Consider the Lost Buildings from Archaeological Evidences (Kunikazu Ueno, August 28, Royal University of Fine Arts)
37 th Mission	Trainees: 15	Field Training (Siem Reap, Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 13 – September 13, 2005	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 10	Subject: [Architecture] Masao Katagiri, Satoru Miwa [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Yukitsugu Tabata, Masako Marui (Three archaeology students and a staff of members)
38 th Mission	Trainees: 15	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 16 – September 4, 2006	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 10	Subject: [Research on Cambodia] Yoshiaki Ishizawa, Ly Vanna, Keo Kinal [Cultural Heritage Investigation] Yoshiaki Ishizawa, Masako Marui, Ek Buntha [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Chooun Vuthy [Botany] Jun Yokoyama
39 th Mission	Trainees: 15	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
February 21 – March 7, 2007	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 10	Subject: [Cultural Heritage Investigation] Yoshiaki Ishizawa, Shigeo Aoki, Akiko Tashiro, Shinji Tsukawaki [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Chooun Vuthy [Botany] Jun Yokoyama
40 th Mission	Trainees: 21	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 13 – September 9, 2007	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 10 Sophia University Graduate School 6	Subject: [Research on Cambodia] Yoshiaki Ishizawa, Tin Tina, Keo Kinal [Cultural Heritage Investigation] Yoshiaki Ishizawa, Shigeo Aoki, Akiko Tashiro, Tin Tina, Thlang Sakhoen, Noboru Goto [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Tin Tina, Chooun Vuthy [Botany] Jun Yokoyama

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
41 st Mission	Trainees: 15	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 10 – September 15, 2008	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 10 Sophia University Graduate School 5	Subject: [Research on Cambodia] Yoshiaki Ishizawa, Masako Marui, Noboru Goto [Cultural Heritage Investigation] Masako Marui, Nobuo Endo, Shimizu Shinichi, Akiko Tashiro [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Tin Tina, Choeun Vuthy, Phin Phakdey [Botany] Jun Yokoyama Field of Cultural Heritage Education: Masako Marui, Makiko Kubo 1st time “Cultural Heritage Education for the Local Community of in Angkor Region” (140 villagers from Rohal Village participated in the program. Participants visited Banteay Kdei, Angkor Wat West Causeway, and Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on February 26) 2nd time “Cultural Heritage Education for the Local Community in Angkor Region” (60 villagers of Chriev village participated. Participants visited Banteay Kdei, Angkor Wat West Causeway, and Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on August 30)
42 nd Mission	Trainees: 8	Museum Training (Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum)
March 14 – March 24, 2009	Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum 8	Subject: [Practical Training of Rubbing] Yoshiharu Nakao
43 rd Mission	Trainees: 23	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 9 – September 5, 2009	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 15 Sophia University Graduate School 3	Subject: [Research on Cambodia] Yoshiaki Ishizawa, Masako Marui, Goto Noboru, Keo Kinal [Cultural Heritage Investigation] Masako Marui, Aoki Shigeo, Akiko Tashiro [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Tin Tina, Som Visoth, Choeun Vuthy [Botany] Jun Yokoyama Field of Cultural Heritage Education: 3rd time “Cultural Heritage Education for the Local Community in Angkor Region” (412 students and 34 teachers from Samaki Sahakum Primary School participated. Participants visited Banteay Kdei, and Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on February 26)
44 th Mission	Trainees: 6	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 12 - September 11, 2010	Faculty of Architecture 2 Faculty of Archaeology 4	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Yukitsugu Tabata, Ek Buntha, Seng Chantha, Som Visoth, Choeun Vuthy [Cultural Heritage Education] Chie Abe Field of Cultural Heritage Education: Chie Abe “Asian Cultural Heritage Enlightenment Education Program” (1 st year) (412 students and 34 teachers from Kravan Primary School participated. Participants visited Banteay Kdei, and Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on August 14, 21, 28, and September 4) (Domestic) 1st time “Let’s Compose Angkor Wat with Wooden Blocks” Cultural understanding event designed to learn about cultural heritage sites during which 30,000 recycled wooden blocks were used to compose Angkor Wat. (Held at the school festival in Sophia Fukuoka Junior-Senior High School, Fukuoka Prefecture on September 12)
45 th Mission	Trainees: 6	Field Training (Banteay Kdei)
December 22 – December 31, 2010	Faculty of Architecture 2 Faculty of Archaeology 4	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny, Chin Chhong Mory [Archaeology] Yukitsugu Tabata, Ek Buntha, Pheng Sytha, Seng Chantha, Som Visoth, Choeun Vuthy
46 th Mission	Trainees: 11	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 8 – September 10, 2011	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 6	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny, Sam Peou, Chin Chhong Mory

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
August 8 – September 10, 2011		[Archaeology] Yukitsugu Tabata, Ek Buntha, Ly Vanna, Pheng Sytha, Choeun Vuthy [Cultural Heritage Education] Chie Abe [Remote-Sensing] Hiroyuki Kamei Field of Cultural Heritage Education: Chie Abe "Asian Cultural Heritage Enlightenment Education Program" (2 nd year) (596 students and 31 teachers from 11 elementary schools in the Wat Run of Banteay Srei district county participated with 50 Japanese students and teachers in a visit to Banteay Kdei, and Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on August 13, 20, 27 and September 3 and 10) "Visiting Lecture on Environmental Education Given to Elementary School Students in the Angkor Region" (September 13, held in conjunction with JQA) (Domestic) 2 nd time Workshop "Let's Compose Angkor Wat with Wooden Blocks" (held at Numama Junior High School's "Regional Exchange Day with Regional Instructors", Zushi City, Kanagawa Prefecture on June 25) 3 rd time Workshop "Let's Compose Angkor Wat with Wooden Blocks" (held at the school festival in Takaido Junior High School, Suginami Ward, Tokyo on October 29)
47 th Mission	Trainees: 11	Field Training: (Banteay Kdei)
December 24 – December 30, 2011	Faculty of Architecture 5 Faculty of Archaeology 6	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny, Sam Peou [Archaeology] Yukitsugu Tabata, Ek Buntha, Ly Vanna, Choeun Vuthy
48 th Mission	Trainees: 19	Field Training: (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 3 – September 8, 2012	Faculty of Architecture 6 Faculty of Archaeology 13	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Chin Chhong Mony, Mao Sokny, Sam Peou, Chean Ratha [Archaeology] Yukitsugu Tabata, Pheng Sytha, Ek Buntha, Ly Vanna, Nhim Sotheavin, Choeun Vuthy [Cultural Heritage Education] Chie Abe Field of Cultural Heritage Education: Chie Abe "Asian Cultural Heritage Enlightenment Education Program" (3 rd year) (383 students and 36 teachers from 5 elementary schools and Pradak village in Banteay Srei district participated the program with 71 Japanese students and teachers in a visit to Banteay Kdei, Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum and Angkor Wat) (Domestic) 4 th time Workshop "Let's Compose Sophia University as it was in 1923 with Wooden Blocks" (held at All Sophian's Festival on May 27) 5 th time Workshop "Let's Compose Angkor Wat with Wooden Blocks" (held at Niigata Seishin Girl's Junior and High School on October 12) 6 th time Workshop "Let's Compose Angkor Wat with Wooden Blocks in Tohoku: Bringing the International Education of Sophia University to the Children of the Disaster Region" Sophia University 100th Anniversary Event (held by the student center of Sophia University) (held at the Shimo-Yahagi Community Center, Rikuzentakata City, Iwate Prefecture on November 18)
49 th Mission	Trainees: 23	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 3 – September 15, 2013	Faculty of Architecture 9 Faculty of Archaeology 14	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Chin Chhong Mony, Mao Sokny, Sam Peou, Chhean Ratha [Archaeology] Yukitsugu Tabata, Masako Marui, Peng Sitha, Ek Buntha, Ly Vanna, Nhim Sotheavin, Choeun Vuthy [Cultural Heritage Education] Chie Abe Field of Cultural Heritage Education: (Cambodia) Satoru Miwa, Saori Tanaka "Cultural Heritage Education Program" (372 students and 15 teachers from Preah Enkosei Primary School and Srah Srang Primary School, held on April 22, 27, May 2, 4, 9, 11)

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
August 3 – September 15, 2013		(Domestic) Chie Abe Environment and Cultural Heritage Education Workshop “Let’s Compose Cambodian Cultural Heritage Sites with Wooden Blocks” (held from August 13 -24 at United Nations University GEOC Global Environment Partnership Plaza)
March 28, May 29, October 25, 2014, January 30, 2015	Intensive Course (Introduction to History of Khmer Art)	Royal University of Fine Arts Instructor: Makiko Kubo
50 th Mission	Students: 16	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
August 9 – September 10, 2014	Faculty of Architecture 8 Faculty of Archaeology 8	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Yoko Kojima, Kong Kosal, Mao Sokny <Joint Lecture> Chhean Ratha [Archaeology] Masako Marui, Nhim Sotheavin, Phin Phakdey, Choeun Vuthy, Bong Sovath, Mourn Sopheap, Chay Rachana, Heng Than, Tin Tina, Kim Samnang, Bong Sovath, Fumiaki Matsuura, Makiko Kubo, Keiko Sato Field of Cultural Heritage Education: “Cultural Heritage Education Program” Masako Marui, Satoru Miwa, Lao Kim Leang, Choeun Vuthy, Nhim Sotheavin, Phin Phakdey (110 participants from Wat Chak Secondary High School. Held at Angkor Wat on August 4 in conjunction with Sophia University STP) (90 villagers from Rohal Village participated. Held at Banteay Kdei on August 29)
	Participants: 10	“Activities for Exchange in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage within Five Nations of Southeast Asia”
August 13 –20, 2014	Cambodia 2 Laos 2 Myanmar 2 Thailand 1 Vietnam 3	International Workshop (1 st time): Mekong Cultural Heritage International Workshop Event Space: Sophia Asia Center for Research and Human Development (Cambodia, Siem Reap) Cooperating Organizations: Regional Centre for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia, National Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA) Office: Yoshiaki Ishizawa, Chie Abe, Lao Kim Leang Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa Participants: [Cambodia] Chhean Ratha, Ly Vanna [Laos] Phanthavong Orlany, Phimmsehng Sybounhevang [Myanmar] Than Htike, Tin Htut Aung [Thailand] Poshyanandana Vasu [Vietnam] Nguyen Hoangbach Linh, Nguyen Nhut Phuong, Nguyen Phuong Thao
	Participants: 11	“Activities for Exchange in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage within Five Nations of Southeast Asia”
February 8 –14, 2015	Cambodia 3 Laos 2 Myanmar 2 Thailand 1 Vietnam 3	International Workshop (2 nd time): Mekong Cultural Heritage International Workshop Event Space: Sophia Asia Center for Research and Human Development (Cambodia, Siem Reap) Cooperating Organizations: Regional Centre for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia, Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA) Office: Yoshiaki Ishizawa, Chie Abe, Lao Kim Leang Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa Participants: [Cambodia] Chhean Ratha, Ly Vanna, Mao Sokny [Laos] Phanthavong Orlany, Khamseng Vongsy [Myanmar] Than Htike, Tin Htut Aung [Thailand] Poshyanandana Vasu [Vietnam] Nguyen Hoangbach Linh, Nguyen Khanh Trung Kien, Nguyen Phuong Thao
February 25, 2015	Lecture: Conservation for Cultural Heritage Faculty of Architecture 20	Royal University of Fine Arts, Faculty of Architecture Instructor: Satoru Miwa

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
51 st Mission	Students: 14	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)
July 30 – September 13, 2015	Faculty of Architecture 7 Faculty of Archaeology 7	Subject: [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Masako Marui, Nhim Sotheavin, Phin Phakdey, Choeun Vuthy, Kunikazu Ueno, Leng Satya, Phin Samnang, Vitou Phirom, Moug Chanraksmeay [RUFA] Bong Sovath (Rector of RUFA), Kong Kosal (Dean of Faculty of Architecture), Mourn Sopheap (Dean of Faculty of Archaeology) <Joint Lecture> Tin Tina, Chhay Rachna, Chhean Ratha, Tho Thong "Cultural Heritage Education Program" Masako Marui, Satoru Miwa, Lao Kim Leang, Choeun Vuthy, Nhim Sotheavin, Phin Phakdey (130 participants from Wat Chak Secondary High School. Held at Bayon on August 4 in conjunction with STP, Summer Teaching Program) (60 participants from Preah Enkosei Primary School. Held at Banteay Kdei and Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on August 27)
	Participants: 12	"Activities for Exchange in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage within Five Nations of Southeast Asia"
August 13 –20, 2015	Cambodia 3 Laos 4 Myanmar 2 Thailand 2 Vietnam 1	International Workshop (3 rd time): Mekong Cultural Heritage International Workshop Cooperating Organizations: Regional Centre for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia, Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA) Event Space: Sophia Asia Center for Research and Human Development (Cambodia, Siem Reap) Cooperating Organizations: Regional Centre for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia, Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA) Office: Yoshiaki Ishizawa, Makiko Kubo, Lao Kim Leang Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa Participants: [Cambodia] Chhean Ratha, Tin Tina, Mao Sokny [Laos] Khamphoumy Manila, Phouthong Phongxayphonh, Siliphoum Somnuek, Khamleuan Aphaiyavong [Myanmar] Arkar Aye, Yan Aung [Thailand] Surayoot Wiriadamrong, Hiengkaew Pongthorn [Vietnam] Nguyen Hoangbach Linh

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
FY2015 August 8 –14, 2016 (7 days) Venue: Sophia Asia Center for Research and Human Development, Siem Reap, Cambodia	Field specialists from each country: 9	<p>“Activities for Exchange in International Cooperation for the Conservation of the Cultural Heritage within Five Nations of Southeast Asia” International Workshop (4th time): Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>Cooperating organization: SEAMEO SPAFA (Regional Center for Archaeology and Fine Arts), Ministry of Culture and Fine Arts (Cambodia), APSARA Authority (Authority of the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap)</p> <p>Secretary: Yoshiaki Ishizawa, Makiko Kubo, Lao Kimleang, Nhim Sotheavin Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa Participants: [Cambodia] Tan Sophal, Mao Sokny [Laos] Soukphachanh Khamphasouk, Bounyord Boundylath [Myanmar] Kyaw Oo Lwin, Kyaw Myo Win, Arkan Aye [Thailand] Surayoot Wiriadamrong, Manatchaya Wajvisoot</p>
52nd Mission August 1 – September 7, 2016	Students: 8 Faculty of Architecture 4 Faculty of Archaeology 4	<p>Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat)</p> <p>Subjects: [Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Masako Marui, Nhim Sotheavin, Yasuharu Miyamoto, Choeun Vuthy [RUFA] Bong Sovath (Rector of RUFA), Mourn Sopheap (Dean of the Faculty of Archaeology), Kong Kosal (Dean of the Faculty of Architecture)</p> <p><Special lectures> Tho Thon (Technical staff, APSARA), Phin Phakdey (Technical staff, Preah Vihear Authority), Phin Samnang (Technical staff, APSARA), Pheng Sam Ourn (Director, Preah Vihear Authority), Nhim Sotheavin (Sophia University)</p> <p>Field of cultural heritage education: “Cultural Heritage Education Program” Prepared by Masako Marui, Nhim Sotheavin, Chourn Vuthy, Phin Phakdey, Satoru Miwa, Lao Kimleang (60 pupils from the Wat Enkosa secondary high school participated the program at Banteay Kdei on August 19th) (80 pupils from Wat Chak secondary high school in conjunction with the students from Sophia University STPC participated the program at the Preah Norodom Sihanouk-Angkor Museum on August 24th)</p>
FY2016 August 11 –18, 2016 (8 days) Venue: Sophia Asia Center for Research and Human Development, Siem Reap, Cambodia	Field specialists from each country: 12	<p>“Activities for Exchange in International Cooperation for the Conservation of the Cultural Heritage within Five Nations of Southeast Asia” International Workshop (5th time): Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>Cooperating organization: SEAMEO SPAFA (Regional Center for Archaeology and Fine Arts), Ministry of Culture and Fine Arts (Cambodia), APSARA Authority (Authority of the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap)</p> <p>Secretary: Yoshiaki Ishizawa, Lao Kimleang, Momoko Yoshida, Satoru Miwa, Nhim Sotheavin Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa Participants: [Cambodia] Tan Sophal, Mao Sokny [Laos] Soukphachanh Khamphasouk, Phommavandy Chanphenh [Myanmar] Zaw Min Aung [Thailand] Surayoot Wiriadamrong, Manatchaya Wajvisoot [Vietnam] Dang Ngoc Kinh, Nguyen Ngoc Hong [Indonesia] Brahmantara</p>

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission
FY2016 February 8 –14, 2017 (8 days) Venue: Sophia Asia Center for Research and Human Development, Siem Reap, Cambodia	Field specialists from each country: 15	<p>“Activities for Exchange in International Cooperation for the Conservation of the Cultural Heritage within Five Nations of Southeast Asia” International Workshop (6th time): Mekong Cultural Heritage International Workshop</p> <p>Cooperating organization: SEAMEO SPAFA (Regional Center for Archaeology and Fine Arts), Ministry of Culture and Fine Arts (Cambodia), APSARA Authority (Authority of the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap)</p> <p>Secretary: Yoshiaki Ishizawa, Lao Kimleang, Momoko Yoshida, Satoru Miwa, Nhim Sotheavin</p> <p>Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa</p> <p>Participants:</p> <p>[Cambodia] An Sopheap, Mao Sokny, Ourn Sinang, Chhun Sambo, Soy Channorith, Phin Pakdey, UI Sam Ang</p> <p>[Laos] Soukphachanh Khamphasouk, Phommavandy Chanphenh</p> <p>[Myanmar] Zaw Min Aung, Aung Zaw Min</p> <p>[Thailand] Pongthorn Hiengkaew, Luedthai Panuwat</p> <p>[Vietnam] Nguyen Quoc Manh</p> <p>[Indonesia] Maulana Abdulrahim Ibrahim</p>
53 rd Mission	Students: 10	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat, Koh Ker)
July 31 – August 26, 2017	Faculty of Architecture 6 Faculty of Archaeology 4	<p>Subjects:</p> <p>[Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny</p> <p>[Archaeology] Masako Marui, Nhim Sotheavin, Yasuharu Miyamoto, Choeun Vuthy</p> <p>[RUFA] Mourn Sopheap (Dean of the Faculty of Archaeology), Kong Kosal (Dean of the Faculty of Architecture)</p> <p><Special lectures> Chea Socheat (Technical staff, Phnom Penh National Museum), Mao Sokny (Technical staff, APSARA), An Sopheap (Technical staff, APSARA), Phin Phakdey (Technical staff, Preah Vihear Authority), Nhim Sotheavin (Sophia University)</p> <p><u>Field of cultural heritage education:</u> “Cultural Heritage Education Program” Prepared by Masako Marui, Nhim Sotheavin, Chourn Vuthy, Satoru Miwa, Lao Kimleang, Phin Phakdey (149 pupils from Wat Chak secondary high school in conjunction with the students from Sophia University STPC participated the program at the Angkor Wat Western Causeway and Ta Prohm temple on August 20th)</p>
FY2017 November 13 –19, 2017 (7 days) Venue: 1)Ministry of Culture and Fine Arts, Phnom Penh, Cambodia 2) Sophia Asia Center for Research and Human Development, Siem Reap, Cambodia	Museum specialists from each country: 19	<p>“Activities for Exchanges in International Cooperation for the Inheritance of Cultural Properties and the Role of Museum within Asian 10 countries” International Workshop (1th time): Asian Cultural Properties and Museum International Workshop</p> <p>Cooperating organization: Ministry of Culture and Fine Arts (Cambodia), APSARA Authority (Authority of the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap), SEAMEO SPAFA (Regional Center for Archaeology and Fine Arts)</p> <p>Secretary: Yoshiaki Ishizawa, Lao Kimleang, Momoko Yoshida, Satoru Miwa, Nhim Sotheavin</p> <p>Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa</p> <p>Participants:</p> <p>[Cambodia] Kong Vireak, Kim Sothin, Chhom Kunthea</p> <p>[Laos] Bounheuang Bouasiengpaseuth, Khammeuangkhoun Sithaphone</p> <p>[Myanmar] Aye Aye Thinn, Nyi Monn</p> <p>[Thailand] Tossaporn Srisamarn, Duangkamon Kamalanon, Sittichai Pooddee</p> <p>[Vietnam] Nguyen Van Ha, Dang Thi Hien</p> <p>[Indonesia] Nusi Lisabilla Estudiantin</p> <p>[Malaysia] Miti Fateema Sherzeella Mohd Yusoff, Mohd Nasrulamiazam Bin Mohd Nasir</p> <p>[Brunei] Haji Mohamed Jefri Bin Haji A Sabli, Haji Mahrin Bin Haji Abas</p> <p>[Philippines] Ana Maria Theresa Labrador</p> <p>[Japan] Yuji Kurihara</p>
54 th Mission	Students: 10	Field Training (Banteay Kdei, Angkor Wat, Koh Ker)

Date	Number of Students and Trainers	Sophia Mission																						
July 31 – August 21, 2018	Faculty of Architecture 6 Faculty of Archaeology 4	<p>Subjects:</p> <p>[Architecture] Satoru Miwa, Mao Sokny [Archaeology] Masako Marui, Nhim Sotheavin, Yasuharu Miyamoto, Choeun Vuthy [RUFA] Kong Kosal (Dean of the Faculty of Architecture) Preap Chanmara (Vice-Dean of the Faculty of Archaeology)</p> <p><Special lectures> Heng Than (Deputy Director General, Sambor Prei Kuk Authority), Chea Socheat (Technical staff, Phnom Penh National Museum), Yasuharu Miyamoto (Committee Member Education of OSAKA city), Ly Vanna (Director, APSARA Authority), Mao Sokny (Technical staff, APSARA), An Sopheap (Technical staff, APSARA), Phin Phakdey (Technical staff, Preah Vihear Authority), Tin Tina (Deputy Director, APSARA Authority), Chhay Rachana (Technical staff, APSARA Authority)</p> <p>Field of cultural heritage education: “Cultural Heritage Education Program” Prepared by Masako Marui, Nhim Sotheavin, Chourn Vuthy, Satoru Miwa, Lao Kimleang, Phin Phakdey (170 pupils from Wat Chak secondary high school in conjunction with the students from Sophia University STPC participated the program of Sbaek Thom on August 17th) (100 pupils from Thlok Andong secondary high school participated the program at Banteay Kdei on August 20th)</p>																						
FY2018 November 2 –8, 2018 (7 days) Venue: 1) Ministry of Culture and Fine Arts, Phnom Penh, Cambodia 2) Sophia Asia Center for Research and Human Development, Siem Reap, Cambodia	Museum specialists from each country: 22	<p>“Activities for Exchanges in International Cooperation for the Inheritance of Cultural Properties and the Role of Museum within Asian 10 countries” International Workshop (2nd time): Asian Cultural Properties and Museum International Workshop</p> <p>Cooperating organization: Ministry of Culture and Fine Arts (Cambodia), APSARA Authority (Authority of the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap), SEAMEO SPAFA (Regional Center for Archaeology and Fine Arts)</p> <p>Secretary: Yoshiaki Ishizawa, Lao Kimleang, Momoko Yoshida, Satoru Miwa, Nhim Sotheavin</p> <p>Coordinators: U Nyunt Han, Ang Choulean, Yoshiaki Ishizawa</p> <p>Participants:</p> <table border="0"> <tr><td>[Cambodia]</td><td>Kong Vireak, Kim Sothin, Pen Chamrong, Mang Valy</td></tr> <tr><td>[Laos]</td><td>Phetmalayvanh Keobounma, Temsombath Santi</td></tr> <tr><td>[Myanmar]</td><td>Thi Thi Thuang, Thu Zar Zan</td></tr> <tr><td>[Thailand]</td><td>Darika Thanasaksiri, Phimnara Kitchotprasert</td></tr> <tr><td>[Vietnam]</td><td>Nguyen Thi Thu Hoan, Phan Thi Mai Thuy</td></tr> <tr><td>[Indonesia]</td><td>Dyah Sulistiyani, Ismail Nur Kamilah</td></tr> <tr><td>[Malaysia]</td><td>Degor Anak Johia, Peterson Augustitne Jadan</td></tr> <tr><td>[Brunei]</td><td>Pengiran Norazah Pengiran Haji Muhammad, Nur Kamilah Ismail</td></tr> <tr><td>[Philippines]</td><td>Mary Jane Louise Alto Bolunia, Ligaya San Pedro Lacsina</td></tr> <tr><td>[Singapore]</td><td>Tan Szan</td></tr> <tr><td>[Japan]</td><td>Yuji Kurihara</td></tr> </table>	[Cambodia]	Kong Vireak, Kim Sothin, Pen Chamrong, Mang Valy	[Laos]	Phetmalayvanh Keobounma, Temsombath Santi	[Myanmar]	Thi Thi Thuang, Thu Zar Zan	[Thailand]	Darika Thanasaksiri, Phimnara Kitchotprasert	[Vietnam]	Nguyen Thi Thu Hoan, Phan Thi Mai Thuy	[Indonesia]	Dyah Sulistiyani, Ismail Nur Kamilah	[Malaysia]	Degor Anak Johia, Peterson Augustitne Jadan	[Brunei]	Pengiran Norazah Pengiran Haji Muhammad, Nur Kamilah Ismail	[Philippines]	Mary Jane Louise Alto Bolunia, Ligaya San Pedro Lacsina	[Singapore]	Tan Szan	[Japan]	Yuji Kurihara
[Cambodia]	Kong Vireak, Kim Sothin, Pen Chamrong, Mang Valy																							
[Laos]	Phetmalayvanh Keobounma, Temsombath Santi																							
[Myanmar]	Thi Thi Thuang, Thu Zar Zan																							
[Thailand]	Darika Thanasaksiri, Phimnara Kitchotprasert																							
[Vietnam]	Nguyen Thi Thu Hoan, Phan Thi Mai Thuy																							
[Indonesia]	Dyah Sulistiyani, Ismail Nur Kamilah																							
[Malaysia]	Degor Anak Johia, Peterson Augustitne Jadan																							
[Brunei]	Pengiran Norazah Pengiran Haji Muhammad, Nur Kamilah Ismail																							
[Philippines]	Mary Jane Louise Alto Bolunia, Ligaya San Pedro Lacsina																							
[Singapore]	Tan Szan																							
[Japan]	Yuji Kurihara																							

Note 1: Lectures, arrangement and cleaning of artifacts have been done at the Sophia Asia Center for the Research and Human Development from 1996 (the name was renamed from “Sophia University Training Center” in October 2002)

Note 2: Intensive courses at the Royal University of Fine Arts were held for approximately 11 times on 16 subjects in 7 years from March 1991 to May 1997. Approximately 59 instructors gave lectures to approximately 1500 students. Additionally, an instructor gave 4 lectures on one subject to 136 students from March 2014 to January 2015.

Note 3: Field training at Angkor historical sites have been held for 54 times in 27 years from March 1991 to August 2018 by 392 instructors to 567 students.

**កិច្ចការរបស់បេសកកម្មសុហ្វីយ៉ា នៅប្រទេសកម្ពុជា
ចាប់ពីឆ្នាំ១៩៩១ ដល់ឆ្នាំ២០១៨**

កាលបរិច្ឆេទ	ចំនួននិស្សិត	បេសកកម្មសុហ្វីយ៉ា		
លើកទី១	២៥នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ១២-១៧ ខែមីនា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)		
១២-២៥ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩១	ស្ថាបត្យកម្ម ១៥ បុរាណវិទ្យា ១០	[[ប្រវត្តិសាស្ត្រ]- ប្រវត្តិសាស្ត្រអង្គរ [អភិរក្សបេតិកភណ្ឌ]- មូលដ្ឋាននៃការសិក្សាលើ វិជ្ជាអភិរក្ស - ការសិក្សាអំពីរបៀបចុះបញ្ជី [ស្ថាបត្យកម្ម]- ស្រាវជ្រាវប្រាសាទ [បុរាណវិទ្យា] - កំណាយបុរាណវិទ្យា [ភូគម្ភសាស្ត្រ]- ស្រាវជ្រាវភូគម្ភសាស្ត្រនៃប្រាសាទ	Yoshiaki Ishizawa John Sanday (W.M.F) Yasushi Kono Yoshiaki Fujiki Kanikazu Ueno Tomio Moriai	
		៣០នាក់	១៨-២៥ ខែមីនា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)	
		ក្រុម ក ៨នាក់	[ស្ថាបត្យកម្ម]- ក្រុមគ្រឹះនិងស្ថាបត្យកម្ម (អង្គរវត្ត)	John Sanday
		ក្រុម ខ ៩នាក់	ក្រុមស្ថាបត្យកម្មទូទៅ (បន្ទាយក្តី)	Yoshiaki Fujiki
		ក្រុម គ ៧នាក់	[បុរាណវិទ្យា] - ក្រុមបុរាណវិទ្យា (បន្ទាយក្តី)	kunikazu Ueno
	ក្រុម ឃ ៦នាក់	[ភូគម្ភសាស្ត្រ]- ក្រុមភូគម្ភសាស្ត្រ (បាយ័ន, ព្រះខ័ន)	Tomio Moriai Richard Engelhard (UNESCO)	
លើកទី២	១៦០នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ១៣,១៤, ២៨ ខែសីហា (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)		
១៣-២៨ ខែសីហា ឆ្នាំ១៩៩១	ស្ថាបត្យកម្ម ៦០ សុន្ទរូប ៥០ បុរាណវិទ្យា ៥០	[[ប្រវត្តិសាស្ត្រ]- ប្រវត្តិសាស្ត្រអង្គរ [ស្ថាបត្យកម្ម] - គោលការណ៍ថែរក្សាសម្បត្តិវប្បធម៌ និងការថែរក្សាប្រាសាទ - ស្ថាបត្យកម្មនៃប្រទេសជិតខាងអាណាចក្រខ្មែរ និងស្ថាបត្យកម្មអាណាចក្រចម្ប៉ា [បុរាណវិទ្យា] - មូលដ្ឋានស្រាវជ្រាវបុរាណវិទ្យា [បរិស្ថាន] - ការវិវឌ្ឍន៍នៃសង្គមវប្បធម៌កម្ពុជា និងការថែរក្សាបរិស្ថាននៅតំបន់អង្គរ [សំណង់ស៊ីវិល] - ប្រាសាទអង្គរជាមូលដ្ឋានប្រវត្តិសាស្ត្រ និងឧទ្យាន/ រំណាស់អំពីយន្តការសំណង់ [ធារាសាស្ត្រ និងធនធានទឹក] - បញ្ហាបរិស្ថាននៅក្នុងប្រទេស កំពុងអភិវឌ្ឍន៍និងគម្រោងអភិវឌ្ឍន៍របស់រដ្ឋ [សំណង់ប្រាសាទ] - ទស្សនៈនិងវិធីសាស្ត្រសិក្សាសំណង់ប្រាសាទ [ប្រវត្តិវប្បធម៌] - ទ្រឹស្តីទំនាក់ទំនងវប្បធម៌ [រុក្ខវិទ្យា] - ប្រព័ន្ធរុក្ខវិទ្យា និងព្រៃអង្គរ	Yoshiaki Ishizawa Nobuo Ito Yutaka Shigeeda Yoshiharu Nakao ឡាវ គឹមលាង Shunsuke Baba Asaichi Miyakawa Nobuo Endo Yoshiharu Tsuboi Mitsuyasu Hasebe	
		១០នាក់	១៩-២៦ ខែសីហា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)	
		ស្ថាបត្យកម្ម ៥ បុរាណវិទ្យា ៥ អ្នកស្ម័គ្រចិត្ត ២	[ស្ថាបត្យកម្ម] - Yoshiaki Ishizawa, Shunsuke Baba, Yoshiharu Nakao, Yutaka Shigeeda, Nobuo Endo [បុរាណវិទ្យា] - ឡាវ គឹមលាង, Mitsuyasu Hasebe, Bora Tamimoto,	

		Naruko Matsui
លើកទី៣	៣៣២នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ១០-១៤ ខែមីនា (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)
១០-២១ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩២		<p>[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - ប្រវត្តិសាស្ត្របុរាណនៃប្រទេសកម្ពុជា Yoshiaki Ishizawa - ប្រវត្តិសាស្ត្រមុនសម័យទំនើបនៃប្រទេសកម្ពុជា Alain Forest - សិលាចារឹកខ្មែរ Claude Jacques (EPHE) - មូលដ្ឋានរៀនសិលាចារឹកខ្មែរ Claude Jacques</p> <p>[ស្ថាបត្យកម្ម] - ការថែរក្សានិងជួសជុលជាលក្ខណៈវិទ្យាសាស្ត្រ Yutaka Shigeeda - មូលដ្ឋានស្ថាបត្យកម្ម Yutaka Shigeeda</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] - សារមន្ទីរវិទ្យា Yoshiharu Nakao - មូលដ្ឋានរៀនសារមន្ទីរវិទ្យា Yoshiharu Nakao - បុរាណវិទ្យា Kunikazu Ueno</p> <p>[ភូគម្ភសាស្ត្រ] - ភូគម្ភសាស្ត្រ Tomio Moriai - មេរៀនពិសេសអំពីភូគម្ភសាស្ត្រ Tomio Moriai</p> <p>[បរិស្ថាន] - វិស្វកម្មបរិស្ថាន ឡារ គីមលាង</p> <p>[វិស្វកម្មនៃរដ្ឋបាលដ្ឋានប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Nobuo Endo</p> <p>[សង្គមវិទ្យា] - ទ្រឹស្តីបរិស្ថានវប្បធម៌ Yoshiharu Tsuboi - វិធីសាស្ត្រថែរក្សាបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ Miyuki Sakai - មូលដ្ឋាននៃគោលនយោបាយវប្បធម៌ Richard Engelhard</p> <p>[រុក្ខវិទ្យា] - រុក្ខវិទ្យា Jun Yokoyama</p>
	២០នាក់	កម្មសិក្សា៖ ១៦-២១ ខែមីនា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)
	ស្ថាបត្យកម្ម ១០ បុរាណវិទ្យា ១០	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] Yutaka Shigeeda [បុរាណវិទ្យា] Yoshiharu Nakao, Kunikazu Ueno [ភូគម្ភសាស្ត្រ] Tomio Moriai</p>
លើកទី៤	៣៣២នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ១០-១៤ ខែសីហា (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)
១០-២៦ ខែសីហា ឆ្នាំ១៩៩២	ស្ថាបត្យកម្ម ១៨១ បុរាណវិទ្យា ១៥១	<p>[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - ប្រវត្តិសាស្ត្រខ្មែរ Yoshiaki Ishizawa - សិលាចារឹកអង្គរ Yoshiaki Ishizawa</p> <p>[ការថែរក្សាវប្បធម៌បេតិកភណ្ឌជាលក្ខណៈវិទ្យាសាស្ត្រ] - ទ្រឹស្តីនិងការអនុវត្តនៃការថែរក្សាបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ Nobuo Ito - ការថែរក្សាវប្បធម៌បេតិកភណ្ឌជាលក្ខណៈវិទ្យាសាស្ត្រ ១ Nobuo Ito - បេតិកភណ្ឌវប្បធម៌និងបច្ចេកវិទ្យា ១-២ Tsutomu Kimura - អនុសាសន៍របស់យូណេស្កូ Richard Engelhard</p> <p>[ស្ថាបត្យកម្ម] - ស្ថាបត្យកម្ម Yutaka Shigeeda - មូលដ្ឋាននៃគំនូរព្រាង Tsuyoshi Narita - អនុវត្តគំនូរព្រាង Yutaka Shigeeda, Tsuyoshi Narita</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] - បុរាណវិទ្យា ១-២ Hiroshi Sugiyama</p> <p>[ភូគម្ភសាស្ត្រ] - ភូគម្ភសាស្ត្រ ១-២ Shinji Tukawaki</p> <p>[ប្រវត្តិសាស្ត្រវប្បធម៌] - វប្បធម៌ឥណ្ឌូចិន ១-២ Yoshharu Tsuboi</p> <p>[វិស្វកម្មនៃរដ្ឋបាលដ្ឋានប្រវត្តិសាស្ត្រ ១-២] Nobuo Endo</p> <p>[វិទ្យាសាស្ត្របរិស្ថាន]</p>

		- ធម្មជាតិនិងបរិស្ថាននៅប្រទេសកម្ពុជា - ការវាយតម្លៃលើការអភិវឌ្ឍន៍និងបរិស្ថាន	ឡាវ គីមលាង ឡាវ គីមលាង
	២០នាក់	កម្មសិក្សា៖ ១៥-២៦ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)	
	ស្ថាបត្យកម្ម ១០ បុរាណវិទ្យា ១០	[ស្ថាបត្យកម្ម] [បុរាណវិទ្យា]	Yutaka Shigeeda Hiroshi Sugiyama
<u>លើកទី៥</u>	១៥០នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ១៥ ខែមីនា (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)	
១-៥ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩៣	ស្ថាបត្យកម្ម ៨០ បុរាណវិទ្យា ៧០	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - [បុរាណវិទ្យា] [ស្ថាបត្យកម្ម]	Yoshiaki Ishizawa Kunikazu Ueno Yutaka Shigeeda
<u>លើកទី៦</u>	២០នាក់	សិក្ខាសាលាលើកទី១៖ សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ	
១៨-២៨ ខែតុលា ឆ្នាំ១៩៩៣	បុរាណវិទ្យា ២០	[បង្កើតគម្រោងអភិវឌ្ឍន៍សង្គមសម្រាប់តំបន់អង្គរតាមរយៈវិស្វកម្មនៃរដ្ឋឈ្មោះជ្ជាន ប្រវត្តិសាស្ត្រ] -	Nobuo Endo
<u>លើកទី៧</u>	២០នាក់	សិក្ខាសាលាលើកទី២៖ សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ	
១៤-១៨ ខែកុម្ភៈ ឆ្នាំ១៩៩៤	បុរាណវិទ្យា ២០	[បង្កើតគម្រោងអភិវឌ្ឍន៍សង្គមសម្រាប់តំបន់អង្គរតាមរយៈវិស្វកម្មនៃរដ្ឋឈ្មោះជ្ជាន ប្រវត្តិសាស្ត្រ] -	Nobuo Endo
<u>លើកទី៨</u>	៧៦នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ៧-១២ ខែមីនា (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)	
៧-២២ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩៤	បុរាណវិទ្យា ៧៦	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - ប្រវត្តិសាស្ត្រអង្គរ [បុរាណវិទ្យា] - មូលដ្ឋានបុរាណវិទ្យា - សារមន្ទីរវិទ្យា - បុរាណវិទ្យា - អនុវត្តបុរាណវិទ្យា [ភូគម្ភសាស្ត្រ] - ភូគម្ភសាស្ត្រទូទៅ [ប្រវត្តិសាស្ត្រវប្បធម៌] - វប្បធម៌ឥណ្ឌូចិន	Yoshiaki Ishizawa Yoshiharu Nakao Yoshiharu Nakao Kunikazu Ueno Kunikazu Ueno Shinji Tsukawaki Yoshiharu Tsuboi
	១០នាក់	កម្មសិក្សា៖ ១៣-២២ ខែមីនា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)	
	បុរាណវិទ្យា ១០	[បុរាណវិទ្យា] - Kunikazu Ueno, Hiroshi Sugiyama, Yoshiharu Nakao, Yukio Fujita	
<u>លើកទី៩</u>	៧នាក់	កម្មសិក្សា៖ ៣១ ខែកក្កដា - ២២ ខែសីហា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)	
៣១ ខែកក្កដា - ២២ ខែសីហា ឆ្នាំ១៩៩៤	បុរាណវិទ្យា ៧	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [បុរាណវិទ្យា] - Yukio Fujita, Masako Marui	
<u>លើកទី១០</u>	១២នាក់	កម្មសិក្សា៖ ១៩-២៩ ខែធ្នូ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)	
១៩-២៩ ខែធ្នូ ឆ្នាំ១៩៩៤	បុរាណវិទ្យា ៦ ស្ថាបត្យកម្ម ៦	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] - Masao Katagiri, Yasuyuki Furuyama [បុរាណវិទ្យា] - Kunikazu Ueno, Masako Marui	

លើកទី១១ ១០ ខែកម្ពុ៖ - ៣១ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩៥	១៩០នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ ១០ ខែកម្ពុ៖ - ៩ ខែមីនា (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)
	បុរាណវិទ្យា ៧០ ស្ថាបត្យកម្ម ១២០	[ស្ថាបត្យកម្ម] - Yutaka Shigeeda [សង្ខេបស្ថាបត្យកម្ម] - Yutaka Shigeeda
	២២នាក់	កម្មសិក្សា៖ ១០-៣១ ខែមីនា (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី)
	បុរាណវិទ្យា ១០ ស្ថាបត្យកម្ម ១២	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Yasuyuki Furuyama [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Nobuhiro Matsuo, Masako Marui
លើកទី១២ ១-១៧ ខែសីហា ឆ្នាំ១៩៩៥	១០នាក់	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)
	បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Futoshi Jingu [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Yoshiharu Nakao, Nobuhiro Matsuo, Masako Marui
លើកទី១៣ ២០-២៣ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩៦	១០នាក់	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)
	បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Byungha Choi [បុរាណវិទ្យា] – Yoshiharu Nakao, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui
លើកទី១៤ ២ ខែមីនា- ២៣ ខែឧសភា ឆ្នាំ១៩៩៦	៦៣នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)
	បុរាណវិទ្យា ឆ្នាំទី១ ៣៦ ឆ្នាំទី៤ ២៦	[វិស្វកម្មនៃរចនាសម្ព័ន្ធនៃប្រវត្តិសាស្ត្រ] – Nobuo Endo, Masako Marui
លើកទី១៥ ១៥ ខែកក្កដា- ៣១ ខែសីហា ឆ្នាំ១៩៩៦	១០នាក់	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)
	បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Byungha Choi [បុរាណវិទ្យា] – Yoshiharu Nakao, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui
លើកទី១៦ ១៧ ខែវិច្ឆិកា- ២៩ ខែធ្នូ ឆ្នាំ១៩៩៦	១០នាក់	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)
	បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Yasuyuki Furuyama, Byungha Choi [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Masako Marui
លើកទី១៧ ២៨ ខែកម្ពុ៖- ៣០ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩៧	១១នាក់	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)
	បុរាណវិទ្យា ៦ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Yutaka Shigeeda, Byungha Choi [បុរាណវិទ្យា] – Yoshiharu Nakao, Yasuharu Miyamoto
លើកទី១៨	១៣៣ នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ (សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ)

២៥ ខែកម្ពុៈ- ២៣ ខែឧសភា ឆ្នាំ១៩៩៧	បុរាណវិទ្យា ៣៦ ស្ថាបត្យកម្ម ៩៧	[គ្រប់គ្រងបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] - Nobuo Endo, Masako Marui
<u>លើកទី១៩</u> ១៥ ខែវិច្ឆិកា- ៣០ ខែធ្នូ ឆ្នាំ១៩៩៧	៩នាក់ បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Byungha Choi [ចុះបញ្ជី] – Kunikazu Ueno, Masako Marui
<u>លើកទី២០</u> ២០ ខែកម្ពុៈ- ១០ ខែមេសា ឆ្នាំ១៩៩៨	៩នាក់ បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Byungha Choi [បុរាណវិទ្យា] – Yoshiharu Nakao, Masako Marui
<u>លើកទី២១</u> ២០ ខែសីហា- ១៦ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ១៩៩៨	៩នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, ស្ថានីយ៍ឡូតានី) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Byungha Choi [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Masako Marui [ឡូតានី] – Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida
<u>លើកទី២២</u> ២០ ខែតុលា- ៣០ ខែធ្នូ ឆ្នាំ១៩៩៨	៧នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៣	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Byungha Choi, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Masako Marui
<u>លើកទី២៣</u> ១០ ខែមករា- ៣១ ខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩៩	៧នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៣	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, ស្ថានីយ៍ឡូតានី) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Byungha Choi, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Yoshiharu Nakao, Masako Marui, Hisao Arahi [ឡូតានី] – Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida
<u>លើកទី២៤</u> ២០ ខែមិថុនា- ១០ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ១៩៩៩	៦នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៣ ស្ថាបត្យកម្ម ៣	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, ស្ថានីយ៍ឡូតានី) [[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] – Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Byungha Choi, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Masako Marui, Hisao Arahi [ឡូតានី] – Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida
<u>លើកទី២៥</u> ១៥ ខែធ្នូ- ៣១ ខែធ្នូ ឆ្នាំ១៩៩៩	៩នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៤	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Yasuharu Miyamoto, Tetsuo Hishida, Masako Marui, Hisao Arahi
<u>លើកទី២៦</u>	៨នាក់ (បុគ្គលិក)	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)

១០ ខែមីនា- ២៥ ខែមីនា ឆ្នាំ២០០០	បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៤	[ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arahi
លើកទី២៧ ១០ ខែសីហា- ២៥ ខែសីហា ឆ្នាំ២០០០	៩នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៤	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, ស្ថានីយ៍ឡូតានី) [ប្រវត្តិសាស្ត្រ] – Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Yasuharu Miyamoto, Tetsuo Hishida, Masako Marui, Hisao Arahi [ឡូតានី] – Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida
លើកទី២៨ ១០ ខែធ្នូ- ២៥ ខែធ្នូ ឆ្នាំ២០០០	៩នាក់ (បុគ្គលិក) បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៤	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ប្រវត្តិសាស្ត្រ] - Yoshiaki Ishizawa [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa, Masatoki Takahashi [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arahi
លើកទី២៩ ៥ ខែមីនា- ២៥ ខែមីនា ឆ្នាំ២០០១	១៥នាក់ បុរាណវិទ្យា ៥ ស្ថាបត្យកម្ម ១០	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa, Masatoki Takahashi [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arahi
លើកទី៣០ ១ ខែសីហា- ៧ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០១	១២នាក់ បុរាណវិទ្យា ៧ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, ស្ថានីយ៍ឡូតានី) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [ឡូតានី] – Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Tokiko Sumida [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arahi
លើកទី៣១ ១ ខែធ្នូ- ១៥ ខែធ្នូ ឆ្នាំ២០០១	៧នាក់ បុរាណវិទ្យា ៧	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី) [បុរាណវិទ្យា] – Tetsuo Hishida, Masako Marui
លើកទី៣២ ១ ខែសីហា- ៧ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០២	១៣នាក់ បុរាណវិទ្យា ៧ ស្ថាបត្យកម្ម ៦	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, ស្ថានីយ៍ឡូតានី) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa, Yoko Kojima [ឡូតានី] – Yoji Aoyagi, Tatsuo Sasaki, Takenori Nogami, Kazuhiko Tanaka, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Tokiko Sumida [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Hisao Arahi (ស្រាវជ្រាវបន្ថែមព្រះពុទ្ធរូបបុរាណ)
លើកទី៣៣	៣នាក់	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)

១០ ខែវិច្ឆិកា ឆ្នាំ២០០២- ១០ ខែមករា ឆ្នាំ២០០៣	បុរាណវិទ្យា ៣	[ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa, Yoko Kojima [បុរាណវិទ្យា] – Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata
លើកទី៣៤ ១០ ខែសីហា- ៣០ ខែសីហា ឆ្នាំ២០០៣	១៤នាក់ បុរាណវិទ្យា ៨ ស្ថាបត្យកម្ម ៦	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, Hisao Arahi (ស្រាវជ្រាវបន្ថែមព្រះពុទ្ធរូបបុរាណ)
លើកទី៣៥ ១៨ ខែធ្នូ- ២៩ ខែធ្នូ ឆ្នាំ២០០៣	៣នាក់ បុរាណវិទ្យា ៣	កម្មសិក្សា៖ (សៀមរាប, បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Masako Marui (និស្សិត២នាក់ និងបុគ្គលិក១នាក់)
លើកទី៣៦ ១៦ ខែសីហា- ៣១ ខែសីហា ឆ្នាំ២០០៤	៩នាក់ បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata (និស្សិតបុរាណា៣នាក់ និងបុគ្គលិក១នាក់) ថ្នាក់បង្រៀនពិសេស៖ ពិចារណាលើការបាក់បង់សំណង់តាមរយៈកីកតាងបុរាណវិទ្យា (Kunikazu Ueno, ២៨ ខែសីហា នៅសាកលវិទ្យាល័យកូមិដូរិចិត្រសិល្បៈ)
លើកទី៣៧ ១៣ ខែសីហា- ១៣ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០៥	១៥នាក់ បុរាណវិទ្យា ១០ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្ថាបត្យកម្ម] – Masao Katagiri, Satoru Miwa [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata (និស្សិតបុរាណា៣នាក់ និងបុគ្គលិក១នាក់)
លើកទី៣៨ ១៦ ខែសីហា- ៤ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០៦	១៥នាក់ បុរាណវិទ្យា ១០ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្រាវជ្រាវអំពីខ្មែរ] – Yoshiaki Ishizawa, លី វណ្ណា, កែវ គីណាល់ [ស្រាវជ្រាវអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Yoshiaki Ishizawa, Masako Marui, ឯក ប៉ុនថា [ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, ជឿន រុទ្ធី [រុក្ខវិទ្យា] – Jun Yokoyama
លើកទី៣៩ ២១ ខែកុម្ភៈ- ៧ ខែមីនា ឆ្នាំ២០០៧	១៥នាក់ បុរាណវិទ្យា ១០ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្រាវជ្រាវអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Yoshiaki Ishizawa, Shigeo Aoki, Akiko Tashiro, Shinji Tsukawaki [ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី [បុរាណវិទ្យា] – Masako Marui, Yukitsugu Tabata, ជឿន រុទ្ធី [រុក្ខវិទ្យា] – Jun Yokoyama

<p><u>លើកទី៤០</u> ១៣ ខែសីហា- ៩ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០៧</p>	<p>២១នាក់ បុរាណវិទ្យា ១០ ស្ថាបត្យកម្ម ៥ និស្សិតសុហ្វីយ៉ា ៦</p>	<p>កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្រាវជ្រាវអំពីខ្មែរ] – Yoshiaki Ishizawa, ទិន ទីណា, កែវ គីណាល់ [ស្រាវជ្រាវអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Yoshiaki Ishizawa, Shigeo Aoki, Tashiro, Shinji Tsukawaki, ទិន ទីណា, ថ្លាង សុខឿន, Noboru Goto [ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, ទិន ទីណា, ជឿន រុទ្ធី [រុក្ខវិទ្យា] – Jun Yokoyama</p>
<p><u>លើកទី៤១</u> ១០ ខែសីហា- ១៥ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០៨</p>	<p>១៥នាក់ បុរាណវិទ្យា ១០ ស្ថាបត្យកម្ម ៥ និស្សិតសុហ្វីយ៉ា ៥</p>	<p>កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្រាវជ្រាវអំពីខ្មែរ] – Yoshiaki Ishizawa, Masako Marui, Noboru Goto [ស្រាវជ្រាវអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, Nobuo Endo, Shinichi Shimizu, Akiko Tashiro [ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto, Masako Marui, Yukitsugu Tabata, ទិន ទីណា, ជឿន រុទ្ធី, គិន ភក្តី [រុក្ខវិទ្យា] – Jun Yokoyama [អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, Makiko Kubo - លើកទី១៖ “អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌សម្រាប់អ្នករស់នៅតំបន់អង្គរ” (នៅថ្ងៃទី២៦ ខែកុម្ភៈ អ្នកកូមិហាលចំនួន១៤០នាក់បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅបន្ទាយក្តី, ស្ថានហាលចូលអង្គរវត្ត និងសារមន្ទីរព្រះនរោត្តមសីហនុ-អង្គរ) - លើកទី២៖ “អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌សម្រាប់អ្នករស់នៅតំបន់អង្គរ” (នៅថ្ងៃទី៣០ ខែសីហា អ្នកកូមិជ្រៀមចំនួន៦០នាក់បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅបន្ទាយក្តី, ស្ថានហាលចូលអង្គរវត្ត និងសារមន្ទីរព្រះនរោត្តមសីហនុ-អង្គរ)</p>
<p><u>លើកទី៤២</u> ១៤ ខែមីនា- ១៤ ខែមីនា ឆ្នាំ២០០៩</p>	<p>៨នាក់ បុគ្គលិក សារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ ៨នាក់</p>	<p>កម្មសិក្សា៖ សារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ [ប្រថាប់រូប] – Yoshiharu Nakao</p>
<p><u>លើកទី៤៣</u> ៩ ខែសីហា- ៥ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០០៩</p>	<p>២៣នាក់ បុរាណវិទ្យា ១៥ ស្ថាបត្យកម្ម ៥ និស្សិតសុហ្វីយ៉ា ៣</p>	<p>កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត) [ស្រាវជ្រាវអំពីខ្មែរ] – Yoshiaki Ishizawa, Masako Marui, Noboru Goto, កែវ គីណាល់ [ស្រាវជ្រាវអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, Shigeo Aoki, Akiko Tashiro [ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី [បុរាណវិទ្យា] – Kunikazu Ueno, Tetsuo Hishida, Yasuharu Miyamoto,</p>

		<p>Masako Marui, Yukitsugu Tabata, ទិន ទីណា, សោម វិសុទ្ធ, ជឿន រុទ្ធី</p> <p>[រុក្ខវិទ្យា] – Jun Yokoyama</p> <p>[អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, Makiko Kubo</p> <p>- លើកទី៣៖ “អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌សម្រាប់អ្នករស់នៅតំបន់អង្គរ”</p> <p>(នៅថ្ងៃទី២៦ ខែកុម្ភៈ សិស្សចំនួន៤១២នាក់និងគ្រូបង្រៀនចំនួន៣៤នាក់មកពីសាលាបឋមសិក្សាសាមគ្គីសហគមន៍បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅបន្ទាយក្តី និងសារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ)</p>
លើកទី៤៤	៦នាក់	កម្មសិក្សា៖ (បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត)
១២ ខែសីហា- ១១ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១០	បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ២	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Yukitsugu Tabata, ឯក ប៉ុនថា, សេង ចាន់ថា, សោម វិសុទ្ធ, ជឿន រុទ្ធី</p> <p>[អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Chie Abe</p> <p>- លើកទី១៖ “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌អាស៊ី”</p> <p>(នៅថ្ងៃទី១៤, ២១, ២៨ ខែសីហា និងថ្ងៃទី៤ ខែកញ្ញា សិស្សចំនួន៤១២នាក់និងគ្រូបង្រៀនចំនួន៣៤នាក់មកពីសាលាបឋមសិក្សាក្រវាត់បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅបន្ទាយក្តី និងសារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ)</p> <p>* កម្មវិធីរៀបអង្គរវត្តដោយប្រើដុំឈើតូចៗលើកទី១ នៅថ្ងៃទី១២ ខែកញ្ញា សិស្សនៅវិទ្យាល័យ Fukushima Prefecture Sophia Fukuoka បានចូលរួមនៅក្នុងកម្មវិធីយល់ដឹងអំពីតំបន់វប្បធម៌បេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ដោយប្រើដុំឈើតូចៗចំនួន៣ម៉ឺនដុំរៀបជាប្រអង្គរវត្ត។</p>
លើកទី៤៥	៦នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី
២២ ខែធ្នូ-៣១ ខែធ្នូ ឆ្នាំ២០១០	បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ២	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី, ជឹង ឆោមមុនី</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Yukitsugu Tabata, ឯក ប៉ុនថា, ជេង ស៊ីថា, សេង ចាន់ថា, សោម វិសុទ្ធ, ជឿន រុទ្ធី</p>
លើកទី៤៦	១១នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត
៨ ខែសីហា- ១០ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១១	បុរាណវិទ្យា ៦ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី, សំ ពៅ, ជឹង ឆោមមុនី</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Yukitsugu Tabata, ឯក ប៉ុនថា, លី វណ្ណា, ជេង ស៊ីថា, ជឿន រុទ្ធី</p> <p>[អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Chie Abe</p> <p>[Remote-sensing (ការប្រមូលព័ត៌មានតាមរយៈផ្កាយរណប)] – Hiroyuki Kamei</p> <p>- លើកទី២៖ “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌អាស៊ី”</p> <p>(នៅថ្ងៃទី១៣, ២០, ២៧ ខែសីហា និងថ្ងៃទី៣, ១០ ខែកញ្ញា សិស្សចំនួន៥៩៦នាក់ និងគ្រូបង្រៀនចំនួន៣១នាក់មកពីសាលាបឋមសិក្សាចំនួន១១ នៅឃុំវត្តរុន ស្រុកបន្ទាយស្រី ជាមួយនិងនិស្សិតជប៉ុនចំនួន៥០នាក់បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅបន្ទាយក្តី និងសារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ)</p> <p>* ថ្ងៃទី១៣ ខែកញ្ញា សហការជាមួយJQA (ស្ថាប័នធានាគុណភាពជប៉ុន) បានរៀបចំកម្មវិធីអប់រំបរិស្ថានដល់សិស្សសាលាបឋមសិក្សាក្នុងតំបន់អង្គរ</p> <p>* កម្មវិធីរៀបអង្គរវត្តដោយប្រើដុំឈើតូចៗលើកទី២ ថ្ងៃទី២៥ មិថុនា កម្មវិធីរៀបចំនៅ “ថ្ងៃផ្លាស់ប្តូរនៃតំបន់រវាងគ្រូបង្រៀននៅក្នុង</p>

		<p>តំបន់" នៃអនុវិទ្យាល័យ Kanagawa Prefecture Zushi Numama</p> <p>*កម្មវិធីរៀបអង្គវត្តដោយប្រើដុំឈើតូចៗលើកទី៣</p> <p>ថ្ងៃទី២៩ ខែតុលា កម្មវិធីរៀបចំនៅវប្បធម៌នៃអនុវិទ្យាល័យTokaido Suginami Ward Tokyo</p>
លើកទី៤៧	១១នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី
២៤-៣០ ខែធ្នូ ឆ្នាំ២០១១	បុរាណវិទ្យា ៦ ស្ថាបត្យកម្ម ៥	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី, សំ ពៅ</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Yukitsugu Tabata, ឯក ប៉ុនថា, លី វណ្ណា, ជឿន វុទ្ធី</p>
លើកទី៤៨	១៩នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គវត្ត
៣ ខែសីហា-៨ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១២	បុរាណវិទ្យា ១៣ ស្ថាបត្យកម្ម ៦	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី, សំ ពៅ, ជឹង ឆោមមុនី, ឈាន រដ្ឋា</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Yukitsugu Tabata, ឯក ប៉ុនថា, លី វណ្ណា, ជេង ស៊ីថា, ញឹម សុធាវិន្ទ, ជឿន វុទ្ធី</p> <p>[អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Chie Abe</p> <p>- លើកទី៣៖ "កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌អាស៊ី"</p> <p>(សិស្សចំនួន៣៨៣នាក់ និងគ្រូបង្រៀនចំនួន៣៦នាក់មកពីសាលាបឋមសិក្សា ចំនួន៥ នៅភូមិបន្ទាយស្រី និងប្រជាក ក្នុងស្រុកបន្ទាយស្រីជាមួយ និងនិស្សិត ជប៉ុនចំនួន៧១នាក់បានមកចូលរួម ក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅបន្ទាយក្តី, សារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ និងអង្គវត្ត)</p> <p>*កម្មវិធីរៀបអង្គវត្តដោយប្រើដុំឈើតូចៗលើកទី៤</p> <p>ថ្ងៃទី២៧ ឧសភា កម្មវិធីរៀបចំនៅថ្ងៃបុណ្យ "All Sophian's Festival" ដែល សាកលវិទ្យាស្ថានយ៉ាបានបើកនៅឆ្នាំ១៩២៣</p> <p>*កម្មវិធីរៀបអង្គវត្តដោយប្រើដុំឈើតូចៗលើកទី៥</p> <p>ថ្ងៃទី១២ ខែធ្នូ កម្មវិធីរៀបចំនៅអនុវិទ្យាល័យ និងវិទ្យាល័យនារី Niigata Seishin</p> <p>*កម្មវិធីរៀបអង្គវត្តដោយប្រើដុំឈើតូចៗលើកទី៦ នៅតំបន់តូហុគឹ៖</p> <p>"បង្ហាញអំពីបេតិកភណ្ឌអន្តរជាតិនៃសាកលវិទ្យាស្ថានយ៉ាដល់កុមារនៅតំបន់ រងគ្រោះដោយសារគ្រីណាមី" ខួប១០០ឆ្នាំនៃសាកលវិទ្យាល័យស្ថាបត្យកម្ម ថ្ងៃទី១៨ ខែវិច្ឆិកា កម្មវិធីរៀបចំនៅមជ្ឈមណ្ឌលសហគមន៍ Shimo-Yahagi Rikuzentakata City, Iwate Prefecture</p>
លើកទី៤៩	២៣នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គវត្ត
៣ ខែសីហា- ១៥ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១៣	បុរាណវិទ្យា ១៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៩	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី, សំ ពៅ, ជឹង ឆោមមុនី, ឈាន រដ្ឋា</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Yukitsugu Tabata, Masako Marui, ឯក ប៉ុនថា, លី វណ្ណា, ជេង ស៊ីថា, ញឹម សុធាវិន្ទ, ជឿន វុទ្ធី</p> <p>[អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Chie Abe, នៅសៀមរាប Satoru Miwa និង Saori Tanaka</p> <p>- "កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌"</p> <p>(ថ្ងៃទី ២២, ២៧ ខែមេសា និង ថ្ងៃទី២, ៤, ៩, ១១ ខែឧសភា សិស្សចំនួន៣៧២នាក់ និងគ្រូបង្រៀនចំនួន១៥នាក់មកពីសាលាបឋមសិក្សា វត្តព្រះគន្ធភោស័យ និងស្រះស្រង់ បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីដែលរៀបចំនៅ បន្ទាយក្តី, សារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ និងអង្គវត្ត)</p>

		(នៅប្រទេសជប៉ុន) Chie Abe សិក្ខាសាលាអំពីបរិស្ថាន និងការអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌ “កម្មវិធីរៀបអង្គវគ្គដោយប្រើជុំឈើតូចៗ”។ កម្មវិធីនេះរៀបចំនៅថ្ងៃទី១៣ និង១៤ ខែសីហា នៅ United Nation University GEOC Global Environment Partnership Plaza
២៨ មីនា, ២៩ ឧសភា, ២៥ តុលា ២០១៤, ៣០ មករា ២០១៥	៣៤នាក់	ថ្នាក់បង្រៀន៖ សាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ [មូលដ្ឋានសិក្សាប្រវត្តិសិល្បៈខ្មែរ] – Makiko Kubo
លើកទី៥០ ៩ ខែសីហា- ១០ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១៤	១៦នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គវគ្គ
	បុរាណវិទ្យា ៨ ស្ថាបត្យកម្ម ៨	[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, Yoko Kojima, ម៉ៅ សុខនី, គង់ កុសល (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យស្ថាបត្យកម្ម) [បុរាណវិទ្យា] – Masako Marui, ញឹម សុធាវិន្ទ, គិន កក្កី, ជឿន ទ្រី (អដ្ឋាធរអប្សរា៖ ឆាយ រចនា, ហេង ថាន, គឹម សំណាង) បុង សុវត្តិ (សាកលវិទ្យាធិការនៃសាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ) , មួន សុភាព (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យបុរាណវិទ្យា) [ចូលរួមបង្រៀន] – Fumiaki Matsuura, Makiko Kubo, Keiko Sato, ទិន ទីណា, ឆាយ រចនា, ឈាន រដ្ឋា [អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] - “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌” (ថ្ងៃទី៤ ខែសីហា សិស្សចំនួន១១០នាក់ មកពីអន្តរជាតិវិទ្យាល័យវត្តចក រួមជាមួយក្រុមនិស្សិតស្ម័គ្រចិត្តបង្រៀនភាសាអង់គ្លេសនៃសាកលវិទ្យាល័យសុហ្វីយ៉ា (STP) បានចូលរួមទស្សនានៅប្រាសាទអង្គវគ្គ) (ថ្ងៃទី២៩ ខែសីហា អ្នកភូមិហាលចំនួន៩០នាក់ បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីនៅបន្ទាយក្តី)
១៣-២០ ខែសីហា ឆ្នាំ២០១៤ ចំនួន៨ថ្ងៃ	សមាជិកចូលរួម ១០នាក់ ខ្មែរ ២នាក់ លាវ ២នាក់ កូម៉ា ២នាក់ ថៃ ១នាក់ វៀតណាម ៣នាក់	សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី១ស្តីអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌នៃប្រទេសតាមដងទន្លេមេគង្គ។ “សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ ដើម្បីថែរក្សាបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌របស់ប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” ។ - ទីកន្លែង៖ មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃសាកលវិទ្យាល័យសុហ្វីយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ Regional Center for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃប្រទេសកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា - រដ្ឋបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Chie Abe, ឡាវ គឹមលាង - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូណាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ + កម្ពុជា៖ លី វណ្ណា, ឈាន រដ្ឋា + លាវ៖ Phanthavong Orlany, Phimmseh Sybounhevang

		<ul style="list-style-type: none"> + មីយ៉ាម៉ា៖ Than Htike, Tin Htut Aung + ថៃឡងជី៖ Poshyanandana Vasu + វៀតណាម៖ Nguyen Hoangbach Linh, Nguyen Nhut Phoung, Nguyen Phoung Thao
<p>៨-១៤ កុម្ភៈ ២០១៥</p>	<p>សមាជិក១១នាក់ មកពីប្រទេស ចំនួន៥</p> <p>ខ្មែរ ៣នាក់ លាវ ២នាក់ ភូមា ២នាក់ ថៃ ១នាក់ វៀតណាម ៣ នាក់</p>	<p>សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី២ស្តីអំពីបេតិកភណ្ឌ វប្បធម៌នៃប្រទេសតាមដងទន្លេមេគង្គ។ “សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ ដើម្បីថែរក្សាបេតិកភណ្ឌ វប្បធម៌របស់ប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” ។</p> <ul style="list-style-type: none"> - ទីកន្លែង៖ មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃ សាកលវិទ្យាល័យសូហ្គ្វីយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ Regional Center for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃប្រទេសកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា - រដ្ឋបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Chie Abe, ឡាវ គីមលាង - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូលាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ <ul style="list-style-type: none"> + កម្ពុជា៖ លី វណ្ណា, ឈាន រដ្ឋា + លាវ៖ Phanthavong Orlany, Khamseng Vongsy + មីយ៉ាម៉ា៖ Than Htike, Tin Htut Aung + ថៃឡងជី៖ Poshyanandana Vasu + វៀតណាម៖ Nguyen Hoangbach Linh, Nguyen Khanh Trung Kien, Nguyen Phoung Thao
<p>ថ្ងៃទី២៥ ខែកុម្ភៈ ឆ្នាំ២០១៥</p>	<p>ស្ថាបត្យកម្ម ២០នាក់</p>	<p>ថ្នាក់បង្រៀន៖ សាកលវិទ្យាល័យកូមីនូវិចិត្រសិល្បៈ [ការថែរក្សាបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Satoru Miwa</p>
<p>ថ្ងៃទី១៣-២០ ខែសីហា ឆ្នាំ២០១៥ (៨ថ្ងៃ)</p>	<p>សមាជិកចូលរួម ១២នាក់</p> <p>ខ្មែរ ៣នាក់ លាវ ៤នាក់ ភូមា ២នាក់ ថៃ ២នាក់ វៀតណាម ១នាក់</p>	<p>សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី៣ស្តីអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌នៃប្រទេសតាមដង ទន្លេមេគង្គ</p> <ul style="list-style-type: none"> - រដ្ឋបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Makiko Kubo, ឡាវ គីមលាង - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូលាន, Yoshiaki Ishizawa - ប្រធានបទ៖ “សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ ដើម្បីថែរក្សាបេតិកភណ្ឌ វប្បធម៌របស់ប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” ។ - ទីកន្លែង៖ មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃ សាកលវិទ្យាល័យសូហ្គ្វីយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ Regional Center for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃប្រទេសកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា - សមាជិកចូលរួម៖

		<ul style="list-style-type: none"> + កម្ពុជា៖ ឈាន រដ្ឋា, ទិន ទីណា, ម៉ៅ សុខនី + លាវ៖ Khamphoumy Manila, Phouthong Phongxayphonh, Siliphoum Somnuek, Khamleuan Aphaiyavong + មីយ៉ាម៉ា៖ Arkar Aye, Yan Aung + ថៃឡង់ដ៍៖ Surayoot Wiriyadamrong, Hiengkaew Pongthorn + វៀតណាម៖ Nguyen Hoangbach Linh
លើកទី៥១	១៤នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត
៣០ ខែសីហា-១៣ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១៥	បុរាណវិទ្យា ៧ ស្ថាបត្យកម្ម ៧	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី, គង់ កុសល (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យស្ថាបត្យកម្ម)</p> <p>[បុរាណវិទ្យា] – Masako Marui, ញឹម សុធាវិន្ទ, គិន កក្កី, ជឿន វុទ្ធី, (អដ្ឋាធរអប្សរ៖ ឡេង សត្យា, គិន សំណាង, វិទូ ភិរម្យ, មួង ច័ន្ទស្នី) បុង សុវត្តិ (សាកលវិទ្យាធិការនៃសាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ), មួន សុភាព (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យបុរាណវិទ្យា)</p> <p>[ចូលរួមបង្រៀន] – Kunikazu Ueno, ទិន ទីណា, ឆាយ រចនា, ឈាន រដ្ឋា, ថូ ថុន</p> <p>[អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, Satoru Miwa, ឡាវ គឹមលាង, ញឹម សុធាវិន្ទ, គិន កក្កី, ជឿន វុទ្ធី</p> <ul style="list-style-type: none"> - “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌” (ថ្ងៃទី៤ ខែសីហា សិស្សចំនួន១២០នាក់ មកពីអនុវិទ្យាល័យវត្តចក រួមជាមួយក្រុមនិស្សិតស្ម័គ្រចិត្តបង្រៀនភាសាអង់គ្លេសនៃសាកលវិទ្យាល័យសុហ្វីយ៉ា (STP) បានចូលរួមទស្សនានៅប្រាសាទបាយ័ន) (ថ្ងៃទី២៧ ខែសីហា សិស្សមកពីសាលាបឋមសិក្សាព្រះឥន្ទកោសិយ៍ចំនួន ៦០នាក់ បានមកចូលរួមក្នុងកម្មវិធីនៅប្រាសាទវត្តព្រះឥន្ទកោសិយ៍, បន្ទាយក្តី និងសារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ)
៨-១៤ កុម្ភៈ ២០១៦ (៧ថ្ងៃ)	សមាជិក៩នាក់ មកពីប្រទេស ចំនួន៥ ខ្មែរ ២នាក់ លាវ ២នាក់ ភូមា ៣នាក់ ថៃ ២នាក់ វៀតណាម (មិនបានមកចូលរួម)	<p>សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី៤ស្តីអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌នៃប្រទេសតាមដងទន្លេមេគង្គ។</p> <p>“សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ ដើម្បីថែរក្សាបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌របស់ប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” ។</p> <ul style="list-style-type: none"> - ទីកន្លែង៖ មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃសាកលវិទ្យាល័យសុហ្វីយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ Regional Center for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃប្រទេសកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា - រដ្ឋបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Kubo Makiko, ឡាវ គឹមលាង, ញឹម សុធាវិន្ទ - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូលាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ <ul style="list-style-type: none"> + កម្ពុជា៖ តាន់ សុផល, ម៉ៅ សុខនី + លាវ៖ Soukphachanh Khamphasouk, Bounyord Boundylath + មីយ៉ាម៉ា៖ Kyaw Oo Lwin, Kyaw Myo Win, Arkar Aye

		+ ថៃឡងជី៖ Surayoot Wiriyadamrong, Manatchaya Wajvisoot
លើកទី៥២	៨នាក់	កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត
១ ខែសីហា-៨ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០១៦	បុរាណវិទ្យា ៤ ស្ថាបត្យកម្ម ៤	[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុខនី [បុរាណវិទ្យា] – Masako Marui, ញឹម សុធាវិន្ទ, Yasuharu Miyamoto, ជឿន រុទ្ធី, [RUFA] បុង សុវត្តិ (សាកលវិទ្យាធិការនៃសាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ), មុន សុភាព (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យបុរាណវិទ្យា) [ចូលរួមបង្រៀន] – ចូ ចុន, ភិន ភក្តី, ភិន សំណាង, ផេង សំអឿន, ញឹម សុធាវិន្ទ [អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, ញឹម សុធាវិន្ទ, Satoru Miwa, ឡាវ គឹមលាង, ភិន ភក្តី, ជឿន រុទ្ធី - “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌” (ថ្ងៃទី១៩ ខែសីហា សិស្សចំនួន៦០នាក់ មកពីអនុវិទ្យាល័យវត្តកន្ទកោសា ចូលរួមទៅទស្សនានៅបន្ទាយក្តី) (ថ្ងៃទី២៤ ខែសីហា សិស្សមកពីសាលាអនុវិទ្យាល័យវត្តចកចំនួន៨០នាក់ ជាមួយយក្រុមនិស្សិតស្ម័គ្រចិត្តបង្រៀនភាសាអង់គ្លេសនៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គីយ៉ា (STP) បានចូលរួមទស្សនានៅសារមន្ទីរព្រះនរោត្តម សីហនុ-អង្គរ)
១១-១៨ សីហា ២០១៦ (៨ថ្ងៃ)	សមាជិក១២នាក់ មកពីប្រទេស ចំនួន៦ ខ្មែរ ២នាក់ លាវ ២នាក់ ភូមា ២នាក់ ថៃ ២នាក់ វៀតណាម ២នាក់ ឥណ្ឌូណេស៊ី ២នាក់	សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី៥ស្តីអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌នៃប្រទេសតាមដង ទន្លេមេគង្គ។ “សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ ដើម្បីថែរក្សាបេតិកភណ្ឌ វប្បធម៌របស់ប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” ។ - ទីកន្លែង៖ មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃ សាកលវិទ្យាល័យសូហ្គីយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ Regional Center for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃប្រទេសកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា - រដ្ឋបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Momoko Yoshida, ឡាវ គឹមលាង, ញឹម សុធាវិន្ទ - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូលាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ + កម្ពុជា៖ តាន់ សុផល, ម៉ៅ សុនី + លាវ៖ Soukphachanh Khamphasouk, Phommavandy Chanphenh + មីយ៉ាម៉ា៖ Zaw Min Aung + ថៃឡងជី៖ Surayoot Wiriyadamrong, Manatchaya Wajvisoot + វៀតណាម៖ Dang Ngoc Kinh, Nguyen Ngoc Hong + ឥណ្ឌូណេស៊ី៖ Brahmantara
៨-១៤ កុម្ភៈ ២០១៧ (៨ថ្ងៃ)	សមាជិក១៥នាក់ មកពីប្រទេស ចំនួន៦	សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី៦ស្តីអំពីបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌នៃប្រទេសតាមដង ទន្លេមេគង្គ។ “សកម្មភាពផ្លាស់ប្តូរនៃកិច្ចសហប្រតិបត្តិការអន្តរជាតិ ដើម្បីថែរក្សាបេតិកភណ្ឌ

	<p>ខ្មែរ ៧នាក់ លាវ ២នាក់ ភូមា ២នាក់ ថៃ ២នាក់ វៀតណាម ១នាក់ ឥណ្ឌូណេស៊ី ១នាក់</p>	<p>វប្បធម៌របស់ប្រទេសទាំង៥នៅអាស៊ីអាគ្នេយ៍” ។</p> <ul style="list-style-type: none"> - ទឹកនៃឆ្នង៖ មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គុយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ Regional Center for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO SPAFA), ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃប្រទេសកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា - វដ្តបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Momoko Yoshida, ឡាវ គឹមលាង, Satoru Miwa, ញឹម សុធាវិន្ទ - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូណាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ <ul style="list-style-type: none"> + កម្ពុជា៖ អន សុភាព, ម៉ៅ សុនី, អូន ស៊ីណាង, ឈុន សំបូរ, សយ ច័ន្ទនាបុទ្ធិ, ភិន ភក្តី, អ៊ុល សំអាង + លាវ៖ Soukphachanh Khamphasouk, Phommavandy Chanphenh + មីយ៉ាម៉ា៖ Zaw Min Aung, Aung Zaw Min + ថៃឡង់ដ៍៖ Pongthorn Hiengkaew, Luedthai Panuwat + វៀតណាម៖ Nguyen Quoc Manh + ឥណ្ឌូណេស៊ី៖ Maulana Abdulrahim Ibrahim
<p>លើកទី៥៣</p>	<p>ចំនួន១០នាក់</p>	<p>កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, កោះកេរ្តិ៍</p>
<p>ថ្ងៃទី៣១ ខែកក្កដា - ទី២៦ ខែសីហា ឆ្នាំ២០១៧</p>	<p>បុរាណវិទ្យា ៤នាក់ ស្ថាបត្យកម្ម ៦នាក់</p>	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុនី [បុរាណវិទ្យា] – Masako Marui, ញឹម សុធាវិន្ទ, Yasuharu Miyamoto, ជឿន រុទ្ធី, [RUFA] គង់ កុសល (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យស្ថាបត្យកម្ម), មួន សុភាព (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យបុរាណវិទ្យា) [ចូលរួមបង្រៀន] – ជា សុជាតិ, ភិន ភក្តី, អន សុភាព, ម៉ៅ សុនី, ញឹម សុធាវិន្ទ [អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, ញឹម សុធាវិន្ទ, Satoru Miwa, ឡាវ គឹមលាង, ជឿន រុទ្ធី - “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌” (ថ្ងៃទី២០ ខែសីហា សិស្សមកពីសាលាអនុវិទ្យាល័យវត្តចកចំនួន១៤៩នាក់ ជាមួយយក្រុមនិស្សិតស្ម័គ្រចិត្តបង្រៀនភាសាអង់គ្លេសនៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គុយ៉ា (STP) បានចូលរួមទស្សនានៅស្ថានហាលខាងលិចអង្គរវត្ត)</p>
<p>១៣-១៩ វិច្ឆិកា ២០១៧ (៧ថ្ងៃ)</p>	<p>សមាជិក១៩នាក់ មកពី១០ប្រទេស</p> <p>ខ្មែរ ៣នាក់ លាវ ២នាក់ ភូមា ២នាក់ ថៃ ៣នាក់ វៀតណាម ២នាក់</p>	<p>សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី១ស្តីអំពីមរតកវប្បធម៌និងសារមន្ទីររបស់អាស៊ាន។</p> <p>“ការបន្តមរតកនិងគូនាទីថ្មីរបស់សារមន្ទីរនៅអាស៊ានទាំង១០ប្រទេស” ។</p> <ul style="list-style-type: none"> - ទឹកនៃឆ្នង៖ ១) ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា ២) មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គុយ៉ា, សៀមរាប។ - សហការរៀបចំដោយ៖ ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា, SPAFA - វដ្តបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Momoko Yoshida, ឡាវ គឹមលាង,

	<p>ឥណ្ឌូណេស៊ី ១នាក់ ម៉ាឡេស៊ី ២នាក់ ប្រុយណេ ២នាក់ ហ្វីលីពីន ១នាក់ ជប៉ុន ១នាក់</p>	<p>Satoru Miwa, ញឹម សុផារីន្ទ - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូលាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ + កម្ពុជា៖ គង់ វីរៈ, គឹម សុផិន, ឆោម គន្ធា + លាវ៖ Bounheuang Bouasiengpaseuth, Khammeuangkhoun Sitthaphone + មីយ៉ាម៉ា៖ Aye Aye Thinn, Nyi Monn + ថៃឡង់ដ៍៖ Tossaporn Srisamarn, Duangkamon Kamalanon, Sittichai Pooddee + វៀតណាម៖ Nguyen Van Ha, Dang Thi Hien + ឥណ្ឌូណេស៊ី៖ Nusi Lisabilla Estudiantin + ម៉ាឡេស៊ី៖ Miti Fateema Sherzeella Mohd Yusoff, Mohd Nasrulmiazam Bin Mohd Nasir + ប្រុយណេ៖ Haji Mohamed Jefri Bin Haji A Sabli, Haji Mahrin Bin Haji Abas + ហ្វីលីពីន៖ Ana Maria Theresa Labrador + ជប៉ុន៖ Yuji Kurihara</p>
<p>លើកទី៥៤</p>	<p>ចំនួន១០នាក់</p>	<p>កម្មសិក្សា៖ បន្ទាយក្តី, អង្គរវត្ត, កោះកេរ្តិ៍</p>
<p>ថ្ងៃទី៣១ ខែកក្កដា - ទី២១ ខែសីហា ឆ្នាំ២០១៨</p>	<p>បុរាណវិទ្យា ៤នាក់ ស្ថាបត្យកម្ម ៦នាក់</p>	<p>[ស្ថាបត្យកម្ម] – Satoru Miwa, ម៉ៅ សុនី, គង់ កុសល [បុរាណវិទ្យា] – Masako Marui, Yasuharu Miyamoto, ជឿន រុទ្ធី, [RUFA] គង់ កុសល (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យស្ថាបត្យកម្ម), ព្រាប ចាន់ម៉ារ៉ា (ព្រឹទ្ធបុរសនៃមហាវិទ្យាល័យបុរាណវិទ្យា) [ចូលរួមបង្រៀន] – ហេង ថាន, ជា សុផាតិ, Yasuharu Miyamoto, លី វណ្ណា, កិន កក្តី, អន សុភាព, ម៉ៅ សុខនី, ទិន ទីណា, ឆាយ រចនា, ឈាន រដ្ឋា, សុខ កែវសុវណ្ណារ៉ា [អប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌] – Masako Marui, ញឹម សុផារីន្ទ, Satoru Miwa, ឡាវ គឹមលាង, ជឿន រុទ្ធី - “កម្មវិធីអប់រំបេតិកភណ្ឌវប្បធម៌” (ថ្ងៃទី១៧ ខែសីហា សិស្សមកពីសាលាអនុវិទ្យាល័យវត្តចកចំនួន១៧០នាក់ ជាមួយយក្រុមនិស្សិតស្ម័គ្រចិត្តបង្រៀនភាសាអង់គ្លេសនៃសាកលវិទ្យាល័យ សូហ្គីយ៉ា (STP) បានចូលរួមទស្សនាស្បែកធំនៅសាលាវត្តចក) (ថ្ងៃទី២០ ខែសីហា សិស្សអនុវិទ្យាល័យធួកអណ្តូងចំនួន១០០នាក់ បានមក ចូលរួមទស្សនាបន្ទាយក្តី)</p>
<p>២-៨ វិច្ឆិកា ២០១៨ (៧ថ្ងៃ)</p>	<p>សមាជិក២២នាក់ មកពី១០ប្រទេស ខ្មែរ ៤នាក់</p>	<p>សិក្ខាសាលាអន្តរជាតិលើកទី១ស្តីអំពីមរតកវប្បធម៌និងសារមន្ទីររបស់អាស៊ាន។ “ការបន្តមរតកនិងតួនាទីថ្មីរបស់សារមន្ទីរនៅអាស៊ានទាំង១០ប្រទេស” ។ - ទីកន្លែង៖ ១) ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា ២) មជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ាន</p>

<p>លាវ ២នាក់ កូមា ២នាក់ ថៃ ២នាក់ វៀតណាម ២នាក់ ឥណ្ឌូណេស៊ី ២នាក់ ម៉ាឡេស៊ី ២នាក់ ប្រុយណេ ២នាក់ ហ្វីលីពីន ២នាក់ សិង្ហបុរី ១នាក់ ជប៉ុន ១នាក់</p>		<p>សាកលវិទ្យាល័យសូហ្គ្វីយ៉ា, សៀមរាប។</p> <ul style="list-style-type: none"> - សហការរៀបចំដោយ៖ ក្រសួងវប្បធម៌និងវិចិត្រសិល្បៈនៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា, អាជ្ញាធរជាតិអប្សរា, SPAFA - វដ្តបាល៖ Yoshiaki Ishizawa, Momoko Yoshida, ឡាវ គីមលាង, Satoru Miwa, ញឹម សុផារីន្ទ - អ្នកសម្របសម្រួល៖ U Nyunt Han, អាំង ជូណាន, Yoshiaki Ishizawa - សមាជិក៖ <ul style="list-style-type: none"> + កម្ពុជា៖ គង់ វីរៈ, គឹម សុផិន, ប៉ែន ចំរុង, ម៉ង់ វាលី + លាវ៖ Phetmalayvanh Keobounma, Temsombath Santi + មីយ៉ាម៉ា៖ Thi Thi Thuang, Thu Zar Zan + ថៃឡង់ដ៍៖ Darika Thanasaksiri, Phimnara Kitchotprasert + វៀតណាម៖ Nguyen Thi Thu Hoan, Phan Thi Mai Thuy + ឥណ្ឌូណេស៊ី៖ Dyah Sulistiyani, Ismail Nur Kamilah + ម៉ាឡេស៊ី៖ Degor Anak Johia, Peterson Augusitne Jadan + ប្រុយណេ៖ Pengiran Norazah Pengiran Haji Muhammad, Nur Kamilah Ismail + ហ្វីលីពីន៖ Mary Jane Louise Alto Bolunia, Ligaya San Pedro Lacsina + សិង្ហបុរី៖ Tan Szan + ជប៉ុន៖ Yujii Kurihara
---	--	--

កំណត់សម្គាល់៖

១. ចាប់ពីឆ្នាំ១៩៩៦ កិច្ចការផ្សេងៗដូចជា៖ ថ្នាក់បង្រៀន ចុះបញ្ជីនិងសម្ភាគវត្ថុសិល្បៈ រៀបចំនៅមជ្ឈមណ្ឌលស្រាវជ្រាវនិងបណ្តុះបណ្តាលធនធានមនុស្សអាស៊ីនៃសាកលវិទ្យាល័យសូហ្គ្វីយ៉ា ខេត្តសៀមរាប។
២. ថ្នាក់បង្រៀននៅសាកលវិទ្យាល័យភូមិន្ទវិចិត្រសិល្បៈ៖ ចាប់ពីខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩១ដល់ឧសភា ឆ្នាំ១៩៩៧មានសាស្ត្រាចារ្យចំនួនប្រហែល៥៩នាក់ បានបង្រៀនចំនួន១១ដងនិងមុខវិជ្ជាចំនួន១៦ ដល់និស្សិតចំនួនប្រហែល១៥០០នាក់។ ចាប់ពីខែមីនា ឆ្នាំ២០១៤ ដល់ខែមករា២០១៥ មានថ្នាក់បង្រៀនចំនួន៤ដង ដោយមាននិស្សិតចូលរួមចំនួន១៣៦នាក់។
៣. ហ្វឹកហ្វឺននៅតំបន់អង្គរ៖ ចាប់ពីខែមីនា ឆ្នាំ១៩៩១ ដល់ខែសីហា ឆ្នាំ២០១៨ បានអនុវត្តចំនួន៥៤ដងក្នុងអំឡុងពេល២៧ឆ្នាំ មានអ្នកជំនាញចំនួន៣៩២នាក់ ជួយបណ្តុះបណ្តាលនិស្សិតបានចំនួន៥៥៧នាក់។

アンコール遺跡を科学する

第21回アンコール遺跡国際調査団報告

特集：「難民」から人間の原点を学び、「遺跡」から民族の誇りを学ぶ —アンコール・ワットに出かけて30年—

発行者— 上智大学アンコール遺跡国際調査団
団長 石澤良昭（上智大学特別招聘教授）

発行— 2020年3月1日

発行所— 上智大学アジア人材養成研究センター
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
Tel. 03-3238-4136 Fax. 03-3238-4138

制作— 株式会社ムーンドッグ
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-5-3-1013
Tel. 03-6258-1888 Fax. 03-6258-1889

カンボジアのアンコール遺跡調査・研究に関するお問い合わせは上記の上智大学アジア人材養成研究センターまでお願い致します。